

滿洲語文語入門

河 内 良 弘
清瀬義三郎則府

[編著]



◎
京都大学学術出版会

正誤表

本書「満洲語文語入門」に誤りがありましたので、お詫びして下記のように
訂正いたします。

頁	行	誤	正
10	本文 6	これら外来語	これらは外来語
16	(下から) 5	ときには が	ときには つか
88	10	陸せよう。	上奏せよ。
212	左 3	108, 118-120,	108, 116-118, 120
217	左 (下から) 8	allative	elative
〃	左 (下から) 2	allative	elative
〃	右 28	allative	elative
奥附	(下から) 2	Jisaburo-Norikura	Gisaburo N.

2002年7月 京都大学学術出版会

目 次

CONTENTS

はじめに	— vi
満洲語について	— viii
参考書	— x
略号一覧	— xi
1. 文字・発音篇	— 001
1. 母 音	— 003
a. 滿洲語母音字母表	— 003
1. a	— 004
3. i	— 006
5. u	— 009
7. 母音調和	— 011
2. 子 音	— 016
a. 滿洲語子音字母表	— 012
2. k	— 015
4. h	— 021
6. p	— 023
8. š	— 026
10. d	— 028
12. m	— 030
14. j	— 032
16. r	— 034
18. w	— 036
1. n	— 014
3. g	— 019
5. b	— 022
7. s	— 025
9. t	— 027
11. l	— 029
13. c	— 031
15. y	— 033
17. f	— 035
19. ng	— 037
3. 特殊子音	— 038
a. 滿洲語特殊子音字母表	— 038
2. ts'	— 040
4. ž	— 042
6. dzi と tsi	— 044
1. k', g', h'	— 039
3. dz	— 041
5. sy, c'y, jy	— 043
2. 文 法 篇	— 045
1. 名 詞	— 047
名詞の種類	— 047
2. 名詞の数	— 047

[助編者]
愛新覺羅・烏拉熙春

はじめに PREFACE

本書はこれから満洲語文語を教室あるいは独学で学ぼうとする人々のための入門書です。本書に書かれていることを一通り学べば、たとえ独学者でも満洲語文語文献が読めるようになる、という願いをこめて書かれています。

本書の母体となったのは1996年に発刊された『満洲語文語文典』であって、この書を書くに当たっては、著者にはそれなりの執念がありました。というのは、私がまだ若い頃、満洲語を学ぼうとしても、身近には適当な満洲語文典が見あたらず、独学には随分と苦労しました。そして英文で書かれたメーレンドルフの文法書を頼りにしたり、またはそれから翻案された簡単な文法書を参照したりして学びましたが、結局本当のところは分からずじまい、ということも多かったからです。

満洲語を英文の解説で学ぼうというのがそもそも無理なはなしで、たとえどんなに優れた文法書でも、外国語で書かれたものでは満洲語の微妙な意味は日本人には伝わりにくく、ことに日本語と構造が似ている満洲語は日本語で書かれた文法書のほうが、ずっと分かりやすいはずでした。そんな本がそれまでなかったのは残念、という思いがあり、縁があって幾つかの学校で満洲語を教えるようになってから、私は手作りで日本人向けの文法書を作りはじめ、それを基礎として愛新覚羅・烏拉熙春先生、清瀬義三郎則府先生といった言語学の専門家の協力を得、日本初の文法書実現の夢をのせて出版したのが旧版の『満洲語文語文典』でした。

満洲語は重要な言語には違いないけれど、周辺の東洋諸語に較べてポピュラーではなく、学習者人口も少なく、文法書を出版はしたけれど売れないというのでは京都大学学術出版会に申し訳ないと危ぶみ、売れ行きの伸びに祈る思ひでしたが、幸いに旧版は人々に受け容れられ、着実に売れ行きを伸ばし、このたび改訂新版発行の運びに至ったのは、何よりも著者自身がうれしく、それはこうした文法書がこれまで日本ではなく、それが人々の要望に応えるものがあったからであろう、と自画自賛しています。

ところで語学の学習では、文法書、読本、辞書の三つを、三種の神器というそうです。旧版ではとにもかくにもこれは日本最初の書、読者にはこの一冊で何もかも分か

っていただくという執念から、三種の神器と言われるものをあれもこれも詰め込み、随分重いものになってしまいました。

著者自身がこれまで実際に満洲語を教室で教えた際には、文字と文法を半年で終了し、あの半年を満文奏摺の読解に当てていました。長年そうしてきました。ゼロから出発し、しゃにむに突き進み、一年後にはとにもかくにも、どの学生も満漢文奏摺が読める段階にまでもってゆく、それが方針でした。無理は承知でした。

さて早速旧版の重いテキストを教室で使ってみたところ、書かれている全てを説明していると、進度が遅くなることにじきに気がつきました。限られた学習時間内で能率よく授業を進めるには説明を省いた方がよいと思う部分がありました。私は知らず知らずの内に入門者には要らないものは削り落とし、軽量化を図っていました。

新版を出してはという相談を京都大学学術出版会の小野さんから受けた時、天にも昇るほど嬉しかったけれど、旧版のままにしようかとの迷いもありました。しかし教室での経験を思い出し、やはり新版は初学者用の入門書とするという方針をたて、清瀬先生と相談し、テキストのスリム化を図ることにしました。

旧版では発音篇で発音に随分多くの説明を割いたが、新版では省くこととしました。発音はいくら文字で説明したところで本当のところは伝わりにくく、もし適当な先生があれば、その方について特に学ぶ方がよいと思ったからです。

文字篇の文字も、練習用に掲げた文字は残し、それ以外の文字表は省きました。これは授業の最初の段階で満洲文字の成り立ちを説明すれば、その後は特に詳しく説明しなくとも、受講生は類推で自然に要領を理解することを経験したからです。

辞書は満洲語文献を読む際には必要でも、初学の間に、辞書の検索に多大の労力を割くことは、学習上妨げになります。初学者に辞書は不要です。新版では、特に本書が初学者用の入門書を目指すという立て前から、思いきって旧版の「小辞典」を省き、その代わりに本書に出てくる単語を「語彙篇」に網羅的に収録しました。この新版の書中に出現する単語を丹念に拾い出し、「語彙篇」として巻末に纏めたのは清瀬先生です。また新版のすべての部分にわたって清瀬先生に校閲して頂きました。また旧版では愛新覚羅・烏拉熙春先生に書いて頂いた部分が沢山あり、スリム化の為に一部削除した所もありますが、多くは新版でもそのまま生きておりますことを、感謝を以て記しておきます。

以上のようなきさつで新版は生まれました。旧版を安易に削ったわけではありません。一人でも多くの方に満洲語が読めるようになっていたい、満文の歴史檔案(古文書)や文学書が読めるようになって頂きたいという著者等の願いをこめて、このスリム化された文法書を世に送ります。

2002年1月15日 河内良弘

満洲語について ON MANCHU

読者の中には本書によってはじめて満洲語に接する方もおられると思うので、ここに満洲語について簡単に解説を加えておきたい。満洲語は満洲族の言語であって、清代には「清文」とか「国書」とか呼ばれた。満洲族の歴史は古い淵源を持つが、その直接の先祖は明の頃、松花江、黒龍江、牡丹江、烏蘇里江、豆満江、鴨綠江などの流域に住んでいた女真族であり、更にその淵源は遼金時代の女真、隋唐時代の靺鞨、北朝時代の勿吉に遡ることができる。女真族は1115年、阿骨打の指導下に遼に対して戦いを挑み、金国を建て、華北に進出して広大な地域を占拠したが、1234年、モンゴル軍に滅ぼされた。元明時代には前記の東北地方各地に分散していたが、16世紀から17世紀にかけて建州女直のヌルハチが各地の女真を統一し、後金国を建国した。天聰9年(1635)太宗は、これまで用いて来た「諸申」(女真)という名称をやめ、これに代わり満洲という名称を用いるように正式に改めたので、それ以後、彼らは満洲族と呼ばれるようになり、辛亥革命後は満族と略称されるようになった。

満洲語はアルタイ語系(Altaic)のツングース諸語に属す一言語である。ツングース諸語とは、広大な東シベリアに分布するエヴェンキ語、ラムート語(エヴェン語)、ネギル語、ウデヘ語、オロチ語、ゴルディ語(ナナイ語)、オルチャ語、サハリンのオロキ語(オロッコ語)、中国東北地方のソロン語および満洲語の10言語に分類される。

満洲語は清朝滅亡の前後、すなわち18世紀末から19世紀にかけてしだいに衰え清朝滅亡後は満洲族の間でも殆ど使われなくなり、現在では黒龍江省愛輝県と富裕県で、幾らかの人々が話しているにすぎない。満洲語の一方言である錫伯語は新疆省維吾爾自治区察布查爾、伊犁伊寧地方の錫伯族の間で話されている。

満洲族の祖先、女真族は固有の文字「女真文字」を持っていた。これには大小二種があり、金の太祖の天輔3年(1119)、完顔希尹が命ぜられ、契丹字に倣って作ったのが大字であり、熙宗の天眷元年(1138)に作られたのが小字である。女真文字は金王朝時代および金国滅亡後も女真人の間で用いられ、「大金得勝陀頌碑」「奴兒干永寧寺碑」などの碑文に女真字刻文が残されているほか、「華夷訳語」の「女真訳語」に女真字の解説が記され、これらの研究により女真語の音価も文法も、かなり明確に解明

されている。しかし女真字は極めて繁冗なものであって、その習得はかなり困難で、習得したとしても不便な文字で、利用される機会も少なく、明国に表文を送るような場合に限られていた。「大明英宗実錄」正統七年二月甲辰の条に見える正統帝の李滿住への勅諭に、

及奏，遼東東寧衛軍人佟玉，通曉女真文字。乞與書辦

と記されているが、女真文字を知る軍人が特に通訳として採用されているのは、当時、女真文字がいかに廃れていたかを示すものである。かのように馴染みにくい文字で、送るほうも受け取るほうも不便なものなら、いっそ止めてしまった方がよい。「大明英宗実錄」正統九年二月甲午の条に、

玄城衛指揮撒升哈・脱脱木答魯等奏，臣等四十衛，無識女直字者，乞自後勅文之類，第用達達字，從之

と記されるように、正統九年から玄城衛等四十の衛では女真字を止め、蒙古語・蒙古字で明国との往復文書を記すようになった。玄城衛以外でもこれに倣う衛も多かったと思われる。

明の神宗の萬曆27年(1599)、ヌルハチはエルデニ・バクシとガガイに命じ、蒙古字母を基礎として満洲文字を創成し頒布した。これが「無圈点老満文」である。その後、天聰6年(1632)、太宗が達海に命じて改良を加え、字母の傍に圈と点を加え、同形字との音を区別し、また別に漢字音を表わす字母を創成した。これが「有圈点満文」と呼ばれるもので、全体で38個の字母からなっている。

清朝一代を通じ、満洲語は支配民族である満洲族の言語として公用語となった。そして清朝歴代の実錄が満・漢・蒙の三言語で書かれたほか、詔勅、歴史書、経書、曆書、碑文など、およそ官選のものであるかぎり、まず満文で正本が書かれ、これに漢文が添えられた。こうした文書の形式を満漢合璧と呼んでいる。

清朝草創の頃は、大部分の満洲人は漢語を理解しなかった。したがって戦陣の報告、行政、外交、の重要事項は満洲語で記された。太祖、太宗時代の政治上の重要文書の大部分は達海の手を経ているが、彼は政府の重要な檔案の外、「明刑部会典」「素要」「三略」「萬宝全書」などの漢籍を満洲語に翻訳し、また、「資治通鑑」「六韜」「孟子」「三国志」「大乘經」の翻訳に着手したが未完に終わった。1644年、清軍が入関し、中国を統一して以後は、「性理精義」「古文淵鑑」「三国志演義」「聊齋志異」「西廂記」等が翻訳され、また歴朝の実錄、政書などの官選書や「清文啓蒙」「重刻清文虛字指南編」「清文指要」「清文接字」などの文法書や「御製清文鑑」「御製增訂清文鑑」「御製五體清文鑑」「清漢文海」「清文彙書」「三合便覽」などの辞書、「清語輯要」「清漢六部成語」「満漢類書全集」などの語彙集も出版された。

北京に遷都して以後、順治、康熙、雍正年間までは、清朝政府の重要な文書はおもに満文で記され、乾隆帝も満洲語を理解していたと思われるが、しかし満洲人はしだい



に満洲語を忘れ、漢語に堪能となり、乾隆、嘉慶、道光年間には、官庁の文書には、満漢合璧が多く用いられるようになった。一般の満洲人でも満文の書ける人は稀となり、このために官庁でも筆帖式という満洲語を専門に書く官吏を養成しなければならないほどになった。清朝滅亡後は日常用語としての満洲語は急速に失われ、現在に到っている。

参考書

REFERENCES

1. 渡辺薰太郎「満語文典」満語学叢書発行会、中国問島龍井村、1918年。
2. 渡辺薰太郎「訂正満洲語文典」大阪東洋学会、1926年7月。
3. 小島武男「満洲語文典」(一)(二)「日本文化」9・10、1937年。
4. 山本謙吾「満洲語文語形態論」、市河三喜・服部四郎編「世界言語概説」下、研究社、1955年、489~536頁。
5. 上原久「満文満洲実録の研究」不昧堂、1960年。
6. 羽田亨編「満和辞典」京都帝国大学満蒙調査会、1937年。
7. 劉厚生「満語教材(試用本)」東北師範大学明清史研究室、1981年、第1冊:「満語語音」、第2冊:「満語語法」、以上1981年。第3冊:「満語語法」、1982年10月。
8. 劉厚生等編「簡明清満辞典」河南大学出版社、1988年。
9. 清瀬義三郎則府、*A Study of the Jurchen Language and Script*, 法律文化社、1977。
10. 清瀬義三郎則府「日本語学とアルタイ語学」明治書院、1991年。
11. 愛新覺羅・烏拉熙春「満語語法」内蒙古新華書店、1983年。
12. 愛新覺羅・烏拉熙春「満語読本」内蒙古人民出版社、1985年。
13. 愛新覺羅・烏拉熙春「満族古神話」内蒙古人民出版社、1987年。
14. 愛新覺羅・烏拉熙春「満洲語語音研究」玄文社、1992年。
15. 劉景憲「自学満語教材」「満語研究」創刊号(総第一期、1985年11月)、以後の各号、毎号20数頁。
16. 季永海・劉景憲・屈六生「満語語法」民族出版社、北京、1986年。
17. 福田昆之「満洲語文語辞典」FLL、横浜、1987年。

18. 中国第一歴史檔案館・屈六生主編「満文教材」新疆人民出版社、1991年2月。
19. 池上二良「満洲語研究」汲古書院、1999年。
20. 安双成主編「滿漢大辞典」遼寧人民出版社、1993年。
21. 胡增益主編「新満漢大詞典」新疆人民出版社、1994年。
22. 津曲敏郎「満洲語入門20講」大学書林、2002年。
23. 河内良弘「ニシャン・サマン傳譯注」「京都大学文学部研究紀要」第26号、1987年。
24. 河内良弘「満漢合璧雍正朝奏摺譯注」「京都大学文学部研究紀要」第31号、1992年。
25. 早田輝洋「満文金瓶梅 訳注 序——第十回」第一書房、1998年。
26. Lucien Adam, *Grammaire de la langue mandchoue*, Paris, 1873.
27. Larry V. Clark, "Manchu Suffix List," *Manchu Studies Newsletter* III, 1979-80, pp. 29-40.
28. H.C. von der Gabelentz, "Beiträge zur mandschurischen conjugationslehre," *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* XVIII, 1864, pp. 202-219.
29. Erich Haenisch, *Mandschu Grammatik mit Lesestücken und 23 Texttafeln*, Leipzig, 1961.
30. Charles J. de Harlez, *Manuel de la langue mandchoue*, Paris, 1884.
31. Erich Hauer, *Handwörterbuch der Mandschusprache*, Tokyo-Hamburg-Wiesbaden, 1952-55, 3 vols.
32. Gertraude R. Li, *Manchu: A Textbook for Reading Documents*, Honolulu, 2000.
33. P.G. von Möllendorff: *A Manchu Grammar, with Analysed Texts*, Shanghai, 1892.
34. Jerry Norman, *A Concise Manchu-English Lexicon*, Seattle, 1978.
35. Hermes Peeters, "Manjurische Grammatik," *Monumenta Serica* V, 1940, pp. 349-418.
36. Denis Sinor, "La langue mandjoue," B. Spuler et al. eds., *Handbuch der Orientalistik* I, V, *Altaistik* 3, Leiden-Köln, 1968, pp. 257-280.
37. Ivan Zakharov, *Grammatika Manzhurskago Jazyka*, St. Petersburg, 1879.
38. Ivan Zakharov, *Polnyj Manzhursko-Russkij Slovar*, St. Petersburg, 1875.

略号一覧
ABBREVIATIONS

- 異 「異域錄」(今西春秋撰「校注異域錄」朝鮮学会, 1964年, 参照).
上原 上原久「満文満洲実録の研究」不昧堂, 1960年.
虚指 「重刻清文虚字指南編」
松山戰書 「辛巳歲我太宗大破明師於松山之戰書」
清啓 「清文啓蒙」
崇. 2 正 「崇徳二年正月分満文檔案」中国第一歴史檔案館藏. 河内良弘「崇徳二年正月分満文檔案譯註」「京都大学文学部研究紀要」第28号, 1989年.
崇. 3 「崇徳三年分満檔案」中国第一歴史檔案館藏.
雍正檔 「宮中檔雍正朝奏摺」(数字は「宮中檔雍正朝奏摺」第28輯, 「満文論摺」第1輯の頁数を示す. 河内良弘「満漢合璧雍正朝奏摺訳注」「京都大学文学部研究紀要」第31号, 1992年3月, 参照).
老. 「清語老乞大」(津曲敏郎「清語老乞大の研究」「論集」第21号~22号(人文編)札幌商科大学, 1977~78年, 参照).
G. 滿文「金瓶梅」
M.Y. 滿文「満洲実録」(数字は, 卷数と今西春秋「満和蒙和対訳 滿洲実録」刀水書房, 1992年の頁数を示す).
N. 河内良弘「ニシャン・サマン傳訳注」「京都大学文学部研究紀要」第26号, 1987年.
T. 滿文老檔 太祖紀
T.S. 滿文老檔 太宗紀

1

文字・発音篇

母 音
VOWELS

満洲語の母音は、a, e, i, o, u, ɿ の 6 個からなっている。

□ 0 満洲語母音字母表

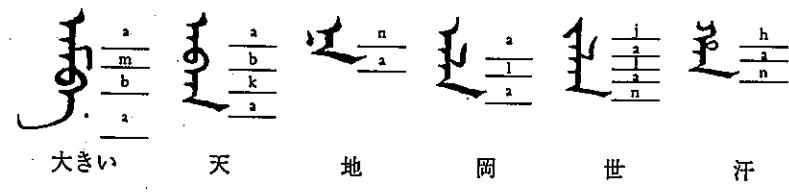
ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
a	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ
e	ㅓ	ㅑ	ㅓㅓ	ㅕㅓ
i	ㅣ	ㅑ	ㅓ	ㅕ
o	ㅗ	ㅕ	ㅓ	ㅕ
u	ㅜ	ㅕ	ㅓㅓ	ㅕㅓㅓ
ɿ	ㅡ	ㅑ	ㅓ	ㅕ

□ 1 — a

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
a	ア	オ	イ	ウ

■ 1 母音 a は、語末に くと くの二形がある。くは末尾が左下方に向かう子音字 ウ(b), オ(p), イ(k), ゥ(g), ゥ(h) の下にのみつき、それ以外の子音には くがつく。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



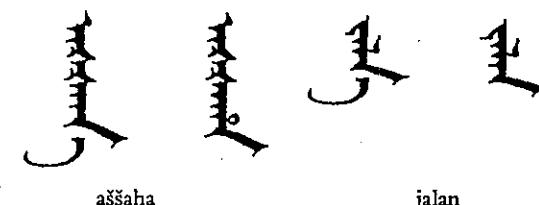
■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独形	語頭形	語中形	語末形
し	キ	リ	シ



amba mama amala nadan da
大きい 祖母 後 七 根本

■ 4 清代初期の無圈点の檔案中では、蒙古文書法の影響を受けて、たとえば aššaha (動いた) のように、語末の a が語の主幹部分と分離して(分綴して) 書かれことがある。また a の下に n が接する時にも、この種の書法が現われ、たとえば jalan (世) のように n が語の主幹部分と分離して(分綴して) 書かれることがある。



□ 2 — e

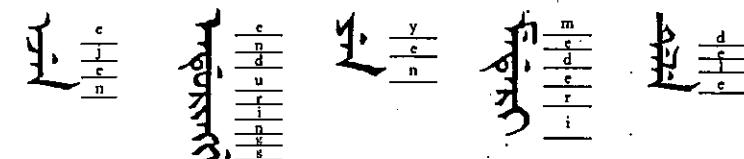
ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
e	エ	イ	イ	エ

■ 1 母音 e の語中形には イ, ィ の二形がある。イは t, d, k, g, h の、母音 a が後接しない子音字 ウ, オ, イ, ゥ, ゥ, フ, フの下につき、イはその他の子音の下につく。

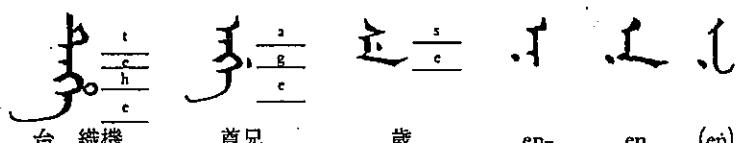
■ 2 語末形には く, ク, キ, ケ の四形がある。くは母音 a の後接しない ウ(k), ク(g), キ(h) の下につき、クはウ(b), キ(p) の下につき、キは母音 a が後接せず、且つ末尾が左下方に向かわない ウ, オ(t), ウ, キ(d) の下につき、ケはそれ以外の子音の下につく。

■ 3 語頭の e の下に n をつける時は、語頭の a との混同を避けるために e と n との間隔をやや広く開ける。しかし例外的に n の左側に点を附して a と区別することもある。

■ 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。



主 聖なる 山道 海 上



台, 織機 尊兄 歳 en- en (en)

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独形	語頭形	語中形	語末形
-----	-----	-----	-----

ノ イ ナ し ジ ノ ハ

も あ も も り

eyun	emu	enen	erde	be
姉	一	子孫	夜明け前	我等

□ 3 — i

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
--------	-----	-----	-----	-----

i イ オ オイ ウ

■ 1 母音 i の語中形には オ, オ, オの三形がある。i の上に母音がくる時は オ, オが書かれ、子音が来る時は オが書かれる。母音字母の下の オと オとの二通りの書き方は、ただ書写法上の習慣による相違である。

■ 2 母音 i の単独形には オと つの二形がある。オは人称代名詞第三人称単数の i (彼, 彼女) および漢字音を表記する時などに用いられ、つは格助詞の属性を単独に記すときに用いられる。

■ 3 i の語末形には つと つがある。末尾が左下方に向かう子音字 b, p, k, g, h の後ではやや小さめの オが書かれる。

■ 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。

日

初

よい

時

モ モ モ

晚 月 第二, 次

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独形	語頭形	語中形	語末形
-----	-----	-----	-----

モ モ モ イ モ

モ モ モ モ モ

ice	ihan	aisin	nimanggi	eici
新しい	牛	金	雪	或は

□ 4 — o

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
--------	-----	-----	-----	-----

オ オ オ オ オ

■ 1 o 母音字母は oo と連書されることがある。oo と連書される母音字母を含む音節が借用漢語中に現われる時は、多くの場合、漢語二重母音 ao に由来する。その他の場合、連書の o は長母音である。

モ

ミ

ミ

モ

ピ

ド

モ

ホ

サン

モ

ブ

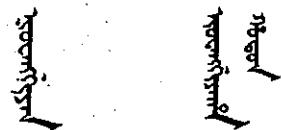
ー

モ

ム

ー

■ 2 初期の満文檔案中にあっては、 -owa- のような音節がしばしば現われる。しかし、単に u の圈点が無かったため -owa- のように見られるものも多い。



niowanggiyan iowanggiyaha hoton suwayan (sowayan) juwan (jowan)
綠 清河城 黃色 +

- 3 ただし正書法が定められてより以後の満文では、この種の音節中の。は正しく u と書かれる。
-owa- 音節を含む字は極めて限られており、ただ n を語頭子音とする語の語頭音節中にのみ保存されているにすぎない。

- 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。

～する前に

池

～にいたるまで

抜群の

秋



niowariha niowarišambi
虎僕毛 緑濃い

- 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独形	語頭形	語中形	語末形
D	D	D	D
ø	ø	ø	ø

okto

藥

oforo

鼻

omo

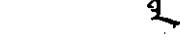
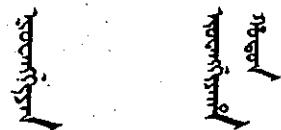
池

hoton

城

kooli

法例



□ 5 — u

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
u	ਊ	ਊ	ਊ	ਊ

- 1 母音字母 u は語中形に ਊ の二形がある。母音。が後接しない子音字 t (ᡩ, ᠠ), d (ᡩ, ᠠ), k (ᡴ, ᠠ), g (ᡤ, ᠠ), h (ᡥ, ᠠ) の次にくる場合には ਊ が書かれ、それ以外の場合は ਊ が書かれる。

- 2 母音字母 u の語末形には ਊ, ਊ, ਊ, ਊ の四形がある。母音。が後接しない子音字 t (ᡩ, ᠠ), d (ᡩ, ᠠ) の下にくる場合は ਊ が書かれ、同じく子音字 k, g, h (ᡴ, ລ, ᠠ) の下にくる場合には ਊ が書かれ、その他の場合には ਊ, ਊ が書かれる。

- 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。

ਊ

ਊ

ਊ

ਊ

江

河

音乐

野菜の名

ਊ

ਊ

ਊ

ਊ

うづら

上方

洞穴

ひそかに

ਊ

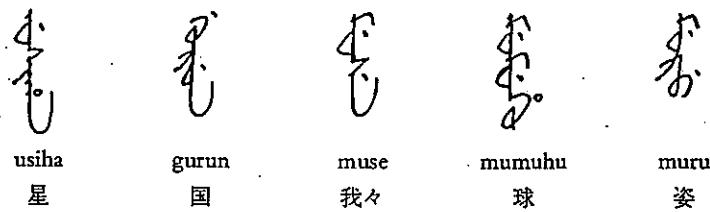
ਊ

ਊ

ਊ

- 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独形	語頭形	語中形	語末形
ਊ	ਊ	ਊ	ਊ
ਊ	ਊ	ਊ	ਊ



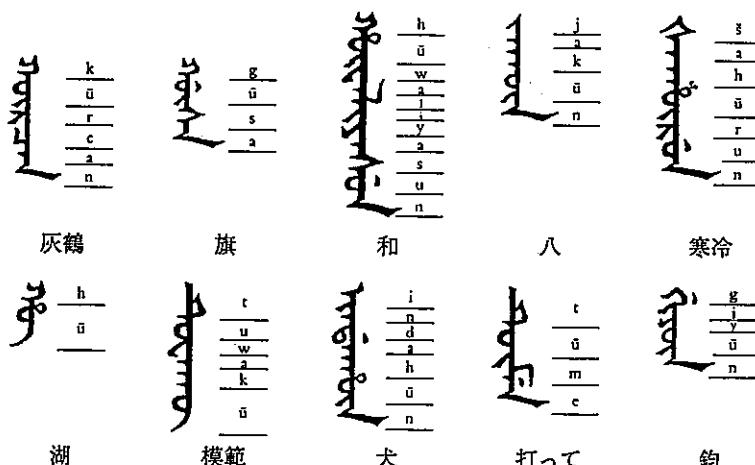
□ 6 —

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
ū	ු	ු	ු	ු

■ 1 满洲語の母音 u は陰性母音 (front vowel, 蒙古語などの ü) であり、この母音 ü が陽性母音 (back vowel, 蒙古語などの u) なのである。母音 ウ(i) は、通常 k, g, h 三子音と結合するときにのみ現れる。そして k, g, h は満洲語では陽性と陰性の区別がある。ü は陽性の音で、このため陽性の k, g, h とだけ結合する。

語頭部位にタヌキが何故存在するのかの問題は、ülen(房舎), üren(牌位), üklige(贈物)など、ただ二・三例があるにすぎないので、これら外来語と思われる。k, g, h以外の子音に後接するタヌキも同様に解される。kanzai(燕窩), kanzi(筆狗皮条), kant(打つ)などがその例である。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

单独形	語頭形	語中形	語末形
シ	シ	シ	シ



□ 7 母音調和 (Vowel Harmony)

アルタイ諸語の一つとして、満洲語にも母音調和がある。母音調和とは順行同化 (progressive assimilation) の一種であり、原則として語の第一音節の母音が陽性 (back) 母音であれば、後続の音節の母音はすべて陽性母音の中から撰ばれ、同じく第一音節の母音が陰性 (front) であれば、後続の音節の母音はすべて陰性母音の中から撰ばれる。すなわち口蓋調和 (palatal-velar harmony) である。ほかに円唇母音 (rounded vowel) の *o* には特別な円唇調和 (labial harmony) がある。

陽性母音 a, o, ū

中性母音 i, u

陰性母音 e, (u)

上の表のうち, i と u は中性母音であって、母音調和の規則に支配されず、いずれの語にも自由に現われることができる。しかし、k, g, h に続く u だけは陰性母音となる。ただし満洲語の母音調和はかなり歴史的にくずれていて、複合語や接尾辞・語尾のあるもの（例えば対格の -be など）はこの規則の外にあり、むしろ陽性母音と陰性母音は一語中に共存することが少ないとでも言っておく方が適切かも知れない。また kū, gū, hū 以外の ū（多く外来語中に）や、eo の母音連続もこの規則の外にある。

しかし母音調和上の変異形 (variant) を持つ接尾辞は、原則としてその選択を母音調和則に従う。例えば、いわゆる複数接尾辞の -sa/-se/-so の添加 (ほかに -si もあるが、i は中性母音であるから、ここでは除外) した語は、

bayan 富者 — baya-sa 富者たち

mergen 賢者 — merge-se 賢者たち

monggo 蒙古人 — mongo-so 蒙古人たち

のごとくである。完了を表わす -ha/-he/-ho 等々の場合もすべて同様である。また円唇母音 o を含む変異形を持たない接尾辞、例えば同じく複数を表わす -ta/-te の添加した語は、

ahün 兄 — ahü-ta 兄たち

deo 弟 — deo-te 弟たち

のごとくである。形容詞派生接尾辞 -ba/-be 等々の場合もすべて同様である。

ほかに名詞化接尾辞 -kū/-ku のような母音調和上の変異形もある。

afambi 戰う — afa-kū 戰士

fushembi 扇ぐ — fushe-ku 扇子

のごとくである。指小接尾辞の -shün/-shun 等々の場合もすべて同様である。

2
子 音
CONSONANTS

満洲語には 19 個の子音とこれを表記する文字、および 10 個の外来子音と、これを表記する特殊文字がある。

□ 0 满洲語子音字母表

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
n	ň	ń	ń

k	ᡴ	ᡴ	ᡴ
g	ᡤ	ᡤ	ᡤ
h	ᡥ	ᡥ	ᡥ
b	ᡶ	ᡶ	ᡶ
p	ᡷ	ᡷ	ᡷ
s	ᡸ	ᡸ	ᡸ
t	᡹	᡹	᡹
d	᡺	᡺	᡺

I	ナ	ニ	ヌ
m	ム	メ	ヌ
c	ツ	シ	
j	ヅ	ヅ	
y	イ	イ	
r	ヌ	ヌ	ヌ
f	フ	フ	フ
w	ウ	ウ	
ng	ウ	フ	

□ 1 — n

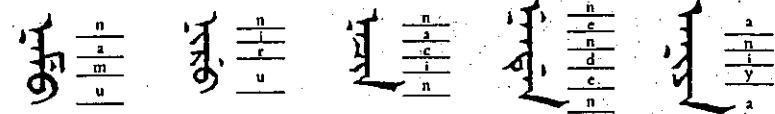
ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
n	ン	ミン	ヌン

■ 1 満洲語の n は [n] に近く発音される。

■ 2 n の語中形には イ と ハ の二形がある。n の次に母音がくるときには ハ が用いられ、子音がくるときには イ が用いられる。n の語末形には ヌ と ム の二形がある。通常の場合には ム が用いられ、漢字音を写す場合などに ヌ が用いられる。han

(君主) の場合の n は ム とも ヌ とも書かれる。

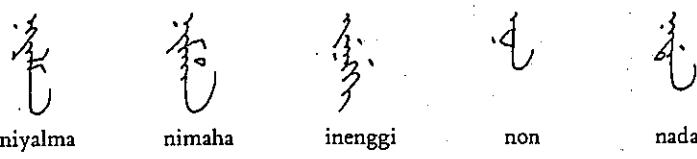
■ 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。



海洋 矢, 佐領 鶴 鶴 先に 年

■ 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節 形	na	ne	ni	no	nu	nū
	ナ	ネ	ニ	ノ	ヌ	ヌ



niyalma nimaha inenggi non nadan
人 魚 日 (day) 妹 七

□ 2 — k

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
k	ク	キ	ヌ
	フ	ヒ	ハ

■ 1 k, g, h の発音 — クとフ (ヌとヒ), グとヒ (ヌとハ) は、満洲語で各々調音点的に口蓋垂音 (uvular) と軟口蓋音 (velar) の対立した子音を示す字母である。この三対の

子音は、それぞれ一つの音素の二つの異なる変異音であり、その変異音の相補分布の条件は主として後続する母音の属性による。すなわち ㄩ, ㄩ, ㄩ は陽性母音 (a, o, ㄩ) が後接した時に現れ、ㄊ, ㄊ, ㄊ は、陰性母音および中性母音 (e, u, i) が後接した時に現れる。

■ 2 満洲語文語では ャ[q] は日本語のカ行音とは異なり、喉の奥で調音されて発音された。しかしハルハ蒙古語のような深い摩擦音ではない。一方、ク[k] は日本語のカ行音に近い音を示す。

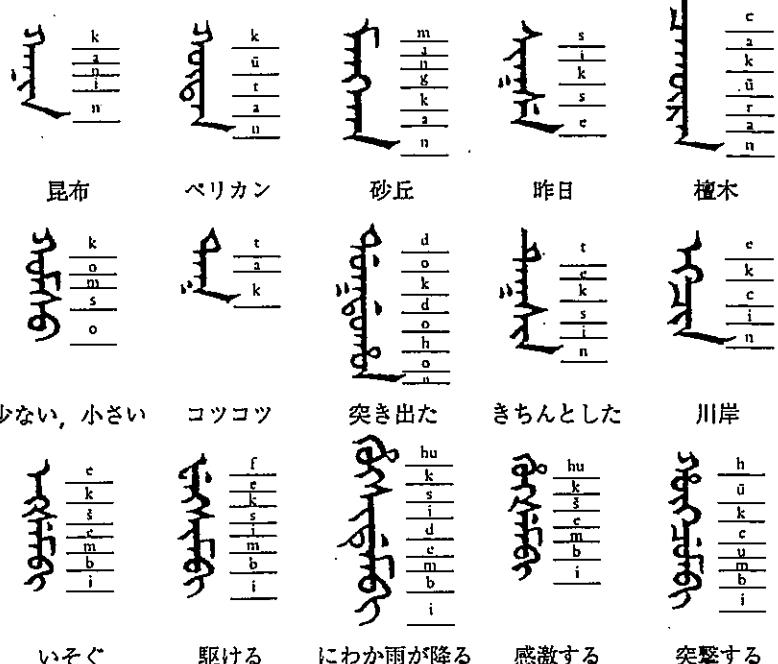
■ 3 満洲語の閉鎖音と破擦音には清音と濁音の対立があり、また文語で や, ゃ, る, る は [q], [y], [χ], ㄊ, ㄊ, ㄊ は [k], [g], [x] と発音されていたのであるが、満洲人は次第に漢化されて満洲語を忘れ、光緒 27 年 (1901) 西太后執政における保守政策の放棄とともに満洲語は公用語としての地位を失った。先に掲げた参考書のなかのメーレンドルフ氏の文法書 (p. 1) や、ザハロフ氏の辞典 (p. 59) にあるとおり、近代に至ってその発音は著しく漢化して、その結果、上記の閉鎖音および破擦音の清音対濁音の対立も、あたかも北京音のごとく、帶気音 (aspirated) 対無気音 (in aspirated) で発音されるようになるに至った。本書は満洲語文語の発音のみを解説し、これら漢化満洲音は取扱わない。

■ 1 k [q]

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
k	ㄩ	ㄩ	ㄩ

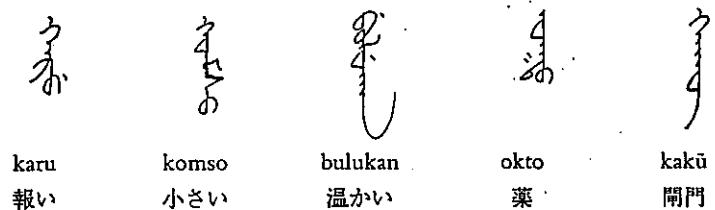
■ 1 k には ㄩ と ㄩ 二つの系列の文字がある。まず ㄩ から説明しよう。

- 2 語頭形 ㄩ は、k が母音 a, o, ㄩ の上にくる時に用いられる。
- 3 語中形には ㄩ と ㄩ の二形がある。k が a, o, ㄩ の上にくる時には ㄩ が用いられ、k が子音の上にくる時には ㄩ が用いられる。
- 4 k が子音の上にくるときでも、huksembi (感激する), guksen (ひとかたまり), hüksembi (突撃する), eksembi (いそぐ), ekcin (川岸), feksimbi (馳せる) のように、k の上に ku, gu, hu, hü, e が先行するときには ㄩ が用いられる。ただし teksin (一様の) は テクシン となる。
- 5 語末形 ㄩ は、語末の k が a, i, o, ㄩ の下にくるときに用いられる。ただし擬音語の tek tek (がやがや) の tek (テク) のような例外もある。
- 6 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 7 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節形	ka	ko	kü



■ 2 k [k]

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
k	か	か	か

- 1 クの語頭形および語中形は、kが母音e, i, uの上にくるときに用いられる。語中形のクが子音の上にきた場合の用法は、前項k[q]の■4を参照のこと。
- 2 語頭形および語中形のkの次にuがくるときにはウと書かれる。
- 3 語頭形および語中形のkの次にiがくるときにはイと書かれ、語末ではヲと書かれる。
- 4 語末形のクは、kが母音eの下にくるときに用いられる。ただしtekはテクと書かれる。
- 5 次の楷書体の読み方を練習しよう。

鳥の鎖骨

白麻

行禮

空にする
過ぎ去った

過ぎ去った

食べに来る

蒸留酒 気性の激しい人

穀物 同じ、もとの

穀

嫌がって

西梵の

■ 6 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節形	ke	ki	ku
	け	き	く

kesike

kiru

kumun

□ 3 — g

子音gについても、g[y]とg[g]の二系列がある。次にそれぞれを説明していこう。

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
g	ガ	ギ	グ
	カ	キ	ク

■ 1 g[y]

- 1 gにはガg[y]とクg[g]と二つの系列の文字がある。まずガg[y]から説明しよう。
- 2 この子音は[y](=[G])と発音された。これは日本語のガ行音とは異なり喉の奥で調音されて発音される。
- 3 g[y]の語頭形ガおよび語中形ギは、gの下にa, o, ūがくるときに用いられる。
- 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。

鳥

枝

焼棒杭

地方

旗分

最初の

時

以前

醜瓜

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ga	go	gū
	が	ご	ぐ

galman galmin gūnin
蚊 長い 意志

■ 2 g [g]

■ 1 つ[・]g [g] は日本語のガ行子音に近い音をしめす。

■ 2 g [g] の語頭形および語中形は、g [g] が母音 e, i, u の上にくるときに用いられる。

■ 3 g [g] の語頭形および語中形の次に i がくるときには ひと書かれ、語末では ぎと書かれる。

■ 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。

氷の張る頃

おさえる

鼓起處

命令

一昨日

たばこ

米粒

急流

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。点の位置に注意しよう。

単独音節形	ge	gi	gu
	げ	ぎ	ぐ

genehe gisun gucu
行った 言葉 友

□ 4 — h

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
h	ひ	ひ	ひ
	ひ	ひ	ひ

■ 1 h [χ]

■ 1 h にはひ h [χ] とひ h [χ] と二つの系列の文字がある。

■ 2 h [χ] は日本語のハ行音とは異なり、喉の奥で調音されて発音される。

■ 3 h [χ] の語頭形および語中形 ひ, ひは、h の下に a, o, ü がくるときに用いられる。

■ 4 次の楷書体の読み方を練習しよう。

黄蒿

馬黄草

荒山

十五

犬

酒の肴

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ha	ho	hū
	は	ほ	ふ

haksan honin hūlān
険しい 羊 煙突

■ 2 h [x]

■ 1 h [x] は日本語のハ行子音に近い音で発音される。

■ 2 h [x] の語頭形および語中形は、h [x] が母音 e, i, u の上にくるときに用いられる。

■ 3 語頭形および語中形の次に u がくるときには ウと書かれる。

■ 4 語頭形および語中形の次に i がくるときには イと書かれ、語末では ハと書かれる。

■ 5 次の楷書体の読み方を練習しよう。

横

蜂蜜

凍った

水をそそぐ

浅い

向かいの

水

四十

肺

■ 6 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節 形	he	hi	hu

家産

質素な

眼瞼

□ 5 — b

ローマ 字表記	語頭形	語中形	語末形
b			

■ 1 この子音 b は日本語のバ行子音に近い [b] に発音された。

■ 2 語末形の ウは、やや長く左に引き、○や ハと区別する。

■ 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。

焼酒糟

米

野

舊

飯

老鶴眼

ぬかるみ

果実

夜

正しい

食べる

錫伯

■ 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節 形	ba	be	bi	bo	bu	bū

abka

abdaha

bithe

obokū

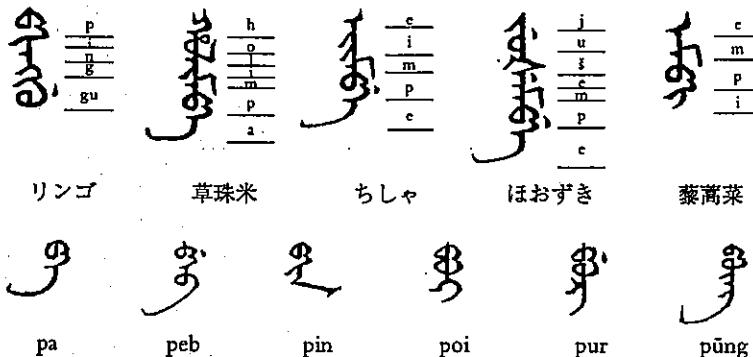
buthašambi

□ 6 — p

次に子音 p について述べる。

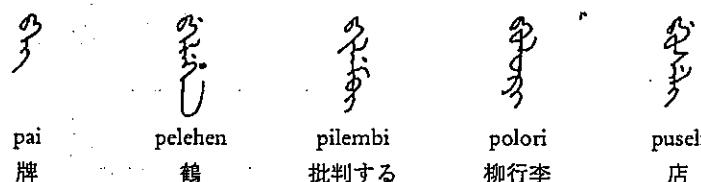
ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
p	の	の	の

■ 1 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 2 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	pa	pe	pi	po	pu	pū
	パ	ペ	ピ	ポ	ブ	ブ

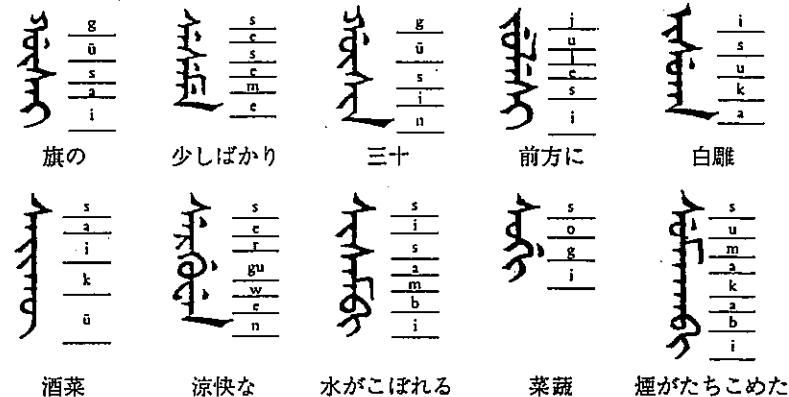


□ 7 — s

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
s	す	ス	ズ

■ 1 子音 s は普通は [s] であったが、si のみは [ʃi] と発音されていた。例えば sir-dan (矢) は [ʃirdan] と発音された。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	sa	se	si	so	su	sū
	サ	セ	シ	ソ	ス	ス

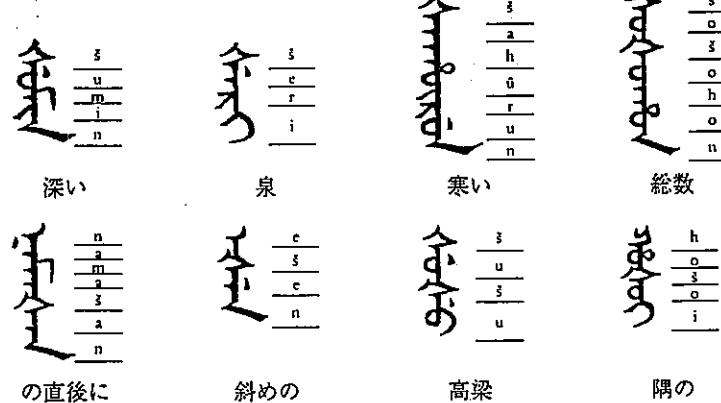


□ 8 — š

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
š	𠂔	𠂔	

■ 1 満洲語では [ʃ] と発音されたが、ši のみは [ʃi] (外来音) と発音された。固有満洲語に ši と綴られる音節は存在しなかった。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ša	še	ši	šo	šu	šü
	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔

šeri	šolo	šoro	šušu	ašsan
泉	暇	篠	高粱	動き

□ 9 — t

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
t	𠂔	𠂔	𠂔

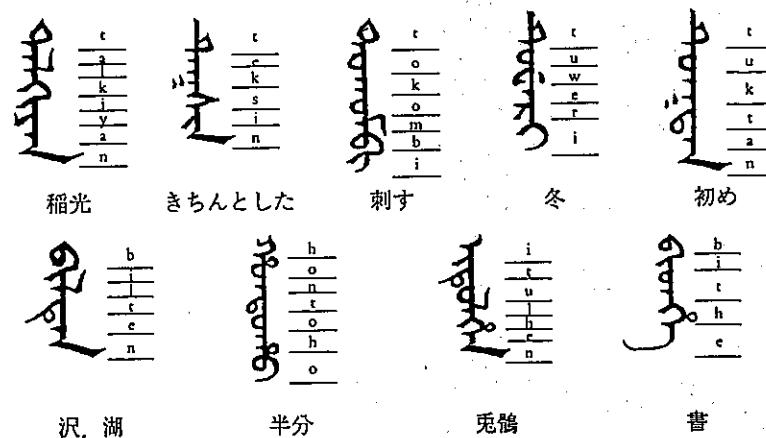
■ 1 [t] は母音 a, e, i, o, u, 𠀤 とすべて結合する。しかし t は音節は、ただ借用語中にのみ存在する。

■ 2 やと𠀤、および エと𠀤 は満文中では形状を異にする別々の字母であるが、発音上では違いがあるわけではない。ただし文字上では、これに後接する母音字の圈点の有無によって書き分ける。

■ 3 満洲語の t の発音は [t] である。t の語頭形には やと𠀤 の二形があり、語中形には や, エ, イ の三形がある。やと𠀤 は、t の下に圈点の無い母音字 a, i, o が接するときに用いられる。エと𠀤 は、t の下に e, u, 𠀤 が接するときに用いられる。濁音 (d) と読み誤らないように別の文字にしたのである。

■ 4 語中形の イ は、t が他の子音の直前にあるときに用いられる。

■ 5 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 6 次の行書体の書き方を練習しよう。

单独 音節 形	ta	te	ti	to	tu	tū
	ᡩ	ᡨ	ᡩᡫ	ᡩᡪ	ᡩᡫ	ᡩᡫᡫ

固有満洲語で **ぢ** と綴られる音節はない。女真語時代の **ぢ** [tʃi] は、すべて満洲語文語では **ち** [tʃi] に移行したからである。

taciku	bethe	tuwakiyambi	ton	tugi

学校 足 見守る 数 雲

□ 10 — d

前項の **t** の用法と同じようなものに **d** がある。

- 1 **d** [d] は母音 **a, e, i, o, u** と結合し、**ぢ** とは結合しない。di 音節は、ただ借用語中にのみ存在する。
- 2 満洲字の **d** の用法は **t** と同じ。語中形の **ぢ** および語末形はない。

ローマ 字表記	語頭形	語中形	語末形
d			

■ 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。

従え	同様に	夜明け前	洪大な	不時往来しない

■ 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

单独 音節 形	da	de	di	do	du

固有満洲語に **di** と綴られる音節はない。上述 **ぢ** の場合に並行して、女真語の **di** [di] は満洲語文語では **ji** [dʒi] に移行したからである。

buda	doron	debtelin	duin	dabagan

飯 印 本 四 峠

□ 11 — l

ローマ 字表記	語頭形	語中形	語末形
l			

■ 1 次の楷書体の読み方を練習しよう。これからあとは逐字解説をしませんので自分でやってみてください。試みに次のものはどうでしょうか。

amala	bele	dalire	songkolome	kalka

後 米 さえぎる 照らし依って 楠

■ 2. 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	la	le	li	lo	lu	lü
	ら	れ	り	ろ	る	る

ilha	花	galman	蚊	omolo	孫	ulhü	芦葦	šulhe	梨
------	---	--------	---	-------	---	------	----	-------	---

□ 12 — m

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
m	め	れ	ぬ

■ 1. 次の楷書体の読み方を練習しよう。

ama	umesi	mini	monggo	gemu
父	はなはだ	私の	モンゴル	みな

■ 2. 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ma	me	mi	mo	mu	mü
	ま	め	み	モ	ム	ム

omo	池	amu	伯母	emu	一	mama	祖母	mudan	音曲
-----	---	-----	----	-----	---	------	----	-------	----

□ 13 — c

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
c	シ	シ	シ

■ 1. c の発音は日本語のチの子音に近い [tʃ] である。

■ 2. 次の楷書体の読み方を練習しよう。

acambi	hecen	tucire	cihanggai	dacun
会う	城	出る	願わくば	鋭い

■ 3. 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ca	ce	ci	co	cu	cü
	カ	セ	シ	コ	ク	ク

coko	cira	uce	cooha	miyoocan
にわとり	顔色	門	兵	銃

□ 14 — j

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
j	↙	↖	↘

- 1 jはcの濁音(有声音)で[dʒ]と発音される。
- 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



jakade
～なので jili banjiha manju jeterengge
怒り 生まれた 満洲 食べもの

- 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ja	je	ji	jo	ju	jü
	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ



juhe
氷 uju
頭 jiha
錢 majige
すこし mujilen
心

□ 15 — y

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
y	↙	↖	↘

- 1 yはiとは結合しない。
- 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



yamji
晩 yabu
行け selgiyeme
命令を伝えて tacihyan
教訓 jiyanggyün
章京

- 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ya	ye	yo	yu	yü
	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ	ㅓ



umiyaha
虫 yeru
穴 niyehe
鴨 yasa
目 yuyun
飢餓

□ 16 — r

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
r	リ	ル	リ

■ 1 rは日本語のラ行の子音とはやや異なり、舌先をふるわせて発音される舌尖ふるえ音の[r]である。他のアルタイ諸語と同様に、満洲語にもrで始まる語はない。外来語にのみ、ごく稀に語頭に用いられる。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ra	re	ri	ro	ru
	ら	れ	り	ろ	る

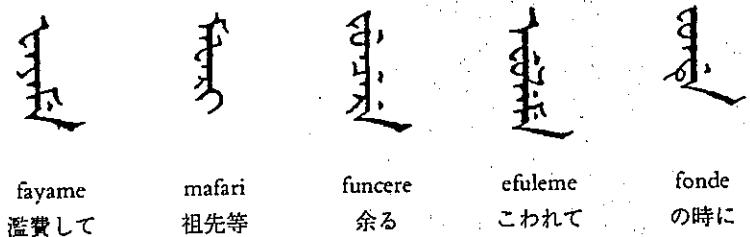
niru	beri	gurun	irgen	nirugan
矢	弓	国	民	絵

□ 17 — f

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
f	フ	フ	フ

■ 1 fの語頭形、語中形とも二形がある。fの下に母音a, eがくるときは、wと区別するため、それぞれアおよびイと書かれ、その他の母音がくるときには、wと混同することがないので、それぞれアおよびイと書かれる。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	fa	fe	fi	fo	fu	fu
	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ

fejergi	faidan	futa	tacifi	tefi
下	隊列	網	学んで	坐して

□ 18 — w

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
w	わ	わ	わ

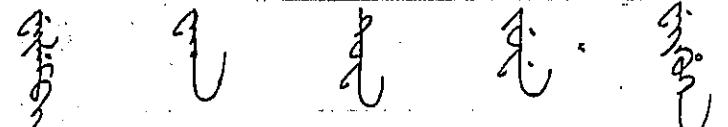
- 1 w は、母音 a, e とだけ結合し、その他の母音とは結合しない。
- 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。



wacihiyame
ことごとく waliyame
樂てて wehiyeme
助けて hūwašabume
成育させて suweni
貴方がたの

- 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独 音節 形	wa	we
	わ	わ



weilembi
造る waka
非 tuwa
火 juwe
二 weihuken
軽い

□ 19 — ng

ローマ字表記	語頭形	語中形	語末形
ng	ঁ	ঁ	ঁ

- 1 語中形の ng は、つ[k], キ[q], ブ[g], キ[y] の前にのみ現われる。
- 2 語末形は漢語借用語あるいは象徴詞 (onomatopoeia) にのみ現われる。
- 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。



gingguleme
謹しんで yongkiyaha
完備した mangga
強い tanggū
百 beging
北京

- 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

-ng-	-ng
ঁ	ঁ



inenggi
日 guwang
廣東 dung
 gung
公 monggo
モンゴル sangga
洞窟

3
特殊子音
LOAN
CONSONANTS

満洲語の母音字母および子音字母をすべて挙げたが、この他に10個の特殊子音字母と呼ばれる文字がある

□ 0 満洲語特殊子音字母表

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
k'	ㄩ	ㄩ		
g'	ㄩ	ㄩ		
h'	ㄩ	ㄩ		
ts'	ㄔ	ㄔ		
dz	ㄐ _{dzi}	ㄐ	ㄐ	ㄐ _{dzi}
ž	ㄊ	ㄊ		
sy	ㄕ	ㄕ	ㄕ	ㄕ

c'y	ㄔ	ㄕ	ㄕ	ㄔ
jy	ㄔ	ㄕ	ㄕ	ㄔ
tsi	ㄔ	ㄕ	ㄕ	ㄔ

これまでに述べた母音字母および子音字母では、満洲語の固有の音を写すには充分であっても、漢語音などの外来音の表記には充分ではなかった。このため天聰6年(1632)達海が漢語からの借用語を表記するため、10個の新字を制定した。これが上に示した特殊子音字母である。

□ 1 — k', g', h'

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
k'	ㄩ	ㄩ		
g'	ㄩ	ㄩ		
h'	ㄩ	ㄩ		

■ 上記三字母の表わす音価は、満洲語でそれぞれ [k], [g], [x] であった。固有満洲語では、a, o, ü の後接する k, g, h 三子音は、異音 (allophone) としてそれぞれ [q], [ɣ], [χ] であったため、外来音としての、つまり満洲語にない [ka], [ga], [ha] (この子音は漢語音 [k'] に由来する) や [qa], [ga] (同じく [k] に由来) 等を写すためにダハイが作ったのがこれら三字母である。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。

挂
k'ang
刚
g'ang
杭
h'ang
孔
k'ong
工
g'ong
红
h'ong

■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	k'a	g'a	h'a	k'o	g'o	h'o
	カ	ガ	ハ	コ	ゴ	ホ

靠
k'ao
岗
g'ang
海
h'ai
孔
k'on
工
g'ong
红
h'oo

□ 2 — ts'

ローマ字表記	单独形	語頭形	語中形	語末形
ts'		チ	チ	

■ 1 「ts'」は、満洲語では [ts] (外来音) と発音されていた。

■ 2 次頁の行書体の表のうち「tsi」は満洲語で [tsü] (外来音) と発音された。つまり「tsi」は日本語のツに近い音であった。

■ 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。

灾
ts'ai
猜
ts'e'i
替
ts'o'i
崔
ts'u'i

挂
ts'an
残

岑
ts'en
峯

村
ts'un
村

■ 5 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ts'a	ts'e	tsi	ts'o	ts'u
	チ	チ	チ	チ	チ

擦
策
慈
磋
粗

□ 3 — dz

ローマ字表記	单独形	語頭形	語中形	語末形
dz	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ (dzi)

■ 1 dz は満洲語では [dz] (外来音) と発音されていた。

■ 2 上の表の「dzi」は、満洲語で [dzü] (外来音) と発音された。

■ 3 次の楷書体の読み方を練習しよう。

灾
dzai
灾

替
dzei
替

替
dzan
替

怎
dzen
怎

嘴
dzoi
嘴

尊
dzun
尊

■ 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	dza	dze	dzi	dzo	dzu
	ぢ	ぢ	ヂ	ヂ	ヂ
咱 則 滋, 子 佐, 作 粽					

□ 4 —ž

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
ž				
	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ

■ 1 žは満洲語で [ʒ] (外来音) と発音されていた。

■ 2 次の楷書体の読み方を練習しよう。

玆	玆	玆	玆	玆
žan	žen	žin	žon	žun
然	人			潤

■ 3 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	ža	že	ži	žo	žu
	ぢ	ぢ	ヂ	ヂ	ヂ
熱 日 若 億					

□ 5 —sy, c'y, jy

ローマ字表記	単独形	語頭形	語中形	語末形
sy	疋	求	衣	疋
c'y	歩	牛	牛	歩
jy	尤	オ	オ	歩

■ 1 sy の発音は [sɯ̯] (外来音) であった。つまり日本語のスに近い音であった。

■ 2 c'y の発音は [tsi̯] (外来音) であった。

■ 3 jy の発音は [dʒi̯] (外来音) であった。

玆	步	手	李
sycuwan	c'yming	jyming	jyli
四川	勅命	制命	直隸

■ 4 次の行書体の書き方を練習しよう。

単独音節形	sy	c'y	jy
	疋	歩	手
四, 思, 池, 尺, 知, 紙			

□ 6 — dzi と tsi

すでに述べたが、[dzü] と [tsü] とは、本書では次のようにローマ字表記する。

ローマ字表記	単独形	行書体
dzi	ヂ	ヂ
tsi	チ	チ

2

文法篇

名詞 NOUNS

名詞は事物の名称を表す語であって、主語をはじめ、助詞を伴って各種の格(case)に立つことができる。

□ 1 名詞の種類

■ 1 普通名詞 (Common Noun) 一般的な事物の名称を表す、すなわち同じ種類の物を、ひとまとめにして言う語である。

alin 山 bira 川 indahūn 犬 sele 鉄 tacikū 学校
usiha 星 jugūn 道路 irgen 民 hafan 官

■ 2 固有名詞 (Proper Noun) 同種に属する他の物から区別して、個々の名称を表す。

manju 满洲 mukden 盛京 monggo 蒙古 sahalian ula 黑龍江
nurhaci ヌルハチ hunehe bira 渾河 golmin šanggiyan alin 長白山

□ 2 名詞の数 (number)

名詞には数えることのできる名詞 (可算名詞 countable noun) と、数えることのできない名詞 (不可算名詞 uncountable noun) とがある。不可算名詞には複数形式はない。可算名詞のうち、原則として人物に関する名詞 (有情名詞) にのみ複数形式がある。有情名詞には、-sa/-se/-si/-so, -ta/-te, -riなどの語尾を附して複数を示す。語尾の母音は、先行する名詞の母音に応じ、母音調和則に従って変異形をとるが、例外もある。これらの語尾は、厳密に言えば複数ではなく、日本語の「達」のように「その他」(et al.) の意である。

■ 1 -sa/-se/-si/-soなどを附する名詞

manju	满洲人	-	manjusa	满洲人等
šabi	弟子	-	šabisa	弟子等
sakda	老人	-	sakdasa	老人等
age	兄	-	agese	兄等
ecike	叔父	-	ecikese	叔父等

gucu	友人	—	gucuse	友人等
aha	奴僕	—	ahasi	奴僕等
haha	男子	—	hahasi	男子等
monggo	蒙古人	—	monggoso	蒙古人等

ただし、次のごとく人物以外の動物に対しても例外的にこの複数形式が用いられることがある。これは恐らく口語と関係があろう。現代でも黒龍江省地方の満洲語地域では、動物の複数にこの形 (-se) が用いられている。

'aika handu orho oci ulha se asuru labdu	もし稻藁なら、家畜どもは、あ
jeterakū. (老. 1. 25a)	まりたくさん食わない。
'ere yaluha morin sebe aika emu dobori	この乗った馬どもを、もし一晩
omiholabuci. (老. 4. 1a)	餓えさせるなら。

■ 2 -ta/-te を附する名詞（家族名）

amji	母の兄	—	amjita	母の兄等
nakcu	母の兄弟	—	nakcuta	母の兄弟等
deo	弟	—	deote	弟等
eme	母	—	emete	母等

■ 3 -ri を附する名詞

mafa	祖先	—	mafari	祖先等
mama	父方の祖母	—	mamari	父方の祖母等

■ 4 名詞語尾が -ng で終わる借用漢語の場合は、複数語尾は分かち書きをする。

wang	王	—	wang sa	王等
be hūwang	白黄	—	be hūwang sa	白黄等

■ 5 名詞語尾の -n, -i, -le, -lo は脱落することがある。

amban	大臣	—	ambasa	大臣等
hafan	官吏	—	hafasa	官吏等
irgen	民	—	irgese	民等
jui	子	—	juse	子等
beile	貝勒	—	beise	貝子
omolo	子孫	—	omosi	子孫等
例外: han	汗	—	hansa	汗等

■ 6 漢語、蒙古語などの外来語の官職名および人名の複数語尾は分かち書きをする。

jiyanggiyūn	將軍	—	jiyanggiyūn se	將軍等
lama gewa	喇嘛ゴワ	—	lama gewa se	喇嘛ゴワ等 (異. 下. 29b)

■ 7 いくつかの名詞は、数種の複数語尾を用いる。

urun	息子の嫁	—	urusa, uruse	息子の嫁等
------	------	---	--------------	-------

agu	老兄	—	agusa, aguse	老兄等
nakcu	母の兄弟	—	nakcusa, nakcuse, nakcuta	母の兄弟等

■ 8 有情 (animate) 物以外の可算 (countable) 名詞は、数詞を前置して複数を作る。

meyen	条	—	tanngū meyen	百箇条
jaka	物	—	tumen jaka	万物

■ 9 名詞の後に gubci, tome, jergi などの語を附して複数を表すことがある。

booi gubci	全家	niyalma tome	人ごとに	gurgu jergi 歌等
------------	----	--------------	------	----------------

■ 10 非情 (inanimate) 物には、同一の名詞を重ねて複数を示すことがある。

se se	歳々	ba ba	所々	jugūn jugūn 各路
hacin	hacin	hacin	hacin	種々

□ 3 名詞の性 (gender)

■ 1 満洲語の人と動物を示すいくつかの名詞には性の区別がある。通常の場合、陽性母音を持つものは、男性または雄性を、陰性母音を持つものは、女性または雌性を示す。

ama	父	eme	母
amaka	夫の父	emeke	夫の母
haha	男	hehe	女
naca	妻の兄	nece	妻の兄の妻
nakcu	母の兄弟	nekcu	母の兄弟の妻

■ 2 鳥の雌雄を表すには、鳥名の前に amila, emile を附して示す。

amila coko	雄鶲	emile coko	雌鶲
------------	----	------------	----

代名詞 PRONOUNS

代名詞は事物の名称を言わずに、それに代わってさし示す語であり、体言の一種で活用がなく、主語のほか種々の格に立つことができる。代名詞は人称代名詞、指示代名詞、疑問代名詞、反照代名詞、所有代名詞（物主代名詞）に分類される。代

名詞は語尾を変えることによって、文中での他の語に対する関係や機能の変化を示す。こうした語尾によって示される形式を格と呼ぶ。代名詞の格を示す語尾は i, de, be, ci の 4 種である。

□ 1 人称代名詞 (Personal Pronoun)

人称代名詞には、第一人称、第二人称、第三人称の区別があり、次のように格変化する。具格はない。

	第一人称		第二人称		第三人称	
	单数	複数	单数	複数	单数	複数
主格	bi (mini) (minibe)	muse (musei) (musebe)	si (sini)	suwe (suweni)	i	ce
属格	mini	meni	musei muse i	sini	suweni	ini
与格	minde	mende	musede muse de	sinde	suwende	inde
対格	mimbe	membe	musebe muse be	simbe	suwembe	imbe
奪格	minci	menci	museci muse ci	sinci	suwenci	inci

■ 1 muse は包括 (inclusive) 形であり、北京語の咱們のように話者と聞き手との双方を含めて我々と称する時に用いられる。be はおおむね排他 (exclusive) 形であり、日本語の「私ども、手前ども」に当たる。

■ 2 第一人称、第二人称、第三人称の属格形式と対格形式とは、連体修飾節では主格になることができる。属格のこの用法は日本語と同じであるが、満洲語には対格にもこの用法がある。上の表では一応主格欄に入れ、括弧内にそれらを示した。

■ 3 满州実録では、minci, menci という形は現れない (上原 p.173)。

□ 2 指示代名詞 (Demonstrative Pronoun)

■ 1 指示代名詞は、人物、人物の動作、事物、地点、状態を指し示す単語である。次にこれを表示する。

	近 称		遠 称	
	单数	複数	单数	複数
人または事物	ere	ese, erse	tere	tese
場 所	uba		tuba	

■ 2 指示代名詞の格変化形を次に示す。

	近 称		遠 称	
	单数	複数	单数	複数
主格	ere	ese	tere	tese
属格	erei	esei	terei	tesei
具格	erei ereni	ese i	tere i tereni	tese i
与格	ede	esede	tede	tesede
対格	erebe	esebe	terebe	tesebe
奪格	ereci	eseci	tereci	teseci

■ 3 状態を示す指示詞には次の語がある。

近 称	遠 称
enteke (このような)	tenteke (あのような)
uttu (このように)	tuttu (あのように)
utala (これほど)	tutala (あれほど)

□ 3 疑問代名詞 (Interrogative Pronoun)

■ 1 疑問代名詞は不定称の代名詞であって、人にかかる語と、事物にかかる語の二類に大別される。人にかかる疑問代名詞には we (誰), ya (誰) があり、事物にかかる疑問代名詞には、ai (何), ya (何) がある。次にその変化形を示す。

	人 称		物 称	
	单数	複数	单数	複数
主格	we	ya	ai	ya
属格	wei, we i	ya	ai	ya
具格			aini	ya i
与格	wede, we de	yade, ya de	aide	yade, ya de
対格	webe	yabe	aibe	yabe
奪格	weci, wederi	yaci, yaderi	aici	yaci, yaderi

■ 2 このうち wederi は沿格 (prolative) であるが、便宜上奪格に含めた。例えば amargi dukaideri (裏門を経て、裏門から)。

■ 3 上記のほか、場所を示す疑問代名詞 aiba (何処) があり次のような変化形がある。

奪格 aibaci, aibici (何処から), 与格 aibide (何処に)

'te gelhun akū fonjiki. ere age i hala ai. 今、あえてお尋ねしたい。この
(老. 1. 22a) 方の姓は何ですか。

□ 4 不定代名詞 (Indefinite Pronoun)

不特定の人あるいは事物を指す代名詞を不定代名詞と言う。weke (誰か) や yaka (誰か) がこれに当たる。なお正確には不定代名詞ではないが、類似の語に weri (別の人), gūwa (他人), yaya (もろもろ) がある。次にその変化形を示す。

	weri	gūwa	yaya
主格	weri	gūwa	yaya
属格	weri (i)	gūwa (i)	yaya (i)
与格	weri de	gūwa de	yaya de
対格	weri be	gūwa be	yaya be
奪格	weri ci	gūwa ci	yaya ci

□ 5 反照代名詞 (Reflexive Pronoun)

満洲語には自分自身が行動したことを見せる代名詞があり、これを反照代名詞と呼ぶ。反照代名詞は人称代名詞の所有格に beye を附したもので、次のように変化する。

	第一人称		第二人称		第三人称	
	单数	複数	单数	複数	单数	複数
主格	mini	meni	sini	suweni	ini	ceni
	beye	beye	beye	beye	beye	beye
属格	mini	meni	sini	suweni	ini	ceni
	beyci	beyci	beyci	beyci	beyci	beyci
与格	mini	meni	sini	suweni	ini	ceni
	beyede	beyede	beyede	beyede	beyede	beyede
対格	mini	meni	sini	suweni	ini	ceni
	beyebe	beyebe	beyebe	beyebe	beyebe	beyebe
奪格	mini	meni	sini	suweni	ini	ceni
	beyeci	beyeci	beyeci	beyeci	beyeci	beyeci

「彼自身」の場合には、ini beye のほかに gūwa beye も用いられる。

□ 6 所有代名詞 (Possessive Pronoun)

代名詞の属格を所有格とも呼ぶ。所有格代名詞に -ngge または -ingge が結合して「～のもの」の意を表す所有代名詞が形成される。この所有代名詞を「物主代名詞」と呼ぶこともある。

entekengge	このようなもの	ereingge	このもの	gūwaingge	他人のもの
meningge	私たちのもの	miningge	私のもの	tentekengge	あのようなもの
tereingge	彼のもの	weingge	誰のもの	weringge	別人のもの

3 数 詞 NUMERALS

数詞は人や事物の数量および順序を示す単語である。数詞は、基本数詞、順序数詞、各個数詞、分数詞、倍数詞、不確定数詞に分類される。

□ 1 基本数詞 (Cardinal Numeral)

基本数詞は次の通りである。

1	emu, emke	11	juwan emu	21	orin emu
2	juwe	12	juwan juwe	22	orin juwe
3	ilan	13	juwan ilan	30	gūsin
4	duin	14	juwan duin	40	dehi
5	sunja	15	tofohon	50	susai
6	ninggun	16	juwan ninggun	60	ninju
7	nadan	17	juwan nadan	70	nadanju
8	jakūn	18	juwan jakūn	80	jakūnju
9	uyun	19	juwan uyun	90	uyunju
10	juwan	20	orin	100	tanggū
		101	tanggū emu	100000	juwan turnen,
		200	juwe tanggū	十万	bunai, bujun
		300	ilan tanggū	1000000	tanggū turnen
		1000	minggan	千万	minggan turnen
		10000	tumen	一億	tumen turnen,

「無量数」buju baja などは、チベット語からの借用語である。数詞を組み合わせては、日本語の漢数字と同じく順次に書き表せばよい。例えば、1985 は、emu minggan uyun tanggū jakūnju sunja (一千九百八十五) となる。

□ 2 順序数詞 (Ordinal Numeral)

順序数詞は基本数詞に -ci を加えて作る。ただし、数詞の語尾の -n は脱落する。
juwan, orin, tumen のみは例外である。第一、第二に対しては特別の形がある。

第一 uju(頭), emuci	第七 nadaci	第二十 orinci
第二 juweci, jai(次), jaici	第八 jakuci	第一百 tangguci
第三 ilaci	第九 uyuci	第一千 minggaci
第四 duici	第十 juwanci	第一万 tumenci
第五 sunjaci	第十一 juwan emuci	
第六 ningguci	第十五 tofohoci	

□ 3 個別数詞 (Distributive Numeral)

個別数詞は基本数詞に -ta/-te/-to を附して作る。基本数詞の語尾 -n は脱落する。
ただし juwan, orin, tumen は例外である。

1個ずつ, 各 1	emete	30 個ずつ, 各 30	gusita
2個ずつ, 各 2	juwete	40 個ずつ, 各 40	dehite
3個ずつ, 各 3	ilata	50 個ずつ, 各 50	susaita
4個ずつ, 各 4	duite	60 個ずつ, 各 60	ninjute
5個ずつ, 各 5	sunjata	70 個ずつ, 各 70	nadanjuta (te)
6個ずつ, 各 6	ninggute	80 個ずつ, 各 80	jakunjute
7個ずつ, 各 7	nadata	90 個ずつ, 各 90	uyunjute
8個ずつ, 各 8	jakuta	100 個ずつ, 各 100	tanggute
9個ずつ, 各 9	uyute	1 千個ずつ, 各 1 千	minggata
10個ずつ, 各 10	juwanta	1 万個ずつ, 各 1 万	tumete
15個ずつ, 各 15	tofohoto	数個ずつ, 各数個	udute
20個ずつ, 各 20	orinta (orita)		

□ 4 助数詞 (Classifier, Counter)

度量衡や度数など、数詞と一体となって数量の単位を表す語を助数詞と呼ぶ。
以下、長さ、量、重さ、広さ、度数、その他を表す助数詞を挙げる。

■ 1 長さを表す助数詞

emu juda	1丈	=	juwan jušuru	10 尺
emu jušuru	1 尺	=	juwan jurhun	10 寸
emu jurhun	1 寸	=	juwan fuwen	10 分
emu fuwen	1 分	=	juwan eli	10 厘
emu eli	1 厘	=	juwan hina	10 毫

emu ba	1里	=	360 okson	360 步
emu okson	1步	=	sunja jušuru	5 尺

■ 2 量を表す助数詞

emu hule	1石	=	juwe sunto	2斛
emu sunto	1斛	=	sunja hiyase	5斗
emu hiyase	1斗	=	juwan moro hiyase	10升
emu moro hiyase	1升	=	juwan oholiyo	10合

■ 3 重さを表す助数詞

emu gingnehen	1石	=	120 ginggen	120 斤
emu ginggen	1斤	=	juwan yan	10 両
emu yan	1両	=	juwan jiha	10 錢
emu jiha	1錢	=	juwan fuwen	10 分
emu fuwen	1分	=	juwan eli	10 厘

■ 4 広さを表す助数詞

emu delhe	1頃	=	100 mu, mo	1畝
emu mu	1畝	=	240 okson	240 步
emu fuwen	1分	=	24 okson	24 步

■ 5 度数を表す助数詞

度数を表す助数詞は、基本数詞に接尾辞 -geri, -nggeri などを附して表す。				
1度, 1次	emgeri	7度, 7次	nadanggeri	
2度, 2次	juwenggeri	8度, 8次	jakunggeri	
3度, 3次	ilanggeri	9度, 9次	uyunggeri	
4度, 4次	duinggeri	10度, 10次	juwanggeri	
5度, 5次	sunjanggeri	100度, 100次	tanggunggeri	
6度, 6次	ninggunggeri			

以上のほかに、mudan (度), mari (回), jergi (回, 級) などの語がある。

■ 6 その他の助数詞

emu aniya	1年	=	emu ikiri	一連の
emu bukdan	折り本の 1葉	=	emu jukte	肉の 1 片
emu burgin	1陣 (風)	=	emu kiya	蜜蜂の 1 窓
emu cimari	1晌 (6畝)	=	emu talgan	1 枚
emu dedun	1日の道程	=	emu futa jiha	1 串銭
emu dobobi	1夜	=	emu moro	1碗, 1升

□ 5 分数詞 (Numeral of Fraction)

■ 1 いくつかの名詞はそれ自体で分数としての機能を持っている。

1/2 = hontoho, dulin, dulga, andala, aldasi, dulimba.

1/4 = tubi.

■ 2 分数を示すには次の方法がある。

□ a 基本数詞に属格助詞 i を附して分母とし、基本数詞を分子とする法。

5/10 juwan i sunja 3/8 jakūn i ilan

12/100 tanggū i juwan juwe 1/10000 tumen i emu

□ b 基本数詞に奪格助詞 ci を附して分母とし、基本数詞を分子とする法。

1/4 duin ci emu 2/3 ilan ci juwe

□ c 基本数詞に ubu de 「分に」を附して分母とし、基本数詞に ubu を附して分子とする法。

4/10 juwan ubu de duin ubu

2/3 ilan ubu de juwe ubu

1/5 sunja ubu de emu ubu

□ 6 倍数詞 (Numeral of Multiplication)

■ 1 倍数詞は基本数詞に ubu を附して作る。

1倍 emu ubu 6倍 ninggun ubu

2倍 juwe ubu 100倍 tanggū ubu

3倍 ilan ubu 365倍 ilan tanggū ninju sunja ubu

■ 2 倍数詞の表現には、次のような語もある。

1層の emursu 3層の ilarsu

2層の jursu 9層の uyursu

□ 7 不確定数量詞 (Indefinite Number)

不確定の数を表す語を不確定数量詞と呼ぶ。不確定数を作るものには、次のような単語がある。

■ 1 基本数詞の後に次の語を附して表す語。

fulu あまり

funcere あまりの funcembi あまりだ

isime ～ばかりに isimbi ～ばかりだ

šurdeme ～ばかりに šurdembi ～ばかりだ, 前後だ, あたりだ

hamime 近く hamimbi ほぼ～に近い

tesume 足りて tesumbi 足りる

■ 2 名詞の前に次の語を附して不確定数を表す。

emu udu 数個の udu 数一 ududu 数一, 数々の

■ 3 二個の数字を連記して不確定数を表す。

dehi susai aniya 4, 50年 orin gūsin niyalma 2, 30人

■ 4 次の語は不確定の数を表すことがある。

tanggū 百 minggan 千 tumen 万 tanggū hala 百姓人民
tumende emgeri 万一

□ 8 日の表示

■ 1 各月の1日から9日までは基本数詞の前に ice (新) を附して日数を表す。日を表すには、日数の後に i inenggi (の日) または与位格助詞 de を附して示す。

sunja biyai ice de 5月初 1日に

juwan emu i inenggi 11日

ice ninggun de 初 6日に

■ 2 干支で日を表すには、干支の後に inenggi を附す。

niowanggiyan singgeri inenngi 甲子

fulahūn ihan inenggi 丁丑

■ 3 十干

甲 niowanggiyan 乙 niohon 丙 fulgiyan

丁 fulahūn 戊 suwayan 己 sohon

庚 šanggiyan 辛 šahūn 壬 sahaliyan

癸 sahahūn

■ 4 十二支

子 singgeri 丑 ihan 寅 tasha

卯 gūlmahūn 辰 muduri 酉 meihe

午 morin 未 honin 申 bonio

酉 coko 戌 indahūn 戌 ulgiyan

□ 9 月の表示

月の表示は次の通りである。

正月 aniya biya 2月 juwe biya 3月 ilan biya

4月 duin biya 5月 sunja biya 6月 ninggun biya

7月 nadan biya 8月 jakūn biya 9月 uyun biya

10月 juwan biya 11月 omšon biya 12月 jorgon biya

閏月 anagan i biya 今月 ere biya 本月 ineku biya

先月 duleke biya 先々月 cargi biya 来月 jidere biya

下月 (来月) ishun biya

□ 10 年の表示

■ 1 年を表すには、順序数詞の後に aniya (年) を附して表す。

1985年	emu minggan uyun tanggū jakūnju sunjaci aniya
雍正元年	hūwaliyasun tob i sucungga aniya (sucungga は「初の」)
光緒30年	badarangga doro i gūsici aniya

■ 2 千支を用いて年を表す方法もある。

戊戌年	suwayan indahūn aniya
庚申年	šānggiyan bonio aniya
甲午年	niowanggiyan morin aniya

■ 3 清代の年号

天命	(1616-1626)	abkai fulingga
天聪	(1627-1635)	sure han
崇德	(1636-1643)	wesihun erdemungge
順治	(1644-1661)	ijishūn dasan
康熙	(1662-1722)	elhe taifin
雍正	(1723-1735)	hūwaliyasun tob
乾隆	(1736-1795)	abkai wehiyehē
嘉慶	(1796-1820)	saicungga fengshen
道光	(1821-1850)	doro eldengge
咸豐	(1851-1861)	gubci elgiyengge
同治	(1862-1874)	yooningga dasan
光緒	(1875-1908)	badarangga doro
宣統	(1909-1911)	gehungge yoso

■ 4 年の特別な表示

元年	sucungga aniya	本年	ineku	aniya
今年	ere aniya	昨年	duleke	aniya
一昨年	cara aniya	来年	jidere	aniya
明年	ishun aniya	明後年	cargi	aniya

□ 11 時の表示

時刻を表すには十二支の後に erin (時) を附し、刻、分、秒を表すには基本数詞の後に kemu, fuwen, miyori を附す。

時	erin	分(1分間)	fuwen	刻(15分)	kemu
秒	miyori	辰の刻	muduri erin	午の刻	morin erin

4 形容詞 ADJECTIVES

形容詞は事物の性質や状態を表し、名詞を修飾する語である。また、通常のものは、文の述語にも立ちうるし、動詞を修飾することもできる。

□ 1 形容詞の種類

形容詞は構造上、普通形容詞と派生形容詞の二種類に分類される。

■ 1 普通形容詞 (Primary Adjective) 1個の語幹をもって構成される形容詞を普通形容詞と呼ぶ。

amba	大きい	ajige	小さい	labdu	多い
komso	少ない	šahūrun	寒い	halhūn	暑い
mangga	難しい	ja	容易な	hūdun	速い
elhe	ゆっくりした				

■ 2 派生形容詞 (Derivational Adjective) 名詞および動詞より派生した形容詞を派生形容詞と呼ぶ。

□ a 名詞由来派生形容詞 (Denominal Adjective)

(1) 語幹に -ngga/-ngge/-nggo や -lingū/-lingu を附したもの。

-ngga:			
ahūngga	長上の	argangga	奸智にたけた
batangga	仇の	gargangga	枝のある
halangga	~姓の	hiyoošungga	孝順な
jalingga	罪な	jurgangga	節義のある
tusangga	有益な	ujungga	頭立った

-ngge:			
enduringge	神の	gebungge	有名な
gungge	功績のある	hergengge	位のある
kimungge	仇敵の	mujilengge	心の

-nggo:	doronggo	礼儀正しい	horonggo	威力のある	hošonggo	方形の
-linggū/-linggu:	ambalinggū	体軀堂々とした	yadalinggū	虚弱な	anggalinggū	俊巧な
(2) 語幹に -hon, -konなどを附したもの。	moro	榎	—	morohon	目のつぶらな	
	oilo	表面	—	oilohon	軽浮の	
	onco	寛大	—	onkokon	やや寛やかな	
	tondo	公平	—	tondokon	私心のない	

□ b 動詞由来派形容詞 (Deverbal Adjective)

(1) 語幹に -cuka/-cuke, -su, -ba/-beなどを附したもの。

-cuka:	saišambi	嘉す	—	saišacuka	嘉すべき
	ališambi	もだえる	—	ališacuka	心苦しい
-cuke:	gelembi	恐れる	—	gelecuke	恐ろしい
	girumbi	恥る	—	girucuke	恥ずかしい
-su:	ulhimbi	悟る	—	ulhisu	俊敏な
	dahambi	従う	—	dahasu	従順な
-ba:	kirimbi	堪え忍ぶ	—	kiriba	我慢強い
	olhombi	畏れる	—	olhoba	慎み深い
-be:	kicembi	努め励む	—	kicebe	勤勉な

(2) その他に次のようなものがある。

ekiyembi	欠ける	—	ekiyehun	不足した
nanturambi	汚くする	—	nantuhūn	汚い
necihiyembi	平らかにする	—	necin	平坦な
olhombi	乾く	—	olhon	乾いた
ubiyambi	憎む	—	ubiyada	憎むべき
yongkiyambi	完備する	—	yongkiyan	完備した

上述の a-(1) に属する語群は、名詞を修飾する点では形容詞と同様であっても同根名詞を有し、-ngga, -ngge, -nggo, -linggū, -linggu という特定の語尾を有し、単独で述語になることがないので、これらの語を連体詞と呼ぶこともある。

□ 2 形容詞の比較 (comparison)

満洲語の形容詞には比較を表す語尾変化はない。ただ最高級を表すとき、あるいは他との比較を表す時には、次のような形式が用いられる。

■ 1 最高級に当たる概念を表すには、形容詞の前に ten, jaciなどの副詞をおく。

ten:	ten jiramin	極めて厚い	ten tomorhon	極めて明白な
jaci:	jaci komso	甚だ少ない	jaci labdu	甚だ多い

■ 2 ある名詞あるいは形容詞に「小さい」又は「少ない」の意味をもつ語尾を附して比較を表すことがある。それらの語尾には、母音調和の法則に従って母音が変化する -kan/-ken/-kon, -liyan/liyen, -shūn/-shun などが含まれる。

-kan:	ambakan	やや大きい	hüdukan	やや速い
-ken:	deken	小高い	elheken	やや緩やかな
-kon:	olhokon	やや乾いた	komsokon	やや少ない
-gan:	ajigan	やや小さい		
-liyan:	adaliliyan	やや一様な	injemeliyan	微笑んだ
-liyen:	ešemeliyan	やや斜めになった		
	hetuliliyan	やや横ざまの		
-si:	ambakasi	やや大きい	ajigesi	やや小さい
-shūn:	aibishūn	少し腫れた	yamjishūn	やや晩い
-shun:	nenggereshun	少し支え挙げた		
	enggeleshun	上部がやや前方に出張った		

■ 3 ある形容詞の前に強弱を表す副詞を附して、強弱の程度を示すことがある。

dembei:	dembei ijishūn	甚だ従順な	dembei saikan	甚だ美しい
heni:	heni majige	ほんの少し、すこし小さい		
	heni amba	やや大きい		
hon:	hon sain	非常によい	hon goro	非常に遠い
mujakū:	mujakū hairakan	甚だ惜しい	mujakū jilakan	甚だ可愛い
nokai:	nokai halhūn	甚だ暑い	nokai ja	甚だじ易い
umesi:	umesi mangga	甚だ強い	umesi šahūrun	甚だ寒い

■ 4 比較対照する語に ci (より、から) を附し、形容詞の前に置いて比較を表すことがある。アルタイ諸言語に共通してみられる比較奪格 (comparative ablative) である。

tasha ci mangga	虎よりも強い	alin ci den	山よりも高い
-----------------	--------	-------------	--------

□ 3 形容詞の名詞化 (nominalization)

■ 1 満洲語の多くの形容詞は名詞として用いられる。他のアルタイ諸語と同様に、形容詞と名詞との区別は厳密ではない。例えば次の語は名詞としても形容詞としても用いられる。

amba	大, 大きい	baturu	勇ましい人, 勇ましい
den	高さ, 高い	faksi	職人, 巧みな
geren	衆人, 多い	tondo	公平, 素直な

waka 非, 誤っている

■ 2 形容詞に -ngga/-ngge/ や -linggū/-linggu の語尾を附して名詞化することができる。

-ngga:	haihungga	柔らかいもの		
-ngge:	erdemungge	有徳の人	icengge	新しいもの
	colhorokongge	抜群の人		
-nggo:	doronggo	礼儀正しい人		
-linggū:	yadalinggū	虚弱な人		
-linggu:	ehelinggu	愚劣の人, 劣った人		

■ 3 形容詞の後に ningge (物, 者) を附して意味的に名詞化することができる。

sain ningge	善人	fulgiyan ningge	赤いもの	
moringga ningge	騎馬人	encu ningge	他のもの	
oyonggo ningge	重要なもの			

5
副 詞
ADVERBS

副詞は動詞, 形容詞などの用言や他の副詞を修飾し, 行動の状態, 程度, 場所, 時間, 範囲などの関係をあきらかにする語である。副詞は語尾変化をしない。副詞は構成上, 単綴形式と熟語形式の二種類に分けられる。

□ 1 単綴 (independent spelling) 形式

adarame	どうして	aifini	すでに	ainci	思うに
ainu	何故	ambula	大いに	baibi	空しく
beleni	今しも	cihai	思い通りに	cohome	専ら
damu	ただ	dasame	再び	elemangga	かえって
faksa	激怒して	gaitai	たちまち	gemu	すべて
inu	また	jai	また	jortai	故意に

kemuni	なお, 常に	neneime	先に	sasa	一緒に
taka	しばらく	ume	決して~するな	umesi	全く
uthai	たちまち, すぐ	weihun	生きながら		

□ 2 熟語 (phrase) 形式

■ 1 形容詞の後に i を加えた形式

an i	通常	elhe i	ゆっくり	ijishūn i	すなおに
sain i	よく	tondokon i	まっすぐに	ulhiyen i	次第に
yargiyan i	まことに				

■ 2 疊語 (reduplicative compound) の後に i を加えた形式

dahūn dahūn i	重ね重ね	emke emken i	ひとつひとつ
giyan giyan i	理路明白に	siran siran i	次々に
ulan ulan i	次々に		

■ 3 擬声・擬態詞 (onomatopoeia) などの後に seme を加えた形式

arkan seme	やっと	ainaha seme	断然	der seme	たくさん
dur seme	わっと	ser seme	しとしと	teng seme	しっかりと
ler lar seme	ふわふわと				

■ 4 疊語 (reduplicative) 形式

dabali dabali	飛び越え飛び越え	ilhi ilhi	次々
jergi jergi	重ね重ね	teisu teisu	それぞれ

■ 5 数個の語によって構成される形式

arun durun akū	影も形もなく	asuki wei akū	何の気配もなく
gelhun akū	ためらわず	ai geli	どうして又
ini cisui	自然に	urnajnaci ojorakū	やむをえず

□ 3 副詞の分類

副詞は意味・用法上, 次の種類に分類することができる。

■ 1 時間を表す副詞 (Adverb of Time)

andande	瞬時に	aifini	はやすでに
atanggi	いつか	beleni	今やっと
bengneli	にわかに, 忽然と	daci	初めから
dade	初めて	dahin dahin i	再三再四
dahin dabtan i	繰り返し	dahūn dahūn i	再三再四
daruhai	いつも, 常に	dartai andande	たちまちにして
dasame	再び	dule	もとより

doigonde	あらかじめ
emgeri	ひとたび
gaitai	たちまち
holkonde	たちまちのうちに
jakan	近頃
kejine	やや久しく
kemuni	常に
ne	現在
nerginde	機会に, 折りに
seiben i	昔, 先に,
siranduhai	ひきつづき
talu	たまたま, 折々
teike	ちょうど, 今しがた
tuktan	まず, はじめて

■ 2 程度・数量を表す副詞 (Adverb of Degree)

alimbaharaku	たまらず
ambula	甚だ, 大いに
cingkai	はるかに(異なる)
ele	ますます
elekei	ほとんど, 今少しで
heni majige	僅か
jaci	甚だ
majige	少々
nokai	大いに, 非常に

amba muru	大概, 大方
asuru	甚だ
dembei	極めて
elei	ほとんど, いよいよ
heni	ほんの少し
hon	非常に
juken	どうやら, ますます
mujakku	頗る, 甚だ
umesi	大いに, 極めて

■ 3 状況を表す副詞 (Adverb of Manner)

an i	平常
balai	みだりに
cihai	思う通りに
cohotoi	特に, 専ら
cib seme	ひっそりと
ekisaka	悄然と, おもむろに,
elheken i	ゆっくり
emke emken i	逐次
giyan fiyan i	順序に従って
giyan giyan i	つぶさに, 条理明白に

baibi	ただ, 理由もなく
beri beri	めいめい, 各自
cohome	特に
da an i	いつもの通り
cun cun i	だんだんと
elhe nuhan i	ゆっくりと
emhun	一人で, ～にのみ
emu adali	同じ
giyan i	道理に従って
ildun de	ついでに

hacin hacin i	各種, いろいろと,
ini cisui	自然に, おのずと
kemumi	常に, なお
meni meni	各自
šuwe	真直に
teisu teisu	各自, それぞれ
ulhiyen i	次第に

■ 4 範囲を表す副詞 (Adverb of Quality)

bireme	おしなべて, 一概に
canggi	ばかり
gemu	みな
inu	もまた
teile	特に, ～ばかり
uhe	すべて
uhei	一緒に
yooni	すべて, ことごとく

■ 5 方向を表す副詞 (Adverb of Direction)

absi	どこに, どこへ
casi	そこへ
ebsi	こちらへ
julesi	前に向かって

■ 6 仮定を表す副詞 (Adverb of Condition)

manggai ~ (oci) どうしても～ならば, 難しいならば
aika, aikabade, unenggi, yalaなどの語は, 本書では接続詞に入れてくれる

■ 7 断定・決意を表す副詞 (Adverb of Assertion)

ainaha seme	断然, どうしても
urunakku	必ず, 疑いなく
ai gelhun akū	どうしてあえて～しよう

■ 8 推量・憶測を表す副詞 (Adverb of Supposition)

ainci	恐らくは
toktofi	きっと, 定めし

■ 9 疑問・反語を表す副詞 (Adverb of Rhetorical Question)

adarame	どうして
aiceme	どうして, 何故
maka	はて, 一体どうだか
absi	どうして, どのように

■ 10 打ち消しおよび禁止を表す副詞 (Adverb of Negation and Prohibition)	
umai 全く～しない	ume するな, してはいけない
■ 11 表敬の副詞 (Adverb of Humbleness)	
gingguleme 慎んで	giyan i 理としてまさに
■ 12 強意を表す副詞 (Adverb of Emphasis)	
bai ただ	esi 当然, 正しく, 勿論
esi seci ojorakū 思わず知らず	fuhali 全く, ついに
ineku なお又	jiduji 畢竟, ついに, 結局
naranggi ついに, 畢竟	

6 格 助 詞 CASE SUFFIXES

一つのまとまった文や句において、体言とその他の語句との間に生じる機能的関係が格である。満洲語においては、体言はそれ自体で主格以外の格を示す機能を持たない。格は助詞の附着によって示される。このように体言に附いて、その体言が句を組み立てる場合、他の語に対する資格を限定する語が格助詞である。

格助詞には次の8種がある。

1. 主 格 Nominative Case
2. 属 格 Genitive Case
3. 与位格 Dative-Locative Case
4. 対 格 Accusative Case
5. 具 格 Instrumental Case
6. 奪 格 Ablative Case
7. 沿 格 Prolative Case
8. 終 格 Terminative Case

□ 1 主 格 (Nominative Case)

満洲語では、体言がそれ自体で主格となる。主格を示す格助詞は、原則として存在しない。しかし従属節中においては、i, be が主格を表す格助詞となる場合がある。

■ 1 i —

このiは本来属格を表す助詞であるが、日本語の「の」と同じく、連体節の中では主格を表す。すなわち主格属格 (subjective genitive) である。

'bi seiben niyalmai muke tatara be tuwaha	私は昔、人の(が)水を引くの
bicibe tacihakū bihe. (老. 2. 26b)	を見たけれども、習わなかった。
*mafai tehe susu. (M.Y. III. 89)	祖先の(が)住んだ故郷。
*nenehe han i tun de unggihē bithei gisun. (T.S. XI. 2)	先に汗の(が)島に送った書簡の言葉。

■ 2 be —

本来は対格を表す格助詞 be が主格的用法として含まれる文章は、多くの場合 alambi (告げる), donjimbi (聞く), gūnimbi (思う), hendumbi (言う), sembi (と言う、と思う)などの語およびその活用形によって結ばれる。日本語にも似たところがある。例えば「日本の山河を美しいと思う」など。

'han be boode bedereki seme henduhe manggi. (T.S. XVI. 11)	汗を(が)家に帰りたいと言われたら。
--	--------------------

'bi cara aniya mama tucire de omosi mama mimbe bolgon sain seme gajifi beye hanci takūrambi. (N. 69-70)	私、一昨年疱瘡が出た時、オモシママが私を(が)清らかで美しいと連れて来て、自分の傍ら近く、召し使っている。
---	---

'amba niyalmai karu bithe de, acara doro be mimbe gūni sehebi. (T.S. XVI. 19)	大人の返書に、和譲をわたくしを(が)考えよと、言ってあった。
---	--------------------------------

■ 3 oci は ombi (できる) の語幹 o- に、条件を示す -ci の接尾した形であるが、名詞の後につづく場合に、一種の提題助詞的機能を果たすことがある。あたかも日本語の「なら」を思わせる。また serengge も一種の提題助詞的機能を果たすことがある。
--

'hadai gurun i wan han oci etu arui nyun hülha be waha sembi. (M.Y. I. 11)	ハダ国(の)萬汗は(なら)エトウ・アルの九人の賊を殺したという。
--	----------------------------------

□ 2 属 格 (Genitive Case)

体言とそれによって限定される語との間の帰属関係を示すものが属格である。属格を表す格助詞は i, ni である。i は名詞の語末に接続して綴られることもあり、独立した单綴として書かれることもある。单綴で書かれる時は、つの形をとる。

ni は名詞が -ng で終わる時 (主として借用語) に用いられ、必ず单綴で分かち書きされ、名詞の語末に連接して綴られることはない。属格の i は、前の語が i で終わる時は省略されることが多いが、例外もある。

- uju i funiyehe 頭の髪 alin i gurgu 山の獸
'amba gurun i cooha kemuni daiming ni 大国の兵は常に大明の邊境に入
jase furdan be dosime dailanambi kai. (崇. り征討している。
2 正. 12)
'dartai andande boo i duka bade isinafi. たちまち家の門の所に着いて。
(N. 9)

□ 3 与位格 (Dative-Locative Case)

体言と述語との関係を限定する格助詞のうち、行為の行なわれる時間・空間的位置関係、行為の帰着点、または行為の行なわれた因由、動作主等を示すものが与位格である。与位格を表す格助詞は de であるが、de は前の綴りに連接して書かれることもあり、独立した单綴として書かれることもある。前の綴りと連書されるのは前の綴りが母音で終わる場合であるが、例外もある。また使役動詞とともに用いられる時、対格の -be は「をして」の意であり、日本語の「に」に相当する。この用法は次の対格の項でも再説する。

■ 1 de —

□ a 与位格を表す格助詞 de は、名詞、代名詞および動名詞(連体形)の後に附属する。

- dade 初めに ninggude 上に ede このために
tede あそこに、今なお aide 何で
'dartai andande gebungge aba abalara alin たちまちにして名高い狩の山に
de isinafi. (N. 5)

'ainhai boode isiname mutere ni. (N. 6)

'wang sun jang de iogi jafu buhe, hoton i niyalma be gaifi dahaha gung de. (T.S. XVIII. 26)

'manggultai beile i ungguhe bithe, han i hüturi de, jase i hoton be hülhame afafi gaiha. (T.S. XVIII. 4)

□ b 与位格を表す格助詞 de は動名詞の sere (言う), sehe (言った), bisire (ある), bihe (あった), ojoro (なる), oho (なった) に結合して仮定、推量を示すことがある。

serede ~するというのに、~するというとき

schede もしも~のとき bisirede もしも~があれば

bihede もしも~があったなら ojorode ~すると ohode ~したら
'sakda ahün i uttu aisilame wehiyeme ulin buki serede, ai gelhun akü alime gairakü. (清啓. 3. 4a)

'talu de aika uttu sechede ainara. (清啓. 3. 4b)

'saikan jaka bihede, eici asarambio, eici sain hüda be baifi uncambio. (清啓. 3. 5a)

'baita uttu de isinjiha be dahame, adarame ohode sain. (清啓. 3. 4a)

□ c 次の語の前には必ず de が用いられる。

gelembi (驚く) olhombi (畏れる) aisilambi (助ける、援助する)
šangnambi (賞賜する) amuran (好み) mangga (難しい)

□ d 与位格を表す格助詞 de は -o と結合して推量疑問を示す語として用いられる。

'fudzi tere gurun de isinahade, urunakü terei dasan be donjirengge, bairedeo eici alaradeo. (清啓. 3. 5b)

■ 2 be —

'fodoho moo be niowenggiyen be gabtabure jakade. (M.Y. II. 54-55)

'sunja tanggū boigon be emu tanggū cooha be tuwakiyabufi. (M.Y. III. 95)

□ 4 対 格 (Accusative Case)

■ 1 体言が述語動詞の直接目的語となることがある。体言と述語動詞との関係が直接目的語と述語動詞との関係にあることを示すものが対格である。対格の助詞には be が用いられる。

be は単独に分離して書かれることが多いが、前の語に連書されることもある。

'terebé gaifi gene. (清啓. 3. 6a)

'aibe temgetu obumbi. (清啓. 3. 6b)

'musei aba faidan be hahilame bargiya. (N. 6)

'emke injeme hendume ere hehe be bi takara adali. (N. 69)

'yadalinggū be jilara, gukure be gosirengge, bai doro, wang ni doro kai. (崇. 2 正. 28)

それをとって行け。

何を証拠とするか。

我らの巻狩の陣立てを急いでおさめよ。

一人が笑って言った。この女性を私は知っているようだ。

弱き者をいつくしみ、亡びる者を憐れむのは、霸道、王道である。

■ 2 be は体言が後続の他動詞や使役形動詞に対して、動作主 (agent) としての関係にあることを示すことがある。

'jase i ambasa be bodogonggo mergese be isabu. (崇. 2 正. 3)

'nenehe han be jili banjibufi hūwaliyasun akū weile be deribuhebi kai. (T.S. XI. 1)

■ 3 be は、後続の sembi (言う、思う) が省略され、述語的に用いられることがある。日本語の文語の文末の「とぞ」の用法に近い。

'siyang serengge ujire be, hiyoo serengge tacibure be, sioi serengge gabtabure be. (清啓. 3. 6a)

庠とは養うことである。校とは教である。序とは射である。

■ 4 次の語の前には必ず be が用いられる。

ai 如何 hendure 言う dahame 従い (de も用いられる)

■ 5 be は ~o と結合して疑問を示す語として用いられる。

'geren niyalmai dorgi falaci acarangge webeo. (清啓. 3. 7a)

衆人の中で処罰すべき者は誰 (を) か。

□ 5 具 格 (Instrumental Case)

体言と述語との関係を限定する格助詞のうち、行動の行なわれる手段、道具、材料などを示す格が具格である。具格を示す格助詞は i, ni であるが、稀に ci, de が用いられることがある。

■ 1 i, ni —

'amba jilgan i acinggiyame, den jilgan i de-kennime. (N. 36)

大声で揺れ動き、高い声で声高に歌い。

'saman beye ici galai imcin be jafafi hashū galai hailan moo gisun be halgifi. (N. 27)

サマン自ら右手に男手鼓を取り、左手に榆木のぼちを捲きつけ。

'yadalinggū etenggi be dahame, ajige i amban be weilerengge, tere an i kooli. (崇. 2 正. 25)

'ere yabure de, coohai urse de gemu alban i ciyanliyang ni ulebuhe alban i morin be yalubume. (異. 上. 9b)

弱きを以て強きに臣となり、小を以て大に仕えること、それは常の理である。

この行には、兵の者どもにみな官の錢糧もて斎いし官の馬を駆らしめて。

拍子を皆に合わせられねば、にわうめの木の湿ったばちで、尻を打つぞ。

頭の助禱巫がまた香を鼻のまわりで焚くと、やっと気がついた。鉄の索でしっかりと縛り、井戸に投げ入れよ。

一服に三十九をしょうが水で飲め。

ひと筆で以前の邪惡等を詳細に書いた。

爾の悪により、國は破れ、民は苦しんだ。

汗の福により、境の城を奪い攻め取った。

小国は昔、大国の恵みにより兄弟となり、天地に告した。

■ 2 ci —

'geyen yayan de acanarakū oci, uli moo i usihin gisun ci ura be tantambi. (N. 35)

'da jari gelii hiyan ci oforo šurdeme fangšafi teni gelahabi. (N. 85)

'sele futa ci akdulame hūwaitafi hocin de makta. (N. 91)

■ 3 de —

'emu fu de gūsin wandzi be furgisu muke de omi. (老. 7. 8a)

'emu fi de julergi miosihūn ehe jergi be tongkime arahabi. (N. 88)

'sini ehe de gurun efujeha, irgen joboho. (崇. 2 正. 7)

'han i hūturi de, jase i hoton be hūlhame afafi gaiha. (T.S. XVIII. 4)

'ajige gurun seiben'i amba gurun i kesi de ahūn deo arame abka na de alaha. (崇. 2 正. 24)

□ 6 奪 格 (Ablative Case)

体言と述語との関係を限定する格助詞のうち、行動の行なわれる時間、空間の起点を示し、また物と物との比較対照を示す格助詞が奪格である。奪格を示す格助詞は ci である。

■ 1 時間・空間の起点を示すもの

'nan han hecen ci tucike duin tanggū fun-ceme cooha be meiren i janggin loosa šongkoro baturu gidaha. (崇. 2 正. 33)

南漢城から出た四百余人の兵を梅勒章京 労薩、碩翁科羅 巴団魯が撃破した。

'ebuhu sabuhū morin ci ebufi hanci genefi baime. (N. 23-24)

'tehe baci aljaha akū de joborakū gese. (N. 86)

'ubaci goro akū. (清啓. 3. 13b)

■ 2 他との比較・対照を表すもの（いわゆる比較奪格）

'ini emeke alibume habšaha bithe ci encu akū ofi. (N. 90)

'i minci se ahūn. (清啓. 3. 14a)

'yadi neneme jihe bihe. (清啓. 3. 14a)

'mini hebe güwa ci encu. (T.S. XI. 7)

あたふたと馬から下り、近づいて行って請い。

座っていた所から離れなかつたので、苦労しなかつたようだ。

ここから遠くはない。

'amargi amba mederi ci ob bira i deri mukei wesihun wesime jimbī. (異. 上. 53a)

北の大河よりオビ河に由って水上に上り来る。

□ 7 沿 格 (Prolative Case)

体言と述語との関係を限定する格助詞のうち、ある行動がある場所を通過、あるいは経由して行なわれる意を示す格助詞が沿格である。沿格を示す格助詞は *deri* である。

'giyamun deri

駅を経由して。

'sidenderi

その間を通って。

'jakaderi

すき間を通って。

'selengge bira juwan biyai tofohon deri juhe jafaha. (異. 上. 28b)

セレンゲ河は、十月の十五日（中旬）を経て氷を結んだ。

'nibcu deri bithe unggīhe. (異. 上. 9a)

ニブチエを経て書を送った。

'meni amban g'a-g'a-rin, elcin ambasa be mukei jugūn deri saikan kunduleme gaju sehe. (異. 上. 36a)

我等が大臣ガガーリンは、使者大臣等を水路に由ってよろしく恭待して率いて来いと言った。

□ 8 終 格 (Terminative Case)

時間的および空間的に事態の至り及ぶ限界を表す。この格を表す助詞は *tala/tele/tolo* で、古くは多くの体言に自由に附きたが、満洲文語では、一定の体言にのみ化石的にこの格が残っている。

yanjitala 夕方まで ertele これまで tetele 今まで dubentele 終りまで
なお動詞の終局連用形（後述、92頁）の項を参照されたい。これは語幹または動名詞（すなわち連体形）にこの助詞が附いた形である。

□ 9 格助詞の疊用 (Double Case)

格助詞は疊用されることがある。

7 動 詞 VERBS

満洲語の動詞は、*hendu-mbi* (言う), *hendu-he* (言った), *hendu-fi* (言って) のように、語の実質的意義を担う部分（例えば *hendu-*）と、動詞に文法的機能を与える部分（例えば *-mbi*, *-he*, *-fi* 等）とから成っている。語の意義を担う部分を語幹 (stem) と呼び、機能を果たす部分を活用語尾 (functional suffix) と呼ぶ。満洲語で活用語尾を持つのは動詞だけである。動詞の活用語尾は次の通りである。

□ 1 -mbi —

-mbi の接尾する形は、動詞の非完了終止形 (non-perfective finite form) を成し、ある行動がまだ完了していないこと、すなわち現在における習慣的行為、および未来における行為を表す。満洲語の動詞には時制 (tense) を表す標識はなく、この接尾辞は動作・作用が「完了ではない」というアスペクト (aspect) を示すにすぎない。用法は日本語の動詞の終止形 -u/-ru 語尾とほぼ同じである。

'amban bi ere jalin de ambula gelembi. (崇. 2 正. 69)

臣はこのために大いに怖れる。

'gabtarangge gabtambi, gelī gidalarangge gidalambi. (N. 5)

射手は矢を射かけ、また槍手は槍をくり出す。

'joros gurun i ba ... cai omire be sarkū, jafu, funiyesun, yehe jodoho boso be etumbi, muji, maise i ufa be efēn arafi jembi, hacingga yali nimaha be jembi. (異. 下. 18b-19a)

ロシア國の所は—茶を飲むことを知らず、羊毛織、粗毛織、麻織りの布を着る。大麦、小麦の粉をパンに作り食べる。各種の肉、魚を食べる。

'gemu angga cibisme maktame saišambi.
(N. 5)

皆くちぐちに感嘆し称賛し、褒めそやす。

□ 2 -habi/-hebi/-hobi, -kabi/-kebi/-kobi

-habi etc., -kabi etc. の形式は、-ha etc. bi, -ka etc. bi と分離して書かれることもある。動詞の完了終止形 (perfective finite form) をなす。

■ 1 この終止形は、過去の行動がすでにに行なわれたことを強調して述べるために用いられる。意味は日本語の文語の「たるなり」にはば該当する。

'sini gurun efujéme wajihabi kai. (T.S. X. 13)
爾の國は亡びてしまったのだぞ。

'udu hacin yali alin i gese muhaliyahabi.
(N. 15)
数種の肉が山のように積まれた。

'jai emu ing ni cooha dobori burulame
genehebi. (T.S. XXII. 21)
また一營の兵が夜逃げて行ってしまったのだ。

'sunja hacin i boconggo tugi borhohobi.
(N. 67)
五色に彩られた雲がたなびいていた。

■ 2 この終止形は、過去の動作の終わった状態が現在も継続していることを述べるために用いられる。

'aihu bira wesihun eyefi, dergi mederi de
dosikabi. (M.Y. I. 1)
アイフ河は東に流れ、東海に入っている。

'te mini beye amba cooha ilifi sini ba na de
sektefi jihebi. (崇. 2 正. 3)
今わたくし自ら大軍を挙げ、爾の疆域に延べ來たった。

'han hendurne, yaya beise ambasa seme,
dahabuha gurun i ai jaka be nungneme
cuwangname yabuci wa seme henduhebi.
(T.S. XVIII. 37)
汗が言われるに、およそどのような貝子・大臣等とも、降つた国民の諸物を侵害し略奪を働けば殺せと言われています。

■ 3 この終止形の否定形は -hakübi etc. である。

'be suwende elcin jihekübi, meni gege de
aika benjime jihebi. (T.S. XIV. 14)
我々は爾等に使者として来ているのではない。我々の公主に何かを送りに来ているのだ。

'dain de hoton afaci, geli bucehekübio, ...
ahün deo fakcahakübio. (T.S. VII. 25)
戦で町を攻めれば、また死なないだろうか。兄弟がはなればなれになりはしないだろうか。

□ 3 -ha/-he/-ho, -ka/-ke/-ko

語尾 -ha etc. と -ka etc. が接尾した活用形は、動詞の完了連体形 (perfective participle) をなし、(1) いわゆる連体止めの形で、その動詞の完了アスペクトを表す終止形となり、ある行動がすでにに行なわれた、という意味を表し、(2) また後続の体言を修飾して、同じく完了アスペクトを表す連体形となる。

■ 1 完了終止形 (perfective finite form) としての用法

'bonio erin de, ing de isinjihä. (崇. 2 正. 1)
申の刻に嘗に帰った。
'tutu mentuhun i gūniha be wesimbuhe.
(崇. 2 正. 72)
かように愚見を陳情しました。

'julgei ming gurun i forgon de, emu lolo
sere gašan bihe. (N. 1)
むかし明國の時代に或る白口という村があった。

'hadai gurun i cooha hecen tucifi okdoko.
(M.Y. III. 84)
哈達の國の兵は城を出て迎えた。

■ 2 連体形 (participle) としての用法

'etuhe etuku be yaluha morin be monggoso
ucarafi durihe. (T.S. XXII. 16)
着た着物と乗った馬とを蒙古人らが出逢って奪った。

'bi unenggi mujilen i gūniha babe wacihiyame gisurehe. (崇. 2 正. 73)
わたくしは衷心より思ったところをことごとく語った。

'okdoko beise de sarilaha. (M.Y. VIII. 347)
迎えた貝勒等に振舞った。

'dahün dahün i ališabuha weile be yargiyani
i guweci ojirakü. (崇. 2 正. 73)
かさねがさね煩わした罪をまさに免れる事はできない。

■ 3 -ha etc. と -ka etc. との関係

前述の完了終止形を作る -habi etc. と -kabi etc. の場合も同じであるが、完了連体形の活用語尾 -ha etc. と -ka etc. のうち、いずれが用いられるかは、動詞により一定している。上原久氏によれば、「満洲実録」中での -ka etc. が用いられる動詞は次の通りである (上原. 268).

-ka:					
algi-	名を揚げる	ašu-	口に含む	bisa-	溢れる
dosi-	入る、進む	gala-	晴れる	goci-	射あてる
isi-	赴く	jalu-	満ちる	jila-	慈しむ
jura-	出発する	tafa-	上がる	tafu-	登る
wasi-	下がる	guwaliya-	変わる		

-ke:					
dule-	過ぎる	elde-	輝く	fuse-	産まれる

gere-	夜が明ける	je-	食う	wesi-	上る
-ko:					
soro-	黄葉する	okdo-	迎える	colgoro-	そびえる
tohorō-	鎮まる				

- 4 bahambi の完了連体形には baha が用いられる。「不規則動詞表」(95-96頁)を参照。
- 5 完了連体形活用語尾 -ha etc. には、更に -kū (~しなかった), -o (~したか), -ni (~したのだね), -ngge (~したのは), -le (~したすべての), -lengge (~したものは) 等の語尾が接尾することがある。
- 6 連体形 -ha etc. には、格助詞 be, de が接尾することができる。満洲語の連体形の動詞は、すべて動名詞 (verbal noun) としての用法も備えているからである。

□ 4 -ra/-re/-ro

-ra etc. の接尾した活用形は、その動詞の前望終止形 (prospective finite) をなし、

1. 主語が三人称の時は、ある行動が発話後の近い未来に行なわれることを予見して推量 (conjectural) を表し、
2. 主語が一人称の時は、近い将来、あることを行なうという話者の意志 (volitive) を表し、
3. 二人称 (呼びかけ) の場合は、相手に行なうことをいざなう勧奨 (hortative) を表す。

本来は連体形であるが、いわゆる連体止めとして、終止形的にも用いられるのである。連体止めの文は、話し手 (又は書き手) の強意を表現する。

■ 1 終止形の用法

'uttu oci bi baime genere. (老. 2. 1b)	それなら私が探しに行こう。
'jabšabuci inu ume urgunjere, ufarabuci inu ume ushara. (N. 32)	僕倆でうまくいっても、喜んではいけない (喜ぶまいぞ). 失敗しても、怨んではいけない (怨むまいぞ).
'jušen nikān be gemu suwende salibufi cihangga bade tebure. (T.S. XXV. 22)	女真、漢人をことごとくあなた方にまかせて、好きな所に住ませよう。
'sini jui be yordoro. (M.Y. III. 113)	爾の子を鏑矢で射よう。

■ 2 連体形としての用法

この連体形は、単に非完了連体形 (non-perfective participle) 的意味を表す場合も多い。

'dergi amargi ergi serengge, muduri mu-kdere, funghüwang deyere ba ofi. (異. 上. 1a)

東北の方なるものは、龍興り、鳳凰飛ぶの所にして。

'amban ojoro niyalma. (M.Y. VIII. 356)
'suwe unenggi doroi jalin gūnire amban oci. (T.S. XVII. 16)
'bi hanciki gurun i sain banjire doro be gūnime ekisaka bihe. (崇. 2 正. 2)

- 3 -ra etc. の接尾した活用形は、主語となり、連体形の動詞は、また動名詞でもあるからである。

'bucere banjire gemu meimeni gajime jihe hesebun ci tucinderakū. (N. 3)
'ubašame jidere tašao mujanggao. (T.S. VI. 32)
'yasai muke be yala bira de eyebume songgoro de. (N. 18)

'gurun de ejen ojoro be temšenum. (M.Y. I. 4)

'si hecen hoton be dasara, mini elcin be an i doroloro be gūwaliyakangge ai turgun. (崇. 2 正. 8)

- 4 -ra etc. の形の語尾に疑問の接尾辞 -o が接尾すると、前望アスペクトの疑問を表す。

すなわち、

1. 他者のある行為が行なわれるだろうかという推量的疑問、または、
2. ある行動を行なおうかしら (行なおうかなあ) という話者自身の意志の躊躇、または、

3. 聞き手がある行為を行なってはくれまいか、という話者の願望を表す。

'waliyame gamarao. (清啓. 3. 23b)	容赦してくれまいか。
'oncodome guwebureo. (清啓. 3. 23b)	勘弁してくれまいか。
'amasi bederereo julesi genereo. (T.S. X. 5)	後へ退こうか。前へ進もうか。
'mini gisun be ama eme de getukē i funde ularao. (N. 7)	私の言葉を父母にはっきりと代わりに伝えてくれまいか。
'bairenge sakda mafa aika bade sara mangga saman bici majige jorime alame bureo. (N. 21-22)	どうか老翁よ。もしも知っている優れたサマンがいれば、ちょっと示教し告げてはくれまいか。
'yaka bade mangga saman bici baime gajifi belin age be aitubureo. (N. 21)	どこかに類い稀なサマンがいれば、頼んで連れて来て、ペリン・アゲを救わせてくれまいか。

大臣となる (であろう) 人。
貴方がたが本当に政治のためを
思う (であろう) 大臣なら。
わたくしは隣国と友好に生きる
道を思い黙していた。

または格助詞 be, de に連なること
もある。

死生はみな各自が持って来た天命
から逃れ出られるものではない。
逃げて来ようとは、嘘か本当か。
涙をヤラ河に流して泣くとき。

國に主となろうと (なることを)
競いあって。

爾が城廓を整備し、我が使者に
常例の儀礼を行なうのを変えた
のは何の故か。

■ 5 -ra etc. の否定形は -rakū である。否定語 akū と融合した形であるから、-ra etc. の否定形は -rakū だけであり、-rekū, -rokū という変異形はない。

'mini deote juse adarame sinde isirakū. (崇. 2 正. 5)

'takūrara ahasi morin lorin jergi tololo seme wajirakū. (N. 1)

'doro udu acarakū bicibe. (T.S. XVII. 11)

'si jembio akūn, bi jeterakū. (清啓. 3. 26b)

■ 6 -rakū には終助詞 ni が連なって感動を表し、接尾辞 -n が接尾して反問を表す。

'ainu jiderakū ni. (G. XI. 7a)

'tere efulehe niyalma be abka wakalarakūn. (T.S. VII. 22-23)

'abka na de akkulame gashūrakūn. (T.S. II. 38)

■ 7 -ra etc. の並列 —— -ra etc. が並列する形式は、同一の行為者が、一方である行動を行ないつつ、他方では別の行動を行なう、という意を表す。ただし例外もある。

'jafara hūwaitara gajici. (T.S. VII. 26)

'wara gaire be nakarakū. (M.Y. VIII. 351)

■ 8 禁止の副詞 ume の被修飾の動詞の活用語尾は、常に -ra etc. の形式と相関関係にある。日本語の文語の「な+連用形(そ)」に似た用法である。

'suwe morin gucu takūrara be ume seolere. (T.S. VI. 2)

'suwe tede ume hengkilere, ume gelere, terei jeku ume jetere, jili banjime jabu. (T.S. XIV. 13)

'arki nure ume omire, balai doro akū ume yabure. (異. 上. 11b)

'ume inenggi goidara jebkešeme yabu. (N. 3)

■ 9 接続詞 anggala (～よりむしろ)、終助詞 dabala (～だけである。但し -ha etc.

dabala のように用いられることがある)、後置詞 jakade (～の故に)、onggolo (～する前)、終助詞 unde (まだ～していない) の前の動詞の活用語尾には必ず -ra etc. が用いられる。

-ra etc. は前望的行動を示す語尾であるが、次に jakade を伴う場合には日本語訳では完了アスペクトの「～た」が相当することになる。

anggala:

'sini beye amba gala golmin sere anggala, suje be inu tuttu dalara kooli akū. (老. 6. 17a)

'nikan be dailara anggala. (T.S. I. 36)

'meni hendure anggala. (T.S. III. 11)

'suweni jeku be jetera anggala, suweni emu moro muke be hono omirakū. (T.S. XIV. 14)

dabala:

'efu de dara dabala. (M.Y. VII. 309, 上原. 414)

'jakūn boo gese jergi bahara dabala, enculeme ume gajara. (M.Y. VIII. 354, 上原. 414)

jakade:

'dain ojoro jakade. (T.S. XVII. 6)

'te elcin ambasa jidere jakade, be alimba-harakū urgunjembi. (異. 下. 72b)

'daha seme niyalma takūrara jakade. (T.S. XXIII. 5)

'geli aniya goidara jakade, ejehengge getuk-en akū. (異. 下. 49a)

'ere elcin isiname jakade. (T.S. XVIII. 21)
——例外的用法

onggolo:

'juhe tuhere onggolo hūdun unggī. (T.S. I. 27)

'suwe wabure onggolo. (T.S. XXI. 12)

'weile mutere onggolo. (T.S. XII. 20)

□ 5 -ki —

-ki の接尾した活用形は、動詞の願望終止形 (desiderative finite) をなし、話者の希

お前の体は大きく、手は長いばかりか、襦袢をまたそのよう(な)に手で計る法はない。

漠を討つどころか、

我々が言うよりはむしろ、爾等の食物を食むどころか、爾等の一杯の水さえ飲みはしない。

額駄に味方するのみ。

八家が同等に得るのみ、別に自分だけ取ってはならない。

戦となったので。

今、使者、大臣等が来たので、我等喜びに堪えず。

降れと人を遣わしたところ、

また年久しいので、記憶も明らかでない。

この使者が到る頃。

氷がとける前に速く送れ。

爾等が殺される前に、

事が成る前に。

望、計画、相手に対する願望を表す。-ki の後には、補助動詞 *sebi* (～と思う、言う) が接続することが多い。

'bi bai emu mudan geneme tuwaki. (N. 32)

'ere bithe be bi hūlaki. (清啓. 3. 12b)

'tere fonde uthai songko waliyabufi yar-giyān bāhafī sarkū, ubabe wesihun gurun seoleki. (T.S. X. 3)

'mini tacīha gabtan niyamniyan be cenderme, emu mudan abalame tuciki sembi. (N. 2)

'te bi bahaci amba agūra be aššabumbi, ujen agūra be unume gamaki sembi. (N. 31)

'geli gisureki seci angga juwame muterakū. (N. 8)

jekī お食べ下さい。食べられたし。食べたい。

yalukī お乗り下さい。乗られたし。

omiki お飲み下さい。飲まれたし。飲みたい。

seki 言いたい。

teki お座り下さい。座られたし。座りたい。住みたい。

□ 6 -kini

■ -kini の接尾した活用形は、動詞の希求終止形 (optative finite) をなし、ある行動が是非実現して欲しいという、相手に対する強い希望、祈念を表す。また相手に対する丁寧な要望や命令を示す場合にも用いられる。

'damu colgoroko enduringge amba han, ただ至聖大汗が万々歳であれか
tumen tumen se okini seme jalbariki. (異.
下. 52a)

'alin i gese yali efen be jekini, mederi gese
arki be omikini. (N. 19)

'abka gosifi musei se jalgan golmin ofi, juse
omosi fuseme tumen aniya minggan jalan
de isitala jirgakini seime gashūha. (T.S. VII.
10)

'gurun i joboro yadahūn sargan akū niyal-

私はただ一度だけ行って見よう。
この本を私は読みたい。

その時、すなわち跡を見失って、
眞実を知り得なかつた。この
事を貴國は慮つてほしい。
私が学んだ射弓騎射をためし
に、一度、狩りに出たいと思う。
今私はできたら大きな器物を動
かそう、重い道具を背負い、持
つて行こうと思う。

また話したそうにしたが、口を開けることができず。

ma de sargan gaikini, hūda bu seme, ku i
ulin be tucibufi, sargan akū niyalma de
salame buhe. (T.S. X. 3)

'han hendume, musei poo sindara niyalma
julesi ibefi poo sindakini. (T.S. XIX. 34)

■ 2 -kini の接尾した活用形は、また話者の放任、許容、無関心を示す。

'gūwa geneci genekini. (T.S. IV. 32)

に妻を娶るように、代価を与えると、庫の財貨を出して、妻のない者に分配して与えた。

汗が言うには、我等の砲を放つ者が前進し、砲を放つように。

他の人が行ったら行かせておけばよい。

私自身で行って足を病み、路に死ねば死んでもよい。

戦いに勇ましい人が進むなら進んでもよい。言葉を知る人に向かって私の思ったところを話すなら、その人もまた自分の思ったところを答えるがよい。

'mini beye genebi bethe nimeme jugūn de
buceci bucekini. (T.S. XIV. 26)

'dain de baturu niyalma dosici dosikini,
gisun sara niyalmai baru mini gūniha babe
gisureci, tere geli ini gūniha babe jabukini.
(M.Y. VIII. 342, 上原. 326)

□ 7 -cina

-cina の接尾した活用形も動詞の希求終止形 (optative finite) をなし、これまで実現していない事柄、および実現し難い事柄に対する話者の希望を示す。また長上者に対する丁寧な依頼を表す時にも用いられる。直訳は「～たらなあ」である。

'gucuse ilicina. (老. 3. 3b)

'age si membe majige gosicina. (老. 3. 19b)

'suwe siden i gurun seci, siden de tefi ton-do i tuwacina. (T.S. I. 9)

'yaya beise ambasa, meni meni gūsai
hūsun tusa buhe gucuse be joboci, beyei
joboho gese yasai muke tuheme gosime
gūnicina. (T.S. XXIII. 34-35)

'bicina いたらなあ。

genecina 行けばよいのに。行ったらどうか。

henducina 言えばよいのに。言ったらどうか。

jecina 食べればよいのに。食べたらどうか。

secina 言えばよいのに。言ったらどうか。

仲間達、起きたらどうだ。

兄、お前は我々を少しは憐れに思ってくれたらよいのに。

貴方がたが中立の国だと言うのなら、間にいて公平に見ていたらどうですか。

諸貝勒等大臣たる者は、各旗の力と利とを投げ出した仲間が苦しめば、自分が苦しんだように涙を流し慈しみ思えばよいのに。

tecina 座ればよいのに、座ったらどうか。

□ 8 -mbihe

-mbihe は -me bihe と分級して書かれることもある。これらの形は、動詞の完了進行 (perfective processive) の連体形をなし、また連体止めとして文を終止する。しかし回想 (retrospective) を表したり、想定 (hypothetical) を表したりもする。

■ 1. この形式は、ある行為が過去に常にに行なわれていた、という過去の習慣、および過去における行動の継続を示す。

'julge han i elcin jihe manggi hengkileme acambihe, kesi buhe de jembihe. (T.S. XIV. 18-19)

昔、汗の使者が来られたら、叩頭し拝謁したものだった。賜物が与えられた時、宴を賜ったものだった。

'tere fon i ambasa umesi jirgambihe. (異. 上. 71a)

その頃の大臣等は、随分と安樂に暮らしていたものだ。

'bi daruhai siderembihe. (老. 3. 14b)

私は常に (この馬を) つないでいたのに。

'ere emu udu aniya hoton afara be seng-guweme günimbihe. (T.S. XVIII. 25)

ここ数年、城攻めをはばかり想うのが常であった。

■ 2 帰結節における推測、仮定

この形式は、先行する -ci (条件連用形語尾) と相関して、過去において実際には行なわれなかつたある行動が、ある条件の下では実現したかもしれないという、話者の推測あるいは仮定を表す。

'bi aikabade han de bithe wesimbuhe bici, mini gisun be mararakü gaimbihe. (T.S. XI. 7)

私がもしも汗に書を奉っていたなら、私の言葉を拒まず受入れておられたものを。

'niyalma oci ishun aššambihe kai. (T.S. IV. 25)

人間ならば、向こうに動いていただろうに。

'suwe etehe bici, be ertele banjimbikeo. (T.S. XIV. 1)

爾等が勝っていたら、我等はこれまで生きていただろうか。

'gemu jaka hacin bisire baita, tere nergin de uthai hūda salibume bošome gaimbihe bici, aifini wacihiyaci ombihe. (雍正檔. 28. 满 1. 561c. 刑部尚書仏格奏)

皆、物件がある事だから、その際、ただちに値段を定め追徴していたなら、とっくに完結することができたはずだ。

■ 3 この形は、過去において行なわれようとしていた行動が、ある事情のために、発話の時点で行なわれていないことを示す。

'erke cūhur be huwekiyebuhe siden de jala yabuha turgunde adahai be wambike. (T.S. X. 6)

エルケ チュフルを唆し、間で仲介した理由で、アグハイを殺すところであった。

'be lama de hafan adabufi takūrambihe. (T.S. IX. 3)

ベ・ラマに役人をつけて遣わすところであった。

'ošo iogi be efulembihe, ini ama i gung de hergen efulehekü. (T.S. XX. 10)

オ・ショ遊撃を罷免するところであった。彼の父の功で役職は罷免しなかった。

■ 4 -mbihe de

-mbihe de は -mbihede と書かれることもある。この場合の連体形 -mbihe は動名詞をなす。この形式は、

1. ある行動が過去に行なわれようとしていた時、
2. ある行動が過去に習慣として行なわれようとしていた時、
3. ある行動が万一行なわれることがあれば、あるいは万一行なわれた場合、という意を表す。

'aika amba baita bifi hebe acambihede, meni han inu hebe acara bade genefi hebde me gisurembi. (異. 上. 78a)

もし大事があって、会議が行なわれることがあれば、我等が汗もまた会議の場所に行って議論したい。

'monggo be bahafi unggimbihede, emu etere amba ejen be sindafü, juhe tuhere onggolo hūdun unggı. (T.S. I. 27)

蒙古人を送ることができれば、一人の賢能な大主を任せ、氷の解ける前に速やかに送れ。

'terei onggolo dain dailara aba abalara de, geren komso be bodorakü, uksun uksun i gašan gašan i yabumbihe, da de manju gurun i niyalma aba abalame, aba sarambihe de, niyalma tome niru jafafı juwan niyalma de emu ejen sindafü, tere juwan niyalma be kadalamen meni meni teisu be jurcerakü yabumbihe. (M.Y. III. 87, 上原 334)

それより以前には戦闘狩獵の時、多少を計らず、一門一門で、村村で行くのが常であった。はじめに満洲國の人が狩りをして、獵の囲みを開こうとするときは、人ごとに矢をとり、十人に一人の長を置き、その十人を治めてそれぞれ所を違わず行くのが常であった。

□ 9 -me

■ 1 連用形 (Converb)

-me の接尾した動詞活用形は、後続の動詞と連なって、非完了連用形 (non-perfec-

tive converb) をなし、ある行動が他の行動と同時に、あるいは平行して、あるいは連続的に行なわれることを示す。

'entehe me boo be tuwakiyame bimbio. (N. 3)

'wang weile be alime beye be wakalame
hecen de tehei juse ambasa be okdome heng-
kileme unggici weile wajih. (崇. 2 正. 76)

'hoton.i ejen wang du tang burulame gene-
fi, ini yamun de fasime buche. (T.S. XVIII.
24)

'jihe monggo i beise, han de niyakurame
hengkileme acame wajih manggi, amba
sarın sarilaha. (T.S. XIV. 36)

■ 2 -me の接尾した活用形は、ある行動が行なわれ、引き続き他の行動が行なわれるという時間的継起 (time sequence) を示す。

'erku hoton i da, ton akū solime uhei acafi
tungken gabtame efihe, galga gilga (gilha)
sain inenggi teisulehe de, uthai hoton i tule
tucifi niyamniyame esime, nimaha butame
ališara be tookabuha. (異. 上. 35a)

■ 3 -me の接尾した活用形は、後続の動詞の目的を示す。この場合、後続の動詞は移動動詞 (motional verb)、すなわち場所的移動を表すものに限られる。

'muse de iselere nikan be wame gaime
yabu. (T.S. XVIII. 8)

'han el juwang ni fujiyang cooha gaifi
dame jihe manggi. (T.S. XVII. 42)

'tung jeo bira i dogon doore bade tuwa-
name karun gidame gene seme unggih. (T.S. XIX. 19)

■ 4 連用形の動詞は、またの名を副動詞 (gerund) とも言い、-me の接尾した活用形も副詞として用いられることがある。副動詞は副詞的な職能を持った動詞の一変形である。副動詞形は文を終止することはできないが、文を中止することと、他の動詞を修飾することができる。

ambarame 大いに

dahime 重ねて

akdame 固く

hülhame ひそかに

butuleme ひそかに

lashalame きっぱりと

ninggureme 上に oihorilame 軽率に šumilame 深く
'te umesi lashalame che oho. (崇. 2 正. 3) 今甚だ、きっぱりと悪をなした。

■ 5 hendume (述べ), jabume (答え), fonjime (訊ね), gūnime (考え) は日本語の語法 (曰く、答ふらく等) に当たり、その後にくる文 (sentence) や談話 (discourse) が、発言、答弁、質問、思考等の直接引用 (direct quotation) であることを示す。

'eme hendume, jui simbe abka facuhūn
gurun be dasame banjikini seme banjibuhabi. (M.Y. I. 3)

'erdene baksi jabume, musei gurun i gisun i
araci sain mujangga, kubulime arara be
meni dolo bahanarakū ofi marambi dere. (M.Y. III. 82)

'ayuki han geli fonjime, manju bithe,
monggo bithe aika encu babio, dacai ai
niyalmai banjibufi ulahangge. (異. 下. 35a)

'taidzu sure beile dolo gūnime ere hülha be
waci, hülhai ejen minde iletuleme dain
ombi. (M.Y. I. 34-35)

■ 6 funceme (余り), isime (至り) はともに数詞の後に連なり、それぞれ「~あまり」、「~近く」の意を示す。この場合の -me も本来は連用形であるが、funceme, isime は意味的には数詞の一部を構成していると考えられる。

'buya baising orin isime bi. (異. 下. 8a)

小さな町が二十近くある。

□ 10 -fi, -pi, -mpi

■ 1 -fi 連用形

- fi の接尾した動詞活用形は、動詞の完了連用形 (perfective converb) となり、
1. その動作がいったん終わり、引き続き次の動作の起こること、すなわち動作の連続性、および
2. ある動作が行なわれたので、その結果次の行動が行なわれた、という因由を示す。

□ 2 連続性 (Sequential)

'boode marifi, buda jeſi, taciküde jiſi saikan
bengsen be tacikini. (虚指. 上. 21a)

家に帰ってご飯を食べ、学校に来てよく技量を学ぶように。

'san tun ing ni dzung bing guwan de, be musei arafi gajihā bithe be pai de latubufi, encu gelu emu bithe arafi takūraha. (T.S. XVIII. 6)

'dartai andande boo i duka bade isinafi, morin ci ebufi boode dosifi, yuwan wai mafa de niyakūrafi damu den jilgan sureme songgombi. (N. 9)

'bi simbe sindafī genembio. (崇. 2 正. 7)

□ 1 因由 (Causal)

'jai dzu i uksun i niyalma yung ping ci gūsin ba i dubede emu gašan de bisire be donjifī gonggijīfī gajihabi. (T.S. XXII. 12)

'nimeku ulhiyen i ujelefī boo de bedereme. (M.Y. VIII. 358)

■ 2 -pi

-pi は -fi の異形であって、完了連体形の語尾に -ka etc. をとる動詞の一部が -fi の代わりに -pi をとることがある。-pi と -fi は機能上の差異はないが、ある種の動詞には、-pi が接続する時、-m- を伴って -mpi となる（例えば wempi, jempi のように）。語例については「不規則動詞表」(95-96 頁)を見られたい。

'ere gemu hūwangdi, ten i erdemu badarafī, tumen' jalan ci duleke, ferguwecuke gung colgoropi, tanggū wang ci dabanaħha turgunde. (異. 下. 94b-95a)

'hūwangdi ten i erdemu deserepi amba, ferguwecuke gung den wesihun de. (異. 下. 105b)

'sini wang, ambasa jempi gisurerengge waka serengge adarame. (崇. 2 正. 7)

'julge te i kooli be hasupi mergen genggiyen seme gūniha kai. (T.S. XVI. 5)

三屯衛の総兵官に我等は我等が書いて持つて来た書を牌につけて、外にまた一書を書いて送つた。

たちまち家の門の所に着いて、馬から下り家に入り、員外大人にひざまずき、ただ高い声で叫び泣くばかり。

朕は爾を放免して行こうか。

また祖の一族の者が永平から30 里の先の一村にいると聞いたので（聞いて）、捕らえに行って連れて來た。

病気が次第に重くなったので、家に帰ろうと。

これみな皇帝が至徳開広にして、萬代に過ぎ、神功超絶して百王に越えしの故に。

皇帝は至徳洪大、神功高貴に。

爾、王、臣等は、心ならずも言うことではないというはどうしてか古今の例を通じて賢明であると思ったぞ。

□ 11 -hai/-hei/-hoi

■ 1 連用形

-hai etc. の接尾した動詞活用形は、動詞の継続連用形 (durative converb) を構成し、過去から続いた動作が継続・進行しているうちに、あるいは継続しながら、あるいは継続しているにもかかわらず、他の行動が行なわれることを意味する。

'dobori inenggi facihiyahai (facihiyashahai) emu cimari andande bucehe amala. (老. 7. 10b)

'su i adali sujume yabume jihei tuwaci, jugün i dalbade emu taktu be sabubumbi. (N. 66-67)

'yabuhai ilaci furdan i monggoldai nakcu i duka bade isinafi. (N. 46-47)

'dengjan dabuhai gerembuhe. (清啓. 3. 35a)
'tehei aliyahabi. (清啓. 3. 35b)

'simbe gosime kundulehe han ama urihē be donjihai, beyei gese juse ambasa be ainu unggihekū. (T.S. XIV. 5)

夜昼、あくせくしていて、一朝たちまち死んだら。

旋風のように駆け行き来しながら見ると、路の傍に一つの楼閣を見つける。

行くうちに第三の閨門のモンゴルダイ・ナクチュの門のところに着いて。

燭を灯しながら夜明けになった。座ったまま待っていた。

あなたを慈しみ散った汗父が亡くなつたと聞いていて、自分と同様の子等、大官等を何故送らなかつたのか。

■ 2 連体形としての用法

-hai etc. の接尾した動詞活用形は、また動詞の連体形を構成し、過去から続いた状態が継続していることを意味する。

'samsui sijiha gidacan kamcihai ilaci jergi morin emke. (崇. 3 年 11 月初 1 日. 498)

'uju jergi foloho jebele de beri nizu sisihai emte. (崇. 3 正)

'fomoci jibsihai sarin i harha i giyaban gülha emte juru. (崇. 3 年 11 月初 1 日. 498)

翠藍布を縫いつけた鞍籠を着けたままの三等馬一匹。

一等彫刻箭袋に弓箭を挿しはさんだまま一個ずつ。

靴下を重ねたままの股子皮の靴鞋幫の皮靴各一足。

□ 12 -ci

■ 1 -ci の接尾した活用形は動詞の条件連用形 (conditional converb) をなし、現在実現されていない行動について、ある仮定された条件の下では、その行動が行なわれるであろう、というときの仮定条件 (provisional conditional) を示す。

'yaya niyalma be, abka wehiyeme wesim-

およそ人を天が佑け昇せれば皇

buci hūwangdi ombi. wakalafi wasimbuci
irgen ombikai. (崇. 2 正. 8)

*sinde uru ba bici karu jabu. (崇. 2 正. 9)

*geneci uthai genembi seme hendu,
generakū oci uthai generakū seme hendu.
(清啓. 3. 13b)

*si samsiha niyalina be bargiyame tondoi
akūmbu, tondoi akūmbuci, gung baha dari
wesimbu. (T.S. XVIII. 3)

■ 2 この連用形は後続の akū (ない) と相関して、ある行動を行なおうにも目的とする事物が存在しないというときの逆接条件 (adversative conditional) を示す。

'te wargi goloi sulaha irgen, dain jobolon
de tušafi, banjire coo untuhun oho, jolici
ulin akū be hendumbi dere. (T.S. VIII. 14)

*ginjeo hecen i duka de isitala bošome
gamara de, hecen i duka yaksifi, nikan i
cooha dosici duka akū ofi. (T.S. V. 34)

■ 3 この連用形は、後続の動詞の語幹に前望否定の -rakū, または完了否定の -hakū etc. の接尾した動詞と相関して、(1) ある行動を行なおうにも行なえない (なかつた), (2) ある行動が行なわれたにもかかわらず、期待した結果が生じない (なかつた) 時の逆接条件を示す。

'ning yuwan i hecen gecefi sacici tuhekekū
seme si amtan bahafi. (T.S. III. 13-14)

'han de acame yabu sei, umai seme
jaburakū. (M.Y. VI. 228, 上原. 305)

■ 4 この連用形は、いくつかの行動の中からどれを選択しても構わないという時の譲歩 (concessive) を示す。

'waci ujici beilei sini ciha. (M.Y. II. 74, 上原.
305)

*amba gurun be ajigen obuci ajige gurun be
amban obuci gemu abkai ciha kai. (M.Y.
IV. 129, 上原. 306)

帝となるを得る: とがめ降せば
庶民となるぞ。

爾に筋の通った理由があれば、
返答せよ。

行く (つもり) なら、すぐに行
くと言え。行かないのなら、す
ぐに行かないと言え。

爾はちりじりになった人々を収
め忠実に尽くせ。忠実に尽くし
たなら、功を得るごとに陞せよう。

いま西路の遺民は戦禍に出会っ
て、暮らしの鈔もなくなった。
貰おうにも財がないと言うだろ
う。

錦州城の門に到るまで追ってつ
れて行く時、城の門が閉じて、
漢の兵が入ろうにも門がなくて、

寧遠城が凍って切り崩そうにも
崩せなかつたと、爾は味をしめ
て。

汗に会いに行けと言つても全く
答えない。

殺そうと養おうと貞勤よ、あなた
の思い通りだ。

大国を小さくしようと小国を大
きくしようと、すべて天意のま
まぞ。

■ 5 この連用形は、後続の反語と相関して、ある行動を行なったとしても、期待した結果は生じえない、との譲歩の意を表す。

'olhon moo de nimaha baici ai arga tucire. 陸の木によって魚を求めたと
(T.S. IX. 7) て、何の策が出て来よう。

■ 6 -ci の接尾する活用形で、次のように慣用的に用いられる語がある。

□ a duibuleci (例えば)

'duibuleci niyalmai ahūn deo boo adame
tefi, meni meni duka hūwa ararakūn. (T.S.
XIII. 5)

□ b eitereci (総じて)

'eitereci dain ai sain, taifin ai ehe. (T.S. XVI.
25)

□ c donjici (聞けば) —— donjici の後には必ず sere, sehe, sembi 等の語がくる。
'donjici, si, te ubaliyambure be tacimbi sere.
(虚指. 下. 8b)

'donjici, gocishūn oci nonggibumbi, jalu
oci ekiyembi sehe. (虚指. 下. 8b)

□ d 以上の外、次のような慣用語がある。

embici あるいは akūci もしそうでなければ
aici どんな eici どんな、もしかすると、あるいは

■ 7 -ci は aca- (合う) と相関して、義務 (obligatory) の意を表す。つまり日本語で
「~なければならない」と二重否定形式で表す内容を「~れば合う」のように肯定形式で表現するのである。

'te bicibe, cooha bederefi doro acara be
gisureci acambi dere. (T.S. III. 28)

'ere be bodoci muse ilan nofi giyan i geneci
acambi. (老. 2. 24a)

'sain be yabuci acambi, ehe be yabuci
acarakū. (虚指. 上. 39a)

■ 8 -ci は後続の ojoro (成ろう) と相関し、未来において、ある行動を行なうことができるであろう、という可能 (potential) を示し、ojorakū (成るまい) と相関して不可能を示す。

'bujantai beilei cooha ... ulai hoton ci orin
bai dubede ilifi, aldangga tuwafi afaci ojoro
cooha waka seme gisurefi bederehe. (M.Y.

例えば人の兄弟が家を並べて住
んでいても、それぞれ門や庭を
作らないだろうか。

総じて戦いがどうして良くて、
太平がどうして悪かろう。

聞けば、あなたは今翻訳を学ん
でいるそうだね。

聞けば、謙遜であれば益を受
け、傲慢は損を招くと言った。

embici あるいは akūci もしそうでなければ
aici どんな eici どんな、もしかすると、あるいは

今でも兵を撤収し和議を語るべ
きであろう。

これを考えれば、我々三人は當
然行くべきである。

善を行なうべきである。惡を行
なうべきではない。

ブジャンタイペイレの兵はウラ
城から 20 里の先に立ち、はる
かに見て (とても) 攻めきれる

III. 102)

'udu ambula hūsutulehe seme ilan duin niyalmai alime gaici ojorongge waka. (T.S. XVII. 14)

'hoton tuwakiyaha nikan i cooha kemuni bi, hoton ajigan goidame bici ojorakū. (T.S. XXII. 23)

■ 9 -ci は後続の ombi (成る) と相関し、可能を表す。

'be kenehunjeme gūmirakū, niyalma be holtoci ombi dere, abka be holtoci ombio. (T.S. II. 38)

'unenggi cihalafi jekui hūda tucibuci, yalu giyang be wasibuci inu ombi, mederi be gagici inu ombi. (T.S. VIII. 31).

'mao dudu hendume, gosingga erdemungge niyalma seci ombikai. (T.S. XI. 13)

'abka gosihakū seci ombio. (T.S. XX. 28)

■ 10 -ci etc- (勝つ), -ci mute- (能くする), -ci baha- (得る) も可能を表す。

□ a -ci etc-, -ci mute-, -ci baha-

'daiming ni cooha, manjui coohai horon be alici eterakū uthai burulaha. (M.Y. V. 188, 上原. 308)

'cooha kadalai mutembi. (M.Y. VII. 142, 上原. 308)

'hūdašaci mutere dursun akū. (T.S. IX. 17)

'sain doro be udu udu jalan de baici baharakū. (M.Y. III. 102)

□ b -ci mute- の相関に対し, -me mute- の相関もある。

'yabuci ojorakū babe yabume mutembi, kirime muterakū babe kirime mutembi. (T.S. II. 20)

□ c -ci baha- の相関に対し, -me baha- の相関も多く用いられる。

■ 11 oci も仮定条件ならびに逆接条件(譲歩)を示す。一種の提題助詞(thematic particle)の機能を果たす場合のあることは、前に述べた。

敵ではないと言って帰った。

いくら大いに奮励したとて、三人や四人で受け入れられるものでもないだろう。

城を守る漢の兵はそのままいる。城が小さい(ので)長くいることはできない。

我々は疑いを抱かない。人を欺くことはできよう。天を欺くことができようか。

本当にその気になって穀物を交易に出す(つもり)ならば、鴨緑江を下らせることもまたできよう。海から持ち運ぶことだってできる。

毛都督が言った、「仁徳の人と言ふことができる」と。

天が祐けなかったといえようか。

□ a -ci baha- (得る) も可能を表す。

大明の兵は満洲の兵の力を受けることができないで、たちまち逃げた。

兵を治めることができる。

商売のできる様子でもない。

善い道は幾代々にわたっても求めることができない。

行くことができない所を行くことができる。耐え難い所を耐えることができる。

'yaya weile bici, mini emgi hebešere oci. (T.S. XI. 14)

'han i hesci jihe oci. (T.S. XXII. 30)

'takūraha niyalma be unggirakū oci. (T.S. XVI. 30)

'boljon (boljohon) bilan akū balai oci ojorakū. (T.S. IX. 20)

■ 12 -ci tetendere

tetendere (その限りで) の前の動詞語尾の活用形は必ず条件連用形-ci の形をとる。

'hui ning de hūdašara weile juwe gurun sain oci tetendere. (T.S. IX. 36)

'ini beyebe wakalame hengkileme geneci tetendere. (T.S. XIV. 23)

□ 13 -cibe

-cibe の接尾した活用形は動詞の譲歩連用形(concessive converb)をなし、ある行動が行なわれ、あるいは行なわれたにもかかわらず、あるいはなされると仮定しても、予想外の事が起こり、あるいは起こった、という時の逆接条件を示す。

'sutume hūwašafi manju nikan bithe udu majige tacicibe, šuwe hafu akū. (異. 上. 2a)

'hahasi jugūn de ucaracibe, yaya bade acacibe, ucaraha dari, ishunde mahala gaifi ili-hai hengkilembi. (異. 下. 18a)

'karacin i niyalma de ūklige bucibe, hūda hūdašacibe, neneheci ebereme bu. (T.S. XVIII. 21)

'be simbe kemuni gosicibe, meni jui ai tur-gunde ajigen oho. (T.S. XIV. 9)

'wan lii han, mini juwe mafa be umai weile akū baibi waha, wacibe kimuleme gūmirakū kemuni han semē gūnime. (T.S. XX. 17-18)

もろもろの事があつてもわたしと共に議するならば。

汗の指図で来たのならば。遣した者を送り返さないならば。

約束は期限なくみだりにすることはできない。

会寧で交易することは、二国が友好であれば、それでよい。

彼自身を非とし、叩頭しに行けばそれでよい。

漸くに長じて物心づき、満漢の書をたとえいさか学んではみたが、深くは通じなかった。

男等は道で会っても、如何なる所で会っても、会うたびごとに互いに帽子を取り、立ったまま低頭す。

カラチンの者に贈り物を与えるにしても、交易をするにしても、前よりは減らして与えよ。

我々はお前を今まで通り慈しんだのに、(お前は) 我々の娘を何故庶妻としたのか。

萬曆帝はわたしの二祖を全く罪なく理由もなしに殺した。殺したにもかかわらず、敵意を抱かず、そのまま汗と思ひ。

□ 14 -tala/-tele/-tolo

■ 1 -tala etc. の接尾した活用形は、動詞の終局連用形 (terminative converb) をなし、ある行動や事柄がある段階に到るまで、あるいは完了するまで、他の行動が行なわれる、という時、それまでの行動の連続および継続を表す。

'uju funiyehe šaratala, angga weihe sorotolo, dara musetele, yasa ilhanara tala, bethe bekterere teile. (N. 58)

頭髪が白くなるまで、口歯が黄色くなるまで、腰が曲がるまで、目がかすむまで、足がよろけるまでに。

'orho turi be gajifi ucume bufi ebitele jekini. (老. 3. 3b)

草豆を持って来て、かきませて、与えて満腹するまで食わせよ。

'tere dobori geretele daha seme taküraci, daharakü ofi. (T.S. III. 22)

その夜が明けるまで、降れといってやったけれども、降らないので。

'jugün i unduri oros de isitala, ceni tacin umesi ehe. (異. 上. 11b)

沿途、ロシアに到るまで、彼等の習俗は頗る悪い。

■ 2 -tala etc. は一般的には動詞語幹の下につく。しかし例えば上掲の ilhana-ra tala (-ra etc. は前望連体形語尾) のように動名詞(連体形)の後につくことがある。この-tala etc. は終格助詞 tala/tele/tolo (72 頁) と同じである。

□ 15 -nggala/-nggele/-nggolo

-nggala etc. の接尾した活用形は、動詞の提前連用形 (prefatory converb) をなし、ある行動が終わる前に、あるいはある行動が終わるやいなや、の意を表す。

'gisun wajingga, uthai genehe. (虚指. 上. 44a)

言葉が終わらないのに、行ってしまった。

'baita tucinjinggele, neneme jailaha. (虚指. 上. 44a)

事が起る前に、先に身をかわした。

'lio ting ni cooha faidame jabdunggala. (M. Y. V. 195)

劉縕の兵が並ぶ暇もないうちに。

'amban bi yala isinjinggala, hūwangdi i gosin kesi amba jiramin de duibuleci ojirakü seme neneme sahabi kai. (崇. 3 年 4 月 26 日. 己未. 182)

臣が真にまだ至らぬ前に皇帝の仁恩大厚には比ぶべくもないと先に知ったぞ。

□ 16 -rahü

-rahü の接尾した活用形は、動詞の危惧連用形 (apprehensive converb) をなし、未

来において実現が予想される事に対する話者の恐れ、懸念を示す。

'uttu benjihe be dahame, majige gairakü oci, han gümirahü. (異. 下. 53a)

かようして送って来たのだから、少し受けとらないと、汗が気を悪くされてしまいか。

'aika suwembe joboburahü seme. (異. 上. 22a)

もしかしたら貴方達を苦労させてしまいかと恐れて。

'gisun weihuken ojorahü seme han i gisun be aliyambi. (T.S. XXIII. 19)

(我等の) 言葉では軽くなりはしまいかと思い、汗の言葉を待つ。父母はただ病気になりはしまいかと心配している。

□ 17 -mbime

-mbime の接尾した活用形は、動詞の同時連用形 (simultaneous converb) をなし、ある行動が進行しつつ、あるいは行なわれながら、他の行動が行なわれることを意味する。

'ahalji se je sefi jabumbime teisu teisu belheneme genehe. (N. 14)

アハルジ等は、はいと言って答えながら、それぞれ備えに行った。お前は貨財を知ると言っておきながら、なぜわからないのか。

'si ulin be sambi sembime, ainu takarakü. (老. 6. 17a)

貴方は口では和睦しようと言いながら、見張りの者が我等の所にやって来て、逃亡者を迎えるであろう。

'suwe angga de acaki seme gisurembime, karun meni bade ibefi ukanj ualime gaijara. (T.S. II. 34)

そうでなければ、ここで交易しながら、あそこでは交易しないという道理があるか。

'tuttu akuci ubade hūdašambime tubade hūdašarakü doro bio. (T.S. IX. 37)

□ 18 -ralame/-relame/-rolame

-ralame etc. の接尾した活用形は、動詞の交互連用形 (alternative converb) をなし、ある行動が行なわれ、次に別の行動が交代して行なわれることを示す。

'hūlaralamé arambi. (虚指. 上. 38a)

読んだり書いたりする。

'yaburelame tuwambi. (虚指. 上. 38a)

行ったり見たりする。

'gisurerelame injembi. (虚指. 上. 38a)

話したり笑ったりする。

'hiyabun dabure mukiyerelame umai dedurakü oho manggi. (M. Y. I. 35, 上原. 338)

糠煙を燃したり消したりしながら、少しも臥なかつたので。

'jing afaralame burulame genere de. (M.Y. 丁度, 戰っては逃げて行く時に.
VIII. 344, 上原. 338)

□ 19 命令形 (Imperative Form)

満洲語の動詞で、語の実質的意味を担う部分を語幹と呼ぶ。動詞の一次語幹 (primary stem) および二次語幹 (secondary stem) は、そのまま (つまり活用語尾を伴わずに) 動詞の命令形となる。これがアルタイ言語の特徴である。しかし不規則動詞は特別な形をとる (後述、95頁以下の「不規則動詞表」を参照)。

■ 1 一次語幹の例

'sini belin age de nadan waliyara jaka, ya-rure morin, ku namun jergi be gemu belhe, ume hairara. (N. 12-13)

'musei aba faidan be hahilame bargiya. (N. 6)

'suwe becendure be naka. (M.Y. I. 4)

'tebcici mangga bade tebcisi bu. (T.S. III. 6)

お前のペリンアゲに七つの祭り
の品物、引導の馬、倉庫等をみ
な備えよ。惜しんではいけない。
我等の巻狩の陣立てを急いで収
めよ。
爾等は争うのを止めよ。
忍び難いことを忍んで与えよ。

■ 2 二次語幹の例

□ a -bu- (役役・受身) の接尾した語幹

afabu 攻めさせよ bederebu 退かせよ dahabu 従わせよ

gelebu 驚かせよ nakabu 止めさせよ obu 成せ

toktobu 定めさせよ ulebu 食物を与える wesimbu 上奏せよ

'gūsin morin de buktulin gecuheri etuku 30頭の馬に皮袋、蟒緞、衣等
jergi be unubu. (N. 13) を背負わせよ。

□ b -na- (出向) の接尾した語幹

acana 行って会え alana 行って告げよ tuwana 行って見よ

□ c -nju- (外來) の接尾した語幹

acanju 来て会え alanju 来て告げよ lakiyanju 来て吊せ

なお二次語幹については、後に「派生接尾辞」の項 (108頁以下) で詳述する。

不規則動詞

ANOMALOUS VERBS

満洲語の動詞の中には、命令形およびその他の活用語尾において不規則な形をとるものがある。これらの動詞を不規則動詞と呼ぶ。次に不規則動詞表を示す。規則形と不規則形の双方がある場合は併記し、規則形の方を括弧内に示す。

□ 1 不規則動詞表

非完了終止形	命令形	完了連体形	前連体形	完了連用形
bahambi	得る, できる 求める, 探す	baisu	baha baiha	baire
baimbi	疲れる		bangka	bandara
bambi	ある	bisu	(bihe)	bisire
bisarambi	あふれる		bongko	bisarapi
bombi	裂ける		(caha)	bondoro
cambi	張る		cangka	
colgorombi	抜き出る		colgoroko	colgoropi
deserembi	あふれる		desereke	deserepi
duksembi	赤くなる		dukseke	duksepi
dulembi	通過する		duleke	dulepi
eldembi	光る		eldeke	eldepi
eyembi	流れる		(faraha)	eyepi
farambi	気絶する		faraka	farapi
febumbi	風に向かって立つ			fempi
fombi	寒さで膚が荒れる		foha	fompi
fosombi	照る		fosoko	fosopi
fumbi	しびれる		fungke	fumpi
gaimbi	取る	gaisu		
gajimbi	もって来る	gaju		
gerembi	明るくなる		(gerche)	(gerere)
gombi	意見を変える		gereke	gerendere
guwembi	罪を免れる		goha	gondoro
gümibi	犬が嫌な声でなく		guwengke	guwendere
			güha	gündere

gūwaliyambi	変心する	gūwaliyaka		gūwaliyapi
hūwaliyambi	和合する			hūwaliyapi
hafumbi	通曉する	hafuka, hafundaka	hafundere hafundara	hafupi
hairambi	愛憎する			
hatambi	嫌う			
jailambi	避ける			
jaksambi	深紅色になる	jaksaka		jaksapi
jalambi	中止する	jalaka	(jalara)	jalapi
jalumbi	満ちる	jaluka	jalandara	jalupi
jembi	食う	jeſu	jeke	jetere
jembi	耐え忍ぶ		jengke	jendere
jimbi	来る	jio, ju	(jihe)	jidere
jombi	追想する		jongko	jondoro
jumbi	歯を食いしばる	jungke	(jure)	jompi
jurambi	出発する			jumpi
juwambi	口を開ける	juwangka, juwaka	jore	jurapi
niorombi	皮肉が青ざめる	niorko		juwampi
ombi	成る	oso	(oho)	nioropi
samibi	知る		sangka	sampi
sembi	と言う		sengke	
sosombi	下痢する		sosoko	sosopi
sumbi	脱ぐ		(suhe)	
šahūrambi	冷える		sungke	šahūrapi
šambi	冷水でゆすぐ		šahūraka (šaha)	šampi
šarambi	白くなる		šangka	
šumbi	文物に通ずる			šarapi
teyembi	休息する			šumpi
tucimbi	外へ出る	tucinu	(tucihe) tucike (ukaha)	teyendere (tucire) tucindere (ukara)
ukambbi	逃げる			
wasimbi	降りる	wasinu	(wasiha) wasika	ukaka ukandara
wembi	溶解する		wengke	(were)
wesimbi	上がる	wesinu	wesike	wendere
yombi	行く		yoha	(yoro)
yumbi	夢中になる		yungke	yondoro yudere yundere
				wempi wesipi yumpi

9
補助動詞
AUXILIARY
VERBS

bimbi (有る), sembi (言う) と ombi (成る) の三語は、満洲語動詞の中では比較的特殊な語である。それらの語幹 (stem) の bi-, se-, o- には、異なった環境のもとで、各種の活用語尾が付け加わり、文法的機能が多様に変化し、意義表示が豊富となる。いわゆる補助動詞化である。

□ 1 補助動詞の形式

例えば、bi-, se-, o- の各語幹には、下に示すような活用語尾が附加されて、それぞれ異なった意義を表示する。

多くの場合、bi-, se-, o- の種々の活用形と、同様な活用形を備えたその他の動詞とはやや異なっている。それらは往々にして補助動詞化し、実質的意味を示さない。すなわち語の本来の実質的意味はすでに不明瞭となり、主として先行する語句への附加的意味しか表さなくなっている。

bi-: bi	se-: seme	o-: oci
bihe	serengge	ohode
bime	sere	ofi
bici	sehede	ocibe
bicibe	seci	onggolo
bisirede	secibe	okini
bihede	sembi etc.	ojoro jakade
bimbi etc.		ombi etc.

□ 2 bi- の活用形

動詞 bimbi の実質的意義 (自立語として用いられる場合の意味) は、「～にある」「～がある」「～である」などである。bimbi の語幹と、後に述べる『無活用動詞』中の bi とは、語源は同じでも用法や意味表示は異なっている。ここに述べる bi- は、

専ら動詞の各種形態の活用語尾の後につき、動詞の各種のアスペクトと相の範疇を表示する。

満洲語の動詞には、三種のアスペクトの範疇がある。すなわち完了、非完了、前望である。また五種の相の範疇がある。すなわち完成相、断定相、進行相、継続相、状態相などである。

動詞のアスペクト (aspect) は、すべて、それぞれ異なった活用語尾を動詞語幹に接続させて表示される。例えば、

完了アスペクト活用語尾： -ha etc., -ka etc.

非完了アスペクト活用語尾： -mbi

前望アスペクト活用語尾： -ra etc.

動詞の相 (phase) は、動詞本体の活用語尾の変化を要するのみならず、補助動詞 bi- の各種活用形を、主動詞に後続させ、両者一体となり、共同して表示される。例えば、

1. 完了完成相： -ha etc. + bihe

2. 完了断定相： -ha etc. + bi

3. 完了進行相： -me + bihe, あるいは -mbihe

4. 非完了進行相： -me + bi, あるいは -me + bi-

5. 非完了継続相： -hai etc. + bi

6. 完了継続相： -hai etc. + bihe

7. 非完了状態相： -fi + bi, あるいは -fi + bi-

8. 完了状態相： -fi + bihe.

9. 否定状態相： -rakū + bi, および -hakū etc. + bi

■ 1. 完了完成 (pluperfect) 相 : -ha etc. + bihe

この形式は、過去に行なわれた行動の結果が現在も残っていることを意味する。

-ha etc. に接尾する活用形には、次のように多様なものがある。

-ha bihe していた, してあった, したことがあった

-ha bihebi していたのだ

-ha bihe bici していたのならば

-ha bihengge していたこと

'ceni nirui hafan i jurgan i icihiyara hafan
esen be, ſi hiya i hoton weilere de tucibuhe
bihe. (雍正檔. 28. 满 1. 1a. 刑部尚書托頼奏)

'beging hecen be afaki-seme, wan kalka
dagilaha bihe. (T.S. XX. 38)

'musei cooha isinaci, solgo (solho) i cooha
dehi funcere cuwan dogon de okdoko bihe.

(崇. 2 正. 73)

'nenehe aniya suweni gurun ci elcin
takürha seme donjiha bihe. (異. 下. 49a)

つ) ていた。

前年、卿等の國より使者を遣し
たと聞いていた。

■ 2. 完了断定 (perfective assertive) 相 : -ha etc. + bi

この形式は、過去にある行動や動作が行なわれたことを強調して述べ、あるいはその結果や状態が現在も継続して残っていることを述べるために用いられる。この形式は -habi として現れる場合と -ha bi として現れる場合とがある。-habi については、先の「動詞」の □ 2-habi の項 (74 頁) を参照。

■ 3. 完了進行 (perfective processive) 相 : -me + bihe, あるいは -mbihe

この形式は～しつつあった、～するのが常であった、～しようとしていた、の意を述べるために用いられる。この形式は -me bihe として現れる場合と -mbihe として現れる場合とがある。-mbihe については先の「動詞」の □ 8 -mbihe を参照 (82 頁)。-me bihebi は、～しつつあったのだ、の意で、-me bihe の意をさらに強調的に述べるときに用いられる。

'gehe (gege) kesi de mini jui dahüme
aituha, akü bici fulehe lakcame bihe. (N. 85)

貴女は恩寵を以て我が子をまた
蘇らせた。さもなくば根は絶え
ていたはずだ。

'esen i fasime bucehe turgun be, esen i
beye hanci dahalame bihe booi niyalma,
diyan i ejen de getukeleme baicame fonjifi.
(雍正檔. 28. 满 1. 1c. 刑部尚書托頼奏)

額森の絶死した理由を額森の身
辺近く隨従していた家人、店主
に明白に調べ尋ねて。

■ 4. 非完了進行 (non-perfective processive) 相 : -me + bi, あるいは -me + bi-

この形式は、ある行動が現在も引き続き行なわれている状態にあることを意味する。この形式は、-me bi として現れる場合と -mbi- として現れる場合とでは意味が異なる。-mbi- については先に述べた「動詞」の、□ 1. -mbi を参照 (73 頁)。-me に接尾する bi- の活用形は次のように多様なものがある。

-me bi しつつある, している -me bici していれば

-me bicina していればよいのに -me bifī しつつあって, していて

-me biki してみたい -me bikini していなさい, しつづけて
ほしい

-me bimbi している -me bime しつつあって, していて

-me bisirakū していない -me bisire しつつある, している

-me bisu しつつあれ -me bitele しているうちに(までに)

'aha be angg'ara birai juhe tuhere be 奴才, 我等はアンガラ河の氷の
aliyame bifī, sunja biyai ice duin de, erku 解けるのを待っていて, 五月の

hoton ci jurasi. (異. 下. 85b-86a)

初四日，イルクーツク城より出
発して。

'urunakū seolembi dere seme bi. (T.S. X.
26)

必ず考慮するだろうと思ってい
る。

■ 5 非完了継続 (non-perfective durative) 相 : -hai etc. + bi

この形式は、過去に行なわれつづけてきたある行動を、現在も行ないつづけていることを意味する。

■ 6 完了継続 (perfective durative) 相 : -hai etc. + bihe

この形式は、「引き続きずっと～していた」の意で、過去に行なわれつづけてきたある行動が、過去のある時点でもなお行ないつづけられていたことを意味する。-hai etc. + bihe は「万一引き続き～していたような場合に」の意を示す。

'pu i niyalma be gaifi acinggiyahakū tehei
bihe. (T.S. XV. 16)

堡の者どもを率い、動搖させな
いで、住んでいたままにしてい
た。

■ 7 非完了状態 (non-perfective statal) 相 : -fi + bi, -fi + bi-

この形式は、過去に行なわれたある行動が、現在もそのままの状態で継続してなされており、あるいは過去のある状態が現在もそのままの状態であることを意味する。-fi に接尾する bi- の活用形は、■ 1 と同様に多様なものがある。

'si mederi tun de ukafi bicibe elcin takūra-
me gisureme simbe dahabuhangge. (崇. 2
正. 4)

爾は海島に遁れていたが、使者
を遣って譲し、爾を従わせたと
ころ。

'si fulahūn gūlmahūn aniyai girucun be
obome ainu tucifi afarakū, hehei adali ukafi
bi. (崇. 2 正. 7)

爾は丁卯年の恥をそそぐために
何故出て戦わず、婦女のように
逃げているのか。

'mao dudu bithei hafasai gisun de mujilen
akafi bi. (T.S. XI. 44)

毛都督は文官の言葉に心を傷め
ている。

■ 8 完了状態 (perfective statal) 相 : -fi + bihe

この形式は、過去に行なわれた行動が、過去のある時点でもそのままの状態でいたことを意味する。-fi bihe は、その状態を強調的に述べた形である。

'ere alin i hecen de dosifi bihe seme si
minggan se bahambio. (崇. 2 正. 6)

この山城に入っていたとて、爾
は千歳を得ようか。

■ 9 否定状態 (negative statal) 相 : -akū + bi, -akū + bi-

この形式には -rakū + bi- と -hakū + bi- の二形式がある。

□ a -rakū + bi, -rakū + bi-

この形式は、ある行動が行なわれないままの状態が、現在も継続している、とい

う意を表す。

'julgei aba de beise i gabtaha gurgu be
dahara niyalma be feye ume gidara ume
durire seme gashubufi, temsere ejen be
angga acabufi giyangnaburakū bihe. (T.S.
XIV. 37)

'doro udu acarakū bicibe, mini elcin be
kundulefi unggih. (T.S. XVII. 11)

□ b -hakū etc. + bi-

この形式は、ある行動がなされなかった状態が現在に到るまでつづいている、という意を表す。

'jalan halame gurun boo i derengge wesihun
be alifi, funglu jetere, fungnehen be
alire niyalma lakcahakū bihe. (異. 上. 2a)

'dai yuwan gurun de dahafi aniya dari
alban beneme banjihakū bihe. (崇. 2 正. 5)

'dain de hoton afaci, gelu bucehekūbio ...
suweni dain jifi waha niyalmai ama jui,
ahūn deo fakcahakūbio. (T.S. VII. 25)

'dade dain i fonde karmame bahakū bime,
ini cisui jihengge be gelu huthufi beneci.
(T.S. VII. 16)

□ 3 se- の活用形

seme の実質的意味 (自立語として用いられる場合の意味) は、「言う」「と思う」などである。

■ 1 seme

seme は文章の中で種々の異なった意味を表す。

□ a 「とて」の意を表す場合

'enduringge niyalma seme hono endebuku
be dasaki sere bade, jergi niyalma be ai

昔、狩猟で諸貝勒が射た獣を従者に、傷を隠すな、奪うなと警わせて、争う主人をして口を合わせて言い争いをさせなかった。

和議をたとえ結んでいなくて
も、わたしの使者をもてなして
送った。

世代を重ねて、國家の名望貴頭
を受け、俸禄を食み、封典を受け
ようとする者が絶えなかった。
大元國に臣服し、年ごとに貢献
を送って生きて来たのではない
のか。

戦で城を攻めれば、また死なな
かっただろうか。——あなた方
が戦いに来て殺した人の父子、
兄弟は別れ別れにならなかっ
だろか。

はじめ戦の時に保護しないで
いて、彼が自発的に来たものを
また縛って送れば。

聖人とて、尚且誤りを改めよう
とするのに、普通の人は言うま

hendure. (清啓. 2. 15a)

'hūda toktobuha amāla we ya *seme* aliyafi amasi bederebuci ojorakū. (老. 6. 2a)

'bi hukšeme gūniha *seme* wajirakū. (異. 下. 27b)

'jai fulu nemšehe *seme* inu tusa akū. (老. 5. 20b)

□ b 引用の「と」の意を表す場合

'tere anda honin i hūdai bade genefi uthai jimbī *seme* gisurefi geneche. (老. 5. 4b)

'cagan han be acaha manggi, suweni gurun ai be wesihun obuhabi *seme* fonjici. (異. 上. 7b)

□ c *seme* は、文節の始めの *udu* (如何に) あるいは *uthai* (よしそれ) と呼応し、共同して一種の譲歩の意味を表示する。

'udu jalbarime baiha *seme* inu ai baita. (異. 上. 8a)

'uthai meni jidere de *seme* yalure batalarangge gemu meni han i kesi isibume alban i buhengge. (異. 上. 9b)

■ 2. *serengge*

serengge は「といふものは」の意を表す。

'ere *serengge* emgeri duleke baita. (異. 下. 48a)

'be *serengge* goro jugūn yabure niyalma. (異. 下. 52b-53a)

'fe manju ice manju *serengge* adarame. (異. 下. 34b)

'enenggi ere nure *serengge* mini udafu omiburengge. (老. 4. 18b)

■ 3 *sere*

□ a 「といふ」の意味を表す。

'ület, barbat *sere* niyalma yabari sembi. (異.

でもない。

値段をつけた後なら、どんな人だとて、悔やんでも返品はできない。

私は感謝して思ったとて尽きない。

また余分にむさぼったとしても、益はない。

その友人は羊の市場に行ってすぐ来ると言つて行った。

チャガツ汗に会つた後、貴下の国では何を貢ぶのか、と問えば。

いくら祈願したとて、また何の事があろう。

すなわち我等の来るに当たつても、騎乗使用のものは、ことごとく我等の汗が恩澤を及ぼして、官の与えた物である。

かように言つるのは、ひとたび過ぎ去つた事。

我等といふものは、遠路を往く者。

旧満洲、新満洲なるものはどうなつか。

今日この酒といふのは、私が買って飲ませるものだ。

エルートとバルバなる者とは、

下. 77a)

'julgei ming gurun i forgon de, emu lolo *sere* gašan bihe. (N. 1)

'turiyesk'o gurun i gungk'ar han i harangga ocek'ofu *sere* ajige hoton de tehebi. (異. 下. 24a)

□ b *anggala* (どころか)とともに「のみならず」の意味を表示する。

'sain gisun i tafulara be oron donjirakū *sere anggala*, elemangga ceni sebjelere be yebelerakū *seme* ushambi kai. (老. 7. 19a)

'sini beye amba gala golmin *sere anggala*, suje be inu tuttu dalara kooli akū. (老. 6. 17a)

'suweni juwe ilan niyalma teile *sere anggala*, uthai juwan funceme anda sehe *seme*, gemu jeterengge bufi uleumbibihe. (老. 4. 4b)

■ 4 *sembi* が擬音語の後にくるとき、語幹 *se-* は種々の活用語尾を伴う。

'siden niyalma hendume terei buhengge uthai *tab sere* hūda inu. (老. 8. 7b-8a)

'si uthai isinjihangge *lak seme* sain. (老. 8. 15a)

■ 5 *sembi* の前にくる動詞の活用形には、種々のものがある。

□ a -ki *sembi*

'anda si ere morin be uncaki *sembio*. (老. 5. 2a)

'teike tucifi suwembe okdome geneki *sembihe*. (老. 5. 1a)

□ b -rahū *sembi* あるいは -rahū ayoo *sembi* 'geli simbe jiderahū *sembi*. (清啓. 2. 5b)

'bi damu age si jiderahū ayoo *sere* dabala. (清啓. 2. 2a)

ヤバリという。

むかし明國の時代に一つのロロという村があった。

トルコ国のグンカル汗の属なるオチュコフなる小城に留まつた。

良い言葉で諱めるのを全く聞かないのみならず、かえって彼らの楽しむのを不愉快だと怨むのだ。

おまえの身体は大きく、手は長いばかりか、繻子をまたそのよう手で計る法はない。

おまえ達の二、三人だけのみならず、たゞ十人あまりの朋友だとて皆食物を与えてあてがつただろうに。

証人が言うには、彼の与えたのは、すなわち公正な値段だ。

お前がすぐに来たのは、丁度良い。

朋友、お前はこの馬を売ろうと言つた。

丁度出て、お前達を迎えに行こうと言つた。

また貴方が来ないのではないかと恐れている。

私はただ貴方が来ないのであるまいかと心配しているだけだ。

□ c 体言または動詞の終止形に接続する場合

'bai gisun de booi jasigan turmen yan i aisin salimbi sehebi. (老. 5. 8a)
'si ai sembi. (老. 8. 2b)

俚諺に家書は萬金に値すと言っている。
お前は何と言うか。

□ 4 o- の活用形

ombi の実質的意味は「成る」、「可能である」、「構わない」などである。しかし ombi の語幹 o- は、その後に諸種の語尾を接尾させたときは、文中で語幹の実質的意味を失う。そしてあるいは句を提示する役目を果たし (oci)，あるいは二つの節をつなぐ働きをし (ofi, ocibe, ohode, okini)，あるいは一つの固定的な新しい形態素に変わったりする (o + nggolo > -onggolo)。

■ 1 oci

□ a 順接の提示 (thematic) あるいは仮定 (conditional) を表す。

'siyan lo i orhoda oci inu sain. (老. 5. 6b) 新羅の人参ならまた良い。
'menggun oci emu yan juwe jiha bodome gaimbi. (老. 1. 19b)

'šejileme mutehengge oci sefu guwebure bithe emke be bumbi. (老. 1. 4a-4b)
'tatahangge we oci uthai šejilembi. (老. 1. 5a)

□ b もし oci の提示する対象が一語ではなくて一個の節であれば、その文頭にはしばしば条件を設定する副詞 unenggi (誠に), aika (もしも), aikabade (かりに) などが現れる。

'unenggi boode gemu sain oci, suwayan aisin be ai wesihun sere babi. (老. 5. 7b)

'aika majige tookabure goidara oci. (雍正檔. 28. 满1. 108a. 允禎奏)

'aikabade da sekiyen be getukeleburakü oci, amaga inenggi urunakü debkebure de isinambi. (清啓. 2. 20b)

□ c oci はしばしば uttu (このように), tuttu (かのように) などの指示詞と連用され「それならば」の意味を表す慣用句を形成し文中で条件接続詞の役目を果たす。

'andasa jefi duleme gene, uttu oci inu ombi. (老. 3. 6b)

'uttu oci juwe ilan inenggi bilaki. (老. 8. 4a)

誠に家みな元気なら、黄金を何の貴いと言うところがあろうか。
もしすこしでも遅れることがあれば。

もし根源をあきらかにしなければ、後日からならず後悔するに至るぞ。

朋友達、食べて過ぎ行け。それならばそうする。

それなら二、三日期限を定めよ

■ 2 ohode

□ a 順接の条件 (conditional) を表す。

'neneme emu jergi narhūšame gūninjaifi jai yabume ohode, urui jabšaki bisire dabala. (清啓. 2. 22a)

'te absi ohode sain jiye. (清啓. 2. 21a)

'amala baitalaci ojorakü ohode, gemu ere hüda toktosib e baimbi. (老. 5. 22a)

□ b ohode はまた疑問副詞 adarame (如何に) と連用され、「どうしたら」の意味を持つ慣用句を形成し、文中で連用修飾語の役目を果たす。

'adarame ohode teni muke tatabumbi. (老. 2. 26a) どうしたらやっと水がひかれるか。

□ c ohode はまたしばしば uttu, tuttu と連用され、「かようにすれば」の意味を持つ慣用句を形成し、文中で条件接続詞の役目を果たす。

'ere emu hacin i aisilaha niyalma akü oci uthai sirame idu i niyalma be baitalaki, uttu ohode neigen bime, temšere habšara de isinarakü ombi. (雍正檔. 28. 满1. 182c. 隆科多奏)

■ 3 ocibe

□ a 逆接の条件 (adversative conditional) を表す。

'bi temgetu sindara yaya erin ocibe gemu mimbe baisu. (老. 5. 22a)

'ming gurun i fonde, han i jui ocibe, cin wang ocibe alifi icihiyabuhabi. (雍正檔. 28. 满1. 39a. 冲安奏)

'jai genere de ocibe, amasi jidere de ocibe. (異. 上. 6b)

'sain ocibe ehe ocibe membe emu dobori teile dedubu. (老. 3. 19b)

□ b ocibe はまた yaya (およそ如何なる), ai (何) などの疑問詞と連用され、「どうあっても」「なんとあろうと」の意義をもつ慣用句を形成し、文の中で挿入句の役

う。

まず先に一度締密に思いめぐらして、その上で行なったなら、必ずうまくいくと思っていただけだ。

今どうしたらよいことやら。後で用いることができなくなつたときは、皆この仲買人をたずねる。

□ c ohode はまたしばしば uttu, tuttu と連用され、「かようにすれば」の意味を持つ慣用句を形成し、文中で条件接続詞の役目を果たす。

この一項の捐納者がなければ、ただちに次の当番の人を補用したい。かようにすれば、公平であって、争いや告訴に至らない。

私は印を置こう。どんな時でも皆私をたずねよ。

明國時代には皇子であれ親王であれ、充当して処理せしめた。

更に行く時でも、帰って来る時でも。

良くても悪くとも、我々を一晩だけ泊めてくれ。

目を果たす。

'yaya ocibe damu gulu unenggi sain. (老. 6. 23a-23b)

'ai ocibe si amtalame tuwafi nure sain akū oci bi emu jiha i hūda be inu gairakū. (老. 4. 16a)

■ 4 ofi

□ a 因由 (causal) を示す。

'onggolo jabdurakū ofi bahafī hala gebu be fonjihakū bihe. (老. 1. 22a)

'juleri diyan akū ofi cohōme baime jifi. (老. 3. 6b)

'gise hehe i boo jiha efire falan be derengge obume ofi ede niyaman hūncihin sengge sakdasa dalbaki ci tuwame tebcirakū. (老. 7. 19a)

'si hūdašame urehe urse ofi meni gese urehe akū niyalma be ambula eiterembi. (老. 8. 14a)

□ b ofi はまた uttu (このように), tuttu (かのように)などの指示詞と連用され、「それで」の意味を表す慣用句を形成し、文中で因由接続詞の役目を果たす。

'uttu ofi, wacihiyame bahafī sarkū. (異. 上. 11a)

'tuttu ofi ecimari saksaha guweme gelī yaci-hiyambihengge. (老. 5. 7b)

■ 5 okini

□ a 謙歩 (concessive) を示す

'je okini. (老. 6. 17a)

'uthai emu niyalma inu werirakū okini. (老. 2. 23b)

'umesi šumin ningge okimi juwe da de isinarakū. (老. 3. 1b)

□ b okini はまた從節中にあって副詞 uthai などと相関して謙歩の意味を示す。

'uthai sini nahān de šolo akū membe deduburakū okini. (老. 3. 16b)

どうあっても、ただ純朴な誠が良い。

何とあろうとも、お前が味を見て、酒が良くないなら、私は一銭の勘定をも取らない。

以前に暇がなかったので姓名を問い合わせにいた。

前方に店がないので、専ら探しで来て。

妓女の家や賭博場を光栄あるものとするので、これにより親戚、年長者、老人など傍の者が見て辛抱できず。

お前は取引に慣れた者なので、我々のように慣れていない者を大いに欺く。

それ故、ことごとくは知りえない。

それで今朝、かささぎが鳴き、又くしゃみが出たこと。

よし、それでもよい。

そのまま一人も残さないでもよい。

きわめて深いものでも二尋に至らない。

すなわちお前の温突にすきまなく我々を寝かせなくともよい。

'bi uthai sele wehei niyalma okini, inu gūnīn gaisilabufi buyen ušabumbi. (西宿記)

'uthai mentuhun albatu okini, inu bithe hūlabuci acambi. (虚指. 下. 7b)

■ 6 onggolo

副動詞 (連用形) 接尾辞 -nggala, -nggele, -nggolo が動詞語幹の後に接尾すると、その動詞の表示する動作が、実現される以前の状態にあることを示す。例えば。

wajimbi (終わる)

= wajingga (終わる前に)

tucinjimbi (出て来る)

= tucinjinggele (出て来る前に)

onggolo (以前に) も、上述の動詞と同様に、もと動詞 ombi (成る) の語幹に -nggolo が接尾したものである。さらにそれが一箇の後置詞に変わる。この onggolo は先行する動詞の前望連体形語尾 -ra etc. の後につき、その動詞の動作発生以前の状態を示す。例えば、

forgošoro onggolo (翻す前に)

=forgošonggolo (翻す前に)

wasinjire onggolo (降りて来る前に)

=wasinjinggala (降りて来る前に)

onggolo の例文は、「動詞」の □ 4 ■ 9 にも記しておいた (78-79 頁)。

onggolo はまた名詞の属格の後に接し、あるいは単独で副詞の役割りを果たすこともある。

'hese wasinjire onggolo i hafan be dahame. (雍正 檻. 28. 満 1. 101a. 隆科多奏)

旨を下される以前の官であるので。

'meni ere udu aniyai onggolo donjihanigge. (異. 上. 8b)

我等がこの数年前に聞いたことは。

'bi onggolo asuru kimcihakū. (老. 6. 4b)

私は以前、あまりよく調べなかつた。

'suwe wabure onggolo buce seme gisurehe seme. (T.S. XXI. 12)

爾等は殺される前に死ねと語つたと。

■ 7 ojoro jakade

ojoro は、後続の jakade (故に) と相関して、行動の因由を示す。先の「動詞」の □ 4 -ra etc. の ■ 9 (78-79 頁) にも、例文を掲げておいた。

'te uncara niyalma akū ojoro jakade, sunja jiha menggun de emu ginggin udaci hono baharakū. (老. 5. 6b)

今売る人がいないので、五銭で一斤買うことさえできない。

'ilihakū ojoro jakade. (T.S. XIV. 17)

立ち上がるなくなったので、小さい城や少数の兵を攻めても

取れなくなったので。

■ 8 ombi

ombi が文末の本動詞として用いられる場合の用法は次のとおりである。□ *a ombi* は、体言あるいは体言に準ずる語に後接して、「成る」または「也」に当る述語として用いられる。

'bi tere mukün ombi. (老. 5. 4b)

私は彼の仲間なのだ。

'ere aniya dehi se oho. (老. 8. 20a)

今年四十歳になった。

'ere nahan be tuwašara niyalma akü ombi.
(老. 2. 23a)この温突を見張る人がいなくな
る。'hiya diyan ubaci kemuni juwan babi,
geneci isiname muterakü oho. (老. 3. 15a)夏店はここからまだ十里ある。
行っても到着できなくなった。□ *b ombi* は動詞活用語尾 -ci と相関して、「～できる」という可能な状態を示す。
なお □ 12 ■ 9 (90 頁) も参照されたい。'han unenggi mujilen oci, bi tašan oci
ombio. (T.S. XVII. 13)汗が心から誠ならば、私は偽れ
ようか。

'niyalma be holtoci ombi dere. (T.S. II. 38)

人を偽ることはできよう。

10

派生接尾辞

DERIVATIONAL
SUFFIXES

名詞、形容詞および他の品詞に接尾し、それらの語を動詞に転化し、あるいは動詞語幹に接尾して、その動詞の二次語幹 (secondary stem) を派生する接尾辞を、派生接尾辞と呼ぶ。

□ 1 動詞の二次語幹を派生する接尾辞

動詞の語幹に附加的意味を添え、二次語幹を派生する接尾辞を挙げる。

■ 1 -bu-/mbu-

派生接尾辞 -bu- および -mbu- は、使役 (causative) の意も表し、受身 (passive) の

意も表す。殆どの語幹には -bu- が接尾するが、前望連体形語尾に -ndara etc. を取る不規則動詞などの語幹には -mbu- が接尾する。

□ *a* 使役の意を表す場合の例。この場合は動詞の前に対格助詞 *be* がくることが多い。

arabumbi	作らせる	benebumbi	送らせる
bubumbi	与えさせる	etubumbi	着させる
jailabumbi	避けさせる	tuwakiyabumbi	見張らせる
wesimbumbi	上らせる	yabubumbi	行かせる

□ *b* 受身の意を表す場合の例。この場合は動詞の前に動作主が置かれ、与位格の *de* を取ることが多い。ちなみに格助詞の項で述べた通り、満洲語の与位格は為格 (agentive case) の機能も兼ね備えている。

'sargan de eimebumbi. (M.Y. VIII 334.)	妻に嫌われる。
'juwe juse gemu muse de jafabuhabi. (M.Y. VI. 235)	二人の子等はみな我々に捕らえられた。

■ 2 -ca-/ce/-co-

これには、協同 (cooperative) 「相共に」「共々に」の意を表す場合と、反復 (iterative) 「頻繁に」「しきりに」の意を表す場合がある。

durgecambi	身体がしきりに震える	jecembali	相共に食べる
songgocombi	相共に泣く	tukiycembambi	共々にさし上げる
ilicambi	共に立つ	injecambi	共に笑う
'geren donjifi gemu ambarame injecche bi. (N. 87)	人々は聞き、みな大層笑い合っていた。		人々は聞き、みな大層笑い合っていた。
'aikabade ceni sain sehe inenggi be teisulehe de, hahasi geren acafı omicambi. (異. 下. 20a)	もしも彼等の吉といえる日に逢ったときは男共一同会して酒を飲み交す。		もしも彼等の吉といえる日に逢ったときは男共一同会して酒を飲み交す。

■ 3 -ndu-

これは協同 (cooperative) の接尾辞で、「大勢で相共に」「共々に(行なう)」という意を表す。

aisilandumbi	相共に助ける	arandumbi	共々に作る
dailandumbi	共に攻める	injendumbi	共に笑う
temšendumbi	共に争う	ukandumbi	一齊に逃げる
'oros gurun ini cargi gurun i baru ishunde cherefi, afandumbi sembi. (異. 上. 8b)	ロシア国は彼方の国と互いに反目し相戦うという。		ロシア国は彼方の国と互いに反目し相戦うという。
'geren aiman i data, niyalma teisu teisu temšendume enduringge wen de forome. (異. 上. 1b)	諸部の頭目等、人々等は各々相競って聖化に向かい。		諸部の頭目等、人々等は各々相競って聖化に向かい。

■ 4 -nji-

これは外來 (adventive), つまり「(ある事を行なうために) 来る」とか、「(ある事を行ないつつ) 来る」という意味を表す。派生接尾辞というより複合語 (compound word) の要素の性格が強い。因みに *jimbi* (来る) は自立語である。

alanjimbi	告げに来る	banjinjimbi	暮らしに来る
fonjinjimbi	問うて来る	isinjimbi	近づいて来る
tacinjimbi	学びに来る	wasinjimbi	下りて来る
'balai ere bade dosinjimbi. (N. 71)			みだりにこの地に入つて来る。
*cargi dalin de isinjifi. (N. 78)			彼岸に着いて。

■ 5 -na-/ne/-no-

これは出向 (elative) の接尾辞で、「(あることを行なうために) 行く」という意味や「(あることを行ないつつ) 行く」という意味を表す。

acanambi	会いに行く	afanambi	戦いに行く
amcanambi	追って行く	isinambi	近づいて行く
simnenembi	行って試験する	tuwanambi	見に行く
tuhenembi	落ちて行く		
'ahalji bahalji se geren be gaime saman be okdonome yabume. (N. 33)	アハルジ バハルジ等は衆を率い、サマンを迎えに行き。		
'juwan ehe morin de morin tome ninggute yan oci, ninju yan tuhenembi. (老. 5. 18a)	十頭の悪い馬に馬ごとに各六両なら六十両に落ち着く。		

■ 6 -nu-

これは相互 (reciprocal) の接尾辞で、相手に対し、「(あることを) 相互にし合う」という意味を表す。

afanumbi	戦い合う	becunumbi	殴り合う
tantanumbi	互いに打ち合う	temšenumbi	互いに争う
'ishunde becunume tantame nyalma be wara oci, karu wambi. (異. 下. 10b)	互いに殴り合い、打って人を殺したなら報い殺す。		

■ 7 以上のほかに、以下に記すものなどがある。

-da-/de-/do-	指少 (diminutive)	「少し」「少しずつ」
-hiya-/hiye-	使役 (causative)	「させる」
-la-/le/-lo-	強意 (intensive)	「甚だしく」「しきりに」
-ta-/te/-to-	強意 (intensive)	「強く」「くり返し」

□ 2 動詞化接尾辞 (verbalizer)

名詞、形容詞およびその他の品詞に接尾し、それらの諸語をして動詞に転化せし

め、その動詞の一次語幹を形成する派生接尾辞がある。これらの接尾辞は動詞化接尾辞 (verbalizer) ともいい、動詞以外の語を動詞に転化せしめる機能を持つものであつて、特にそれらの語に意義を添えるものではない。

■ 1 -da-/de-/do-

arga	謀	-	argadambi	謀る
hebe	相談	-	hebedembi	相談する
heolen	怠慢な	-	heoledembi	怠る
jili	怒り	-	jilidambi	怒る
oshon	暴虐	-	oshodombi	虐げる

■ 2 -ja-/je-/jo-

fondo	貫通した	-	fondojombi	孔があく
urgun	喜び	-	urgunjembi	喜ぶ

■ 3 -la-/le/-lo-

動詞化接尾辞のうち、最も造語力の強いものがこの接尾辞であり、多くの名詞が動詞化されている。

aba	狩	-	abalambi	狩をする
doron	礼	-	dorolombi	礼を尽くす
fafun	法度	-	fafulambi	禁止する
gohon	鉤	-	goholombi	鉤に吊す
hengkin	叩頭	-	hengkilembi	叩頭する
hontohon	半分	-	hontoholombi	半分する
sebjen	楽しみ	-	sebjelembi	楽しむ

■ 4 -na-/ne/-no-

gung	功	-	gungnembi	恭敬をいたす
šang	賞	-	šangnambi	賞する

■ 5 -ra-/re/-ro-

amba	大きい	-	ambarambi	大きくする
gisun	言葉	-	gisurembi	話す
hetu	横	-	heturembi	道を遮る
monggo	蒙古	-	monggorombi	蒙古語を話す
tašan	嘘	-	tašarambi	誤る

■ 6 -ša-/še/-šo-

bureku	鏡	-	burekušembi	鏡にうつす
forgon	時節	-	forgošombi	回転する
hebe	相談	-	hebešembi	相談する
hüda	商売	-	hüdašambi	商う
jobolon	苦しみ	-	jobošombi	苦しむ
sain	良い	-	saišambi	賞する

語彙的接尾辞 LEXICOLOGICAL SUFFIXES

一つの単語の下に、それ自身では語を成さない接辞をつけて一つの語を作り、ある意味をつけ加えたり、調子を強めたり、語の文法上の性質を変えたりする接辞を語彙的接尾辞と呼ぶ。語彙的接尾辞は名詞化接尾辞 (nominalizer) と動詞化接尾辞 (verbalizer) に大別され、それぞれが更に名詞由来 (denominal) と動詞由来 (deverbal) に区別される。ここでは、先に「10派生接尾辞」の□2 (110頁) で説いた動詞化接尾辞を除き、それらを一括して以下に示す。

□ 1 語彙的接尾辞一覧表

-can/-cen/-con:	suhe	斧	-	suhe-cen	小斧
-ci:	šurumbi	船をやる	-	šuru-ci	船頭
-cuka/-cuke:	saišambi	嘉す	-	saiša-cuka	嘉すべき
-cun:	ibiyambi	憎む	-	ibiya-cun	憎むべき (もの)
-dari:	erin	時	-	erin-dari	毎時
-fun:	sektembi	敷く	-	sekte-fun	座布団
-geri:	emu	—	-	emgeri	一度
-hala/-hale:	donjimbi	聞く	-	donji-hale	聞いたものすべて
-han/-hen/-hon:	boljombi	約束する	-	boljo-hon	約束
-hari/-heri:	dubembi	終わる	-	dube-heri	最後に
-hun/-hun:	wesimbi	上る	-	wesi-hun	上、東
-kan/-ken/-kon:	sain	良い	-	sai-kan	美しい
-ku/-ku:	isembi	恐れる	-	ise-ku	恐れを抱いた人
	sacimbi	斬る	-	saci-kü	斬 (のみ)
-lame/-leme:	aniya	年	-	aniya-lame	まる一年
	ojoro	成ろう	-	ojoro-lame	今にあろうとして
-lan/-len/-lon:	baita	事	-	baita-lan	必需品、費用
-linggū/-linggu:	yadahün	貧しい	-	yada-linggū	虚弱な
-liyan/-liyen:	sube	筋	-	sube-liyen	練り糸
-lu:	šungku	唇の下の瘤み	-	šungku-lu	唇の下の皺
-me:	ulembi	真直に縫う	-	ul-me	縫針

-n:	dasambi	統治する	-	dasa-n	統治、政治
	lakcambi	断絶する	-	lakca-n	切れ目、断絶
-ngga/-ngge/-nggo:	nimeku	病気	-	nimeku-ngge	病人
-nggeri:	sunja	五	-	sunja-nggeri	五次
-o:	bi	ある	-	bio	あるか
	-habi etc.		-	-habio etc.	
	-ha etc.		-	-hao etc.	
	-mbi		-	-mbio	
	-ra etc.		-	-rao etc.	
-rame/-reme/-rome:	buya	小さい	-	buya-rame	細々した
-ri:	oilo	表面	-	oilo-ri	表面に
-rgi:	dele	上	-	de-rgi	上
-saka:	bolgo	清い	-	bolgo-saka	清らかな
-si:	bithe	文書	-	bithe-si	筆帖式
-su:	ejembi	記す	-	eje-su	記憶力
-shün/-shun:	golmin	長い	-	golmi-shün	やや長い
-tu:	girumbi	恥じる	-	giru-tu	羞恥心
-tun:	ejembi	記す	-	eje-tun	記録
-yün:	jalin	理由	-	jali-yün	理由ではないか

無活用動詞 INVARIABLE VERBS

動詞と同じ機能を持ち、述語となりうるが活用のない語を無活用動詞と呼ぶ。無活用動詞は他の動詞と同じく文末や節の末尾などに述語として用いられ、原則として文頭に立ちえない。

□ 1 akü ない

■ 1 akü はあることが存在しないことを意味する。

'ere jasigan de arahangge getuken akü. (老. この手紙に書いたことは明白ではない。
5. 7b)

*sun tuhere ergi golo de funcuhe irgen ambula akü. (T.S. IX. 6) 日の沈む地方に残った民は多くはない。

'juleri gel i diyan akū. (老. 3. 5b)

前方にまた店はない。

- 2 無活用とはいって、akū に条件の -ci および完了の -ha が接尾して、akūci, akūha となることはある。

'tuttu akūci hecen de bisire ihan, morin be gemu gaji. (T.S. VI. 10)

そうでなければ、城にある牛馬をみな持てこい。

'han, jušen bithei pai bure, akūci jušen bithe buhe de olhošome fungnefi bedere. (T.S. XI. 51)

汗が女真文の牌を与えるよう、でなければ女真文を与えた時、慎み封じて帰れ。

'suwe aikabade da gūnin unenggi akū biheo, akūci yaka hetu gisun de dosikabio. (T.S. XVI. 29-30)

爾等は、仮にも本心に誠意がなかったのか。でなければ誰かの横しまな言葉に陥ったのか。

'tere cooha de ulkun iogi, eljige iogi akūha. (T.S. XX. 40)

その戦いでウルクン遊撃、エルジゲ遊撃が亡くなった。

- 3 akū が意味的に又は機械的に動詞的活用を必要とする時は、akū o-, akū bi- の形をとるが、稀に akū arā- の形をとることがある。

'nikan monggo de jase akū biheo. (T.S. IV. 13)

漢と蒙古に境はなかったのか。

'yenu i genere fonde mama i medege akū bihe. (T.S. XXII. 17)

エヌが出かけた時に疱瘡の消息はなかった。

'dain de akū oho baisan iogi, bahi beiguwan i giran de, han genefi arki hisalafi songgoho. (T.S. VI. 29)

戦いに亡くなったバイサン遊撃、バヒ備官の遺体に汗が行って、焼酒をそいで哭した。

'amba niyalma gisun i karu akū ume obure. (T.S. XVI. 9)

大人の返言をなくすな（頂きたい）。

'si ere utala neneme eherehe weile be akū arafi, membe neneme eherehe serengge, abka be sarkū semeo. (T.S. IV. 14)

爾はこれほどまでの先の悪事をなかったこととして、我等が先に手出しをしたということは、天が知らぬと思ってか。

- 4 akū の疑問形は -n を附して作る。-o akūn の形をとることもある。

'han i duin jušen be gosime ujire de, tere jaka akūn, tere be hairambio. (T.S. II. 11)

汗が四夷を愛しみ養う時、その物はないか。それを惜しむか。

'giyan cang dahaha kai, giyan cang ni harangga pu gašan gemu dahahabio akūn. (T.S. XXII. 24)

建昌は降ったぞ。建昌の堡村はことごとく降っているのか、いないのか。

□ 2 bi ある

bi は動詞の活用語尾として用いられる場合と、無活用動詞として用いられる場合がある。bi が動詞の活用語尾として独立して用いられるのは、本来 -habí etc., -kabi etc., -hakubí etc. 等の活用語尾の bi が分離し、-ha bi, -ka bi のような形に書かれたためで、この場合の bi は動詞活用語尾の分離綴と考えられる。これに対して無活用動詞としての bi は述語として用いられる語で、活用語尾をとらない。この場合の bi は事物が存在するという意味を表す。

bi には終助詞の -o (か), -dere (だろう), -kai (だぞ), -ni (かね) 等の語が直接ついて、bio, bidere, bikai, bini 等の形をとることがある。

'tamun i gebungge omo bi. (M.Y. I. 1) タムンという名の池がある。

'bi urgunjehe seme wajirakū bade, eimere kooli bio. (清啓. 2. 2b) 私は喜びに耐えないので、いやがる道理があるものか。

'ku i menggun juwe tanggū dehi sunja yan bi. (T.S. XXI. 24) 庫の銀は二百四十五両ある。

'mende inu gala bikai. (M.Y. VI. 219) 我々にもまた手があるぞ。
'baita de toktoho giyan bi. (虚指. 下. 11b) 事には定まった道理がある。

□ 3 joo やめよ

'gūwa morin bulgari be joo. (異. 下. 53b) 他の馬、燻し牛皮はやめよ。
'umesi tarhūn ningge be joo. (老. 2. 4b) きわめて油身の多いものはやめよ。

'suwe gasarakū oci uthai joo kai. (老. 3. 4b) お前達が怨まないなら、それで結構だ。

'uttu oci okto omire be joo. (老. 7. 9a) これなら薬を飲むのをやめよ。

13
助動詞
AUXILIARIES

助動詞は動詞のように文のなかで独立して述語の役目を果たすことはできない。助動詞とは動詞あるいは体言について、補助的な意味をそえる語をいう。

□ 1 助動詞の種類

満洲語の助動詞には、aise (のどちらがうか、のではないか), aibi (何がある), inu (である、です), waka (ではない)などの語がある。aise, aibi の文法上の機能は比較的単純であって、ただ助動詞としてのみ用いられる。inu, waka は助動詞としてのみ用いられるとはかぎらない。例えば inu は、副詞、形容詞、助動詞の三種の文法的機能を持つ。waka には形容詞、助動詞、二種の文法的機能がある。文法上の意味から分析すれば、aise は推量 (supposition) を表し、aibi は反語 (rhetorical question) を表し、inu は肯定 (affirmation) を表し、waka は否定 (negation) を表す。

□ 2 助動詞各論

■ 1 aise

aise は疑問代名詞 ai (何) と動詞 sembi (言う) の語根 se- とが結合した語である。満洲語 ai sembi は「何を言うか」の意味を表すが、この sembi は活用を備えた動詞である。しかし aise 中の se はすでに動詞の活用語尾を脱落させ、ai と完全に融合して、一つの活用のない新しい語になっている。

'emu asihata bihe te ubade akū tucike aise.
(老. 5. 5b)

'ecimari saksaha guweme geli yacihiyam-bihengge, ainci cohōme niyaman hūnchin jihe dade, geli booi jasigan be bahara todo-lo be doigonde ulhibuhengge aise. (老. 5. 7b)

或る少年等がいたが、今ここにいない。外出したのではないか。今朝、かささぎが鳴き、又くしゃみが出たことは、恐らく特に親戚が来たうえに又家の手紙を得るきざしを、前もってしらせたのどちらがうか。

'ainci mini nure hatan akūn, sogi booha
amtangga akūn aise. (清啓. 2. 49b)
aise は、しばしば ainci (蓋し、察するところ、ことによると) と相関して推量を表す。

■ 2 aibi

□ a aibi は、疑問代名詞 ai と動詞 bi とが結合した単語である。ai bi は「何があるか」の意を表すが、ai と bi とが融合して一つの語になると、その意味もまた若干異なる。

aibi は動詞の前望活用語尾 -ra etc. の後について、反語を表す。

'yaya niyalma argai holtome gisurefi mu-
tere aibi. (T.S. V. 21)
どんな人でも謀で偽り語って事

'ereci jilakan aibi. (T.S. XIV. 30)
が成ろうか。

'tere emu udu niyalma de nemere ekiyen-
dere aibi. (T.S. XVI. 30)
これより憐れなことがあろうか。
その数人によって、どうして増減があろう。

□ b aibi の前に与位格 de がつく場合は、助動詞とはならない。この場合の bi は動詞であり、ai は「どのような関係が」の意を表す。

'tede aibi. (松山戦書. 21b)
それに何の関わりがあろう。

'bure burakū de aibi. (清啓. 2. 13a)
与えるのと与えないのに何の関係があろう。

'te amba baita wajihā be dahame, majige
goidabure de aibi. (異. 下. 48a)
いま事が終わったのだから、すこしばかり遅れても、何の妨げがあろう。

■ 3 inu

助動詞としての inu は、名詞の inu のように単独で文の成分となることはできないし、副詞の inu のように、文の中間に現れることもできない。助動詞の inu は、先行する体言を肯定的に限定するはたらきをし、体言とともに文の述語を形成し、「である」、「ぞ」の意味を表す。名詞の inu は、「その通り」「(是非の) 是」の意味を表す。副詞の inu は、文中で述語を修飾し、「また」「でも」の意味を表す。以下に例を挙げて対比しつつ説明する。

□ a 助動詞の inu

'sahaliyan ula helung giyang inu. (M.Y. I. 19-20)
薩哈連烏拉とは黒龍江 (なのぞ)ぞ。

'tere fujin, sure han i eme inu. (M.Y. II. 57)
その夫人が天聰汗の母 (である)ぞ。

'abka na de jalbarime bairengge ere inu.
(M.Y. VI. 249)
天地に祈り願うものは、これ (である)ぞ。

□ b 名詞の inu

- 'sini gisun umesi *inu*. (老. 5. 3a)
'si gemu tede uncaci *inu* i gese. (老. 5. 12a)

お前の言葉は全くそのとおりだ。
お前は皆彼に売ればいいようだ。

□ c 副詞の inu

- 'suweni ahūn deoi dolo emke we *inu* okini.
'songgoro de *inu* wejubume muterakū oho. (N. 8)

お前たち兄弟の内の一人誰でも
よい。
泣いたとて亦蘇らせるることはで
きなかった。

■ 4 waka

助動詞の waka は、上述の助動詞 inu と同様に、それ自体は単独で文の成分となることはできないし、またその他の語の修飾限定を受けることもできない。これに対して名詞の waka は上述の二つの機能を備えている。

助動詞 waka は、先行する体言を否定的に限定し、体言とともに文の述語となり、「ではない」の意味を表す。名詞 waka は「非」の意味を表す。

以下に例を挙げて説明しよう。

□ a 助動詞の waka

- 'bi balai gairengge *waka*. (老. 5. 15a)
'muse umāi ere tere *waka*. (老. 6. 23a)
'tere jiderengge lii halangga age *wakao*. (老. 5. 7a)
'ere morin inenggidari jugūn yabume šadafi gelī tarhūn ningge *waka*. (老. 5. 2b)

私はみだりに取ることはない。
我々は全くこれあれない。
その来る人は、李姓の兄ではないか。
この馬は毎日道を歩いて疲れて、そしてまた肥えてもいない。

□ b 名詞の waka

- 'erin fōrgon be amcame sebjelere be hon i *waka* seci ojorakū. (老. 7. 11a)

時機を追って楽しむのを甚だ非
とは言えない。

後置詞

POSTPOSITIONS

名詞、代名詞、格助詞、動詞などの後につき、種々の意味を添える語を後置詞と言う。後置詞は、意味上から次のように分類することができる。

- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 時間 | 2. 方向 | 3. 場所 | 4. 範囲 |
| 5. 協同 | 6. 因由 | 7. 代替 | 8. 様態 |
| 9. 条件 | 10. 隨意 | | |

□ 1 時間後置詞 (Temporal Postposition)

■ 1 amala のち

先行する動詞は完了連体形である。後続する本動詞 (main verb) のいわゆる「時制」の如何を問わない。本動詞の行為が遂行されるのは、必ず amala の前に立つ連体形動詞の行為が完了した後となるからである。これが完了アスペクト (perfective aspect) であって、過去時制 (past tense) の概念とは異なる。

- 'hūda toktobuha *amala* we ya seme aliyafi
amasi bederebuci ojorakū. (老. 6. 2b)
'elcin ambasa genehe *amala*, bi cagan han
de niyalma takūraki. (異. 下. 49b)
'galdan be mukiyebuhe *amala* jun gar urse,
gemu meni bargiyame gaici acara niyalma.
(異. 下. 100b)

■ 2 amasi 後に

奪格の名詞・代名詞に後接する。

- 'ereci *amasi* siderek. (老. 3. 14b)
'ambasa ereci *amasi* meni g'a-g'a-rin be aliha
amban seme hūlara be nakareo. (異. 上. 79a)

値段を決めた後では、何人とて後
悔して後で返すことはできない。
使節大人等が去った後、私はチ
ヤガン汗に入を遣りましょう。
ガルダンを滅ぼした後、ジュン
ガルの者はみな我等の収め取る
べき者。

これから以後、(この馬を)繋ごう。
大人等よ、これより後、我等が
ガガーリンを尚書と呼ぶのを止
めてくれないか。

■ 3 andande たちまち

名詞 andan (瞬時) の与位格形に由来する後置詞。

'dobori inenggi facihiyahai emu cimari 夜昼あくせくしながら, 一朝た
andande buche amala. (老. 7. 10b)

■ 4 de ~するとき, ~すると, ~したとき

動名詞に後接する。

■ 5 ebsi より以来

奪格助詞 ci に後接する。

'coohai baita tucike ci ebsi, ba na i baita
umesi labdu largin be dahame. (雍正稿. 28.
満1. 64c. 隆科多奏)

'duleke aniya ci ebsi abka hiya ofi. (老. 2. 13b)

'dulimbai gurun i niyalma, julgeci ebsi
meni bade emgeri jihe ba akū. (異. 上. 45b)

■ 6 fonde 時に

名詞 fon (時) の与位格形に由来するものであって、動詞連体形活用語尾、あるいは体言および属格助詞に後接する。

'mukden de bihe fonde, taidzu hūwangdi,
taidzung hūwangdi be dahame yabuha
niyalmai juse ormosi be gemu fe manju
sembi. (異. 下. 34b)

'si tuwa jalan i niyalma weihun fonde,
damu tesurakū jalin jobome eiten jaka be
hairame. (老. 7. 10a)

■ 7 jaka ~するやいなや, ~したとたん

動詞の非完了連用形語尾 -me に後接する。

'beye forgošome jaka, hercun akū gel
tuheke. (虚指. 上. 22a)

■ 8 julesiken 少し前に

動詞の前望連体形活用語尾 -ra etc. に後接する。

'mini jidere julesiken sini ajige sargan jui be
mama eršefi. (老. 5. 8b)

■ 9 manggi 後で

動詞の完了連体形活用語尾 -ha etc. に後接する。後続する本動詞のいわゆる「時

兵事が興ってより以来、地方の
事務が甚だ多く煩雜なため。

去年より以来、ひでりになって。
中国の人は古よりこのかた、我
等が地に一度も来たことがない。

盛京にいた頃、太祖皇帝、太宗
皇帝に従って行った者の子孫を
みな旧満洲という。

ご覧なさい、あなた。世の人は
生きているときに、ただ満ち足
りないためにあくせく苦労し
て、一切の物を惜しみ。

身をひるがえしたとなんに不覚
にも倒れた。

私の来る少し前にお前の幼女を
祖母が面倒見て。

制」の如何を問わない。この事については、上の■ 1 を参照。

'wakalabufi tušan ci nakaha manggi, alin
tokso de bederefí, usin yalu be tuwa-
kiyame bihe. (異. 自序. 1a)

'urunakū cagan han de jugün baiha manggi,
teni yabuci ombi. (異. 下. 49b)

'hanci oho manggi teni miyoocalambi. (異.
下. 66b)

■ 10 namašan すぐ後に

動詞の完了連体形活用語尾 -ha etc.、あるいは前望連体形活用語尾 -ra etc. に後接する。

■ 11 nergin de ~の折に

動詞の完了連体形活用語尾 -ha etc.、あるいは前望連体形活用語尾 -ra etc. に後接する。

'mini jidere nergin de gemu dulefi sain oho.
(老. 5. 8b)

'bithe araha nergin de gemu afabume buhe.
(老. 6. 2a)

■ 12 onggolo ~する前に

動詞の前望連体形活用語尾 -ra etc. に後接する。補助動詞 ombi の提前連用形。

'weile deribure onggolo tafulaci yaya ci dele.
(M.Y. VIII. 355)

■ 13 saka ~するやいなや, ~したとたんに

動詞の非完了連用形活用語尾 -me に後接する。

■ 14 sidende うちに, 間に

動詞の前望連体形活用語尾 -ra etc. あるいは名詞の属格に後接する。

'sini jodon uncara sidende, bi honin be udafi
dzo jeo bade uncame genefi. (老. 6. 7a)

■ 15 unde まだ~していない

動詞の前望連体形活用語尾 -ra etc. に後接する。

'te bicibe gisureme wajire unde. (T.S. XI.
41)

□ 2 方向後置詞 (Allative Postposition)

■ 1 baru の方向に, 向かって

属格の名詞に後接する。

'wargi baru feksime ukaha. (老. 2. 18a)	西に向かって馬で駆けて逃げた。
'baihal bilten, udi baising ci wargi amargi baru ilan tanggū ba funceme yabuha mang- gi isinambi. (異. 上. 31b)	バイカル湖はウデ町より西北に 向かい三百里余り行ったのち達 する。
■ 2 butereme 蘭に沿って 属格の名詞に後接する。	
'alin i butereme birai dalirame juwe ming- gan funcere boigon tehebi. (異. 上. 83a)	山の麓に沿い河の岸に沿って二 千余戸が居住していた。
■ 3 cikirame 岸に沿って 属格の名詞に後接する。	
'selengge birai cikirame oncohon (oncokon) bade usin tarite ba meyen meyen i bi. (異. 上. 29b)	セレンゲ河の岸沿いに広い所に は田畠を耕している所が一所一 所にある。
■ 4 dalirame 岸に従って 属格の名詞に後接する。	
'jugūn i unduri birai dalirame oncohon (oncokon) bade usin tariha ba meyen meyen i bi. (異. 上. 43b)	沿途、河の岸に従って広い所に は田畠を耕した所が一所一所に ある。
■ 5 dosi 内に 動詞 dosimbi (入る) と同源。	
■ 6 ergide の方に 名詞 ergi (方向) の与位格形に由来する。	
■ 7 fusihūn 下に、下を 奪格の名詞に後接する。	
'forgosome sindara dooli jyfu ci fusihūn, jyhiyan ci wesihun hafasa be, gemu gajifi beyebe tuwabure be nakaki seme. (雍正檔. 28. 满 1. 99b. 隆科多奏)	転用し任用する道員知府以下、 知県以上の官等をして、みな調 來引見させることを止めたいと。
■ 8 haiharame (山の) すそを行きながら 'alin haiharame neciken bade usin tarihang- ge inu bi. (異. 上. 43b)	山裾を縫って平らかな所に田畠 を耕すものもまたある。
■ 9 ici ～むきに、方向に; 方角に 'ere tatakū fuhali dalba ici urhurakū. (老. 2. 25b)	このつるべは全く横の方に傾か ない。
■ 10 ishun 向かい ■ 11 teisu 向かって 'julergi teisu juwe boo sidende. (老. 3. 18b)	南向きの二軒の中央に。
■ 12 tulesi 外へ ■ 13 unduri ～に沿って 属格の名詞に後接する。	
'uttu ocibe, suwe jugūn i unduri balai toome yobodome fuhali targahakū. (老. 1. 23a)	それなのにおまえたちは道に沿 って、みだりにののしり冗談を 言って、全く戒めなかった。 沿途みな大山密林。
'jugūn i unduri gemu amba alin, weji. (異. 上. 31a)	
■ 14 wasihūn 下に、下を 奪格の名詞に後接する。	
■ 15 wesihun 上に、上を 奪格の名詞に後接する。	
'tulgide bisire jai jergi hafan ci wesihun hafasa. (雍正檔. 28. 满 1. 60c. 隆科多奏)	在外の二品官以上の官人。
□ 3 場所後置詞 (Locative Postposition)	
すべて属格の名詞または動名詞に属格助詞 i のついた形に後接する。	
■ 1 amala 後ろ、以後に ■ 2 andala 中途に 'jugūn i andala nimoku bahafi buchebei. (N. 1)	
'isinjihakū jugūn i andala nimeme akū oho semebi. (異. 下. 24b)	途の半ばに病を得て死亡した。
■ 3 cala, cargi あちらで。 ■ 4 dele 上に 'galai dele tebufi boo de gamafi. (M.Y. I. 5)	
'tere enduri saksaha fulgiyan tubihe be saifi gajifi fiyanggū sargan jui etukui dele sinda- fi. (M.Y. I. 5)	手の上に坐らせ家に連れて来て。 その神鶴が赤い果実をくわえ、 持つて末娘の衣の上に置いて。
■ 5 dolo 内に 'suweni ambasai dolo, yaci ambasa umesi wesihun. (異. 上. 77b)	卿等が大臣の中では如何なる大 臣が最も尊いのか。

- 6 ebele, ebergi こちらに
- 7 fejile, fejergi 下方に
- 8 jakade そばに, はたに, の方に
- 9 juleri, julergi 前に, 南に
- 10 oilo 表面に
- 11 sidende 中間に
- 12 tule 外に

'bi simbe fudeme dukai *tule* geniere. (老. 5. 11a) 私はお前を送りに門の外に行こ
う.

- 13 wala 下部に

□ 4 範囲後置詞 (Terminal Postposition)

- 1 aname ～に到るまで, ～でさえも
奪格の名詞に後接する。

'enduringge erdemu onco amba de, ser sere
jaka *ci aname* hūwašburakūngge akū ofi.
(異. 上. 4a-4b)

'ele hacingga niyalma, haha hehe, buya
juse *ci aname*, emu aniya duin forgon be
dahalame duin mudan ambarame šayolam-
bi. (異. 下. 21b)

Širgen *ci aname* tetele sorson hadahakūngge
kemuni bikai. (雍正檔. 28. 满 1. 87a. 佛格奏)

- 2 canggi ただ一ばかり

主として属格の名詞・代名詞に後接する。

'mini canggi de ainu emhun ejen. (M.Y. IV. 132) 私にばかりどうしてひとり主で
あろう.

- 3 ebsihe 以内に, ～の限り, ～まかせに

- 4 muterei teile できる限り

- 5 noho ～ばかり

'mukei dolo amba wehe noho ba bime. (異.
上. 42b-43a) 水の中は大きな石ばかりの所で
あって.

- 6 teile ～ばかり, ～だけ

多くの場合, 属格の名詞や動名詞に助詞 *i* のついた形に後接する。

'fulgiyan fi i šurdehe ambasai *teile* jabume 朱筆で円を書いた大臣等だけが

wesimbukini sehebe gingguleme dahafi.
(雍正檔. 28. 满 1. 155c. 張鵬勅奏)

'tere morin damu turi be *teile* sonjome jefi.
(老. 2. 10a)

'damu beye *teile* hūsun tucire dabala. (異.
上. 9b)

- 7 tulgiyen 以外, ～を除いて

おもに奪格の名詞に後接するが, 属格に続くこともある。

'alban i kunesun *ci tulgiyen*, geli ihan
ulgiyan benjihe manggi. (異. 上. 34a)

'erku bira, ilim bira *ci tulgiyen*, angg'ara
bira de eyeme dosinjiha ajige bira juwan
funcembi. (異. 上. 42b)

'sinci *tulgiyen* geli gucu bio. (老. 3. 9a)

'beyebe tuwabume wesimbureci *tulgiyen*.
(雍正檔. 28. 满 1. 99b. 隆科多奏)

□ 5 協同後置詞 (Cooperative Postposition)

- 1 emde 一緒に

- 2 emgi 一緒に, 共に
属格の名詞に後接する。

'tuttu meni han i gebu *ici* gebu bufi,
ilgame gisurebureo seme wesimbuhede.
(雍正檔. 28. 满 1. 156c. 張鵬勅奏)

'inenggidari nikani *ci* ūyun king *ni emgi* acafi
tefi, bithe taciba turgunde majige bah-
nambi. (老. 1. 8a)

'tere niyaman hūncihin *i emgi* emu juwe
hūntaha (hūntahan) nure be omiki. (老. 5. 10b)

- 3 ici ～のまま, ～に応じて, ～に合わせて, ～に従って

'tuttu meni han i gebu *ici* gebu bufi,
sampiyetir-pur sehe. (異. 下. 63a)

- 4 nishai ～を併せて, ～ごと

'suwe hecen *nishai* dahaci juse sargan

回奏するようにとの仰せに欽遵
し.

その馬はただ豆ばかり選んで食
べて.

ただ身の限り力を出すだけであ
る.

官の旅食より外にまた牛猪を送
ったので.

イルクート河, イリム河の外,
アンガラ河に流れ注ぎくる小さ
い河は十余りある.

お前以外にも仲間がいるか.

引見奏聞するほか.

吏部から九卿と共に会同し議叙
されたしと奏請したところ.

毎日, 漢人の生員と共に一所に
坐って本を学んだので, 少々理
解する.

その親戚と一緒に一, 二杯酒を
飲もう.

このように我等が汗の名のま
に名を与え, 聖ピータース・ブ
ルグと言った.

汝等が城と共に降れば, 子等妻

niyalma hūncihin fakcarakū ohode. (M.Y. IV. 158)

■ 5 sasa 一緒に、共に

□ 6 因由後置詞 (Causal Postposition)

■ 1 dahame ~なので、~だから、~以上

動詞 dahambi (従う) の非完了連用形に由来するので、主として動名詞に対格助詞 be のついた形に後接する。

'ara muse gajihā hūdai jaka gemu wajihā be dahame, orhoda hūda be bargiyafi. (老. 8. 14b)

'te amba baita wajihā be dahame, majige goidabure de aibi. (異. 下. 48a)

'ere jugūn deri unggime banjinarakū be dahame, oros i jugūn deri unggīhe de teni sain. (異. 下. 37a)

■ 2 haran ~だから、~のために、~の故に、~のせいで

■ 3 jakade ~ので、~の故に

'gemu emu bade bisire jakade, nimetere, bucerengge umesi labdu be dahame. (雍正檔. 28. 满 1. 90b. 佛格奏)

'geli aniya goidara jakade, ejehengge getukken akū. (異. 下. 49a)

'te elcin ambasa jidere jakade, be alimbaharakū urgunjembi. (異. 下. 72b)

■ 4 jalin ~のために、~ではないかと、~として、~からといって
本来は「為」を意味する名詞であったから、主として動詞の連体形や属格の名詞・代名詞に後接する。

'tereci enen akū jalin facihiyasame. (N. 1)

'si ume meni jalin jobošoro hūwanggiarakū. (老. 2. 14a)

'hafan i jurgan i gingguleme wesimburengge, hese be baire jalin. (雍正檔. 28. 满

等人々親しい輩が離れ散らずに
おれて。

ああ、我々が持って来た商品が
みな終わったので、人参の値を
収めて。

今、大事が終わったのだから、
少しくらい遅れてもたいしたこ
とはあるまい。

この路で送ろうとしても、うま
くいかないのだから、ロシアの
路で送った方がよい。

ことごとく一箇所にいたので、
病人、死者がはなはだ多いため。

また年久しいので記憶も定かで
ない。

今、使者大人等が來たので我等
は喜びに耐えない。

それからは子孫がないので憂い
なやみ。

お前は決して我々のために憂苦
するな。だいじょうぶだ。

吏部が謹奏する事、旨を請うた
めにす。

1. 52c. 隆科多奏)

■ 5 turgunde ~の理由で、~したために、~したので

名詞 turgun (理由) の与位格形に由来するので、属格の名詞や動詞の連体形に後接する。

'meni ejen weilen i menggun edelehe turgunde hafirabufi fasime bucche inu sembi. (雍正檔. 28. 满 1. 2b. 托頬奏)

'tere antaha i dorgi de emu ukaka manju bihe turgunde, jurgan ci tatabuha boo be suwaliyame baicame isinjihabi. (老. 3. 21a)

私共の主人は工事の銀両が不足
したために追い詰められて縊死
したのですと言う。

その客の中に一人逃げた満洲人
がいたので、役所から治めた家
をまとめて調べに来た。

□ 7 代替後置詞 (Alternative Postposition)

名詞・代名詞の属格形に後接する。

■ 1 funde 代わりに、代わって

'uttu oci boihoji si mini funde udana. (老. 2. 4a)

'mini gisun be ama eme de getukken i funde ularao. (N. 7)

それなら主人、お前が私の代わ
りに買ひに行け。

私の言葉を父母にはっきりと代
わりに伝えてくれ。

□ 8 様態後置詞 (Evidential Postposition)

■ 1 adali ~のようである、~のよう

名詞・代名詞の属格形に後接する。

'irgen be fulgiyan jui i adali gosime. (異. 上. 37a)

'manju gurun i coohai uksin saca nimanggi juhei gese, tu kiru gida jangkū i tukiyehe-
ngge weji bujan i adali. (M.Y. VI. 218)

民を赤子のように憐れみ。

満洲国の兵の鎧兜が雪か氷のご
とく、大旗、小旗、槍、太刀の
そびえる物は森林のごとく。

■ 2 gese ~のよう

名詞・代名詞の属格形に後接する。

'adarame ja i gese i babe tucibume wesimbu. (雍正檔. 28. 满 1. 154c. 張鵬翻奏)

'hacingga bocoi bigan i ilga na be sekteme ilakangge nirugan i gese, gincihiyen saikan yasa jerkišembi. (異. 上. 18b)

'be tere gese akū. (異. 上. 7a)

どうしてやさしいような事なの
か、陳述し具奏せよ。

種々の色の野の花が地に敷い
て、咲いているのはまるで絵の
ようで、艶麗にして目も眩む。
我等はそのようではない。

- 3 songkoi ～に倣って、～の通り、～に照らし
属格の名詞や動詞の連体形に後接する。

'jurgan ci ini wesimbuhe songkoi emu yan
se sirge de ninggun fun juwe li menggun
be wesimbuhe sume bodobuha. (雍正档. 28.
満 1. 196c. 孫查齊奏)

'neneme wesimbuhe songkoi emu aniya šolo
bufi. (雍正档. 28. 滿 1. 53c. 隆科多奏)

'ayuki be acara de, inu ts'ewang rabtan de
acara songkoi acaci wajihā. (異. 上. 6b)

部内より彼が奏した通り、毎一
両の生絲に六分二厘の銀を題銷
せしめた。

前奏に照らし一年の暇を与える。

アユキに会うにはまたツェワ
ン・アラブタンに会うのに倣っ
て会えば足りる。

□ 9 条件後置詞 (Conditional Postposition)

- 1 manggi ～したら、～したところ、～なので
動詞完了連体形や形容詞に後接する。

'juwari erin oho manggi. (M.Y. I. 2.)

夏季になったら。

'boode genehe manggi bodoki sembi. (G.
12. 4a)

家に帰ったら算えたいと言う。

- 2 nakū ～や否や

動詞の語幹(多くは命令形)に後接する。

- 3 tetendere ～するからには、～する以上、～する位なら、～するのだったら
動詞の条件連用形に後接する。

'si gemun hecen i baru geneci tetendere. (老.
1. 9b)

お前は京師に向かって行くから
には。

*suwe hukšeme saci tetendere. (百二老人語錄)

汝等が徳として知っているのな
ら。

□ 10 隨意後置詞 (Voluntative Postposition)

- 1 amuran ～好みの、～が好きな

与位格助詞 de または属格助詞 i に後接する。

- 2 guwelke 気をつけよ、注意しよう、つつしめ
体言または与位格助詞 de に後接する。

- 3 cihai 思う通りに、随意に

'sini cihai aliya. (老. 5. 5a)

お前の思うままに待て。

'sini cihai bodo. (老. 6. 3b)

お前の思うままに計算せよ。

接続詞は語と語、句と句、節と節、文と文などをつなぐ語である。接続詞は自立語で活用がなく、単独で主語、述語、修飾語、被修飾語にはならない。

接続詞は、意味と用法から、順接、逆接、選択、添加、並列、説明、讓歩、条件の八種に分類することができる。日本語の、「さて」「ところで」「では」のように、話題を転換させる働きをする接続詞はない。

□ 1 順接接続詞 (Copulative Conjunction)

前の文の内容を受けて後の文へ、意味を順当に続ける接続詞。

- 1 be dahame ～だから、～なので、～なのに

- 2 ede この故に、そこで、これで、そのため

'oilo majige gececibe, fejile kemuni lifakū,
ede morin i bethe efujembi. (異. 下. 3a)

表面は少し凍っていても下はな
お泥濘、そのため馬の脚が損傷
する。

- 3 jai また、更に、その上

'abka mimbe urulehe, jai cahar kalka acafi
korcin i ooba hūng taiji be waki gaiki
seme cooha jihe. (M.Y. VIII. 350)

天は我を是とした。またチャハ
ルとカルカが会いコルチンの
オーバ・ホンタイジを殺し捕ら
えたいと戦いにきた。

- 4 jakade ～なので、～の故に

- 5 ofi (-fi) ～なので、～だから、～であって

- 6 ohode ～になったとき、～になったところ、～になったなら、～にして

- 7 seme ～と思い、～と

- 8 sirame ついで、つづいて、次に

'hūdun jurgan de boolanjikini seme yabu-

すみやかに部に報告するように

*buha bihe, sirame mi yün hiyan i jyhiyan
siowei tiyan pei sei alibume benjihe
bihede.* (雍正檔: 28. 满 1. 1c. 托頬奏)

■ 9 *tereci* それから, さて, そこで, やがて
*'amcara coohai niyalma gemu amasi bede-
rehe, teraci fanca guwefi tucike.* (M.Y. I. 6)

■ 10 *tuttu* それで, かように, あのような, 故に
*'etera de amuran ojoro jakade, tuttu afame
dailame nakarakü.* (異. 上. 38a)

*'neneme hülun gemu emu ici ofi, mimbe
dailaha, tuttu dain deribuhe.* (M.Y. IV. 153)

■ 11 *tuttu ofi* それ故に, そのので
*'cooha baitalarangge enduri gese, tuttu ofi
genggiyen han sehe.* (M.Y. I. 14)
*'tereci fanca guwefi tucike, tuttu ofi manju
gurun i aimaga jalan i juse omosi gemu
saksaha be mafa seme warakü bihe.* (M.Y.
I. 6)

■ 12 *uttu de* このようにして
*'uttu de niyalma gemu holbobure de
geleme.* (老. 3. 21a)

■ 13 *uttu ofi* こうして, それで, それゆえ

□ 2 逆接接続詞 (Adversative Conjunction)

前の文の内容を受けて後の文へ, 逆の内容を続ける接続詞。

■ 1 *bime* いるのに, ~といつても

■ 2 *damu* だけど, だが, しかし, 然るに

■ 3 *elemangga* 反対に, かえって

*'hafan efulefi ging hecen de benjibure de,
elemangga gūnin cihai jibgeseme jihe tur-
gunde.* (雍正檔. 28. 满 1. 148b. 佛格奏)

*'minde acabuki sehei elemangga untuhuri
ombi.* (雍正檔. 28. 满 1. 158c. 張鵬翻奏)

と言つておいた. ついで密雲県
の知県薛天培等が呈送した書に.

追手の兵の者はみな帰つて行つ
た. それより樊察は免れて出て
來た.

勝つことに執心しているので,
このように戦い討つて止まない
のです.

先に呼倫はみな亡くなり我を
討つた. このように戦いを興した.

用兵は神のようであった. そ
こで英明汗というのである.
それより樊察は免れて出て來た.
その故に満洲国の後の代の子等
や孫等はみな鶴を祖として殺す
ことはなかった.

このように人はみな関わりあ
いになるのを恐れて.

■ 4 *gojime* けれども, のに, とはいえ

*'jai be neneme suweni oros gurun be don-
jiha gojime, emgeri jihe ba akü.* (異. 下. 73a)

*'jahüdai muke de yabure gojime nade
yabume muterakü ofi sejen de tebumbi.*
(老. 7. 13b)

■ 5 *nememe* 反対に, かえって

■ 6 *seme* ~といえども, とて, ても

■ 7 *sere anggala, uthai ...* ~よりむしろ, というよりは, ~どころか

■ 8 *tuttu akü* そうでなくて

*'muse uncehen de dosifi saciki, tuttu akü
muse ekisaka amasi bedereci, muse be
aliyahakü geleme genehe sembikai.* (M.Y.
IV. 161)

■ 9 *tuttu bime* そうであっても

■ 10 *tuttu seme* しかしながら, それにしても, そうだけども

■ 11 *uttu bime* こうであっても

■ 12 *uttu oci* そうなら, こうならば

□ 3 選択接続詞 (Selective Conjunction)

前の文と後の文の内容のうち, どちらかを選ぶ接続詞.

■ 1 *eici ... eici* あるいは~あるいは~

*'eici jergi wasimbuji forgošome baitalara
toolai be baitalara, eici wesici acara ichiyara
hafan i jergi hafasa be sindara babe dergici
lashalarao.* (雍正檔. 28. 满 1. 94b. 隆科多奏)

*'eici hehesi be sabure, eici injeci acara baita
de teisuleci, suwe ujen ambalinggū i arbu-
ša.* (異. 上. 11b)

■ 2 *embici ... embici* あるいは~あるいは~

*'hafan ocibe, cooha ocibe, meimeni afaha tu-
šan alban de gūnin akumbume muteci.* (百
二老人語錄)

更に我等は先に貴オロス國のこ
とを聞いただけで, 一度も来た
ことはない.

船は水上を行くけれども地上は
行けないので, 車に乘る.

我等はしりに迫つて斬ろう, そ
うせず我等が黙して帰り戻れ
ば, 我等が待たず, 恐れて行つ
たと言うぞ.

あるいは降級転用の托頬を任用
するか, あるいは陞任さすべき
郎中の官等を任用するかを上よ
り裁断されるか.

あるいは婦女子を見, あるいは
笑うべきことに遭つても, 汝等
は莊重大様に振る舞え.

官であれ兵であれ各自担当した
職掌公務に意を尽くし得るなら.

□ 4 添加接続詞 (Additive Conjunction)

前の文の内容に更に新しい内容をつける接続詞。

- 1 dade gelī (の)上にまた更に
- 2 dele... gelī ... ~である上にまた
'mini jui wabuha dele gelī mimbe ainu 我が子を殺された上に、また私
sinde daha sembi. (M.Y. I. 10)
- 3 gelī その上、更に
- 4 sere anggala ... inu (gelī) ~というよりは、~どころか、~よりもしろ
- 5 i teile akū ... inu (gelī) ~だけでなく
- 6 tere dade その上に

□ 5 並列接続詞 (Co-ordinate Conjunction)

前後の文の内容を対等に並べて述べる接続詞。

- 1 bime して、~であって
'gisurere jilgan tomorhon bime yargyan 語る声は明晰であって、まこと
getuken (M.Y. I. 13) にはっきりしている。
- 2 ememu ... ememu ある(者)は~, ある(者)は~
- 3 ememungge ... ememungge あるものは~, あるものは~
- 4 emu derei ... emu derei 一面では~, 一面では~
'emu derei hūlabume, emu derei giyangname 一方にて読ませ、一方で講義し
ulhibume. (百二老人語録) 悟らせ。
- 5 jai および、ならびに、また

□ 6 説明接続詞 (Descriptive Conjunction)

前の文の内容を補足・説明する接続詞。

- 1 eitereci まずは、つまり、だいたい、要するに、ほほ
- 2 duibuleci たとえば

□ 7 讓歩接続詞 (Concessive Conjunction)

前の文の内容に譲歩した内容を後の文で述べる接続詞。

- 1 ai hacin i どんな~が~でも、どのように~でも
- 2 anggala ~よりもむしろ、~のみならず、~どころか
'mini tacibure anggala suwende yasa šan 吾が教えるのみならず、汝等に
akūn. (M.Y. VIII. 354) 眼耳はないのか。

- 3 ... ci tetendere ~するからには、~する位なら、~する限りは、~する以上
- 4 eitereme いくら~しても

■ 5 hono ... bade, ... (be) ai hendure ~ですら~なのに、何をか言おう
'fiyanarame miyamirengge gūwa niyalma 心にもない事を言って言葉を飾
de hono ojorakū bade, niyaman hūncihin be るのは別の人さえできないの
ai hendure. (老. 6. 23b) に親戚を何をか言おう。

- 6 seme ~しても

- 7 udu ... bicibe, inu いかに~であっても
- 8 udu ... cibe いかに~でも
- 9 udu ... ocibe, inu たとえ(いかに)~であろうとも、また
- 10 udu ... secibe, inu たとえ(いかに)~でも、また
- 11 uthai ... ocibe たとえ~であろうとも
- 12 uthai ... okini, inu たとえ~であっても、また
- 13 uthai ... seme たとえ~でも

□ 8 条件接続詞 (Conditional Conjunction)

条件つきの内容を述べる接続詞。

- 1 akūci もし~でなければ
- 2 aika ... oci もし~ならば
- 3 aikabade ... oci もし~ならば
- 4 unenggi ... oci 果たして~ならば、実際に~ならば
- 5 yala ... oci 果たして~ならば、まことに~ならば

終助詞は文の終わりか文節の切れめについて疑問、推量、強調、感動などを表す。

□ 1 疑問終助詞 (Interrogative Particle)

- 1 akūn ないか, なかろうか
- 2 na か, かね, かしら, かな, ですか, なあ, や
- 3 ne → na
- 4 ni → na

'ere gese angga ubašakū niyalma gelī bini. (清啓. 2. 7a)

*we ya de emu hešu hašu i baita akū ni. (清啓. 2. 5b)

- 5 nio → na

'ere orthoda sain nio. (老. 8. 2a)

- 6 nu → na

- 7 -yūn か

終助詞としての ne, no, nu の存在を疑問とする説がある [山本謙吾「満洲語文語形想論」「世界言語概説」下, p. 501, 脚注, 参照].

□ 2 推量終助詞 (Conjectural Particle)

- 1 ayoo ではあるまいか, ではないかと恐れる
- 2 dere であろう, ではないか

'sinde fulingga bifū kušun ohobidere. (M.Y. I. 3)

'meni juwe joboro be abka acabuha bidere. (M.Y. VIII. 350)

貴女に上天の命があつて身重になつたのであろう.

吾が両者の苦しむ者を天が会わしめたのであろう.

□ 3 強調・指定・断定終助詞 (Assertive Particle)

- 1 bai だな, だよ, でしょう

'absi toktohon akū bai. (清啓. 2. 7a)

ほんとうに定見がないよ.

- 2 be である

- 3 dabala だけである, 一にすぎない

'taka udu inenggi aliyara dabala. (異. 下. 3b)

'jakūn boo gese jergi bahara dabala. (M.Y. VIII. 354)

しばらく数日待つだけだ.

八家が同じ程度に得るだけである.

- 4 dere であろう, ではないか, なのだ

- 5 kai です, である

'dahara daharakū be suwe inu ambula seolehede sain kai. (M.Y. IV. 158)

従うか徒わぬかを, 汝等もとく
と考えたらよいぞ.

□ 4 感動終助詞 (Emotive Particle)

- 1 jiya なのだ
- 2 jiye → jiya
- 3 kai だなあ
- 4 na なあ
- 5 ni → na
- 6 nikai (binikai) ですね, だね

17

感動詞

INTERJECTIONS

感動詞は独立語で, 感動, 応答, 呼びかけなどの言葉である.
文の他の成分とは文法的に関わりがなく, また一語で文を成す
こともできる.

- 1 a あっ, ああ
- 2 ai ああ, おやまあ, 何ということを
- 3 adada 何とまあ
- 4 ajaja おやまあ, 何とまあ, あらまあ
- 5 ara あら, おや, ほう

'ara suweni juwenofi šadaha kai. (老. 4. 9a)

'ara enteke farhūn nadē aibide hamtame genembi. (老. 3. 2b)

- 6 aya おや, あら

- 7 en おお, ええ, うん

- 8 joo もう結構だ, やめなさい

- 9 joobai 結構だ, 十分だ, もういい, やめておけ

おやお前達二人は疲れたのだな.
ああこのよう暗い所でどこに
大便をしに行くのか.

'joobai yayadame okini bi alime gaiha. (老.
4. 21a)
'joobai, enenggi ekšembi, cimari acaha
manggi jai nure omici inu goidarakū. (老.
5. 10b)

もういい、言い渋っても私は受け取った。
もういい、今日は急ぐ。明日会った後また酒を飲んでも遅くはない。

■ 1o je はい、うん、よし

'je sindé buki. (老. 6. 6a)

'je je age uttu günin fayaha be dahame. (老.
4. 18b)

よし、お前にやろう。

よしよし、貴兄がこのように意を用いたので。

18 象徴詞 ONOMATOPOEIA

人や事物の自然音を模倣して表した擬声詞と、人や事物の感じを象徴的に表した擬態詞とを象徴詞と呼ぶ。両者をはっきり区別できるものと、どちらともとれるものがある。自立語で活用がなく、主語になることがない。その語だけで、あるいは補助動詞 sembi (と言う) の各種活用形と結合して連用修飾語、述語、目的語となることができる。

□ 1 擬声詞 (Onomatopoetic Word)

cu ca	ひそひそ	kafur kifur	てきばきと
gai	わつ	katak	がちゃり
giyar gir	きやっきやつ	kung cang	どんちゃん
hor seme	ふるふるっと	kunggur	ごろごろ
hüwalar	ざぶりざぶり	kutung	ごどん
kab kib	がぶがぶ	küwar	びりびりっ
kacar kicir	じゃりじゃり	küwas kis	ざくざく

or ir	(衆僧読経の声)	tab tib	ぱとりぱとり
pak pik	ぱちぱち	tak tik	ぱちりぱちり
piyak	ぴちゃり	u u	わあわあ
pus seme	ぶつりと	ung	ごーん
šeо seo	ひゅうひゅう		

□ 2 擬態詞 (Ideophonic Word)

buru bara	ほんやり	hoo seme	滔々と (水が流れる)
cik cik	絶えず	juju jaja	ひそひそ
hüi tai	ちょかちょかと	kara fara	かんかんに
kalu mulu	大ざっぱに	kata fata	せかせか
kas kis	てきぱき	kotong katang seme	かちんかちんと
kolor seme	がさがさと	murhu farhün	くらくらっ (と眩む)
koskon kaskan	せかせか	pulu pala	ぶらりぶらり
porpon parpan	ばらばら	teng tang seme	五分五分で、とんとん
tar sehe	ぎょっとした	tob tab	ぱつぱつ
terten tartan	ぶるぶる	yonggor seme	こんこんと (水が不斷に流れる)
cib cab	ひっそり		

□ 3 seme を伴う象徴詞

擬声詞・擬態詞の中には、引用 (quotative) の後置詞化した seme (と) を伴うものと、そうでないものとがある。

seme を伴って用いられるものには、次のものがある。

arkan seme	やっと	ler lar seme	ふわりふわりと
bur bar seme	どっさりと	liyar seme	べっとりと
cing seme	ぱっと	luk seme	むらむらと
der seme	群れをなして	ping seme	びんと
dur seme	わいわいと	pio seme	ふらふらと
fik seme	ぎっしりと	sar seme	さめざめと
hiyang seme	こらっと	ser seme	わずかに、細々と
hür seme	ぱっと	sur seme	ぶんぶんと、かんばしく
hüwalar seme	さらさらと	šeо seme	ひゅうひゅうと (風が吹く)
kek seme	気に入って	tob seme	びったりと
kob seme	びたりと	teng seme	しっかり、かちかちに

'babade hülha holo hibsui ejen i gese der 所々に賊盜が蜜蜂のように群れ

seme dekdefi. (M.Y. I. 15)

'genggiyen han emu dobori tolgin de garu
bulchen geren gasha *ler lar seme* deyere be.
(M.Y. V. 211)

'tere inenggi dobori abka *ser seme* agar
galandara oho manggi. (M.Y. IV. 155)

をなして起り.

英明汗は一夜夢に天鷲や鶴やも
ろもろの鳥がふわりふわりと飛
ぶのを.

その日の夜、天わずかに雨降
り、また晴れたので.

3

読本篇

読本篇では各見開き二頁をひと組とし、左頁に満洲文、右頁にはローマ字(†)、訳文(‡)、訳語(㊪)、漢文(§)が記してあります。読者はまず左頁の満洲文を自分でローマ字になおし、次に右頁のローマ字(†)と対照し、一応訳したのち、訳文(‡)を読むようにしてください。訳文はできるだけ原文に忠実に書いておきましたが、意訳したところもあります。

訳語(㊪)は余白が少なく、すべての語彙について解説することは到底できませんので、主な単語についてのみ記しました。もちろんこれでは足りませんので、後の「語彙篇」を参照してください。*印は参考用例です。動詞は読本篇の本文では多様な活用形で現われますが、訳語(㊪)では非完了終止形の~mbiの形で示しました。しかし例外的に本文の活用形のままに示したものもあります。動詞の活用形については、本書の「文法篇」を読むようにして下さい。なお、必要に応じて、参考・参考書(¶)を挙げてあります。余裕があれば繰いて下さい。

読本篇では「満漢合璧奏摺」の一つをテキストとして採用しました。この形式の奏摺では漢文奏摺も利用できますので、漢文も記しておきました。参考にして下さい。

長白山
高さ
二百里
周囲
千里
山の上
に闕門
とある
池がある
西に流れ
遼東の南
海に入っている
北に流れ
北の海に入っている
東に流れ
東の海に入っている
この三江に
宝貝、東珠
清らかな真珠
がである。白山
は風が強く、
土地が寒いので、
夏になると、まわり
の山の獸が皆白山
に行っている。日の浮き出る
方の浮き石ばかりの
白山とはそれである。

高さ
高い
里
一里二里の里、場所。
周囲
周囲。
うえ
上。
という
～という名の、有名な、名高い。
流れ出たもの。
出る、外へ出る、発する、現われる。
東
上、尊い。
西、下。
流れる、降りる、下る。
南の海。
前、昔。
海。
入っている。
入る、進入する、没入する、合格する。
真珠の一種、
tahūra(蛤蜊貝)から採れる、色白く光沢があり球形。
風などが強い、難しい、堅い、値段が高い、得意とする。
寒い、冷たい、寒さ。
軽石。

太陽の浮かび出る方、東方。
浮かぶ、昇る、わきおこる。
満洲実録

MANJU I YARGIYAN KOOLI

† golmin šanggiyan alin den juwe tanggū ba, šurdeme minggan ba, tere alin i ninggu de tamun i gebungge omo bi, šurdeme jakünju ba, tere alin ci tucikengge yalu, hüntung, aihu sere ilan giyang, yalu giyang alin i julergici tucifi wasihün eyefi, liyoodung ni julergi mederi de dosikabi, hüntung giyang alin i amargici tucifi amasi eyefi, amargi mederi de dosikabi, aihu bira wesihun eyefi, dergi mederi de dosikabi, ere ilan giyang de boobai tana, genggyien nicuhe tucimbi, šanggiyan alin edun mangga, ba šahürun ofi, juwari erin oho manggi, šurdeme alin i gurgu gemu šanggiyan alin de genefi bimbi, šun dekdere ergi ufuhi wehe noho šanggiyan alin teré inu.,

満洲実録

† 長白山、高さは二百里、周囲は千里。その山の上に闕門という名の池がある。周囲八十里、その山から出たものは、鴨綠、混同、愛滹と呼ぶ三江である。鴨綠江は山の南より出て西に流れ、遼東の南の海に入っている。混同江は山の北より出て北に流れ、北の海に入っている。愛滹河は東に流れ、東の海に入っている。この三江に宝貝、東珠、清らかな真珠がである。白山は風が強く、土地が寒いので、夏になると、まわりの山の獸が皆白山に行っている。日の浮き出る方の浮き石ばかりの白山とはそれである。

† den 高さ、高い。

ba 一里二里の里、場所。

šurdeme 周囲。 * šurdembī とり囲む、まわる。

ninggu うえ、上。

gebungge ～という、～という名の、有名な、名高い。

tucikengge 流れ出たもの。 * tucimbi 出る、外へ出る、発する、現われる。

wesihun 東、上、尊い。 * wasihün 西、下。

eyembi 流れる、降りる、下る。

julergi mederi 南の海。 * julergi 南、前、昔。 * mederi 海。

dosikabi 入っている。 * dosimbi 入る、進入する、没入する、合格する。

nicuhe 真珠の一種、tahūra(蛤蜊貝)から採れる、色白く光沢があり球形。

mangga 風などが強い、難しい、堅い、値段が高い、得意とする。

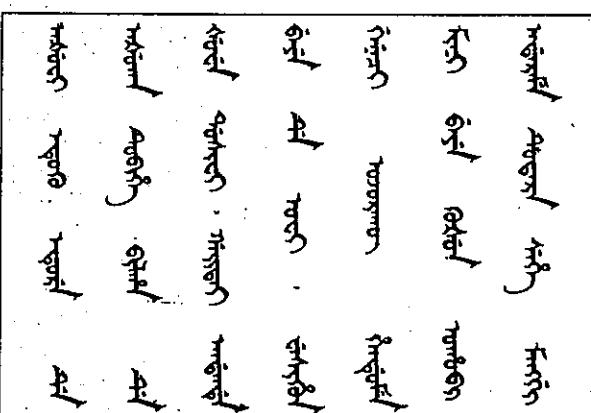
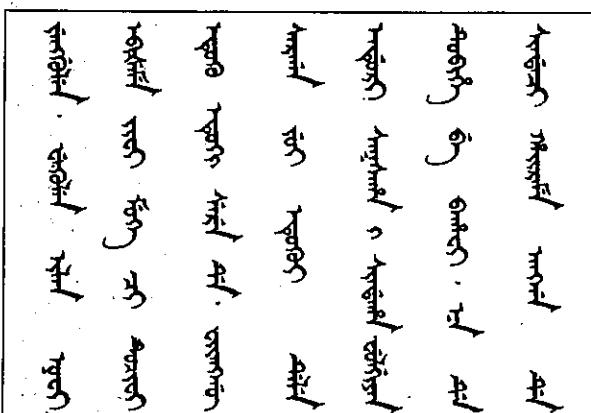
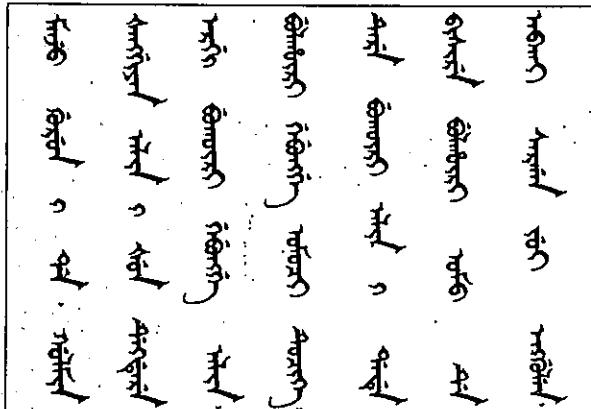
šahürun 寒い、冷たい、寒さ。

ufuhu wehe 軽石。

šun dekdere ergi 太陽の浮かび出る方、東方。 * dekdembī 浮かぶ、昇る、わきおこる。

* 満洲実録

長白山。高約二百里。周囲約千里。此山之上有一潭。名闕門。周囲約八十里。鴨綠・混同・愛滹三江俱從此山流出。鴨綠江自山南瀉出。向西流。直入遼東之南海。混同江自山北瀉出。向北流。直入北海。愛滹江向東流。直入東海。此三江中每出珠宝。長白山山高地寒。風勁不休。夏日環山之獸俱投憩此山中。此山盡是浮石。乃東北一名山也。



[†] manju gurun i da, golmin šanggiyan alin i šun dekkdere ergi bukūri gebungge alin, bulhūri gebungge omoci tucike, tere bukūri alin i dade bisire bulhūri omo de abkai sargan jui enggulen, jenggulen, fekulen ilan nofi ebišeme jifi muke ci tucifi etuku etuki sere de, fiyanggū sargan jui etukui dele enduri saksaha i sindaha fulgigan tubihe be bahafi, na de sindaci hairame angga de ašufi etuku eture de, ašuka tubihe bilha de šuwe dosifi, gaitai andande beye de ofi, wesihun geneci ojorakū hendume, mini beye kušun ohobi, adarame tutara sehe manggi,

[‡] 满洲國の源は長白山の日の浮き出る方、布庫哩という名の山、布勒瑚里という名の池より起った。その布庫哩山の麓にある布勒瑚里池に天の乙女、恩古倫、正古倫、仏庫倫の三人が水浴びに来て、水から出て着物を着ようとするとき、末の乙女が衣の上に神の鶴の置いた紅い実を手にとって、地面に掛けば惜しいと思い、口に入れて衣を着るとき、口に入れた実が咽喉にまっすぐにあってゆき、たちまちにして身ごもり、昇ってゆくことができなくなり、言う「わたくしの躰が身重になりました。なんで留まりましょう」と言うと、

[†] gurun 国(いまの国家とはやや異なり明末清初の满洲(女真)では小規模でも一定の地域をもち、まとまりのある政治的集団を gurun といった)。

da : 初め、起源、源。 2 根元、麓。 3 頭目、かしら。 4 審(ひろ)。 5 もともと。

bisire ある(bimbi の連体形(動名詞))。

sargan jui 娘、乙女、女兒、未婚女。 * sargan 妻。 * jui 子。

nofi 人を数える言葉、二人三人の人。 * emunofi 一人。 * udunofi 幾人。

ebišembi 入浴する、水浴びする。

etuku 着物。 * etumbi 着る。 * etuki 着たい、身につけたい。

fiyanggū 末子。

dele 1 ～の上に、～の外に。 2 上、主上、天子。

enduri 神。

saksaha かささぎ(鶴、中国東北、朝鮮、北九州地方に分布する)。

bahafi 手に取って、得て。 * bahambi 手に取る、できる、受け取る、会得する。

hairame 惜しがって、愛惜して、けちけちして。

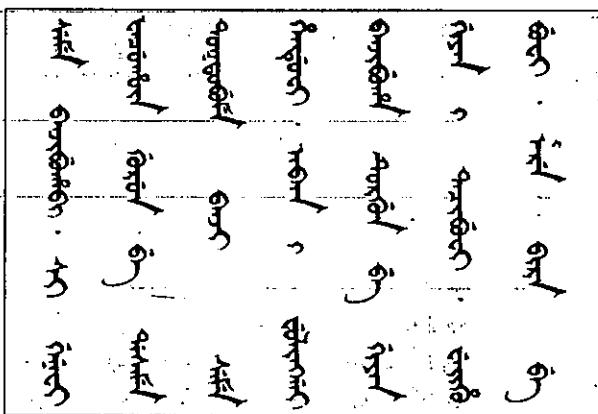
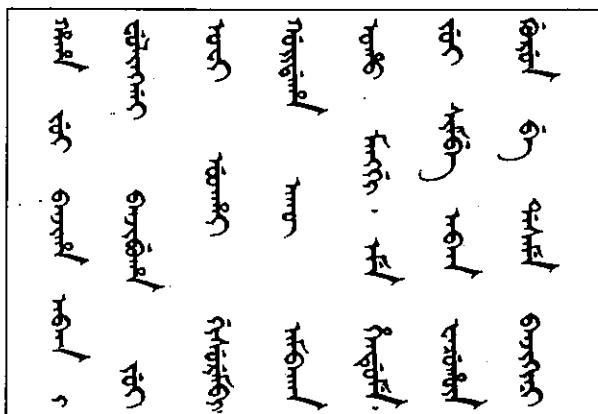
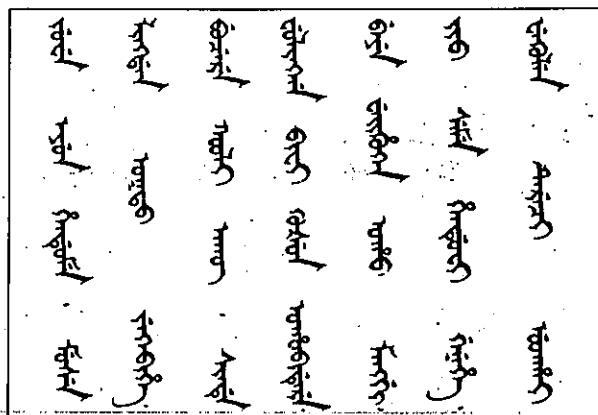
gaitai andande にわかに、突然。 * gaitai 突然。 * andande 直ちに。

beye de ofi 妊娠して。

-ci ojorakū できない。

adarame tutara どうして留まりましょう(留まりたくないという意味)。

[‡] 满洲原起於長白山之東北布庫哩山下一泊。名布勒瑚里。初天降三仙女。浴於泊。長名恩古倫。次名正古倫。三名佛庫倫。浴畢上岸。有神鶴。銜一朱果。置佛庫倫衣上。色甚鮮妍。佛庫倫愛之。不忍釈手。遂銜口中。甫著衣。其果入腹中。即感而受孕。告二姑曰。吾覺腹重。不能同昇。奈何。



[†]juwe eyun hendume, muse lingdan okto jekebihe, bucere kooli akū, sinde fulingga bifi kušun ohobidere, beye weihuken oho manggi, jio seme hendufi geneche, fekulen tereci uthai haha jui banjiha, abka i fulingga banjibuha jui ofi uthai gisurembi, goidaha akū ambakan oho manggi, eme hendume, jui simbe abka facuhün gurun be dasame banjikini seme banjibuhabi, si genefi facuhün gurun be dasame toktoburne banji seme hendufi, abka i fulingga banjibuha turgun be giyan giyan i tacibufi, weihu bufi, ere bira be

*二人の姉が言う、「私たちは靈丹の薬を食べていました。死ぬ道理はありません。あなたに天命があって、身重になったのでしょう。身が軽くなつて後、来なさい」と言って去つていった。仏庫倫はそれからやがて男の子を生んだ。天命をもつて生まれた子であつて、すぐにものを言った。間もなくやや長じた後、母が言った。「子よ、天があなたを、乱れた国を治めて生きるようにと生まれさせたのです。あなたは行って乱れた国を治め定めて生きなさい」と言って、天の命をもつて生んだいきさつを筋道を立てて説き聞かせ、小舟を与えて「この河を

*eyun 姉、同世代の近親者で自分より年長の女。

jekebihe: jeke 食った(jembi の完了連体形), jeke-bihe 食べていた。

kooli 例、定例、常例、しきたり、道理。

bucere kooli akū 死ぬはずがない、死ぬ道理がない。

fulingga 天命(を受けた人)。

ohobidere ~になったのであらう。 *ohobi ~になった、~となつた。 *dere ~であろう、~ではないか、~ではあるまいか。

kušun 不快、不愉快、胸のつかえた、身重。

weihuken 軽い。

abka i 天の。 *fulingga-i 天命の、天命をもつて、天命が。 *banjibuha 生まれさせた。 jio 来なさい(jimbi の命令形)。

uthai gisurembi (生まれて)すぐにものを言う。 *uthai 即座に、すぐさま。

goidaha akū いくばくもなく、間もなく、やがて。

ambakan やや大きい。

facuhün 亂れた、紊乱した。 2争乱、叛乱。

dasame 治めて。 *dasambi 1治める、統治する。 2改める、改正する。

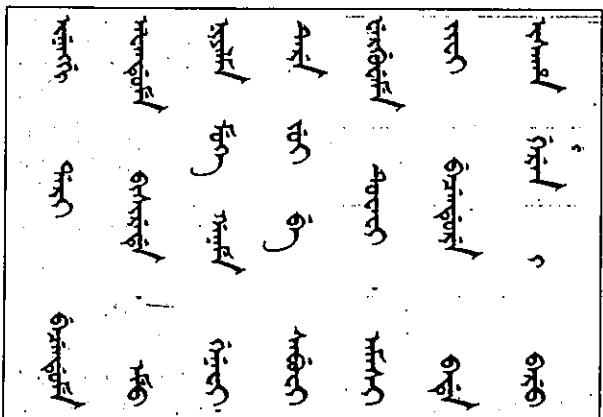
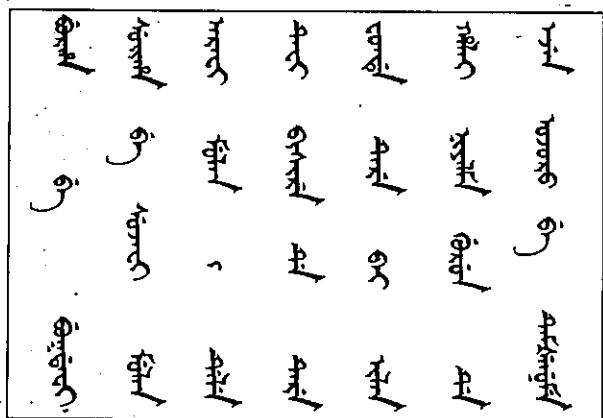
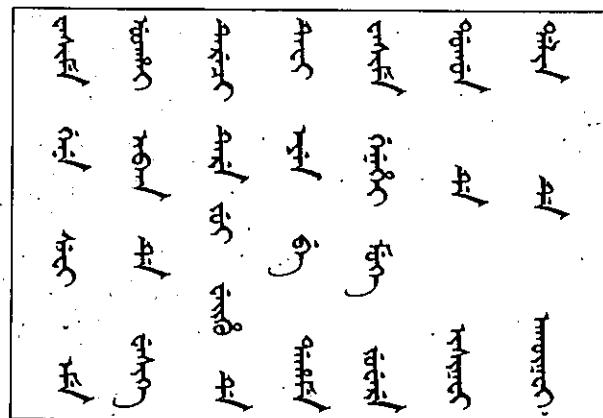
banjikini: banji-kini 生きられんことを、暮らされんことを。

giyan giyan i 理路明白に、つぶさに、諄々と… *giyan akū i 理由もなしに。

tacibumbi 教える、学ばせる、説き聞かせる、教唆する。

weihu まるき舟、小舟、独木舟。

*二姉曰。吾等曾服丹藥。諒無死理。此乃天意。俟爾身輕。上昇未晚。遂別居。佛庫倫後生一男。生而能言。俟爾長成。母告子曰。天生汝。實令汝以定亂國。可往彼處。將所生縁由。一一詳説。乃與一舟。順水去。



[†] wasime gene sefi, eme uthai abka de wesike, tereci tere jui weihu de tefi eyen be dahame wasime genehei, muke juwere dogon de isinafi dalin de akūnafi, burha be bukdafi, suiha be sujafii mulan arafi mulan i dele tefi bisire de tere fonde tere bai ilan halai niyalma gurun de ejen ojoro be temšenume inenggi dari becendume afandume bisirede, emu niyalma muke ganame genefi, tere jui be sabufi ferguweme tuwafi, amasi jifi becendure bade isaha geren i baru

[‡] 下って行きなさい」と言い、母はそこで天に昇った。それからその子は小舟に乗り、流れに沿って下ってゆき、水を運ぶ渡船場に着き、岸に到って柳を折り、蓬を組み合わせて腰掛けを造り、腰掛けの上に坐っていると、そのときその地の三姓の人々が、國の主人になろうと競い合って、日ごとに争い、一斉に攻め討ちあっていたとき、一人の人が水を汲みに行ってその子を見つけ、不思議な子だと思って眺め、戻ってきて、争いの場に集まつた人々に向かって

* wasime 下って。 * wasimbi (高い所から)くだる、降りる、痩せ衰える。

uthai そこで、すぐさま、即刻、直ちに、即座に。

tefi 乗つて。 * tembi 坐る、乗る、とどまる。

eyen 水の流れ。

be dahame ～に従つて、～だから、～ので。

muke juwere dogon 水を運ぶ渡し場。 * juwembi 運ぶ。

isinafi 着いて。 * isinambi 到る、及ぶ、到着する、着く。

dalin 川岸。

akūnambi 対岸に着く、力をつくす、周到ならしめる。

bukdambi 折る。

suiha sujafii よもぎを組み合わせて(柳の枝で腰掛けの骨組みを作りその上によもぎを組み合わせて敷き並べたのである)。

sujambi 四つに組み合う、(角力で)互いに組み合つて進まない、(手で)支える。

bisire de = bisirede ～しているとき。

fonde ～の時に、～の頃に。 * fon とき、時分。

ojoro ～となる、～となす、～をなす、～である、～にしよう、～することのできる。

temšenume 皆がそれぞれに争い合い、共に争い、競い合い。

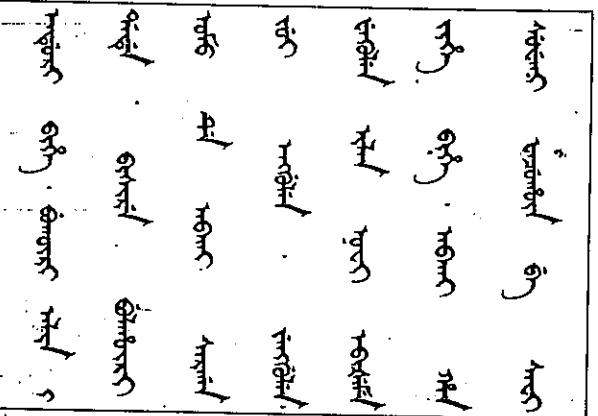
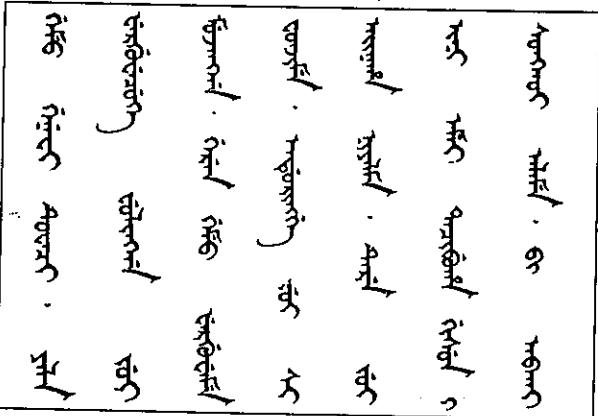
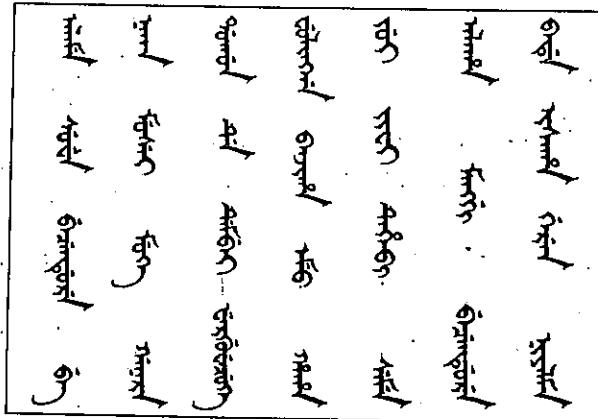
inenggi dari 日ごとに。 * dari ～ごとに、～毎に。

ferguwembi いぶかる、あやしむ、不思議がる、驚奇する。

amasi jifi もどつて来て、帰つて来て。

i baru ～に向かつて、～の方に。

* 即其地也。言訖。忽不見。其子乗舟。順流而下。至於人居之處。登岸。折柳條。為坐具。似椅形。獨踞其上。彼時。長白山東南鄂謨輝。鄂多理內有三姓。爭為雄長。終日互相殺傷。適一人來取水。見其子。舉止奇異。相貌非常。回至爭鬪之處。告衆曰。



[†] alame suwe becedure be naka, musci muke ganara dogon de dembei ferguweuke
fulingga banjiha emu haha jui jifi tehebi seme alaha manggi, becedure bade isaha
geren niyalma gemu genevi tuwaci, yala ferguweuke fulingga jui mujangga, geren
gemu ferguweme fonjime, enduringge jui si ainaha niyalma, tere jui ini emei tacibuh
gisun i songkoi alame, bi abkai enduri bihe, bukuri alin i dade bisire bulhuri omo de
abkai sargan jui enggulen, jenggulen, fekulen ilan nofi ebi seme jihe bihe, abkai han
suweni facuhun be safi

[‡] 言った。「あなた方、争うのを止めなさい。我々が水を汲んでいる渡船場に、まことに不思議な、天命が生んだ一人の男の子が来て坐っている」と告げたので、争いの場に集まっていた多くの人が皆行ってみると、まことに不思議な天命の子に違いない。多くの人々はみな不思議に思って問い合わせた。「神の子よ。あなたはどのような人なのか」。その子は彼の母が教えた言葉の通りに言った。「わたしは天の神であった。布庫哩山の麓にある布勒瑚里池に天つ乙女恩古倫、正古倫、佛庫倫、三人が水浴びしようと来ていた。天の汗があなた方の騒乱を知って、

[†] alame 言うには。 * alambi 告げる、言う、申したてる、訴える。

naka やめよ(nakambi の命令形)。 * nakambi 止める、(役職を)罷める。

muke ganara dogon 川岸の水汲みの渡船場。 * ganambi 取りに行く。

dogon (河川の) 渡し場、船着き場、渡船場。

dembei 極めて、甚だしく、非常に、まことに。

ferguweuke たぐい稀な、神秘な、驚異とすべき、奇とすべき、不思議な、非凡な。

manggi ～した後、～した時に、～したので、～したら、～すると。

isaha 集まった。 * isambi 集まる、集合する。

geren 多くの、衆多の、多くの人々、衆人、(各人の)各、もろもろの。

niyalma 人、人間、成人。

gemu みな、俱に、すべて、ことごとく。

tuwaci 見れば。 * tuwambi 見る、看る、見守る、顧みる、試みる。

yala 本当に、真に、殊に、まことに。

mujangga ～に違いない、果たしてそうだ、当然だ、もっともなことだ、本当だ、全くだ。

ferguweme 不思議がって。 * ferguwembi 奇とする、驚異とする、珍しがる、怪しむ。

fonjime 問うには。 * fonjimbi 問う、訊ねる。

enduringge 神の。

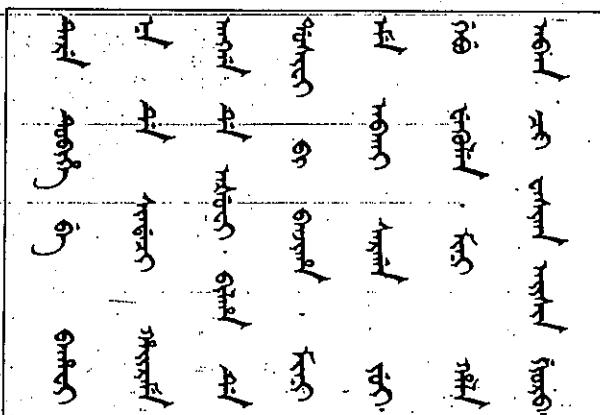
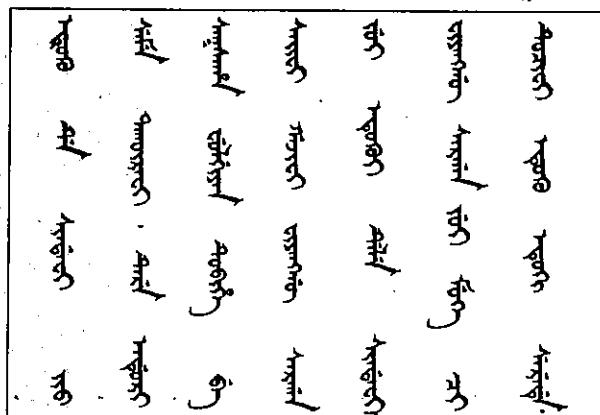
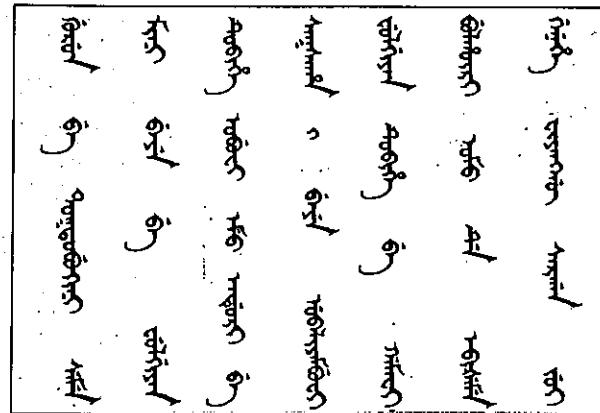
ainaha ～のようだ、どうしたのか、どうしたというのか。

i songkoi ～の通りに、～と同様に、～に従い、～に照らして、跡をつけて。

dade (山の) 麓に。 * da もと、元。

han 汗(カン)、可汗、君主。

^{*} 汝等無争。我於取水處。遇一奇男子。非凡人也。想天不虛生此人。盍往觀之。三姓人聞言。罷戰。同衆往觀。及見。果非常人。異而詰之。答曰。



[†]gurun be toktobukini seme mini beye be fulgiyan tubihe obufi, emu enduri be saksaha i beye ubaliyambuhi fulgiyan tubihe be gamafi, bulhūri omo de ebišeme genehe, fiyanggū sargan jui etuku de sindafi jio seme takūrafi, tere enduri saksaha fulgiyan tubihe be saifi gajifi fiyanggū sargan jui etukui dele sindafi, fiyanggū sargan jui muke ci tucifi etuku etuki serede, tere tubihe be bahafi na de sindaci hairame angga de ašufi, bilha de dosifi bi banjiha, mini eme abkai sargan jui, gebu fekulen, mini hala abka ci wasika aisin gioro,

[‡]国を平定させようと、わたくしの体を紅い実になし、一人の神を鶴の体に変え、紅い実を持って行って布勒瑚里池に水浴びに行った末の乙女の衣に置いて来いと遣わした。その神鶴は紅い実をくわえ、持って行って末娘の衣の上に置いた。末娘は水から出て着物を着ようというとき、その実を手にとって地にすて置けばもったいないと口に含むと、咽喉に入ってわたくしが生まれたのだ。わたくしの母は天の乙女、名は仏庫倫。わたくしの姓は天より降った愛新覚羅。

[†]toktobuki 平定させたい。 * toktobumbi 1 平定する, 安んじる。 2 判決する, 決裁する。
tubihe 木の実, 果実, くだもの。

obufi ~となし。 * obumbi ~となす, ~とする。
ubaliyambuhi 変えて。 * ubaliyambumbi 変える, 翻訳する。

gamafi 持っていって。 * gamambi 持って行く, 取って行く, 連れて行く, 処理する, 処する, 掠める。

sindafi 置いて。 * sindambi 置く, 配置する, 官に任ずる, 冰が解ける, 放つ, 葬る。
takūrafi 遣わして。 * takūrambi 人を遣わす, 派遣する, 人を召し使う。

saifi 口にくわえて。 * saimbi 咬む, 咬みつく, 口にくわえる。

gajifi 持ってきて。 * gajimbi 持って来る, 取って来る, 連れて来る, 連れて帰る, 伴う。

serede ~というとき, ~しようとして。

bahafi 手に取って。 * bahambi 得る, 手に取る。

na 地, 土地。

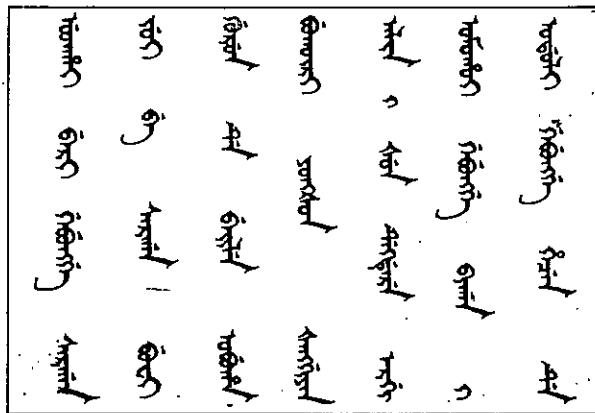
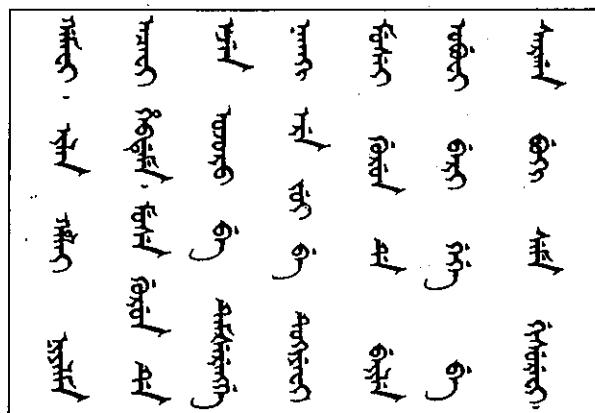
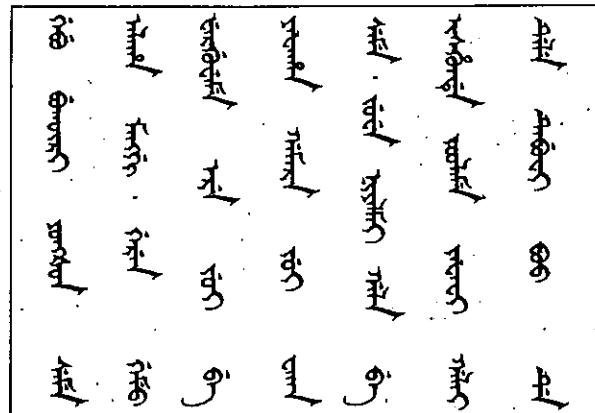
angga 1 口, 関口。 2 山の隘口。

hairambi 慈しむ, 愛する, 惜しむ, もったいないと思う。

hala 姓, 一つの族。

aisin gioro 愛新覚羅(満洲族の姓氏。後に金, 趙, 肇, 羅などの漢字の姓に改められた。もともと明代の女真の一姓で、一族は代々今の遼寧省新賓県一帯に居住した。清の太祖ヌルハチの父 taksi(塔克世)の直系の子孫は宗室として愛新覚羅姓を名乗り、後に俗に「黄帶子」と称せられた。また taksi の伯, 叔, 兄, 弟の後裔は覺羅姓を名乗り俗に「紅帶子」と呼ばれた)。

* 我乃天女佛庫倫所生。姓愛新覺羅。名布庫哩雍順。天降我。定汝等之亂。因將母所囑之言。詳告之。



[†]gebu bukūri yongšon seme alaha manggi, geren gemu ferguweme ere jui be yafahan gamara jui waka seme, juwe niyalmai gala be ishunde joolame jafafi galai dele tebu boo de gamafi, ilan halai niyalma acafí hebde me, muse gurun de ejen ojoro be tem-šerengge nakaki, ere jui be tukiyefi musei gurun de beile, obufi beri gege be sargan buki seme gisurefi, uthai beri gebungge sargan jui be sargan bufi gurun de beile obu-ha, bukūri yongšon šanggiyan alin i šun dekkdere ergi omohoi gebungge bigan i odoli gebungge hecen de

[‡]名は布庫哩雍順である」と言ったので、多くの人々はみな不思議に思い、この子は徒歩で連れて行く子ではないと、二人の人が手を互いに組んで手の上に坐らせ、家に連れて来て、三姓の人々が会ってはかるには、「我々は國で主人となろうと争うことを止めよう。この子を挙げて我々の國に貝勒とし、百里格格を妻として与えよう」と言って、そこで百里と言う名の娘を妻として与えて國で貝勒となした。布庫哩雍順は白山の日出る方、鄂謨輝という名の野の鄂多理という名の城に

[†]yafahan 徒歩で、歩いて、徒歩、歩行。

waka ~ではない、いない、存在しない、非、誤っている、愆。
gala 手(腕から指に至るすべてを含む称)。

ishunde たがいに、相互に。 * ishun 相向かいの、向こうの。
joolambi 両手を組み合わせる、手を束ねる、手を拱く。

jafambi 取る、摘む、手にする。
boo 家、房屋、部屋。

acambi 1会う、会見する。 2和睦する。
hebdeme 相談するには。 * hebdembi 相談する、談合する、議する。

nakaki 止めたい。 * nakambi 1止める。 2(官職を)退く、辞める。
tukiyembi 挙げる、登用する、担ぐ、持ち上げる。

beile 貝勒、滿洲族の爵位の一(もともと女真語の「勃極烈」に起源を持つ語らしい。はじめ女真各部中で有力な部族の長がこの称号を称していたがヌルハチ時代にはこの称号が援用され、最高の品級の者を「和碩貝勒」と呼び次を「多羅貝勒」と呼ぶようになった。後金國時代初期には代善、阿敏、莽古爾泰、皇太極の四大貝勒がヌルハチを補佐し権勢は極めて大きかった。崇徳元年(1636)、爵位を定め貝勒を親王、郡王の下においた)。

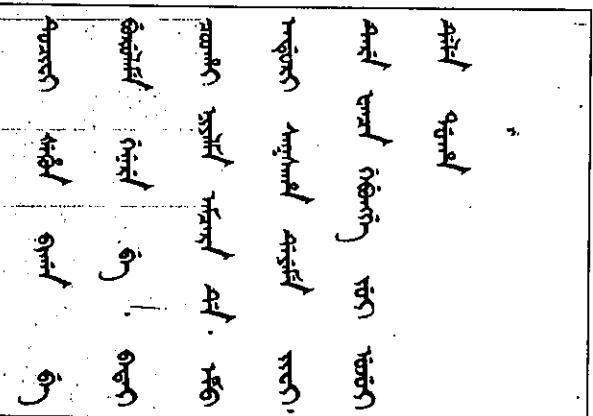
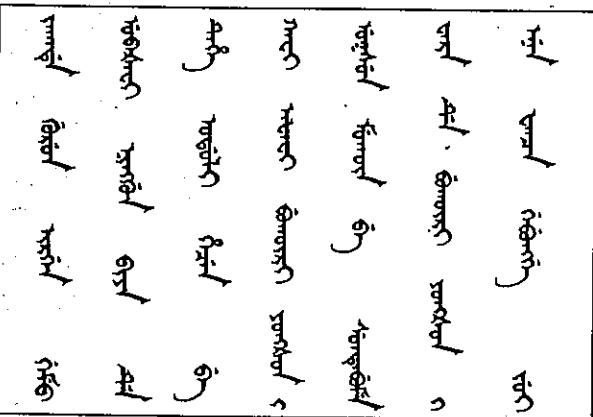
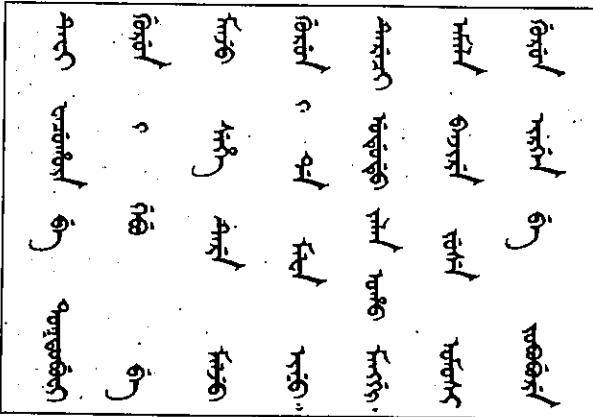
gisurefi 議して。 * gisurembi 話す、言う、説く、語る、議する。

sargan bufi 妻として与えて、娶せて。
bigan 野、野原。

omohoi 鄂謨輝(地名)。

odoli 鄂多理(地名)。

[‡]衆皆驚異曰。此人不可使之徒行。遂相搏手為輿。擁捧而回。三姓人息争。共奉布庫哩雍順為主。以百里女妻之。



[†]tefi facuhūn be toktobufi gurun i gebu be manju sehe tere manju gurun i da mafa inu,, tereci ududu jalan oho manggi, amala banjire juse omosi gurun irgen be jobobure jakade gurun irgen gemu ubašafi ninggun biya de tehe odoli hecen be kafi afasi bukūri yongšon i uksun mukūn be suntebumie wara de, bukūri yongšon i enen fanca gebungge jui tucifi šehun bigan be burulame genere be, batai coohai niyalma amcara de, emu enduri saksaha deyeme jisi, tere fanca gebungge jui ujui dele doha,

[‡]留まり、騒乱を鎮めて、國の名を満洲と称した。それが満洲國の始祖である。それより数代たった後、後に生まれた子らや孫たちは国民を苦しめたので、国民はみなそむき、六月に、住んでいた鄂多理城を囲み攻めて布庫哩 雍順の一門一族を亡ぼし殺すとき、布庫哩 雍順の後胤の焚察と言う名の子が逃れ出て、荒れ野を逃げて行くのを、敵の兵のものが追っていると、一羽の神鶴が飛んできてその焚察という子の頭の上に止まった。

[†]manju 满洲(民族名、国名、ヌルハチは建州女直を統一するとその國を manju gurun と称した。しかし民族名としてはこれまでどおり jušen 女真と称していた。しかし清朝第二代の太宗ホンタイジが天聰九年(1635)、民族名を女真と称することを禁じ満洲と呼ぶように下命したので、これ以後、民族名としては満洲がもっぱら用いられるようになった)。

da mafa 始祖、高祖。

inu 1 ~である、正しく~だ。2 そうだ、違いない。3 ~もまた。

ududu (数千、数万などの)数、多くの。

jalan 1 世代、世。2 甲喇(満洲軍の部隊編成の一隊)、関節。

oho ~となった、~になった(ombi の完了連体形、完結したこと示す詞)。

-re jakade 1 ~の故に、~なので、~のために。2 ~の方に、そばに、はたに。

ubašambi 1 そむく、謀反する。2 耕す。

suntebumbi 滅ぼす、皆殺しにする、殺し尽くす。

wambi 殺す。

bata 敵、あだ。

* 其國定號満洲。乃其始祖也。歷數世後。其子孫暴虐。部屬遂叛。於六月間。將鄂多理攻破。盡殺其閩族。子孫內有一幼兒。名焚察。脫身走至曠野。後兵追之。會有一神鶴棲兒頭上。

①以上のはなしは「満洲実録」の冒頭の一節です。「満洲実録」については、次のような参考書や研究論文があります。

今西春秋「満和蒙和対訳 滿洲実録」刀水書房, 1992, 800 pp.

上原久「満洲実録の研究」不昧堂書店, 1960, 564 pp.

松村 潤「清朝の開國説話について」「山本博士還暦記念東洋史論叢」山川出版社, 1972, pp. 431-442.

ニシャン・サマン伝

julgei ming gurun i forgon de, emu lolo sere, gašan bihe, ere tokso de tehe, emu baldu bayan sere, gebungge yuwan wai, boo banjirengge, umesi baktarakū bayan, takūrara ahasi morin lorin jergi toloho seme wajiraku, se dulin de emu jui banjifi, ujime tofohon se de isinafi emu inenggi boo ahasi sabe gamame, heng lang ſan alin de abalame genefi, jugūn i andala nimeku bahafi bucehebi, tereci enen akū jalin fachiyaſame, yuwan wai eigen sargan, damu sain be yabume, juktehen be niyeceme weileme, fucihi de kesi baime hengkiſeme, enduri de jalbirame (jalbarime), ayan hiyan be jafafi, ba bade hiyan dabume, geli yadahūn urse de aisilame, umudu be wchiyeme, anggasi be

ニシャン・サマン伝では特別の綴り字を記している場合があります。()内の文字は、それを『清文鏡』等に現われる普通の文字になおしたもので

ニシャン・サマン伝

*むかし明國の時代に、ロロという一つの村があった。この村莊に住んでいた一人のバルドゥ バヤンという高名な員外は家計がはなはだ豊かな物持ちで、召使っている奴僕、馬、駆馬などは数えようとしても数えきれなかった。中年にして一人の子をもうけ、養って十五歳になったある日、家僕等を伴いヘンランシャン山に狩りに行き、途の半ばに病を得て死亡した。それから子孫がないので憂い悩み、員外夫妻はただひたすら善を行ない、寺觀を補修造営し、仏に恩沢を請うて叩頭し、神に祈りを捧げ芸香を奉り、諸所に香を焚き、また貧しい人々を助け、孤児をみとり、やもめを

julgei 古い、昔の。

forgon 1 時期、時季、時、季節。2 運。

gašan 村、郷村。

tokso 莊園、莊屯、村莊(耕作人を居住させる所)。

baldu bayan 人名(bayanは富者という意)。

yuwan wai 員外、員外郎の略、定員外の官(員外は金を出して買うことができたので富人の通称となっていた)。

boo banjirengge 家計。 * banjimbi 暮らす、日を過ごす、生む、生える。

umesi 甚だ、ひどく、頗る、極めて。

baktarakū 入りきれない、収まらない。

baktarakū bayan 入りきれない(持ちきれない)ほど富裕な、大いに富んだ。

toloho seme wajiraku 数えたとて終わらない、数えようとしても数えきれない。

se dulin de 歳の半ばにして、中年にして。

abalame genefi 狩猟に行き、巻き狩りに行き。

andala 中途、途中、事の半ば、半途。

nimeku 1 病氣。2 気がかり、懸念。

hengkiſembi 幾度も叩頭しつづける。

jalbirame 恐らく jalbarime の書きまちがいであろう。 * jalbarimbi 祈禱する、祈る。

[†] aitubume, sain be yabufi iletulere jakade, dergi abka gosifi susai se de arkan seme emu jui ujifi, ambula urgunjeme gebu be uthai susai sede banjihha, sergudai fiyanggo seme gebulembi, tana nicuhe gese jilame, yasa ci hokoburakū ujime, sunja sede isinafi tuwaci, ere jui sure sekta, gisun getuken ojoro jakade, uthai sefu solifi, boode bithe tacibume, geli coohai erdemu gabtan niyamniyan be urebuš ūn biya geri fari gabtara sirdan i gese hodon (hūdun) ofi, tofohon sede isinafi, gaitai emu inenggi sergudai fiyanggo ini ama eme be acafi, baime hendume, mini taciba gabtan niyamniyan be cenderme, emu mudan abalame tuciki sembi, ama i

[‡] 救い, 善を行なうことが顕著であったので, 上天が憐れみ, 五十歳にしてようやく一人の子をもうけた。大いに喜び, 名をすぐさま五十歳で生まれたセルグダイ フィヤンゴと名づけた。東珠や真珠のように慈しみ, 目を離さず養い, 五歳になってみれば, この子は聰明利口で, 言葉もはっきりしていたので, ただちに教師を招き, 家で書を学ばせ, また武術, 射弓, 騎射を習わせた。日月は茫茫として射矢のように早く過ぎ, 十五歳になった。突然ある日, セルグダイ フィヤンゴは彼の父母にあい, 頼って言うには, 「私が学んだ射弓騎射を試しに, 一度狩りに出たいと思います。父上が

[†] aitubumbi 助ける, 救う, 救助する. [‡] 病気を快方に向かわせる.

iletulembi 顕われる, 顕著になる, 明らかになる, 出現する.

gosimbi 慈しむ, 愛する, 憐れに思う.

susai 五十. *susai se 五十歳.

arkan seme やっと, ようやく, わざかに.

urgunjembi 喜ぶ.

gebulembi 名づける, 称する, 名指す.

gese ～のよう, ～のよう, ～と同様に, ～と似た, ひとしく.

jilambi 慈しむ, 憐れむ.

yasa ci hokoburakū 目から離さない. *hokobumbi 離す, 解任する.

ujimbi 養う, 育てる, 生かす.

sure 聰明, 賢い, 聰い.

sekta (子供が年に似合わず)利口な, 利発な.

getuken (頭脳・言語などの)明晰な, はっきりと, 明白な(事), 条理明白な.

sefu 師傅, 教師.

solimbi 招待する, 招く.

tacibumbi 学ばせる, 教示する, 示教する.

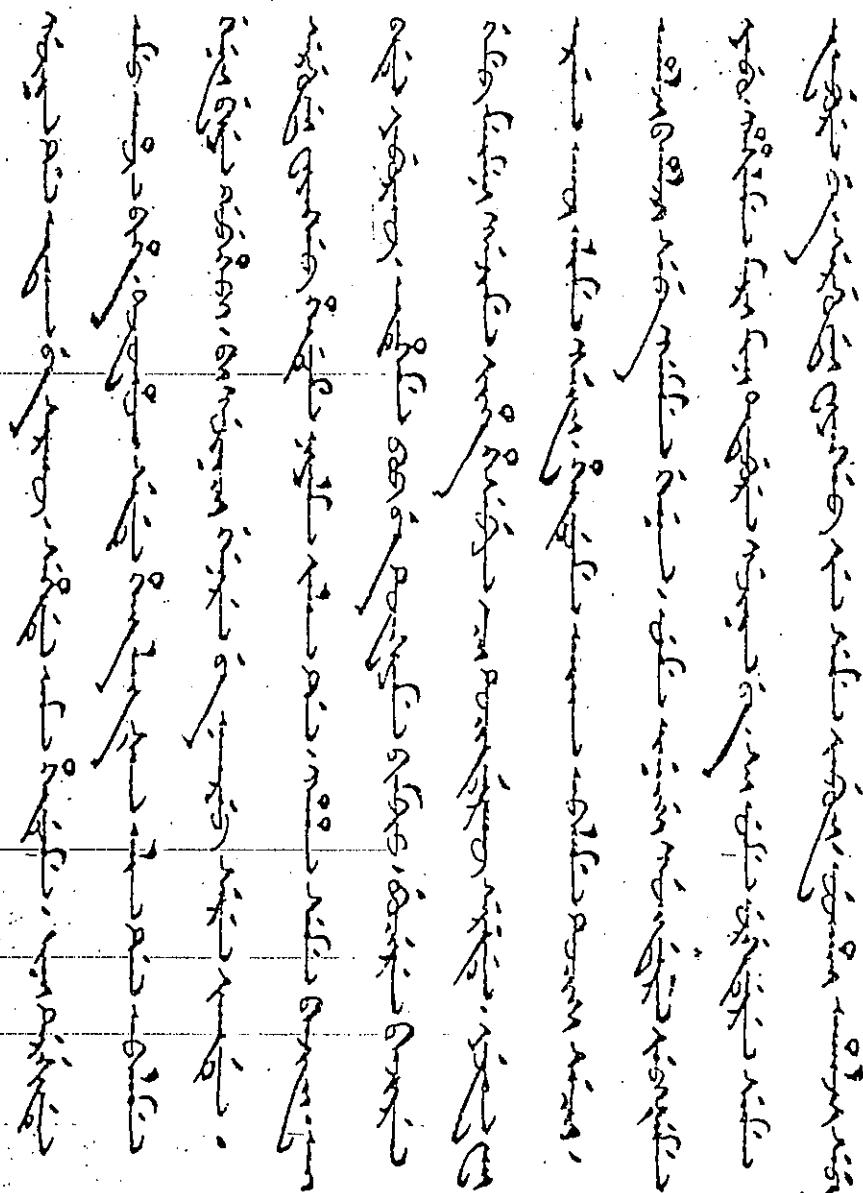
geli また, なおまた, 今度, 再び, その上, それに.

erdemu 德, 才能. *coohai erdemu 武術. *gabtan 射弓. *niyamniyan 騎射.

urebumbi 習わせる, 熟練させる, 精通させる, 復習させる.

geri fari 茫々として, 恍惚として.

hūdun 速やかに, 速く, 急ちに, 快速に.



[†]günin de antaka be sarakū (sarkū), sehede ama hendume, sini dergide emu ahün bihe, tofohon sede heng lang šan alin de abalame genefi beye dubhebi, bi günici genere be nakareo sere jakade, sergudai fiyanggo hendume niyalma jalan de, haha seme banjifi, ai bade yaburakū, enteheme boo be tuwakiyame bimbio, bucere banjire gemu meime-ni gajime jihe hesebun ci tucinderakū serede, yuhan wai arga akü alime gaifi, hendume aika abalame tuciki seci, ahalji bahalji sebe gamame gene, ume inenggi goidara jebkešeme yabu, hahilame mari mini tatabure günin be, si ume urgedere seme afabure be, sergudai fiyanggo je seme jabufi, uthai ahalji sebe

[‡]心中どう思われるかわかりません」と言うと、父は言った。「お前の上にもう一人兄がいた。十五歳の時ヘンランシャン山に狩りに行き、死んでしまった。私は思うのだが、行くのを止めないか」と言ったので、セルグダイ フィヤンゴは言った。「人の世に男として生まれ、何処にも行かず、永久に家を守っているのですか。死生はみな各自が持ってきた天命から逃れ出られないでしょう」と言うと、員外は仕方なく承知して言った。「もし狩りに出たいというのなら、アハルジ、バハルジ等を連れて行きなさい。決して日を久しく過ごしてはなりません。気を付けて行きなさい。いそいでもどりなさい。私の心配にお前は決してそむいてはなりません」と言い付けたのを、セルグダイ フィヤンゴは「はい」と答え、すぐさまアハルジ等を

[#]günin 意、意志、意向、心。

antaka どうか、どんな、どんなに、どんなか、如何に。

sarkū 知らない(sambi の否定終止形)。* sambi 知る、わかる、伸び開く。

hendume ～の言うには(hendume の次の語句が言葉の内容)。

ahün 兄(同世代の近親者の中で自分より年長のもの)。

dubehebi 世を終わった、死んだ。* dube 終わり、先、先端、はし、結論、結果。

günici 思えば、思うには。* günimbi 思う、考える。

nakareo (nakarao?) 止めたらどうか(前望疑問形)。

ai 何の、何、何と、どんな、どうして～しよう。* ai bade 何処に。

enteheme 永久に、永遠に、永久の、恒常的、常に。

tuwakiyambi 見守る、(牧畜の群が草を食むのを)見張る、守りを固める。

bimbio いるのか、あるのか(疑問終止形)。

bucembi 死ぬ。

hesebun 天命、天性、天の理。

tucinderakū 出まい、出ないであろう。* tucimbi 出る、逃れ出る、事が起る。

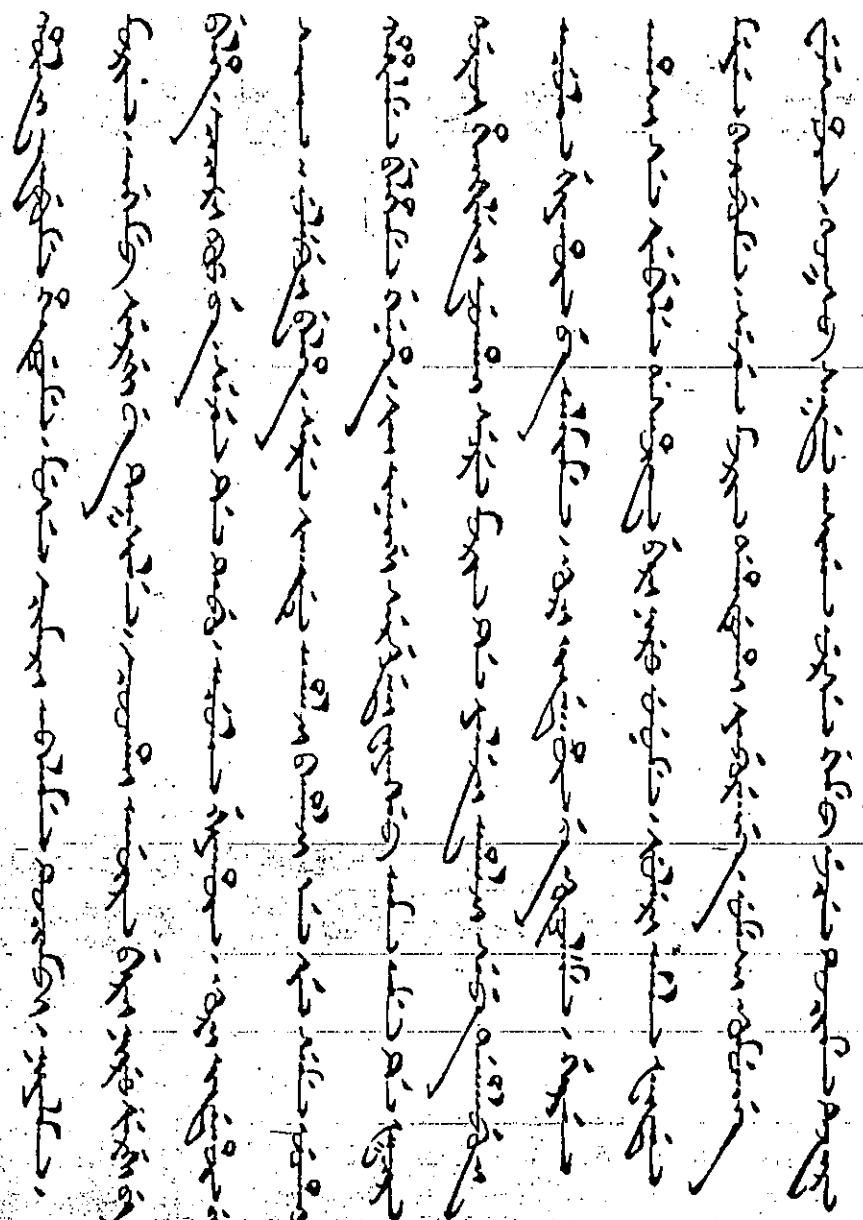
arga akü 仕方なく。* arga 方法、計略、策略。

alime gaimbi 承知する、承認する、待つ、迎える、受け取る。

ume -ra etc. 決して～してはならない。

tatabumbi さしでがましく言う、ひきとめる、ひかせる、止める。

afabumbi 命ずる、言いつける、わたす、交付する、交与する、委ねる。



† hūlafi afabume hendume, muse cimari abalame tucimbi, niyalma, morin, enggemu jergi, be teksile, coohai agūra beri niro jergi be belhe, cacari boo be, sejen de tebu, aculan (anculan) giyahūn kuri indahūn be saikan i ulebufi belhe, sere jakade ahalji bahalji se je seme uthai hahilame belhemē genehe, jai inenggi sergudai fiyanggo ama eme de fakcara doroi hengkilefi uthai sure (suru) morin de yalufi ahalji sebe dahalabufi aculan (anculan) giyahūn be almime (alamime), kuri indahūn be kutuleme, geren ahasi se jebele dashūwan beri niro unume, juleri amala faidan meyen banjibume, sejen morin dahanduhai yaburengge, umesi kumungge wenjeshūn (wenjehun).

* 呼び命じて言った。「私たちは明朝狩りに出かける。人、馬、鞍などをととのえ、武器、弓箭などを備え、幕舎を車に積み込め。鶴鳩鳥、虎紋の犬によく餌を与えて準備しなさい」と言ったので、アハルジ、バハルジ等は「はい」と答え、すぐさま急いで支度にいった。翌日、セルグダイ フィヤンゴは父母に別れの礼で叩頭し、ただちに白馬に乗り、アハルジ等を従え鶴鳩鳥を背にし、虎紋犬を牽き、多くの奴僕等が箭袋、弓矢を背に負い、前後に隊伍を組み、車馬が踵を接しながら行くさまは、はなはだ豪華殷盛であった。

* hūlambi 声を出して呼ぶ、声を出して読む。

cimari 明日、明朝、早朝、あけがた。

enggemu (馬その他に用いる) 鞍。

jergi ~など、等、等級、品級、官の階級、輩、度、回、位、列、諸~。

teksilembi ととのえ揃える、隊伍を整える、整頓する、齊しくする、均整をとる。

niru 1 矢(把箭 kacilan(練習用の矢)に較べて羽が大きく鏃が厚い。獸を射るのに用いる)。2 ニル(百人の男子を以て編成した軍団、旗の基本単位)、佐領。

cacari boo 天幕、幕舎。

anculan giyahūn (『大清全書』1:21Bにこの語は記されるが、何故か訳語は示されていない)。ワシミニミズク、鶴鳩鳥。

kuri indahūn 虎のような斑紋のある犬。

saikan i よく。* saikan 美しい、好い、よく。

ulebumbi 家畜に餌を与える、養う、食物をあてがう。

je はっ(貴人の呼ぶのに答える詞)。

hahilame 急いで、急速に。* hahilambi 急ぐ、急速にやる。

belhembi 準備する、備える、予備する、支度する。

fakcambi 別れる、離れる、裂ける、離開する。

doro 1 礼、礼儀、礼物。2 道、道理、條理。3 常例、作法。4 政治。5 講和。

hengkilembi 叩頭する、跪いて頭を地につける。

kutulembi (馬などの)口をとる、馬を牽く。* kutule 旗人に隨從する奴僕、従僕。

dahanduhai 引き続いて、次々と踵を接して。* dahandumbi 一齊に従う。

† 河内良弘「ニシャン・サマン傳訳注」[京都大学文学部研究紀要]第26号、1987。

宮中檔雍正朝滿漢合璧奏摺 雍正元年五月十六日

† beidere jurgan i alilha amban uksun i foge sei gingguleme wesimburengge; hese be baire jalin, gūsai ejen rasi, aba i babe giyarire janggin abida sei jafaha aba i bade hūlhame buthašame yabuha cang el sebe wesimbuſi benjihe emu baita be, beideci, cang el i jabunde, bi gulu šanggiyan i monggo gūsai sandase nirui sula ayusi, booi niyalma, moltosi dukai tule san doo ing dzi i bade tehebi, ere aniya duin biyai orin jakün de, meni emu nirui sula erhetu, sula jasi booi nasutu, hoocit i yambal wang ni harangga monggo meljin, šandung ni irgen ts'ui siyang, mini boode tefi, sula gisun gisurere de, bi ceni baru, muse baita akū bai bisire anggala, aba i bade geneſi buthašame yabuki, baha gurgu be dendecefi jeki seme guileme henduhede, erhetu se gisun dahafi, mini beye emu miyocan

‡ 刑部尚書，宗室の佛格等が謹奏する事，旨を請う為にす。都統拉錫が園場巡察章京阿必達等の捕らえた、園場でひそかに狩猟した長児等を具題咨送した一案を査するに、長児の供述に「私は正白旗蒙古旗下の三達色ニル下の閑散阿玉璽の家人です。古北口関の外山道營子の地方に住んでいました。今年四月二十八日、我々と同じニルの閑散厄爾黑兔、閑散渣錫の家人納蘇兔、嵩齊忒の燕木畢兒王の属下の蒙古墨爾津、山東の民の崔相がわが家で世間話をしていた時、私は彼らに向かって「我々は仕事もなくぶらぶらしているくらいなら、園場に行って狩りをしよう。つかまえた獣は皆で分けて食べよう」と寄り集まって言ったところ、厄爾黑兔は言葉に従った。私自身は一丁の小銃、

† wesimburengge ... jalin. wesimburengge (上書)と jalin (為め)との間の文字がこの奏摺の題目である。wesimburengge も jalin も括弧のようなもので深い意味はない。

beidere jurgan 刑部。

alilha amban 尚書。

gūsai ejen 都統。

aba i ba 園場(園場は獣類を養い狩猟の用に備える所で熱河、盛京、吉林などに設けられていた。本来人民の狩猟と開墾は許されていなかった)。

beideci 査するに、取り調べたところ。

jabunde 供述に。 *jabumbi 答える。 *jabun 陳述、応答。

sula 閑(閒)散、任官していない、まだ一定の職務に就いていない。

sula gisun 無駄話、世間話。 *gisun ことば。

* 刑部尚書臣宗室佛格等謹奏、為請旨事。都統拉錫具題咨送查園章京阿必達等拿送在園場處偷打牲之長児等一案審據長児供、我係正白旗蒙古旗下三達色佐領下閑散阿玉璽家人，在古北口外三道營子地方居住，今年四月二十八日，本佐領閑散厄爾黑兔、閑散渣錫家人納蘇兔、嵩齊忒燕木畢兒王屬下蒙古墨爾津，山東民崔相在我家坐着說閒話時，我向他們說我們無事，與其白聞 不若到園場處去打牲，將得的牲口分喫，如此會合說時，厄爾黑兔等依允，我帶一桿鳥鎗。

滿洲語文書

滿洲語文書

滿洲語文書

juwe indahün, erhetu emu miyoocan be gaifi, nasutu sei emgi emte morin yalufi, sasa hülhame aba i bade dosifi buthašame yabure de, ingtu, cilotu acan i bade isinaha manggi, bi emu buhü be miyoocalame wafi, efulefi acifi jidere be giyarire hafan cooha de jasabuha, mini ejen ayusi encu tehebi, mini hülhame buthašame yabuha babe i sarkü sembi, erhetu, nasutu, meljin, ts'ui siyang gemu cang el i emu songkoi ceni beye alime gaimbi, baicaci, elhe taifin i ninjuci aniya aba i bade hülhame buhü waha cangming be amban meni jurgan, coohai jurgan i emgi acafi beidefi, ilan biya selhen etubufi tanggū šusihā tantame gisurefi wesimbuhi wacihiyaha be dangse de ejehabi, cang el erhetu, nasutu, meljin, ts'ui siyang be cangming ni kooli songkoi gemu ilan biya selhen etubufi, güsai niyalma cang el, erhetu, nasutu, meljin be

*二匹の犬を、厄爾黒兎は一丁の小銃を持ち、納蘇兎等と共に各一頭の馬に乗り、一同ひそかに圍場に入り獵をした時、英団と齊洛圖との交界の所にやって来下さい、私は一匹の鹿を鉄砲で撃ち殺した。解体し馬に負わせて来るところを巡査の官兵に捕えられた。私の主人阿玉璽は別居していて、私がひそかに狩猟したことを彼は知りません」と言っている。厄爾黒兎、納蘇兎、墨爾津、崔相は俱に長児と同様に彼ら自身認めている。査するに、康熙六十年圍場でひそかに鹿を殺した常明を臣等が部は兵部と会同し審問し、三個月間枷号をつけさせ、百回鞭で打つように譲し、具題し完結し、そのことを檔案に書きとどめた。長児、厄爾黒兎、納蘇兎、墨爾津、崔相を常明の例に照らし、俱に三個月間枷号をつけさせ、旗人長児、厄爾黒兎、納蘇兎、墨爾津を

i emgi ~と共に、~と一緒に。
emte 一つずつ、各一。

acan i ba 交界の所、境界の所。

miyoocalame 銃で撃ち、射し。

efulembi 解体する、こわす、敗る、滅ぼす、免職する。

buthašame yabuha babe i sarkü 狩猟したことを彼は知らない(iは代名詞のi(彼)、baは処、事)

alime gaimbi 受け取る、承認する、認める、迎える、待つ。
selhen 加号、首かせ、木製の刑具。

wacihiyaha 完結した、決着した。

dangse 檔子、檔案、文書や書類のこと。

*兩隻狗，厄爾黑兔帶一桿鳥鎗，同納蘇兔等各騎一匹馬，偷進圍場處去打牲時，到了英圖，齊洛圖交界地方，我放鎗打了一個鹿，卸開駁着來時，被查圍官兵拿獲。我主子阿玉璽各自居住，我偷去打牲，他不知道等語。厄爾黑兔·納蘇兔·墨爾津·崔相俱與長児供同，各自行招認。查康熙六十年將在圍場處偷殺鹿之常明，臣部會同兵部審理，譲以枷號三個月，鞭一百，具題完結在案，長児·厄爾黑兔·納蘇兔·墨爾津·崔相，應照常明之例，俱各枷號三個月，旗人長児·厄爾黑兔·納蘇兔·墨爾津

^t tanggütä šusiha tantafü, meni meni harangga kadalara bade afabuki, irgen ts'ui siyang be dehi moo tantafü, giyamulame da bade unggiki, cang el i ejen ayusi, nasutu i ejen jasi gemu cang el sei hülhamé buthašame yabuha be sarkü be dahame, weile be guwebuki, ne: baha morin, indahün, miyoocan be jafaha coohai urse de šangnáme buki sembi, erei jalin gingguleme wesimbuhe, hese be baimbi.,

"gisurehe songko obu jafaha cooha urse de emu niyalma de juwata yan menggun ſangna"

hūwaliyasun tob i sucungga aniya sunja biyai juwan ninggun,
beidere jurgan i aliha amban, amban uksun i foge,
aliha amban, amban li ting i.

イタリック体ローマ字、および訳文の〔 〕の内は雍正帝の諭旨。

† 各百回鞭で打ち、各自所属の管轄所に交付したい。民人崔相を四十回木で打ち、駅馬を以て原籍に送りたい。長児の主人阿玉璽、納蘇兎の主人渣錫は俱に長児等がひそかに狩猟を行なった事を知らなかったので、罪を免じたい。今得た馬、犬、鉄砲は捕獲の兵丁等に賞し与えたいと思う。この為に謹んで奏した。旨を請う。

〔議の如く行なえ。捕獲の兵丁等に一人につき十両ずつ銀を賞与せよ〕

雍正元年五月十六日

刑部尚書 臣 宗室仁

[#] harapga 所属の、当該の、属下の、

kadalara ba 管轄所, * **kadalambi** 取り締まる, 管轄する, 監督する, 治める.

afabumbi 交付する, 交與する, わたす, 委ねる, 寄託する.

giyamulambi 駅馬で送る。

da ba 原籍.

be dahame ~を踏まえ, ~に従い, ~だから, ~なので.

weile 罪, 罰, 事. * weile be guwebuki 罪を免じたい. * weile arambi 罰する.

šangname buki 賞与したい.

erei jalin gingguleme wesimbuhe この爲に謹奏した(奏摺の終わりの決まり文句)。

amban 臣, 人臣, 官員, 人々の

songko = songkoi (雍正帝)

*名鑑 二 文部名計局處 里人帳折表四十一板 通同原篠 長根文之助工程 紗葛重
yan 同(銀の重量の単位).

* 吏報一旨，又與各該官處，民人准照評賈四十派，追回原藉，長兇之土開墾，常派兇之主盜錫俱不知長兇等偷去打牲，應免罪，現獲馬狗鳥鎗，賞與拿獲兵丁，為此謹奏，請旨。

[依議。拿獲兵丁每人賞銀各十兩]

雍正元年伍月拾陸日

刑部尚書 臣 宗室佛格

尚書 臣 励廷儀

4

語彙篇

「語彙篇」には「文法篇」の例文および「読本篇」に現われる單語のみを集録しております。

略語表

<i>a.</i>	=	adjective	形容詞
<i>ad.</i>	=	adverb	副詞
<i>aux.</i>	=	auxiliary	助動詞
<i>aux.v.</i>	=	auxiliary verb	補助動詞
<i>conj.</i>	=	conjunction	接続詞
<i>c.suf.</i>	=	case suffix	格助詞
<i>int.</i>	=	interjection	感動詞
<i>inv.v.</i>	=	invariable verb	無活用動詞
<i>n.</i>	=	noun	名詞
<i>num.</i>	=	numeral	数詞
<i>onom.</i>	=	onomatopoeia	象徴詞
<i>ph.</i>	=	phrase	熟語
<i>post.</i>	=	postposition	後置詞
<i>pron.</i>	=	pronoun	代名詞
<i>s.part.</i>	=	sentence-final particle	終助詞
<i>suf.</i>	=	suffix	語尾
<i>v.</i>	=	verb	動詞

(訳語中の〔 〕内の語は「清文鑑」等の訳語)

a —

aba *n.* 狩猟, 巻き狩り, 巻き狩りの列. *ad.* 何処に.

aba i ba *n.* 囲場, 狩猟場.

abalambi *v.* 狩猟をする, 巻き狩りをする.

abka *n.* 1天, そら, 2神, 3天子.

absi *ad.* 1何処に, 何処へ. 2どうして, 如何に, どのように, 如何にも. *int.* 1何と(いふことだ) (嫌惡の声). 2なんと! 何とまあ.

acabumbi *v.* 1夫婦盃をする. 2会わせる, 会見させる. 3合わせる, (意に)合わせる. 4迎合する, 副う. 5準ずる. 6承ける, 奉ずる, 仰副する. 7調和する.

acambi *v.* 1会う, 会見する. 2和睦する, 合う, 和合する. 3会同する. 4宜しい, 筋合いだ, 適う. 5挨拶する.

acan *n.* 1和合, 合同, 共同, 会合, 合. 2法会, 法事. *ad.* 合わせて.

acan i ba *n.* 交界の所.

acanambi *v.* 1符合する, よろしい. 2行って会う.

acara doro *n.* 挨拶, 和諧.

acimbi *v.* 馬駝に荷を積む, 荷駄を負わす.

acinggiyambi *v.* 握する, 動かす, 揺り動かす.

adabumbi *v.* 1次官に任命する. 2散開の隊列で狩りをさせる. 3つき従わせる, 兵をつける.

adali *post.* 同じ, 同様に, 一様, 一様に, 如く.

adambi *v.* 1散開の隊列で狩りをする, 遠巻きの陣形でなく散開並列しただけの形で狩りをする. 2並ぶ, 並べる, 連ねる, 沿う, 附く, 従う. 3(毛皮・布きれなどを大きなものにするために幾つかを)縫ぎ合わせて縫う, 縫い合わせる.

adarame *ad.* どうして, のようにして, 如何に, 如何にして, 何ぞ, 岑.

afabumbi *v.* 1交付する, わたす, 送付する, 交与する, 返却する. 2任用する. 3寄託す

る, 委ねる. 4輸納する, 5言い付ける, 命ずる, 諭す. 6攻めさせる, 戰わせる.

afambi *v.* 1攻める, 戦う, 挑みかかる. 2委ねる. 3つまずく. 4ぶつかる.

afandumbi *v.* 1齊に攻め討つ.

agambi *v.* 雨が降る.

age *n.* 1兄, 2兄長, 大兄, 兄上(人を尊敬して呼ぶ言葉). 3皇子.

agūra *n.* 1道具, 器械. 2歯薄に用いる槍(穂と柄との間に緩を着け釣の尾を垂らしたもの).

aha *n.* (家庭で使役する)奴僕, 召使い, 家僕, 下男.

ahasi *n.* 奴僕(ahaの複数形), 家僕達.

ahūn *n.* 兄(また同世代の近親者中で自分より年長のもの).

ai *pron., int.* 1何の, 何, 何と, 何ぞ, どんな, どうして~しよう. 2ああ(嘆息の声). 3やい(人を責める言葉).

ai bade *ad.* 何処に.

aibi *ad.* どんな, 岑, どこ. *aux.* 何がある.

aibide *ad.* 何処に, どうして.

aifini *ad.* はやすすでに, すでに, とっくに.

aika *ad.* もしーなら, もしあるいは, まさか, 岑.

aikabade = aika bade *ad.* もしも, もしかして, かりにも, 或いは, の場合には, ~とすれば,

aiman *n.* 外藩外族の王侯, 外藩外族の部落, 部族, 部落.

ainaha *ad.* 1どんな, どのような, どうしたといふのか, どうしたのか, どうなったか. 2どうして~しなかろうや, ~であろうや.

ainahai *ad.* どうして, どうしてまた(こんなことがあり得よう), 岑.

ainambi *v.* どうか, どうするか, 何とする, 何を必ずしも~しよう, 何になろう, どうするのか, どうだというのか, どうあろうか.

ainci *ad.* 思うに, 恐らくは, 疑うらくは.

ainu *ad.* 何とて, どうして, どうして~する事があろうか, 何故に, 必ず.

aise *aux.* 想うに, 必ず, きっと~だろう, ~であるはず, ~であろう, ~のようだ.

aisilambi *v.* 助ける, 補佐する, 援助する.

aisin *n.* 金.

aitubumbi *v.* 1助ける, 救う, 救助する. 2一旦抹消した字に丸をつけて再び通用せよ. 3病気をよくする, 快方に向かわせる.

aitumbi *v.* 恢復する, 息を吹き返す.

ajigan *a.* やや小さい, 幼い, 幼少の, 年の少ない.

ajige *a., n.* 小さい, 細かい, 小.

ajigen *n.* 幼時, 幼. *a.* 幼少の, 小さい.

akambi *v.* 心が傷む, 心に痛み嘆く, 悲しむ.

akdulambi *v.* 1固め護る, 護る, 防備する, 堅める, 堅く見張る. 2(優秀な者であることを)保証して推挙上奏する, 保挙する, 推薦する, 推挙する. 3借金の保証をする, 保証する.

akdulame *ad.* しっかりと(非完了連用形).

akū *inv.v.* 1無い, いない. 2ない, 物がなく貧乏なさま.

akū oho *a.* 逝った, 世を去った, 死くなった.

akūci *conj.* そうでなければ.

akūmbumbi *v.* (親に仕えて)心力を尽くす, 孝養を尽くす, 使いつくす, 力を尽くす, あまねく及ぶ, 塞ぐ.

akūn *s.part.* 1無いか, 2でないのか, 否か.

akūnambi *v.* 1対岸に着く, 向こう岸に着く. 2周到ならしめる, つくす.

alambi *v.* 告げる, 申し立てる, 訴える.

alamirumbi *v.* (物を)斜めに背負う, 背負う, 担う.

alban *n.* 公の事務, 公務, 公事, 役目, 官物, 賦役, 賦課, 貢, 貢献, 差役. *a.* 公の, 官の.

albatu *a.* 粗野な, 卑しい. *n.* 隸民, 田舎っぺえ.

aldangga *a.* (世代が)遠い. *n.* 遠方. *ad.* 遠く, 遠くから.

alibumbi *v.* 長上に書信を寄せる, 書を呈する,

手渡す, 授ける, 献じさせる.

aliha amban *n.* 尚書(部の事務を統轄する大臣), 承政.

alimbaharakū *a.* 1に耐えない, 耐えられない. 2甚だ, 頗る.

alimbi *v.* 1自らに引き受ける, 自ら率先して事に当たる. 2(神が供物の気を)受ける. 3受け取る, 受けとめる, 挿げる, 承る, 認める, 迎える. 4(鷹などを)手に据える.

alime gaimbi *v.* 承知する, 承認する, 待つ, 迎える, 認める, 受け取る.

alin *n.* 山.

ališabumbi *v.* 悶えさせる, 煩悶させる, 心を苦しませる.

ališambi *v.* 1悶える, 煩悶する, 心中苦しむ. 2退屈する.

aliyambi *v.* 1後悔する, 悔いる. 2待つ.

aljambi *v.* 離れる, 離開する. 2色が変わる. 3色を失う. 4許す.

ama *n.* 父.

amaga *a., ad.* 後の, 後来の, 後に.

amala *ad., post.* 後, うしろ, のち. *n.* 北.

amargi *n.* 1北. 2後方.

amasi *ad., post.* 1後(うしろ)に, 後方に, のち. 2以後. 3もとに(もどす, 復する). 4北に.

amasi jimbī *v.* もどってくる.

amba *n.* 大. *a.* 大きい.

ambakan *a.* やや大きい.

ambalinggū *a., ad.* 1風貌魁偉の, 甚だ氣概の大きい, いかめじい. 2風姿堂々とした, 沈重采ある, おっとりした.

amban *n.* 大臣, 臣, 大人, 官員. *a.* 大きい.

ambarame *ad.* 大いに.

ambasa *n.* 大臣等, 大人等, 官員等. (amban の複数形). *a.* 大きい.

ambula *a., ad.* 甚だ多い, 頗る多数の, 大いに, 甚だ, 広大な.

amcambi *v.* 1(一度訊問が終わってから)更に追究する, 再審する, 追問する. 2後から

追う, 追いかける, 追いつく。3 (物に手が) 達する, 及ぶ, 届く。4 (賭に負けて取り戻そうとして) もう一度賭ける。
amtalambi v. 1 弓の良し悪しを試す(少しばかり弦をひいて弾いてみると調子が分かる)。
2 味を見る, 試めてみる。
amtan n. 食べ物の味。
amtangga a. 1 趣のある, 興味深い, 面白い。2 うまい, 美味しい, うまく, 味の良い。
amuran a., ad., post. ~好きの, ~好みの, 執心の。n. 好み。
an n. 定例, 常例, 常規, もとより, 平常。a. 通例の。ad. 常(に)。
aname ad., post. ~毎に, つづいて, ~に到るまで。boo aname 家ごとに, 逐戸。
anculan giyahün n. 狩猟用の鳥, 鶴鶲鳥。
anda n. 友としての交わり, 友として待つこと, 賛友, 朋友。
andala ad., post. 中途で, 中途半ばで, 半途で, 半路で, 中途半端に。
andande ad., post. たちまち, 瞬時。
angga n. 1 口(くち)。2 開口, 山の隘口。
anggala n. 人口, 人数。ad., conj. ~よりは, ~よりはむしろ, ~のみではなく。
anggasi n. 後家, やもめ, 婁婦, 後添い。
aniya n. 年, 歳。
antaha n. 客, 客人, 斎客。
antaka ad. どうか, どんなか, どんな, どんなに, ずいぶん, 如何に。
ara int. あら, ああ, おや。n. 猥。v. 作れ, 書け(命令形)。
arambi v. 1 ーになる, ーとなす。2 作る, 造る, 造作する, 製作する, 仕立てる。3 文を作る。4 字を書く。5 ーのような振りをする, 粉飾する, 見せかける。
arbušambi v. 動作を起こす, 動き出す, 振る舞う, 行動する。
arga n. 方法, 計略, 策略, 惡計, 計謀, 人を欺く計。

arga akü ph. 仕方なく。
arkan ad. ちょうど, どうやら(多からず少なからず), やっと, ようやく, わざかに。
arki n. (蒸留酒で味強く色は白い) 烧酎。
asarambi v. 貯える, 留める, 留置する, 保管する, 収藏する。
asihan n. 幼年, 少年, 少年の頃, 若者。
asihata n. 少年達(asihan の複数形)。
asuru ad. 甚だ, 大いに。
aššabumbi v. 動かす, 揺する。
aššambi v. 動く, 揺れる。
aššumbi v. 口に含む。
ayan n. 蝶(ろう). 黄色のものは蜜蜂の巣, 白色のものは樹液を原料とする)。a. 大きい。
ayan hiyan n. 香草の名(祭祀のときに焚す)。茎は林檎に似ており葉は安春香より小さくて細く薄い。湿地に叢生する。今一種あり, 山崖の松のある所に生える。茎は蔓状で石にまとう。葉は松に似て短い。実は黒葡萄のような色で野葡萄ほどの大きさ), [芸香]。
ayoo = ayao s.part. ~ではあるまいか, 一かを恐れる, 恐らくはーだろう。

b —

ba n. 1 (一里二里の) 里, 一百八十丈。2 処, 場所, 土地, 地方, ところ(形式名詞)。3 「弱」のこと。
ba bade = babade ad. 所々に。
ba na n. 地方。
badarambi v. 広がる, 大きくなる。
bade ad., conj. (このよう)なのに, (この, その) 所へ(与位格)。
baha a., v. 得た(bahambi の完了連体形)。
bahambi v. 1 得る, 取る, 手に取る, 収得する。2 できる。3 受け取る。4 会得する。
bahananambi v. 1 人の意を推測してびたりと合う, びたりと推し当てる。2 理解する, 会得する, 晓知する, 了解する, 謹る, 通曉する。

る。3 できる, 能くする。
bai s.part. ~だよ, ~だね, ~ませんか。a., ad. 1 ただ, ただの, 何もない, ただで, ひまの, ひまで, 事もなく。2 地方の。
baibi ad. 空しく, 無用に, いたずらに, わけもなく, 無駄に, ただ。
baicaci ad. 調べたところ, 査するに(条件連用形)。
baicambi v. 1 査べる, 調べる, 調査する。2 審理する, 検査する, 探す。3 省みる。
baimbi v. 願う, 請う, 尋ねる, 求める, 探し求める。
bairengge ad. 請うらくは, どうか。
baising n. 町(蒙古語の「建物」より借用)。
baisu v. 尋ねよ, 探せ(baimbi の命令形)。
baita n. 事, 事務。
baita akü ph. 無用の, 役に立たない。
baitalambi v. 任用する, 補用する, 官にとりたてる, 用いる。
baktarakü = baktandarakü a. 1 入りきれない, 収まらない。2 尊大ぶった(尊大ぶった人に対する悪口, 尊大さは彼のからだに入りきれないの意)。ad. 尊大に, 鷙揚に。
baktandarakü bayan a. はいりきれない(持ちきれない)ほど富裕な, 大いに富んだ。
balai ad. 妥りに, ほしいままに, 無思慮に, 軽率に, 放肆に。a. 放肆な。
banji v. 生きよ(命令形)。
banjibumbi v. 1 生む, 生を営ませる, 生を享けさせる, 生ませる, 育てる。2 組分けする, (隊や組を)編成する, 隊を編む, 隊を組む。3 編纂する, 編集する, まとめる。
banjimbi v. 1 生む, 生きる, 育らす, 生まれる, 生まれ殖える, (草木が)生える。2 育らす, 日を過ごす, 命脈を保つ, 生存をはかる。3 発する。
banjinambí v. (他所に) 行って暮らす, 生成する, 成る, 致す。
bargiyambi v. 1 収める, 収藏する。2 守る, 累める。3 矢柄の両端を細く削る(矢の根太巻きと矢筈の下の所とを型どおりに細くする)。4 (兄弟親戚を身近に)集めて慈しむ。5 (穀物を)収穫する。
baru post. ーに向かって, ーに対して。
bata n. 敵, あだ, 仇敵, 逆賊, 敵賊。
baturu a., n. 勇, 勇氣, 勇ましい, 勇ましい人。
bayan n. 富, 富戸, 金持ち。a. 1 富んだ, 豊富な, 豊かな, 富裕な。2 泡瘡の発疹が多い。
be c.suf. を, ~をして。pron. (相手方を含まない) 我々, 我等, 私共。n. 1 伯(軍功ある者を九等に分けて封爵する。その中の第三等)。2 車の轍の先の横木。3 鳥に食わせる餌。s.part. である, 也。
be dahame conj. ~に従い, ~だから, ーので, ~により。
becendumbi v. 互いに言い争う。
becunumbi v. 相鬭う, 喧嘩して殴り合う。
bederembi v. 1 帰る, 退く。2 退く(諸々の王・貝勒・大臣等が殿前の礼を終わって両側に分かれて立つ)。3 (ものとの場所に)戻る。4 片づける, やむ。5 死ぬ。
beidembi v. 截く, 審理する, 審問する, 断する, 訊問する。
beidere jurgan n. 刑部。
beiguwan n. 「備官」。
beile n. 貝勒。
beise n. 貝子, 貝勒たち(beile の複数形)。
bekterembi v. 驚いてほんやりしてしまう, 哭驚呆然とする, 驚いてうろたえあわてる。
belhembi v. 備える, 予備する, 準備する, 支度する。
benembi v. 送る, 送って行く。2 とどける, もって行く。
bengsen = ben n. 技能, はたらき。
benjimbi v. 送ってくる, 届けてくる。
beri n. 弓, 百里(人名)。
bethé n. あし, 脚(股の付け根から足裏までの全部の称)。

beye *n.* 身体, からだ, 自ら, 自分, おのれ. *ad.*
親しく, 自分自身で.
beye be tuwabumbi *ph.* 引見させる.
bi *pron.* 我(われ), 私(わたくし). *inv.v.* いる,
ある, 居る, である.
bici *v.* あつたら, 居たら, 居れば, ～だつたら,
～なら(条件連用形).
bicibe *v.* ～であつても, ～と雖も(讓歩連用
形).
bidere *inv.v.* あろう, 居ろう, ～であろう, ～
であるらしい.
bifi *v.* ～があつて, ～であつて(完了連用形).
bigan *n.* 野, 野原, 野外.
bihe *v.* あつた, 居た, ～であつた, ～があつた
(完了連体形).
bilan = bilagan *n.* 期限.
bilambi *v.* 1 期限を限る, 期限を定める. 2 折
る, 折断する.
bilha *n.* 咽喉, 隆口の一番狭まった処.
biltan *n.* 湖, 大澤.
bimbi *v., aux.v.* いる, ある, 居る.
bimbio *v.* いようか, あろうか(疑問終止形).
bime *v.* ～であつて(非完了連用形). *conj.* ～
といつても, ～であるのに.
bira *n.* 河, 川(ula (江)より小さいもの).
bisire *v.* ある, ある所の, いる所の, あろう
～(bimbiの前置連体形).
bisirede *ad.* ～しているとき.
bithe *n.* 1 書物, 本, 書類, 文書. 2 手紙, 証信.
3 文義.
biya *n.* 1 (空の)月. 2 (月日の)月.
boco *n.* 色, 顔色, 色彩.
boconggo *a., n.* 色のある, 色彩のある(もの),
色の付いている, 採色した.
bodogon *n.* 謀略, 計略, 計謀. —.
bodombi *v.* 計る, 計料する, 謀る, 論ずる, 地
形を見計らって獸を追い出す(獸を捕らえ
るのに適した地形を見計らって勢子を散
列させ, 別の者が大声を挙げてその勢子の

待ちかまえている所に向けて茂みの中か
ら獸を追いだしてくる).
boigoji *n.* (家の)主人, (宴席をもてなす)主
人, 奥さん.
boigon *n.* 戸口の戸, 家戸, ある家人に属する
人・田畠・家の総称, 所帯, 家産, 家族.
bolgo *a.* 1 清淨な, 清潔な. 2 (弓のさばきの)
鮮やかな, 美しい. 3 清らかな. 4 声の
澄んだ.
boljohon *n.* 約束, 予約, 約定.
bonio *n.* 1 猿. 2 申(十二支の第九, さる).
boo *n.* 家, 家屋, 部屋, 房屋.
boo banjirengge *n.* 家計.
booha *n.* 飯の菜, 酒の肴.
booi *n.* 家人.
boolambi *v.* 報告する, 知らせる.
bothombi *v.* (高梁などの穀草を一所にまるめ
て)立てる, 積み上げる, たちこめる.
boso *n.* 1 布, 布帛, 綿布. 2 山の北側.
bošombi *v.* 督促する, 催促する, 駆逐する, 追
い出す, 追い立てる, 管理する, 追取する,
追徵する.
bu *v.* 与えよ, わたせ(命令形).
bucembi *v.* 死ぬ.
buda *n.* 飯(めし).
buhū *n.* 鹿.
bujan *n.* 平地の樹林(茂ってはいるが間隙を
おいて樹の生えているもの), 林, 樹林.
bukdambi *v.* 1 (無実のものを)枉げて罪に落
とす. 2 弓を膝で曲げて弦を張る. 3 折
る, 折り曲げる, 折り疊む, 折り合わせる.
bulchen *n.* 鶴(つる), 神鳥.
bulgari *n.* 燻し牛皮.
bumbi *v.* 与える, 渡す, やる, くれる.
burga *n.* 柳の一種, こりやなぎの類(密生する).
bulechen *n.* 蒙古包の牆や屋根に用いる), 柳の枝.
burha *n.* 柳.
burulambi *v.* 逃げる, 散走する.
butambi *v.* 網捕り・罠捕りする, 烏鵲魚類を

網や罠を仕掛けて捕捉する, 漁獵する.
butereme *post.* 山の麓添いに(行く).
butshašambi *v.* 漁獵に出かける, 獣狩り魚捕り
をする, 獣獵する.
buya *a.* 1 (気の)小さい. 2 ちっぽけな, つま
らなく小さい, (小人・小官などの)小, 細
かい.
buyen *n.* 愛, 愛情, 愛欲.

c ——
cacari *n.* 柱や棟木を設けた天幕張り(四隅の
柱を綱で引いて支える).
cacari boo *n.* 四隅の柱を綱で引いて支え四方
を幕囲いした天幕張り, 幕舎.
cai *n.* 茶.
canggi *ad., post.* ～だけ, ～のみ, ～ばかり(他
のものはない意).
cara aniya *n.* 一昨年.
cargi *ad., post.* 彼方, あちら, ～より以前の.
cendembi *v.* (眞偽善惡などを)検看する, 驗視
する, 試す, 試みる, 試験する.
ceni *pron.* 彼らの, 彼女らの, それらの(属格
形).
ci *c.suf.* 1 ～から, ～より, ～よりも, ～以来,
～を以て. *suf.* 1 ～ならば, ～しても. 2
～番目, ～回目, 一年目. *n.* 1 文字と文字
との間の間隔. 2 隊と隊との間隔.
cibsimbi *v.* (既に過ぎたことを)ひたすらに思
い嘆く, 追思嘆惜する, 嘆く, 哀嘆する.
ciha *n.* 欲望, 願望, 勝手, 自由.
cihai *ad., post.* 思うがままに, 任意に, ほしい
ままに, 好きなように, 勝手に.
cikalambi *v.* 1 好む, 欲する, 求める, 欲求する.
2 隙をねらう.
cihangga *a.* 願わしい, 好ましい, 願うところ
の, 欲するところの.
cikirame *post.* 川縁(かわべり)沿いに.
cimari *n.* 明日, 明朝, 朝, 早朝.
cin wang *n.* 「親王」.

cisui *a.* 独自の. *ad.* 自ら, 恋に, 勝手に.
ciyanliyang = caliyan *n.* 「錢糧」.
cohome = cohotoi *ad.* とりわけ.
coktolombi *v.* 驕る, 驕り高ぶる, 傲慢に振る
舞う, 卓越する, 抜き出る.
colgoroko *a.* 超出した, ひとりわ高く突出し
た, 抜群の, 群を抜んでた.
coo *n.* 1 札(さつ), 「鉢」. 2 鉄製の鋤(スコッ
ブ), シャベル.
cooha *n.* 兵, 兵隊, 戦, 戰陣, 軍隊, 軍機.
coohai agüra *n.* 兵器.
coohai jurgan *n.* 兵部.
cuwan = jahudai *n.* 船, 帆船.
cuwangnambi *v.* 掠めて行く, 諸處を略奪して
いく, 略奪する.

d ——
da *n.* 1 頭目, 首領, 首長. 2 本(もと), 蔓. 3
草木の根本. 4 始め, 源, 源基, 起源, 根元,
宗, もと, 基. 5 (矢一本二本の)本(矢を数
えるときの称). 6 ふもと. 7 一本(木を数
える単位), 株. 8 長さの単位, 腕を広げ
た長さ, 一尋(五尺). *v.* 越えよ(dambi の
命令形).
da ba *n.* 原籍.
da mafa *n.* 始祖.
dabala *s.part.* ～だけである, ～のみである, ～
にすぎない, ～ばかりである, 而已.
dabanambi *v.* 超過する, 多すぎる, 越えて行
く, 甚だしくなる.
dabumbi *v.* 1 当番中に数える, 当番に組み入
れる. 2 勘定に入れる, 数の内に入る,
味方にする. 3 焚く, 火を付ける. 4 与ら
せる.
daci *ad.* 始めから, 従前, 以前に, もと, 自ずか
ら(奪格形).
dade *ad.* 始め, 初めに, 元来, 且つまた, 根本,
麓に(与位格形).
dagilambi *v.* 備える, 整える, 支度する, 供物
語彙篇 (butereme ~ dagilambi) | 181

を準備する, 種々の供物を取り揃える。
dahabumbi v. 1 投降させる, 降伏させる, 従わせる, 随行させる。2 (何の歴に誰をと, 戰人と人とを示してその) 就任を請願上奏する, 保題する, 指名する。3 (角力の手で) 相手の足払いを外しておいて逆に相手に足払いを掛ける。
dahalabumbi v. (賊の) 後をつけて放させない, 後に食い下がらせる, 後に従える, 随行させる。
dahalambi v. 1 (人の告訴に) 随う, 人に告訴されたのに報いて告訴する。2 (賊の) 後をつけて放さない, 後に食いさがる, 後に従う, 後を追う。3 (手負いの歴を) 追って殺す。
dahambi v. 1 投降する, 降伏する, 備附する。2 (人の後ろに) 附き随う, 随って行く, 随行する, 従う, 風が吹く。
dahame ad., post. ~に従って, ~により, ~だから, ~ので(非完了連用形)。
dahanduhai ad. 引き続いて, すぐ後に, 蹤を接して。
dahume ad. 重ねて, 再三, また。
dahün ad. 繰り返して, 重ねて。
dahün dahün i ad. 重ね重ねて, 再三再四, 繰り返し。
dailambi v. 征伐する, 討つ, 発狂する。
dain n. 1 戦, 征戦, 軍隊。2 敵兵。
dalambi v. 1 衆に長となる, 人の上に立つ, 首領になる。2 両腕を伸ばして長さを計る。
dalba n. 側方, 側面, 傍ら。
dalbaki a., n. 傍ら(にある), わき(の)。
dalin n. 川岸。
dalirame post. 河の岸に沿って。
dambi v. 1 指図する, 支配する, 関与する。2 救う, 助ける, 味方する。3 授ける。4 付着する。5 雪が降る, 風が吹く。6 燃え上がる, 火がつく。
damu ad. ただ~だけ, わざかに~のみ, たっ

た。conj.しかし, それでは。
dangse n. 檔案, 檔子(一切の事項を収容して綴じ合わせ査看に備えたもの)。
dara n. 腰, 背の一部分(肩胛の下から尻の上にかけた部分)。
dari suf. ~ごとに, ~毎に。
dartai ad. 暫時, ほんの僅かの間, しばらく, たちまち。
daruhai ad. 常に, いつも, 何時でも, 常々, 始終。
dasambi v. 1 治める, 統治する。2 改める, (文辭などを) 改正する, 訂正する。3 (巻き狩りの際) 囲みを整える, 勢子の各自が囲底(中央の大旗)の進行真合に注意して囲みの列に出入りのないように整備する。4 治療する, 医治する。5 修理する。
dasan n. 政治, 国政, 政務, 統治。
dashüwan n. 弓袋(馬皮・綿子・綿布などで作る)。
data n. 頭目ら(daの複数形)。
de c.suf. ~に, ~へ, ~で. post. ~の時に, ~日に, ~により. n. 「徳」。
debkebumbi v. 再び言はせる, 前言を翻させる。
dedubumbi v. 1 臥させる, 寝かせる。2 横倒しにする, 横倒しに臥せる, 物を横向きにおく。3 (うどん粉などを) 発酵させる。
dedumbi v. 1 臥せる, 横になる, 寝ころぶ, 添い寝する。2 (馬畜などが地に) 横たわる, 横臥する。
dehi num. 四十。
dekdembi v. 1 水に浮く, 浮き上がる。2 (鳥が) 飛び立つ, 起こる。
deken a. 小高い。
dekennimbi v. 高吟する。
dele n. 1 (物の) 上。2 主上, 天子。post. ~の上に, ~の外に, ~に勝る。
dembei ad. 極めて, 実に, はなはだしく(良い, 多いなど), 非常に, 誠に。
den n. 高さ。a. 高い, 背が高い。ad. 高く。
dengjan n. 灯火(ともしび), 燈, 燐火。

deo n. 弟, 同世代の近親者中で自分より年少の者。
deote n. 弟たち(deoの複数形)。
der seme onom. 1 ぱっと, 雪のように, 甚だ白く(真っ白なものを形容する言葉)。2 山の様に, 群をなして。
dere n. 1 (四方などの) 方, 方角。2 顔, 顔面, 面目, 名譽。3 卓, 机, 食卓, 席。4 宴席の二の膳と三の膳。5 班, 陣。6 片寄った同情。s.part. ~であろう, ~だろうか, ~ではないか, ~ではあるまいか。
derengge a., n. 荣誉, 名望ある(人), 面目のある(人), 体面のある(人), 行高守善の(者)。
dergi a., n. 1 東, 上, 上の方, 高い, 上(かみ・じょう)。2 主上, 天子。
deri c.suf. ~より, ~から, ~より以来, ~まで, ~を経由して, ~より以後. n. 句。
deribumbi v. 始める, 演奏する, 起こる, 生ずる, 為す, 作る。
deserembi v. あふれる, みなぎる。
deyembi v. (鳥が) 飛ぶ。
diyan = deyen n. 1 「殿」。2 「店」。
dobori n. 夜, 夜間。
dogon n. (河川の) 渡し場, 船着き場, 渡船場。
doigonde ad. 予め, 前もって。
dolo n. 中(なか), 内(うち), 内側, 内部, 内庭, 心中. post. 内に。
dombi v. (鳥が樹などに) とまる, 止まる。
donjimbi v. 聞く, 耳にする。
dooli hafan n. 道員(按察使の次の官), [道](dooli「道吏」)。
doombi v. (河などを) 渡る。
dorgi a., n. 内(の), 中(の), 内部, 内側。
doro n. 1 礼, 礼儀, 礼物。2 道, 道理, 條理。3 常例, 作法。4 政治, 政。5 講和。6 榎位。
doroi ad. 礼を以て(具格形)。
dorolombi v. 礼を執る, 挨拶する, 礼を行なう, 礼拝する, 礼を尽くす。
dosimbi v. 1 入る, 進む, 進入する, 進撃する,
2 進圧する。2 (角力で相手の隙を見つけて) 押し進む。3 陥る。4 容れる。5 及第する, 合格する。
dube n. 先端, はし, 尖った先, 結末, 結論, 結果, おわり, 末(すえ), 末端, 枝の先端。
dubehebi v. 過去した(完了終止形)。
dubembi v. おわる, 尽きる, 果てる, 過去する。
dudu n. 「都督」。
duibulembi v. 比較する, 較べてみる, 参照する, 聞える。
duin num. 四。
duka n. 門, 庭門。
duleke v., a. 1 過ぎ去った。2 (病気が) 全く治った, 全快した。3 火がついた(完了連体形)。
duleke aniya n. 昨年。
dulembi v. 1 過ぎる, 通過する。2 燃える, 燒ける, 3 患る。
dulimba n. 中央, 真ん中。
dulin n. 一半, 半ば, 半分。
durimbi v. 1 握藍で子供を寝かしつける。2 奪う, 劫奪する, (力を) ふるう。
dursun n. (生まれつきの) 風態, 恒好, すがた, 体格。
e ——
eberembi v. 疲れ弱る, 倦み疲れる, 減る, 寂える。
ebimbi v. (食べ) 飽きる, 飽食する, 満腹する。
ebišembi v. 入浴する, 水あびする, 沐浴する。
ebsi ad., post. ~より以来, ~よりこのかた, こちらの方へ, こちらへ(来い), こんなに(せよ)。
ebuhu a. いそぎの。
ebuhu sabuhū onom. せかせか, そわそわ(恐懼して急ぎ慌てるさま)。
ebumbi v. 1 (ここで) 留まる, 宿を取る, 止まる。2 下りる, 降りる。3 馬を下りる。
ecimari n. 今朝。

ede pron., conj. これにより, このために, これに,ここに, これで(与格形).
edelembi v. 不足する, 欠ける, 鮫く.
efen n. 鮫鉢(菓子に類似した食物). 穀粉をこねて手あるいは型などで形を造り, 蒸す焼く煮る油で揚げるなどして作った食物).
efimbi v. 1遊ぶ, 戯れる. 2よろこぶ, 技芸を演ずる.
efujembi v. 1(名と行ないと)敗り辱める. 2壊れる, (家などが)倒壊する, 破る, 破壊する, くずす, 敗れる. 3廢する, 死ぬ. 4削る, 革職する. 5亡びる.
efulembi v. 1駕つ, 壊す, 敗る, 滅ぼす. 2罷免する, 革職する, 免職にする, 賦にする. 3拆卸する, 卸開する. 4解体する.
ehe a., n. 悪(あく), 凶惡な, 不吉の, 凶, 荒い, 劣った.
eherembi v. 悪化する, 悪くする, 悪くなる, 悪変する, 不和となる, 反目する.
eici ad., conj. 或いは, それとも, または. int. まあ, ねえ.
eigen n. 夫(おっと).
eimembi v. 嫌う, 厭う, いやがる.
eiten a. 一切の, 全ての, 一般の, 諸々の.
eiterembi v. 欺く, 証欺をはたらく, 偽る.
ejeha n. (世職あるいは出差の官人に与える)勅旨, 勅書.
ejembi v. 1記憶する, 善記する, 儲える, 識る. 2記す.
ejen n. 主君, 主上, 主人, 君主, 天子.
ekisaka a., ad. 静かな, 静かに, 黙った, 沈黙した, 悄然とした, おもむろに.
ekiyembi v. 欠ける, 少なくなる, 減る, 損を招く.
ekšembi v. 急ぐ, 憂てる, 急ぎ慌てる, 急をつける, 急である.
elcin n. 使臣, 使者.
ele a. あらゆる, 一切の, 皆の, 諸の, 尤も. ad. 更に, ますます, いよいよ.

elemangga ad., conj. かえって, これに反して, かえってますます, ~にもかかわらず.
elhe a., n. 1安らかな, 平安の, 安泰の. 2寧靜, 安き, 穏やかな, 緩やかな; おもむろの, ゆっくりした.
elhe taifin n. 康熙. 4. 太平の, 平安の.
eme n. 母親.
emeke n. 夫の母, 姉.
emgeri ad. 一回, 一度, すでに.
emgi ad., post. 一と共に, 一と一緒に.
emhun a., n. 1老いて子のない, ただ独りの. 2孤独, 独自一個, 一人で, 単一の, [独].
emke n. 一個, 一件.
emte ad. 各一, 一つずつ, 一つ毎.
emu num., a. 一, ひとつ, 或る, 同一の, 同じ.
emu derei ad. 一面では.
emu songkoi ph. 一と同様に.
encu a. 別の, 他の, 別に, 異なった. ci encu ~を除外して, ci encu akū ~と異ならない.
enculembi v. 異にする, 異を立てる, 別にする, 一人だけでする, ほしいままにする, 勝手にする.
endebuku n. 過(あやまち), 過失, 過誤, 間違い.
enduri n. 神.
enduringge a. 神の.
enduringge niyalma n. 聖人.
enen n. 子孫.
enenggi n. 今日, 本日. int. しまった, いけない(突然失策を犯した時の嘆息詞).
enggemu n. (馬その他に用いる)鞍.
entehem a., ad. 永久に, 永久の, 永遠に, 永遠の, 恒常的, 常には.
enteke a. かような. ad. かよう.
erdemu n. 德, 才, 才能, 才德.
erdemungge a., n. 德の高い, 有徳の, 德のある(人).
ere pron. これ, この.

ereci pron. これより, これから, ここから(等格形).
erei jalin ad., conj. このために, この故に.
ergi n. 方, 迂.
erin n. 1時, とき, 季節, 時機. 2時刻(八時)を一 erin とし一日を十二 erin とした時間).
eršembi v. 1親に変わるところのない孝養を尽くす. 2(抱いたり背負ったりして)子供の世話を見る, 子守りをする.
ertele ad. 今にいたるまで, これまで(ereの終格形).
etembi v. 1勝つ, 勝利する. 2(弓身の一方が)硬い(弓身の一方が硬くてよく曲がらないこと). 3引けを取らぬ.
etenggi a., n. 強盛(の), 豪強(の), 強い, 有力な, 賢能の, 克くする.
etubumbi v. 着させる, 穿かせる, 付けさせる.
etuku n. 衣服, 着物.
etumbi v. 着る, 穿く, 着用する.
eyebumbi v. (物を)水に流す, (溜まり水を)流しだす, 放水する.
eyembi v. 1水が流れる, 降りる, 下る. 2秤竿の先が下がる, 目方が足りない.
eyen n. 水流, 流れ.
eyun n. 姉, 父か父の弟か母の兄に生まれた娘で自分より年長の者, 姉さん(同世代の近親者で自分より年長の女).
f _____
facihiyambi v. あくせく働く.
facihiyasambi v. 1力の限り頑張る. 2気が焦る, 気がせく, 憂慮する, (才力及ばず事混乱を來して)徒に焦慮する.
facuhün a. 亂れた, 紊乱した. n. 亂, 騒乱, 叛乱. ad. 無秩序に, 妄りに.
faidambi v. 1排列する, 順を整えてならぶ, 列ぶ, 整列する. 2衆官が姓名品階を書き連ねて上奏する, 書き並べる, 列記する.
fon n. 時, とき, 時分.
fonde ad., n., post. ～の時に, ～の頃に(与位格形).
faidan n. 1列, 行列. 2儀仗, 齒簿, 齒簿に用いる樂器・旗などの礼具. 3陣, 阵立, 兵陣.
fakcambi v. 離開する, 離れる, 裂ける, 別れる.
falambi v. 罪ある.
falan n. 1土間. 2村里の里. 3空間. 4時間.
fangšambi v. 1是も非として強引に振る舞う. 2(狐狸の穴を)くすぐる, 穴を燻す.
farhün a., n. 閑黒の, 真っ暗な, 暗かな, 暗愚の, 昏迷した, 昏昏.
fasimbi v. 首をくくる, ぶら下がる.
fayambi v. 費やす, 滅費する, 消耗する, 売る.
fe a., ad., n. 旧, 古い, もとの, もと, 昔, 以前に.
fejile = fejergi a., ad., post. 下(した)の/に, 悪い. n. 底.
feksimbi v. (馬などが)疾走する, 駆ける, 疾駆する.
ferguwecuke a. 奇とすべき, 驚奇すべき, 驚異とすべき, 珍奇な, 神秘な, たぐい稀な.
ferguwembi v. 奇とする, 驚異とする, 驚嘆する, 珍しがる, いぶかる, 怪しむ, 不思議がる.
feye n. 1傷, 傷口. 2(野鳥・家禽などの)巣. 3針で突いた孔, 穴.
fi n. 「筆」, 毛筆.
fiyanarambi v. 1口実をもうける, 心にもない嘘をついて振る舞う. 2(綿布などの)絹を伸ばす, のす, 火熨斗をかける.
fiyanggū n. 末子, 乙子(おとご).
fodoho n. 柳(やなぎ).
folombi v. (金銀鉄木などを花型に)彫る, 刻む.
fomoci n. 靴下, 索(絹あるいは木綿などで作る).
fon n. 時, とき, 時分.
fonde ad., n., post. ～の時に, ～の頃に(与位格形).
f語彙篇 (ereci ~ fonde) | 185

fonjimbi *v.* 問う, 訊ねる.

forgon *n.* 時期, 時季, 時, 季節, 時運, 運.

fogošombi *v.* 1回す,廻転する,廻す,ひっく
り返す,覆す. 2転ずる,身を転ずる,換える.
3職務を換える(官品同じのままで他
の職に移らせる),転任する. 4(適所を考
えて兵を)転用する.

fu *v.*(汚れや垢などを)拭き取れ,拭え(命令形).
n. 1(煉瓦や土で築いた)塀,垣,牆,
土塀. 2「府」. 3「服」.

fucihi *n.* 仏.

fudembi *v.* 客を送る,送り出す,送る,見送る.

fudzi *n.* 「夫子」(=孔子).

fuhali *ad.* 全く,ことごとく,竟に,遂に,とう
とう.

fujin *n.* 妃,「夫人」,王や貝勒の妻.

fujiyang *n.* 「副将」.

fulahūn *n.* 1淡紅色. 2丁(十干の第四,ひの
と). 3草一本さえ生えていない土地,赤
地. 4赤貧,何一つ持っていないこと,無
一文. 5赤裸,真裸.

fulche *n.* 草木の根.

fulgiyan *a.* 紅い,赤い. n. 1赤色. 2丙(十干
の第三,ひのえ).

fulingga *n.* 天命(をうけた人),天の大福(をう
けた人).

fulu *a.* 1まさった,すぐれた,事に長じた. 2
多い,有り余った,余りのある,余分の,あ
まり,額外の. ad. 余分に. n. 指に負傷
したときに被せる小さな袋.

fun *n.* 1「分」. 2「粉」.

funcembi *v.* 剰る,残る,余分が出る.

funde *ad., post.* ~の代わりに(働く,行く),~
に代わって.

funghwang *n.* 「鳳凰」.

funglu = fulun *n.* 「俸禄」.

fungnchen *n.* 授封の勅書(封典,封誥・封号を
授ける辞令書).

fungnembi *v.* 封する,大臣や官吏に天恩を及

ぼして表彰する,封号を授ける.

funiyehe *n.* 毛髪,頭髪,髪の毛,毛.

funiyesun *n.* 褐,羊毛の織物.

furdan *n.* 1傷,傷口,2(城門型の)関所,関門,
関口. 3わだかまった根,盤根,4針で突
いた孔.

furgisu *n.* 生姜(しょうが).

fusembi *v.* 繁殖する,殖える,子孫が多く生ま
れる.

fusihūn *post:* 以下,下に. a. 下方の,低い,卑
しい,身分の低い,微賤の.

futa *n.* 縄,綱.

g —

gabtambi *v.* 1矢を射る,矢を放つ. 2(獣を)
射る.

gabtan *n.* 射弓,弓を射ること.

gajamibi *v.* 受け取る.

gaimbi *v.* 1取る,収納する,要める. 2捕らえ
る,連れる,連れ去る. 3率いる,帶領する.
4娶る. 5罪に坐す.

gaisilabumbi *v.* (他事に心を)惹かれる,心を
奪われる,搏(う)たせる.

gaitai *ad.* 突然,忽然,たちまち,にわかに,す
ぐさま.

gaitai andande *ad.* たちまち.

gajimbi *v.* 持ってくる,持参する,取ってく
る,連れてくる,略奪する,伴れ帰る,伴う.

gaju = gaji *v.* 持ってこい,持參せよ(gajimbi
の命令形).

gala *n.* 1巻き狩りの際に圍肩(meiren)に続い
て進む勢子の列. 2手(腕から指に至るす
べてを含む称).

galandambi *v.* 晴れる.

galga *a.* 晴れ上がった,すっかり青空になった.

gamambi *v.* 1持って行く,取って行く,掠め
る,連れて行く. 2処理する,処する.

ganambi *v.* 取りに行く,連れに行く,招く.

garu *n.* 鷺鳥の一種,白鳥(はくちょう),天鵝.

gasambi *v.* 1恨む,怨む,怨みを抱く,悩む,
悲しむ. 2哭する(妻に際して泣く).

gasha *n.* 鳥(比較的大きいもの).

gashūmbi *v.* 誓う,起誓する.

gašan *n.* 村,村里,郷村.

gebu *n.* 名,名前.

gebulembi *v.* (人の)名を呼ぶ,名付ける,名
指す.

gebungge *a.* 1~と名付ける,~という名の.
2名高い,高名な,有名な.

gecembi *v.* 凍る,凍える,結氷する.

gege *n.* 1姉. 2姉上(婦女を尊敬して呼ぶ言
葉),公主,姫君.

gelambi *v.* 覚醒する.

gelembi *v.* 怖れる,驚く,恐懼する,憚(はば
か)る.

gelhun akū *ad.* 敢て~する,ためらい無く. ai
gelhun akū どうして敢て~しようか.

geli *ad., conj.* また,なおまた,今度,再び,そ
の上,それに.

gemu *ad.* みな,俱に,すべて,ことごとく.

gemun *n.* 京師,皇城,都(みやこ).

gemun hecen *n.* 京城,皇都,皇城,首都.

gene *v.* 行け(命令形).

genehei *ad.* 行きながら(継続連用形).

genembi *v.* 行く,去る.

genggyien *a., n.* 清い,清明(の),きよらかな,
聰明(な),聰明達識(の),明智, [明].

n. 紺青色の無地の緞子.

gerembi *v.* 明るくなる.

gerembumbi *v.* 夜の明けるのを待つ,夜明か
しをする.

geren *a.* 数多の,多い,多くの,衆多の,各人
の各,色々な,諸々の. n. 多くの人々,衆人.

geri fari *onom.* 1かすんで,ぼやっとして(見
える). 2ぼやっとした(時にわかり,時に
わからなくなってしまう状態). 3恍惚と
して,目が眩んで. 4ふわっふわ(茫と
して定めのないさま).

gese post. ~のよう,~のよう,~のごと
き,~と似た,~と同様に,ひとしく.

getukeleme *ad.* 明白にはっきりと.

getukene *a., ad., n.* (頭脳・言語などの)明瞭
な,はっきりと,条理明白な(言葉),明らか
か(な),明白な(事).

geyen *n.* 刻み,刻み込み.

gida *n.* 槍. v. 1かくせ. 2おさえろ(命令形).

gidacan *n.* 1数段に房(ふさ)の付いた鞍かけ
の毛氈,鞍籠. 2兜の前後に打ちつけた金具.
3野猪などの皮で造った甲冑被い. 4
弓袋の刀挿しの環の上部に庄着した金具.
5数珠の背雲(tugū)を挟む彫金花形の金具.
6帯環に下げる手巾の中程を束ねる小物.
7鷲鷹などの尾の中央の二枚の羽.

gidalambi *v.* 槍で突く.

gidambi *v.* 1盃をつきつけて酒を強いる,
無理に飲ませる. 2(角力の手,相手の両
肩を掴んで)おさえつける,重圧をかける,
蹲らせる. 3(印を)捺す. 4制圧する,お
さえる. 5閉じる. 6隠匿する,人目を遮
る. 7碾白でひく. 8漬け物を漬ける. 9
敵陣を破る,賊を敗走させる,擊破する.
10下に下げる,(頭を)垂れる. 11鳥が卵
を抱く,鳥が巣につく.

gilha *a.* 無風快晴の.

gincihiyān *a.* 華麗な,清麗な,顔に艶のある.

ging hecen *n.* 「京」城.

gingggin *n.* 斤,十六両(重量の単位).

ginggulembi *v.* 1(親を)敬う. 2謹しむ,恭し
くする,肅然となる. 3敬う,尊敬する. 4
楷書で書く.

gingguleme *ad.* 謹んで(非完了連用形).

giro *n.* 覚羅,六祖の子孫,顯祖(太祖の父)の
傍系子孫.

giran *n.* 死骸,遺骸,死体,屍. 2骨族. 3墓.

girucun *n.* 耻ずかしさ,羞恥. a. 耻ずかしい.

gise *n.* 娼妓,遊女,「妓子」.

gisun *n.* 1言葉,言辞. 2文の一区切り,句読

4語彙篇(gasambi-gisun) | 187

の句。3太鼓を打つばち。
gisurembi v. 話す, 言う, 説く, 語る, 議する.
giyaban n. 携問の用具(三本の棒を縄で連ね
罪人の脚を挟んで責めつけるよう工夫したもの), [夾棍].
giyaban gūlha n. 糜(なめ)し革で作った鞆.
giyahūn n. 鷹, 大鷹.
giyamulambi v. 駅馬を馳せる, 通送する, 駅
馬で送る.
giyamun n. 駅, 宿駅, 駅場, 駅站.
giyan n. 1道理, 筋道, 理義. 2(一間(ひとま)
二間(ふたま)の)間.
giyan i ph. 宜しく~すべし.
giyan giyan i ad. 謹謹と, 筋道を立てて, つぶ
さに, 理路整然と, 条理明白に.
giyang n. 1「江」. 2「董」(しょうが). onom.
わんわん(犬が吠え立てる声).
giyangnambi v. 書を講義する, 講釈する. 2
(是非を)論議する, 論ずる, 講ずる, 講論
する.
giyarimbi v. 巡察する, 巡邏する.
giyarire janggin n. 巡察章京.
gocishūn a., n. 謙遜(な), 謙虚な.
goidaha akū ad. 間もなく, やがて.
goidahakū ad. 時を移す.
goidambī v. 遅れる, 遅くなる, 遅い, まどろ
こしい, 長くたつ, 長引く, 久しうする; 久
しくなる.
goidame ad. 久しく(非完了連用形).
goidarakū ad. 久しからず, 遅くなく.
gojime post., conj. ~ても, ~ばかりで, ただ~
だけ, ~と雖も, ~するだけで, 徒らに.
golmin a. 長い.
golo n. 1地方, 路, (山東省・湖南省などの)
省. 2河江の中流, 河水の流れている所.
gonggimbi v. 持って来させる, 連れて来させ
る, (人を遣って)取って来させる.
goro a. 1遠い, 遠方の. n. 樹名, はりえんじ
の(樹皮黒く葉は円形, 木質は赤く花紋が

ある), [山槐].
gosimbi v. 1慈しむ, 愛する, あわれに思う.
2(皮膚が擦り破れて)ひりひりと疼く.
gosin n. 仁; 仁愛.
gosingga n. 仁徳ある人, 仁慈の心のある人.
gucu n. 友達, 仲間, 朋友.
guilembi v. (友人と)話し合って一緒に行く,
約束して共に出かける, 会合する.
gukumbi v. 滅びる, 滅亡する.
gulu a. 1純朴な, 質朴な, 素朴な, 表を飾らぬ.
2無地の, 色彩や模様のない, 地のままの.
gulu sanggiyan n. 正白旗.
gung n. 1「公」(軍功のあるものを九等に分け
て封爵する. その中の第一等). 2「功」,
功勞. 3「宮」, 宮殿. 4「鉱」, 鉱物.
gurgu n. 獣(けもの).
gurun n. 国, 国家, 国人.
guwebumbi v. 1罪をゆるす, 罪を免ずる, 有
す. 2響かせる.
guwembi v. 1(罪を)免れる, 脱れる. 2(音
が)響く, 鳴る, 鳴り響く, (鳥が)鳴く, (動
物が)咆哮する.
gūlha n. 鞆, 深靴.
gūlmahūn n. うさぎ, 卵(十二支の第四, う).
gūnici ad. 思うに(条件連用形).
gūnimbi v. 思う, 考える, 思慮する.
gūnin n. 意, 意志, 意向, 心.
gūnijambī v. 未練を残す, 思案する, 踏躇す
る, 沈思する.
gūsa n. (八旗の)旗.
gūsa be kadalara amban n. 都統(旗(き)を統
括する大臣).
gūsa i ejen = gūsa be kadalara amban
gūsin num., n. 1三十. 2月の三十日, 陰曆月
の最終日.
gūwa a., n. 別の, 別の人, 他の, 或る, 他の者.
gūwaliyambi v. 1腐敗する, (常と)変わる, 改
まる. 2(病気で)何もわからなくなる, ぼ
うっとしてしまう.

h —————

habšambi v. 告訴する, 訴訟する.
hacin n. 1(一件・一種などの)件, 種, 種類,
項. 2正月の十五日, 上元.
hacingga a. 各種の, いろいろの, 様々の, 諸件
の, 諸項の.
hada n. 崖, 石峰, 岩山.
hadambi v. 1矢が突き刺さる. 2食い込む, へ
ぱりつく, とどまって動かない. 3釘づけ
る,とりつける. 4靴底を縫い付ける.
hafan n. 官, 官員, 官吏, 役人.
hafan i jurgan n. 吏部(内外満漢文官の昇任・
転任・罷免・懲罰・功課・誥封・世襲等
の事務を監督する衙門).
hafasa n. 官員(hafanの複数形).
hafirabumbi v. 1(衣食に)全く逼迫する, 進退
極まる. 2追いつめられる, 迫られる, 圧
し詰められる.
hafu ad. 貫いて, 突き抜けて. v. 貫け(命令
形).
hafumbi v. 1達する, 貫通する, 貫く. 2(学に
通じ何事も)一瞬にして曉(さと)る, (學
に)透徹する. 3滲み透る.
haha n. 男.
haha jui n. 男の子.
hahasi n. 男達, 男共(hahaの複数形).
hahilambi v. 急ぐ, 急速にやる.
hahilame ad. いそいで(非完了連用形).
haiharame post. 山裾を縫って(行く).
hailan n. 榆(にれ, 若芽は食用とする, 材が水
に漬かって年を経れば化石となる).
hairambi v. 1物惜しみする, 手放したがらな
い, 惜しむ, 愛惜する, けちけちする. 2い
つくしむ, いとおしむ, 愛でる, 愛する.
halā n. 姓, 一つの族. v. 換えよ(命令形).
halambi v. 1改める, 移る, 代える, (当番を)
交代する, 改变する, 換える. 2火傷する,
火燎りにする.
halangga a., n. ~姓の(者), ~族の(者).

halgimbi v. (縄などを)捲き付ける.
hamtambi v. 大便をする.
han n. 汗(カン), 可汗, 君主.
hanci a. 1(距離が)近い. 2(世代が)近い, ad.
近く.
hanciki a., n. 近いところ(の), 隣(の).
harangga a. 当該の, 所属の, 管下の, 部下の,
属下の, 統轄下の.
harha n. 鞆の底以外の部分.
hashū a., n. 1左. 2(行動の)道に停った, 亂
れた.
hatan a. 1短気な, 粗暴な, 強烈な. 2(酒・燒
酒などが)きつい, びりっとくる, 辛い. 3
(鉄などの)硬い.
hebdembi v. 相談する, 談合する, 議する.
hebe n. 1はかりごと, 隊謀, 相談, 会議, 談議.
2徒党, 党派.
hebešembi v. 共に相談する, 商議する, 協議
する.
hecen = hoton n. 城市.
hehe n. 女, 婦人.
hehesi n. 女たち, 女ども (heheの複数形).
hendumbi v. 言う, 話す, 説く.
hendume ad. ～の言うには, 曰く(非完了連用
形).
hengkilembi v. 叩頭する, 跪いて頭を地につ
ける.
hengkišembi v. 続げざまに叩頭する.
hercun akū a., ad. 何事も意に止めずに, 気が
つかずに, 気がつかぬうちに, 何時の間に
か, 不覚にも.
hergen n. 1字, 文字. 2文書, 筆跡. 3(爵位
の)爵, 世襲職, 職位. 4官, 職. 5革や足
の裏の筋(すじ), 手筋.
hesci n. 旨, 勅旨, 天子の指図.
hesci ad. 旨を奉じ(具格形).
hesebun n. 天命, 天性, 天の理, さだめ.
hešu hašu onom., a. こまごま(した), ややこしい.
hetu a., n. 1横, 傍の. 2横肥りした, ずんぐ
り.
4語彙篇 (habšambi - hetu) | 189

りした, よこしまな. 3 廊, 側房.

hibsu n. 蜂蜜.

hibsu ejen n. 蜜蜂.

hisalambi v. 酒を供える, 遺骸の前で酒を灑ぐ.

hiya n. 1 侍衛(官帽に孔雀の羽根を着けて勤務する官). 2 旱魃(の年), ひでり. 3 糸梓(二本の棒を交錯させて作ったもの, 紡錠の糸を捲き取める).

hiyabun n. 糯燈(麻がらに糠の油・胡麻の渣などを擦り付け燈として灯すもの).

hiyan n. 1 (神前で焚く)「香」(こう). 2 「県」.

hiyoo n. 「校」.

hocin n. 井戸.

hokobumbi v. 離す, 解任する, 妻を離縁させる.

holbobumbi v. 1 (他人の罪に)巻き添えを喰う, かかわりあいがある; かかわりあいにされる, 関係がある, 関係する. 2 連ねさせる, 結びあわせる.

holo a., n. 1 嘘, 偽りの, 虚偽の. 2 嘘の, 3 山の狭間, 谷あい, 山谷. 4 瓦溝(かわらみぞ), 仰向けに葺いた瓦が連なって作る溝. 5 献(うね)と畠との間. 6 リトアニア産の獣, [獣落].

holtombi v. 偽れる, 嘘をつく, 欺く.

hon ad. 苛だ, 非常に, 頗る(善い, 悪いなど).

honin n. 1 未(十二支の第八, ひつじ). 2 羊.

hono ad., conj. なお, 尚且, なおまた, 未だ, よりもなお, 一もなお, さえも.

horon n. 1 威名, 威勢, 威光, 稽威, 威声, 威力. 2 力, 効き目. 3 毒, 害.

hoton n. 城, 都城, 城郭.

hukšembi v. 1 頭の上に荷(にな)う, 頭で荷う, 頭に頂く, 戴せる. 2 耕物の根に土を被せる, 培う. 3 感激する, 感戴する, 感心する. 4 感謝する, 慶とする.

huthumbi v. 1 (両手を)束ねて縛る. 2 (馬畜の)脚を一つにまとめて括りあげる.

huwekiyebumbi v. 1 舞舞する, 奮起させる. 2 勉める, そそのかす, 激励する.

hūda n. 1 売買, 商売, 取引, 商品, 互市, 市. 2 値, 値段, 価格.

hūdāšambi v. 商売をする, 取引する, 交易する.

hūdūn ad. 速やかに, 速く, 急ちに, 快速に.

hūlambi v. 1 呼号する, 贊礼官が声高に叫んで礼の次第を指示する. 2 読む, 読み上げる, 音読する. 3 (声を出して人を)呼ぶ, 呼び寄せる. 4 雄鳥が鳴く.

hūlha n. 賊, 盗賊, 盗み.

hūlha holo n. 盗賊.

hūlhambi v. 盗む, 奪う.

hūlhame ad. ひそかに(非完了連用形).

hūncihin n. 同姓の者, 近親, 近縁, 親類, 同族.

hūntahan n. 盆, 酒や茶を呑む小椀.

hūsun n. 1 力, 腕力, 勢, 資力. 2 工人(官の労役者).

hūsutulembi v. 力を出す, 力を用いる, 力の限り勉める, 力を奮う, 奮闘する.

hūturi n. 福.

hūwa n. 庭, 中庭, 院.

hūwaitambi v. 結びつける, 繋ぐ, 束縛する.

hūwaliyasun n. 和, 和氣, 和順, 穏和, 和好, 和親, 和愛, 和合. a. 温暖な, 和平の.

hūwaliyasun tob n. 雍正(年号).

hūwangdi n. 「皇帝」.

hūwanggiyarakū a. 妨げない, 差し支えない, かまわない.

hūwašumbi v. 1 成す, 成し遂げる, 成就させる. 2 育てる.

hūwašambi v. 1 成る, 成り上がる, 成就する. 2 成長する, 成育する.

i —

i pron. 彼, 彼女, c.suf. ～の, ～をもって.

ibembi v. 1 前に進む, 進み出る. 2 (黄礼官の指示により群臣が叩頭する所まで)進んで立つ. 3 前進する. 4 (巻き狩りの際に両翼の端から tui tui (出ろ出ろ)と口伝えすると団底(中央の大旗)がおもむろに)前方

に押し出す. 5 (馬畜に草の餌を)添加してやる.

ice n. 月の初日. 4. 新しい, 新しく,はじめ, はじめての. v. 染めよ(命令形).

ici n. 1 右. 2 方向, 向き. post. 1 ～の方. 2 ～に任せて, ～のままに, ～に応じて, ～に順って, ～に適す.

icihiyambi v. 1 処理する, 辦する, 処置する. 2 死人の頭や顔を淨めて死装束をさせる. 3 純麗に片づける. 4 (女が頭や顔)整える. 5 調える. 6 手入れする. 7 管理する, 管する.

icilihiyara hafan n. 郎中.

idu n. 当番, 当直, 班.

ihan n. 牛, 丑(十二支の第二, うし).

ilambi v. 花が咲く, 花が綻びる.

ilan num. 三.

iletulembi v. 1 顕われる, 顯著になる, 明らかになる. 2 姿を現す, 出現する.

ilga n. 1 区別, 分別. 2 = ilha 花. v. 区別せよ(命令形).

ilgambi v. (善惡を)区別する, 分別する, 分別する.

ilhanambi v. 1 (久しく見つめなどして)目がぼうっとする. 2 花が咲く.

ilimbi v. 1 立つ. 2 止まる, 一時休止する, 休止する, 息抜きする. 3 兵を擧げる, 4 起きる, 5 立ち居るまう.

imcin = üntun n. 薦満(シャーマン)が治病を祈禱するときに用いる太鼓.

indahūn n. 犬, 戌(十二支の第十一, いぬ).

inenggi n. 1 日, 白昼, 日の出から日没までの間. 2 魚の名, [鮒魚].

inenggidari ad. 毎日, 日毎に.

ing n. 「營」, 兵營, 陣營.

ini pron. 彼(彼女)の(属格形).

injecembi v. 共に笑う.

injembí v. 笑う.

inu aux., n., ad. 1 そうだ, ほんとだ, ちがいな

い, ～である. 2 ～もまた, また. 3 正し〜だ, (是非)の是.

isogi n. 「遊撃」.

irgen n. 民(たみ), 天下の人間.

isabumbi v. 1 集まらせる, 集合させる. 2 集め殖やす, 積み集める. 3 髪を編ませる.

isambi v. 1 集まる, 集合する. 2 髪を編む.

iselembi v. 拒む, 謙らない.

ishun a. 向こうの, 相向かいの. post. ～に向かい.

ishunde ad. たがいに, 相互に.

isibumbi v. 1 (鷹や犬を兎や雉にとびかからせて)訓練する. 2 贈る, 贈与する, 恩に報いる, 施す, こうむる, 送り届ける, 運送する. 3 (草などを)抜かせる, 引き抜かせる. 4 及ぼす, 致す.

isimbi v. 1 福を得る. 2 足りる. 3 (髪, 草などを)抜く, 引き抜く, 抜き取る, 4 近づく, 近づける, 及ぶ, 赴く, 行く, 至る.

isinambi v. 到る, 及ぶ, 到着する, 着く. 2 到來する, 来る, 帰来する, 還る. 3 到着する. 4 言及する.

isitala ad. ～に至るまで, ～に及ぶまで, ～に及ぶ, ～に至る(isimbiの終局連用形).

j —

ja a., n. 1 (値が)安い. 2 易い, 容易.

jabdumbi v. 1 ゆとりを得る, 間に合う, 遅がある, 暫を得る, 閑暇を得る, 時を得る, 時をうつす. 2 ～してしまう, 終わる, 事をすます. 3 駕射のとき矢を放つ時期を失せず誤らない.

jabšambí v. 1 安価に手に入る. 2 僥倖を得る, 都合がいい, 便利だ. 3 勝つ, 幸いにも勝つ, 幸いを得る, 幸いに～する.

jabumbi v. 答える, 回答する.

jabun n. (訊問に対する)供述, 講述, 口供, 応答.

jafabumbi *v.* 1 捕縛させる, 逮捕させる, 捕らえられる. 2 手に取らせる, 手にさせる.
3 馬の手綱を取らせる. 4 死者を火葬に附せる. 5 税を納めさせる, 税を取る.
jafambi *v.* 1 捕縛する. 逮捕する. 2 取る, 摂む, 手に取る, 手にする. 3 (車馬を) 御する, 追い立てて行く. 4 (魔などが獲物を) 摂み取る. 5 馬の手綱を取る. 6 奉る, 上納する, 献上する. 7 縁を結ぶ. 8 税を納める. 9 氷が凍る. 10 尸体を火葬に附する.

jafu *n.* 1 羊毛をこねて作った毛氈, フェルト, 2 「割付」.

jahūdai *n.* 船, 帆船.

jai *num., a.* 第二, 二番目, 次の, 他の. *conj.* ならびに, および, また, 更に.

jai inenggi *n.* 翌日, 次の日.

jailambi *v.* 避ける, 回避する.

jaka *n.* 1 物, 物件, 物品. 2 隙間, 縫い目. 3 はた, ほとり, そば. *ad., post.* 一ばかり, ～のあたりに, ～するやいなや.

jakade *post., ad., conj.* 1 ～の故に, ～なので, ～のために. 2 ～の方に, ～のそばに.

jakūn *num.* 八.

jalā *n.* 1 媒酌人, 結婚の仲人. 2 壈, 垣根.

jalan *n.* 1 世, 代, 世代. 2 甲喇(軍団の単位, 五佐領を以て一甲喇とする). 3 (兵の一)団, 隊伍. 4 輩行. 5 (竹などの)節, 関節. 6 時代, 朝代.

jalbarimbi *v.* (神に福を求めて)祈禱する, 折る.

jalgan *n.* 命, 寿命, 定命.

jalin *post.* ～の為に, ～によって, ～ので, 故に, ～の替わりとなって. *n.* 理由, 原因.

jalu *a., ad.* 満ちた, 溢れた, 満ち溢れて, 一杯の, 一杯に, とても沢山な, なみなみど.

janggin *n.* 職任品級のある武官, [章京].
jangkū *n.* 柄が長く刃巾の広い太刀(歯薄の具), [大刀]. 2 柄の長い大型の腰刀.

jari *n.* 助禱巫.

jase *n.* 1 辺界, 辺境. 2 堡壘, 境の柵.

jasigan *n.* 1 便り, 書信. 2 人に託して送る物, 寄託物.

je *int.* はっ(貴人の呼ぶのに答える詞). *n.* 栗(茎や葉は馬に食べさせる).

jebele *n.* 1 弓矢を挿し入れた弓袋と箭(えびら)との称, 歯薄の具としての称. 2 (腰に下げる)矢袋(高さ一尺余り巾五寸余りで上面に矢を挿す孔が毎列三個宛ある, 馬皮・緞子・綿布などで造る), [徹袋]. 3 右翼(jebele gala に同じ).

jebkešeme *ad.* 気をつけて.

jeki *v.* 食べたい, 食べられたし(jembi の希望終止形).

jeku *n.* 穀物, 食糧.

jembi *v.* 1 食う. 2 耐える, 我慢する.

jempi *ad.* 平気で, むごい気持ちで, 悪いと知りつつ(jembi 2 の完了連用形).

jergi *n.* 1 序列, 順序, 等級, 等, 級層, 品級, 品等, 官の階級. 2 位, 列, 輩. 3 度, 回.

jergi niyalma *n.* 徒鞚.

jerkišembi *v.* 1 目が眩む, 目が回る. 2 光彩目を奪う, 色彩目を眩ます.

jeteri *v.* 食おう(jembi 1 の前望連体形).

jibgešembi *v.* 1 遅々として進まない, 滯る. 2 遂巡する, 踊躇する, 留恋する. 3 物惜しみする.

jibsimbi *v.* 重ねる, 重ねて積む, 重ね着する.

jidere *v., a.* 来るだろう, 来るべき(jembi の前望連体形).

jifu *n.* 「知府」.

jiha *n.* 1 重量の単位, 錢(一錢は十分). 2 錢(せに), 銅銭.

jihe *v.* 来た(完了連体形).

jyhiyan *n.* 「知県」.

jilakan *a.* 1 (苦しんでいる人などに対して)憐な, 気の毒な. 2 (小児などに対して)可愛い, いとおしい.

jilambi *v.* 慈しむ, 懐れむ.

jilgan *n.* 声, 音.

jili *n.* 怒り, 憤り.

jimbi *v.* 来る.

jing *ad.* 1 「定」, 常々, 何時も. 2 ひたすら, たえず. 3 正に, 正しく.

jio *v.* 来い(jimbi の命令形).

jiramin *a., n.* 厚い, 厚さ.

jirgambi *v.* 安逸に過ごす, 楽しんで暮らす.

jiya *s.part.* なのだ.

jiye = jiya

jobobumbi *v.* 苦しめる, 苦労させる, 惩罰する.

jobolon *n.* 瘫, 瘫瘓, 瘫瘓, 瘫瘓.

jobombi *v.* 難儀する, 苦労する, 疲れる, 苦難する.

jobošombi *v.* 疲い苦しむ, 苦しみ悩む.

jodombi *v.* しきりに往来する, 織る.

jodon *n.* 萬草(かずら・つるくさ)・苧麻(からむし)などの繊維で織った布.

jolimbi *v.* 質受けする, 質を出す, 買う.

joo *inv.v., int.* 罷めよ, 充分だ, 宜しい. *n.* 「詔」, 詔書.

joobai *int.* 罷めようよ, 罷めたいな.

joolambi *v.* 両手を組み合わせる, 手を束ねる, 手を拱く.

jorimbi *v.* 1 指示する, 指し図する, 示教する. 2 弓を絞って的に狙いを付ける. 3 指さす, 示す.

jugūn *n.* 路, 道路, 途, 道.

juhe *n.* 氷.

jui *n.* 子, 子供.

juktehen *n.* 神仏を安置する建物, 廟, 寺廟, 寺觀.

julergi *n.* 1 南. 2 前方. 3 昔.

juleri = julergi *n., ad., post.* 1 前, 前方, 先に. 2 先ず.

julesi *ad.* 1 前方に, 前に向かって. 2 先に. 3 南方に.

julesiken *a., post.* 少し前(の), やや南の.

juſge *a., n.* 古い, 昔の, 昔.

jurambi *v.* 出発する, 去る, 行く.

jurcerakū *a.* 違背しない, 停らない.

jurgan *n.* 1 部, 義, 道, 路, 意味, 筋. 2 行線 (満洲字を書くとき文字が曲がらないよう文字の中央が来るところに引く線). 3 (一本二本の)本. 4 仁義, 道義, 節義. 5 部院(公事を処理する大官庁).

juru *n.* 1 易の絶爻. 2 (一対二対の)対(つい), 一足, たぐい(類), 男女.

juse *n.* 子供達(jui の複数形).

jušen *n.* 满洲人の奴僕, 满洲臣僕, 女真.

juwambi *v.* 口を開ける.

juwan *num.* 十, とお.

juwari *n.* 夏.

juwata = juwanta *num.* 各十.

juwe *num.* 二, ふたつ.

juwembi *v.* 運ぶ, 運送する.

k —

kadalambi *v.* 管轄する, 監督する, 取り締まる, 治める.

kai *s.part.* である, です, だなあ, よ, ゼ.

kalka *n.* 橋(たて, 戰陣護身用の板, また藤蔓を大きな草帽子の形に編んで獸頭を描き手で握って戰陣で用いる物も同じく kalka という).

kambi *v.* 包囲する, 取り囲む. 2 塞ぐ, 遮る, 遮蔽する.

kamcimbi *v.* 合う, 結合する, 兼ねる.

karmamibi *v.* 保護する, 保つ, 衛る.

karu *n., ad.* 報い, 返し, おかげし(に), しかえし(に), 返報, 仇, 返答, 返書.

karun *n.* 斥候, 探りの兵, 見張り, 2 見張り所.

kemuni *ad.* 1 常に. 2 なおやはり, 相変らず, 尚, 依然として, そのまま, まだ. 3 すなわち, もとどおり, しばしば; 且つ.

kenehunjembi *v.* 疑う, 疑惑を持つ.

kesi *n.* 1 恩, 恩澤, 天與の福, 恩福. 2 賜宴.

kimcimbi v. 詳らかにする, 究める, 詳察する,
 詳細に調べる, 省る.
kimulembi v. 署とする, 仇に思う.
king *onom.* どしり. n. 「卿」.
kirimbi v. 1 忍耐する, 辛抱する, 堪え忍ぶ. 2
 (鳥などが)懼れて身動きしない, じっと身
 を伏せる.
kiru n. 旗, 小旗(森 turun より小さく, 兵が背
 に押す物).
komso a. 少ない, 僅かの, 小さい.
kooli n. 1 道理, 例, 定例, 常例, しきたり. 2
 録, 記録, 経典の典.
ku n. 1 鋼墨[鍋煤]. 2 「庫」.
kumungge a. 富み栄えた, 家が富んで大いに
 賑やかな, 繁昌した, 繁華な.
kundulembi v. 1 恭敬の意を尽くす, 敬意を示
 す. 2 もてなす.
kunesun n. 旅に携帯する食糧, 行糧.
kuri n. 虎のような斑紋のある犬, [黎狗].
kušun n. 1 不快, 不愉快, 心のこだわり. 2 身
 重. 3 胸のつかえた, 腹にたまつた. 4
 (衣服が厚く硬くて)柔らかさがない, 着心
 地がよくない.
kutulembi v. (馬などの)口を取る, 馬を牽く.
kūbulimbi v. (形勢を見て)変える, 変動する,
 変わる, 変化する.

1

labdu a. 多い, 洗山の.
lak seme *onom.* びたりと, 丁度よく.
lakcambi v. 1 (食糧財物などが)断絶する. 2
 断ち切れる, 切れる. 3 群をぬきんぐる.
largin a., n. 繁多な, 煩冗な, 煩雜(な), 錯綜
 (した).
lashalambi v. 1 決断する, 裁決する. 2 裁断す
 る, きっぱりと断つ. 3 (ふたつに)断ち截
 る.
latubumbi v. 貼り付ける, へばりつける.
ler lar seme = ler biyar seme *onom.* 1 ぞろりぞ

ろりと(大勢の人がゆっくりと行く貌). 2
 ふわりふわりと.
li n. 「厘」(数量の単位).
lisakū n. 泥水が深くて通行できないほどの所,
 ひどい泥濘.
lorin n. 駒馬(らば).
m ——
mafa n. 1 祖父・曾祖父など父より上代の男性
 祖先, [祖]. 2 老人に対する尊敬の言葉,
 [老翁].
mahala n. 冠帽, 帽子.
maise n. 小麦(峰峰(だんご)にして食う), 「麥
 子」.
majige a., ad. 少ない, 少々, 幾分, ほほ.
maktambi v. 1 称賛する, 称嘆する. 2 (手に
 したもの)を捨る, 棄てる, 投げる, 投げ入
 れる. 3 (馬などが頭を下げ後脚を跳ね上
 げて暴れ回り, 乗った人を)振り落とそう
 とする.
mama n. 1 祖母・曾祖母など父より上代の女
 性祖先. 2 老嫗, 老婆. 3 疣瘡, あばた.
mangga a. 1 難しい, 困難な. 2 (弓が)うまい,
 強い, (風などが)強い. 3 弓が硬い, 弓に
 力がある. 4 剛強な, 手ごわい. 5 値が高
 い, 高価な. 6 硬い. 7 得手とする, hab-
 sara mangga = 訴訟を得手とする. 8 才
 勇群に抜んでた(者).
manggi post. (終わった)その時, そこで, ~し
 た時に, ~した後, ~したので, ~したな
 ら.
manju n. 满洲, 满洲人.
marambi v. 1 遠慮する, 辞退する. 2 拒む, さ
 からう.
mari n. 1 (回数の)回, 度. 2 回れ, 戻れ(命令
 形).
marimbi v. 1 もどる, 引き返す, 帰る, 還る. 2
 疣瘡にかさぶたができる始める.
medege = mejige n. 消息.

mederi n. 海.
meimeni a., ad. 各自(の), それぞれ(の), め
 いめいの.
membe *pron.* 我々を, 私達を(対格形).
menggun n. 銀, 金銭.
meni *pron.* 我々の, 私達の(属格形).
meni meni ph. 各自各自の, 各々の.
mentuhun n. 愚か, とんま, まぬけ.
mergen n. 狩猟の達人. 2 智者, 賢者.
mergesē n. 智者達, 賢者達(mergen の複数形).
meyen n. 1 (文章の)節, (章節の)節, 節条. 2
 行軍時の隊伍, 行伍, (兵一陣二陣の)陣.
 3 (行走するときの一組, 一団. 4 (切断し
 た物の)一片, 一切れ.
meyen meyen i ph. 一隊一隊の, 一団一団の,
 一段一段に, 一節一節に.
minggan num. 千.
mimi *pron.* 私の, 我が(属格形).
miosihūn = miosihon
miyamimbi v. 1 (間違いを隠して言葉を)飾
 る, 飾りたてる. 2 めかす, しゃれる.
miyoocalambi v. 鋼を擊つ, 鐵砲を擊つ.
miyoocan n. 小銃, 鐵砲, 火繩銃, 鳥鎗(の訛
 音).
moltosi duka n. 古北口関.
monggo n. 蒙古, 蒙古人.
monggoso n. 蒙古人達(monggo 複数形).
moo n. 木.
morin n. 馬.
moro n. 1 梢, 瓢. 2 容積の単位, 升.
mudan n. 1 音調, 調子, 韻, 音曲, 発音. 2 (一
 次二次などの)次, 回, 度. 3 曲がり路, 湾
 曲部, 曲折, 回り道. 4 鳥を捕る罠(geji 夾
 子)を作るための曲がった木. 5 峰峰(だ
 んご)の類(蕎麥粉だけ, あるいは粟・黍な

どの粉を混ぜて発酵させ長めに揉って油
 揚げにしたもの).
muduri n. 辰(十二支の第五, たつ), 章.
muhaliyambi v. 堆む, 堆み上げる.
mujangga s.part. 一にちがいない, その通りだ,
 当然だ, もっともなことだ.
muji n. 大麥(飯にして食う).
mujilen n. 心(こころ).
mukdembi v. 1 (鳥が)高く飛ぶ. 2 盛んに興
 る, 高く昇る.
mukden n. 興起, 盛京. a. 盛んな.
muke n. 水.
mukiyeumbi v. 1 滅亡させる. 2 (火を)消す,
 冷やす.
mukiyembi v. 1 (火が)消える. 2 (熱い物が)
 さめる, 冷たくなる. 3 滅びる, 息む.
mukün n. 1 同姓の一族, 群(むれ). 2 仲間.
mulan n. (圓や四角の)腰掛け(背もたれなど
 のないもの).
muse *pron.* (自分達と相手方とを含んだ)われ
 われ, お互いども.
musei *pron.* われわれの(属格形).
musembi v. 1 (弓身が)湾曲する, 弧形状にな
 る. 2 (木などが圧力を加えられて)曲が
 る. 3 志氣沮喪する.
mutembi v. 1 能くする, ~することができる,
 成る. 2 有能である.

n ——

na n. 地, 土地. s.part. 一か, 一かね.
nadan num. 七. n. 1 墓前に幡を立てて大供養
 を営む行事(初七日および四十九日の二回
 當む). 2 財宝.
nahan n. 焼(かん), 温突(オンドル, 西壁の炕
 を dergi nahan (上炕) 又は amba nahan
 (大炕), 東壁のを wargi nahan (下炕),
 南・北壁のをそれぞれ julergi amargi
 nahan (南・北炕), 窯近くのを fushu
 nahan (竈炕)という).

naka *v.* やめよ(命令形).
 nakambi *v.* ₁(官職を)退く, 辞める. ₂止める.
 ₃やむ.
 nakarao *v.* 止めたらどうか(前望疑問形).
 namun *n.* 貨財を貯蔵する庫, 廉.
 narhūšambi *v.* ₁秘密にする, 細密にする. ₂(矢柄を)細く削る, 矢竹を少し宛削っていって太い細いのむらをなくする. ₃細かくやる, 優約してやる. ₄詳細に調べる.
 ne *n.* 現今, 目前, 今, 現に. *s.part.* ~か, ~かね.
 neciken *a.* やや平坦な.
 neigen *n.* 平均, 均(ならし), 公平. *ad.* 均しく.
 nemembi *v.* ₁(穀類の)糠を取る, 精白する.
 ₂増加する, ふやす.
 nemšembi *v.* 飽くことなく求める, むさぼる.
 nenehe *a., n.* 先の, 以前の, 先頭の, 以前.
 neneme *ad.* 先に, 以前に, まず, むかし.
 nergin *n.* (うまい)機会, (乗すべき)折り.
 nergin de *post.* ～の際に, ～の機会に.
 ni *s.part.* ～だな, ～かい, ～だったか, ～を以て, ～ぞ, *c.suf.* ～の.
 nicuhe *n.* 真珠の一種(蛤蠣貝(tahūra)から採れる, 色白く光沢があり球形. 大小種々あり装飾品として用いる). *a.* 目を閉じた.
 nikan *n.* 漢, 漢人.
 nimaha *n.* 魚(うお, さかな)
 nimanggi *n.* 雪.
 nimeku *n.* ₁気がかり, 懸念, 勤めてやろうとしたことがまだ果たされないときの気持ち. ₂病氣. ₃(行為の上の)疵, 過失.
 nimembi *v.* 病む, 病気になる, 痛む, 疼く.
 nimetembi *v.* 一齊に病む.
 ningge *n.* (良いもの大きいものなどの)もの, ～のこと.
 ninggun *num.* 六.
 ninggureme *ad.* 上に.
 ninju *num.* 六十.
 ninjuci *num.* 第六十, 六十番目.
 niru *n.* ₁ニル(三百人の男子を以て編成した

軍団, 旗の基本単位), 佐領, ₂矢(把箭kacilan(練習用の矢)に較べて羽が大きく鏃が厚い, 獣を射るのに用いる). *v.* 絵を描け(命令形).
 nirugan *n.* 絵, 図, 絵図.
 nisihai *post.* ～と一緒に, ～ともろとも.
 niyakurambi *v.* 跪く.
 niyalma *n.* ₁人, 人間, 成人. ₂鼻と唇との間の凹み.
 niyaman *n.* ₁父母, 両親. ₂親類, 縁者. ₃心臓, 心, ₄草木の芯(しん).
 niyaman hūncihin *n.* 親戚.
 niyamniyambi *v.* 騎射する, 馬を飛ばしながら的を射る, 馬を馳せながら獣を射る.
 niyamniyan *n.* 騎射.
 niyecembi *v.* ₁(当番を抜けたのを後から)補う. ₂(衣類の破れなどを)補う, 繕ぎ当てる.
 nofi *n.* 人を数える語(二人三人などの人, emunofi一人, udu nofi幾人).
 noho *post.* ～ばかりの(orho noho ba=草ばかりの地, 全くの草地).
 nonggibumbi *v.* 添えさせる, 増させる, 添えられる, 添加される, 益を受けさせる.
 nungnembi *v.* ₁人を騒がす, じっとさせておかない. ₂侵害する.
 nure *n.* あわ・きび等を原料として醸造した酒, [黄酒].
 o —
 obombi *v.* 洗う, 洗濯する, 洗滌する.
 obu *v.* なせ(obumbiの命令形).
 obumbi *v.* ～となす, ～とする
 oci *conj.* ～なれば, ～だったら, ～にあっては(ombiの条件連用形).
 ocibe *conj.* ～であっても, たといでも(ombiの讓歩連用形).
 ofi *conj.* ～なので, ～ので, ～であって(ombiの完了連用形). *n.* 雉の脚を引っかけて

捕らえる網罠.
 oforo *n.* 鼻.
 oho *n.* 股の下. *v.* ～となった, ～であった, ～になった(ombiの完了連体形, 完結したことを示す詞).
 ohobi *aux.* ～になった, ～となった.
 oilo *n., post.* 表面, 外面(に).
 ojirakū = ojorakū
 ojorakū *v.* ～ことはできない, ～ではない, 承知しない, ならない, よくない, 従わない, 任にたえない(ombiの否定前望終止形).
 ojoro *v.* ～となる, ～となす, ～をなす, ～である, ～にしよう, ～することのできる(ombiの前望連体形).
 ojoro jakade *ph.* ～なので, ～であるので.
 okdombi *v.* 迎える, 待ち受ける, (敵を)迎える.
 okini *v.* ～であれかし, ～であるように(ombiの希望終止形).
 okto *n.* ₁薬(くすり), 寒熱温平四種の性がある. ₂火薬.
 olhon *a., n.* 乾燥した, 陸, 陸の, 陸地の.
 olhošombi *v.* ₁慎む, 敬する, 畏れはばかる, 撙かり慎む. ₂警戒する, 注意する.
 ombi *v., aux.v.* ₁成る, となる. ₂できる, ～しうる, ～することができる. ₃かまわぬい, 構築だ.
 omimbi *v.* 飲む.
 omo *n.* 池, 沼.
 omolo *n.* 孫(まご).
 omosi *n.* 孫(omoloの複数形).
 onco *a.* (心の)窓, 寛大な, 広い, 横に長い.
 oncodombi *v.* 宿す, 寛大に処置する.
 oncokon *a.* やや寛大な, やや広い.
 onggolo *ad.* ₁あらかじめ, 先に, 従前に, 前₂河江の港. *post.* ～前に(ombi提前連用形).
 orho *n.* 草(くさ). 家畜用の草の餌.
 orhoda = orho da *n.* 人參, 藥用人參.
 orin *num.* 二十.
 oron *n.* ₁官に伴う地位, 官吏の地位職任. ₂空欠の官職, 欠員. ₃代役, 代わり. ₄(魂魄の)魄, 陰精. ₅辰(宮度に名称はあるが空天の処). *ad.* 全く, 全然(～ない).
 oros *n.* ロシア, ロシア人.
 p —
 pai *n.* 「牌」.
 poo *n.* 大砲, 「砲」.
 pu *n.* 「堡」.
 s —
 sa *v.* 知れ(命令形). *n.* ₁牛車の轡(ながえ). ₂白草(ひよどりじょうご, 玉草(deresu)の如く夏帽に造る). *suf.* ～等(複数語尾).
 sabubumbi *v.* 見せる, 見させる, 見られる.
 sabumbi *v.* ₁目に見える, 目に映る, 見る. ₂現われる. ₃示す.
 saca *n.* 兜, 胃(かぶと).
 sacimbi *v.* ₁斬る, (斧で木を)切る. ₂馬蹄を削り整える. ₃田を鋤く.
 saikan *a.* 眉目うるわしい, 美しい. *ad.* よく(注意せよ), よくよく(勉めよ).
 saimbi *v.* 咬む, かみつく, 口にくわえる.
 sain *n.* (吉凶の)吉, 美. *a.* 良い, 賢い, 賢能な, 能力のある.
 saifšambi *v.* ₁推奨する. ₂讃える, 嘉する, 愛する.
 sakda *a., n.* ₁老いた, 老人. ₂四歳になった雌の猪.
 sakdasa *n.* 老人達(複数形).
 saksaha *n.* 鶴(かささぎ).
 salambi *v.* 分配する, 賑わす.
 salibumbi *v.* ₁亮価を決める, 代価を定める. ₂値を引く, [准折]. ₃引き受けさせる, 繙承する. ₄恣にさせる, 治めさせる.
 salimbi *v.* ₁(事を)独り自ら掌握する, 擅にする, 自ら専らにする. ₂(家産を)自分の物とする, 受け継ぐ, 承受する. ₃執掌する.
 4語彙篇 (oforo~salimbi) | 197

4 治める。5 値する, 相当する。
 saman n. 薩滿(シャーマン), 巫人(神祇に祈願することを業とする者)。
 sambi v. 1 知る, わかる。2 伸び聞く, 伸びて行く。
 samsimbi v. 散る, 流散する。
 samsu n. 織り目が密で艶のある藍染の綿布, [翠藍布]。
 sarambi v. 1 (折り疊んだものを)開く。2 納物の碎け粒を簸(ひ)り出す。3 (鳥が羽を)展ばす, 開く, 広げる。4 馬が走るのに背筋のところが平らでない。
 sargan n. 妻。
 sargan juu n. 娘, 乙女, 女児, 未婚女。
 sarilambi v. 宴を設ける, 酒盛りをする。
 sarin n. 1 酒宴, 酒盛り。2 馬や驥馬・駒馬の尻の皮をなめて染めたもの, [股子皮]。
 sarkū v. 知らない(sambi の否定前望終止形)。
 sasa ad. 斧しく。post. 共々に, 一と共に。
 se n. 1 (一歳二歳などの)歳, 年齢。2 生糸, 3 藥用人参の茎と根との間に出来た節(ふし)。suf. 一等(複数語尾)。
 se sirge n. 絲。
 sebjelembi v. 楽しむ。
 seci conj. ~といったら, ~となら, ~といつても, ~と思っても(sembi の条件連用形)。
 sefu n. 「師傅」。
 seibenri ad. 昔, 往昔。
 sejen n. 車, 車両。
 sektembi v. 敷く。
 sekta a. (子供が年に似合わず)利口な, 涼発な, 心中大いに明快な, 心中済發な。
 sele n. 鉄。
 selhen n. 柳号, 首柳(くびかせ)。
 sembi v., aux.v. ~という, ~と思う; sembe torij. ~と(いう), ~とて(sembi の非完了連用形)。
 sengge n. 1 道理をわきまえた年輩の人, [長者]。2 針鼠(はりねずみ)。

sengguwembi v. 1 (心に)恐れる, 恐懼する。2 倦み怠る, 倦んで進まない。
 seolembi v. 思慮する, 配慮する。
 ser seme onom. ちょっと, ちょいど, わざかに, いささか(眼に見えないほど非常に小さい物を形容する言葉)。
 ser sere a. 細かい, 細かに, 微々たる。
 sere v. ~という, ~ということだ(sembi の前望連体形)。n. 蛾(蝶の生み落とした白いもの, やがて娘になる)。
 serede post. ~というとき, ~とするととき。
 serengge a., n. ~という(もの, こと)。aux. v. ~というのは, ~とは(派生名詞形)。
 si pron. お前, あなた, 汝。n. 1 字の下の空所。2 隊伍間の間隔。v. 空所を補え, 塞げ, 閉じよ(命令形)。
 siden n. 1 中間, 中央。2 訴訟において原告・被告両者の事由を知る者, 両者の中間に立つ証人。
 sidende post. うちに, 間に(与位格形)。
 siderembi v. 馬等の足に脚綱をかける。
 sijimbi v. 針の目細かに縫う。
 simbe pron. おまえを, あなたを, 汝を(対格形)。
 sinci pron. あなたより, 汝より(奪格形)。
 sindambi v. 1 置く, (官職に)つける, (官を)授ける, 任ずる。2 (罪人を)釈放する, 放免する。3 放つ, 放す, 放置する。4 書き置く。5 氷がとける。6 埋る。
 sinde pron. あなたに, 汝に(与位格形)。
 sini pron. お前の, あなたの, 汝の(属格形)。
 sioi n. 「序」。
 sirambi v.-1 世襲官を継ぐ, 承襲する, 繙ぐ。2 続ける, 接続する, 繼ぎ足す, 続く。
 sirame a. 次の。ad. 次に。conj. 次いで(非完了連用形)。
 sirdan n. 矢の一種(鋭利な両刃の鎌をそなえた戰闘用のもの)。
 sirge n. 1 楽器の絃。2 薦糸, 絹糸。3 (肋骨一本二本の)本。4 (乾し肉一すじ二すじの)

すじ。
 sisimbi v. 1 (矢を矢袋に)さし込む。2 腹に飯を押し込む(大飯くらいを嫌惡している言葉)。
 siyan n. 「庠」。
 sogi n. 野菜, 蔬菜。
 solho n. 朝鮮, 朝鮮人。
 solimbi v. 招待する, 招く。
 songgombi v. (涙を流し声に出して)泣く, 鳴が鳴く。
 songko n., ad. 跡(によって), 足跡, 事跡, 1 と同様に(雍正帝は songkoi というべきところにしばしば songko という語を使っている。本書, 読本編, 宮中權雍正朝滿漢合璧奏摺, 雍正元年五月十六日の項, 参照)。
 songkoi post. ~の通りに, ~に照らして, ~と同様に, ~と同様の, ~にしたがい, ~の跡をつけて。
 sonjombi v. 選ぶ, 選び取る。
 sorombi v. 1 忌む, 忌み慎む。2 葉が黄色になる, 黄ばむ。3 勢いが萎える。
 sorson n. 1 帽子の房飾り(紅い絹あるいは毛などの房)。2 葦や葦などの花。
 su n. 旋風。
 sucungga a., ad. 元の, 始めの, 元年の元, 最初, はじめて, 初。
 suiha n. よもぎ, 艾, もぐさ(葉を医療に用いる)。
 sujambi v. 1 (角力で)互いに組み合って進まない, 四つに組み合う。2 (手で)支える, 支えて休む。3 持ちこたえる。
 suje n. 紬子, 「襦」。
 sujumbi v. 駕ける, 走る。
 sula a., n. 1 事のない, 戦のない, 任官していない, 暇な, [閑散]。2 まばらな, 隙のある, 空, 空しい, 空いている。
 sula gisun n. 世間話, 無駄話。
 sulambi v. 残留する, 余って留まる。
 sumbi v. 寒気のために白く凝結する。2 (着物を)脱ぐ。3 (括ったものなどを)解く; 解き離す。4 車の荷を解く, 荷卸しする。
 sume bodobumbi v. 銷する。
 sunja num. 五, いつ。
 suntebumbi v. 滅ぼす, 皆殺しにする, 殺し尽くす。
 suntembi v. 滅びる, 滅び尽きる。
 sure a. 1 聰明な, 賢い, 聰い。2 (林檎や杏(あんず)などが)軟らかくて汁気たっぷりの, みずみずしい。
 surembi v. (病苦に耐えられないで)大声を立てる, 叫び声をあげる。
 suru n. 白色の馬。
 suru morin n. 白馬。
 susai num. 五十。
 susaici num. 第五十番目。
 susu n. 1 本籍地, 本地。2 寒村, 荒涼たる里。
 suwaliyambi v. 混ぜる, 混ぜ合わせる, 併せる, 合併する。
 suwayan n. 1 戊(十干の第五, つちのえ)。2 黄色。
 suwe pron. あなたたち, 汝等。
 suwembe pron. あなたがたを, 汝等を(対格形)。
 suwende pron. あなた方に, 汝等に(与位格形)。
 suweni pron. あなた方の, 汝等の(属格形)。

 š
 šadambí v. 疲れる, 倦む。
 šan n. 1 鉄砲の発火薬を装填するところ。2 耳。3 船の櫂をかける所, 横床(ろどこ)。
 šanggiyan n. 1 けむり。2 白い。3 庚(十干の第七, かのえ)。
 šangnambi v. 賞賜する。
 šarambi v. 白くなる。
 šayolambi v. 精進する, 肉類を口にしない, 斎戒する。
 šchun a., n. うち開けた(土地), さえぎるもの。のない(土地), 土地の荒れた; 広い。
 šejlembi v. 暗誦する。

solo *n.* 暇, 手すき, 休暇, すき間. *v.* (肉などを) 焼け(命令形).

šumin *a.* 深い.

šun *n.* 太陽, 日輪, 日.

šurdeambi *v.* 1 (字頭に) 丸を書く; 丸を付ける (満文を書くとき文節のはじめごとに丸を書く). 2 致した獣の周囲を取り巻いて驚き慌てさせる. 3 (まわりを) めぐる, めぐり廻る, とり廻む.

šurdeme *a.* 前後の, まわりの. *n.* 周囲.

šusai *n.* 生員(重生から考取した者).

šusiha *n.* (罪人を打つ) 鞭(木の柄に革ひもの房をつけたもの), (馬畜用の) 鞭.

šutumbi *v.* 漸く長ずる.

šuwe *ad.* まっすぐに.

šuwe hafu *ph.* 明るく通曉して蔽うところのない, 事理に通達した, 深く通じた, [貫通].

t —

tacibumbi *v.* 教示する, 学ばせる, 指教する, 説き聞かせる, 教え込む, 教唆する.

tacikū *n.* 学校, 教習所.

tacimbi *v.* 学ぶ, 習う, 学習する.

tacin *n.* 1 習俗, 風習, 慣習, 風俗. 2 学, 学問.

tafulambimbi *v.* 講める, 講止する, 忠告する.

tafin *n.* 「太平」, 「泰平」.

taka *v.* わきまえ見よ, 見知れ(命令形). *ad.* しばらく, 暫時, 少しの間.

takambi *v.* わきまえ見る, 見知る, 認める, 識る.

taktu *n.* 樓, 横閣, 二層三層の建物.

takürambi *v.* 1 人を遣わす, 派遣する, 送る. 2 召し使う.

talu *ad.* たまたま, 偶然.

tana *n.* 1 東珠(真珠の一種, 姥蛤貝(tahüra)から採れ大小種々ある. ただ東方にのみ産す. 非常に硬い). 2 薙の一種(瘦分の多い土地に生え羊が好んで食べ肥る).

tanggū *num.* 百.

tanggūta *num.* 各百.

tantambi *v.* 1 引く, (弓, 箭を)引く. 2 (杖や鞭などで)打つ, ひっぱたく.

targambi *v.* 戒律を守る, 斎戒する, 戒める, 斎戒する, 忌む.

tarhūn *a.* 肥えた, 太った, 肥満した, 脂身の多い(肉). *n.* 姥(はまぐり, 鳥が大水中に入って成った真珠貝).

tarimbi *v.* 栽培する, 耕す.

tašan *n.* 嘘, 虚偽:

tatabumbi *v.* 1 宿營させる. 2 止める, ひきとめる, ひかせる. 3 差し出た口をきく. 4 衣服が小さくなり身に合わなくなる.

tatakū *n.* 抽出(ひきだし), 柳を編んで作った水汲み用の笊(ざる, 木で作ったものもある)..

tatambi *v.* 1 (弓を)引く, (相手を)引く, 引き寄せる, 引っ張る. 2 宿る, 宿營する, 止まる.

te *n.* 今, 現在. *v.* 坐れ, 腰をおろせ, 住め, 留まれ(命令形).

tebcimbi *v.* 平気で残忍なことをする, 忍ぶ.

tebumbi *v.* 1 納棺する. 2 坐らせる, 腰をおろさせる, 乗せる. 3 (苗を)移植する, 植える. 4 (箱などに)盛る, 容れる, 入れる. 5 注(つ)ぐ. 6 酒を醸造する. 7 控除する, 扣除する(差し引く). 8 住まわせる. 9 官に就かせる.

tede *pron.* そこで, そこに(与位格形). *ad.* 今まで, ただ今.

teike *ad.* 今し方, ほんの今し方.

teile *post.* (力の)限り, ありったけ, 一ばかり, 一だけ, 一のみ, ひとり(特に) 一ばかり.

teisu *n.* 1 向(むかひ), 向かい合い, 相応, 対応. 2 分, 戰分. *a.* 向かい側の, 相当する, 匹敵する. *past.* 相対して, ~に向かって.

teisu teisu *ph.* 各自各自に, 各々それぞれに.

teisulembi *v.* うまい具合に出逢う, 釣り合いでとる.

teksilembi *v.* ととのえ揃える, 整頓する, 斎にする, 斎一にする, 斎しくする, 均整をとる, 隊伍を整える.

tembi *v.* 1 (水中の汚物が)沈殿する. 2 坐る, 腰をおろす. 3 住む, 居住する. 4 官に就く, 戯にある. 5 とどまる. 6 乗る, 7 水が溜まる.

temgetu *n.* 開防印より小型の官印, しるし. 2 標識, 証拠, 符号. 3 証明書, 証書.

temšembi *v.* 爭う, 競う.

temšenumbi = temšendumbi *v.* 皆がそれぞれに争い合う, 共に争う, 競い合う.

ten *n.* 1 極み, 尽きるところ. 2 土壌・築地などの根もと, 土台のところ, 基. 3 缶縫(gecuheri)に横に段をなして織りだした小籠. 4 木などを曲げて作った矯(こし)に似た乗り物(人の担ぐ物と家畜に付けるものとの両種がある).

teni *ad., conj.* つい今し方, つい一したばかり, はじめて, やっと, そこで, わざかに, まさに.

tere *pron.* 1 それ, その, あれ, あの, 彼, 彼女. 2 (某日の)某.

tereci *conj.* それから. *pron.* それより, あれより(奪格形).

tese *pron.* その人たち, あのひとども, それら, あれら(tere の複数形).

tesumbi *v.* 不足はない, 足りる.

telele *ad.* 今まで(teの終格形).

tetendere *post.* 一するからには, ひとたび~からには, 一する以上, 一する位なら, 一するのだったら, 一なら, 一する限りは, 一しながら.

tob *onom.* 正しい, 公正な, 端正な, 正(まさ)に, きっちり, ぴったり.

todolo *n.* 兆(きざし), 前兆, 幸先(さいさき).

toföhon *num.* (月の)十五日, 十五.

tokso *n.* 荘園, 荘屯, 村莊(耕作人を居住させる所).

toktobumbi *v.* 1 平定する, 安んじる. 2 (弓を十分に絞って)じっと狙いをつける. 3 (彫刻したものに宝石類を)ちりばめる. 4 判決する, 決裁する.

toktohon *a.* 定まった, 落ち着いた. *n.* 確実性.

toktombi *v.* 定まる, 定着する.

toktosi *n.* 仲買人, 調停者.

tolgin *n.* 夢(ゆめ).

tolombi *v.* 数える.

tome *ad.* ~ごとに, ~ごと, ~づつ, 每度.

tomorhon *a.* (言葉が)綺麗な, 明晰な, 明瞭な, 清楚な.

ton *n.* 1 数, 数字, 数目. 2 算数. 3 計, 総計. 4 実数. 5 亂暦.

tondo *n.* 1 公平, 公正, 不党, 正直. 2 忠, 忠義. 3 真っ直ぐな, 正しい.

tongkimbi *v.* 頭を叩く【撃頭】. 圈点を付ける.

tookabumbi *v.* 怨み怒りを水に流せる, 豪いを解く. 2 手間取らせる, 遅延させる.

toombi *v.* 置(ののし)る.

tu = turun *n.* 大旗, 旗印.

tuba *pron.* 彼処(かしこ, あそこ).

tubade *pron.* 彼処で, 彼処に(与位格形).

tubihe *n.* 果実, くだもの, 木の実.

tucibumbi *v.* 1 遺骸を家から送り出す. 2 出す, 現わす. 3 出かけさせる, 派出する, 派遣する, 推挙する, 書き出す. 4 陳述する, 声明する, 口に出す. 5 提出する. 6 点する, 点出する. 7 救い出す.

tucimbi *v.* 1 出る, 外出する, 逃れ出る. 2 (穀物などの芽が)出る. 3 事が起ころ, (戦いが)起ころ.

tucinderakū *a.* 逃れ出られない(読本編, ニシヤン・サマン伝, 参照).

tucinjimbi *v.* 発覚する, 現れる, 起こる.

tugi *n.* 1 球. 2 数珠の房紐の中程に通した糸花紋の珠.

tuhembī *v.* 1 (地に)倒れる, 転倒する, 落ちる, 倒れ落ちる. 2 氷が解ける.

4語彙篇 (teksilembi ~ tuhembi)

tuhenembi *v.* 落ちて行く。

tukiyembi *v.* 1 挙用する, 登用する。2 (客の前に)料理を置く, 食膳を供える。3 称揚する。4 推挙する。5 かつぐ, 持ち上げる, さしあげる, 肩に担ぐ。

tule *a., ad., post.* 外(そとの), 外へ, よそへ, 外国の。

tulergi *a., n.* 外の, 外の方の, 外。

tulgien *a., ad., post.* ～の外, ～以外, その他 の, ～を除くほか。

tumen *num.* 萬。

tun *n.* 島。

tungken *n.* 蔭溝の用いる太鼓(両皮張り, 吊るして二本の桴(ばち)で叩く), 太鼓。

turgun *n.* 1 由来, 事情, 原因, 内実, ゆかり, 理由。2 情実, 缘故, 経緯(いきさつ), 来歴, 故。

turgun de = turgunde *ph., post.* ～の理由による, ～だからである。

turi *n.* 豆, 大豆(だいず), 黄色のものは味噌または粉にして種々の餃子などを作るのに用いる。黒色のものは家畜に食わす)。v. 届え, 貸借りせよ(命令形)。

tusa *n.* 益, 利益。

tušambi *v.* 1 妻に遭遇する。2 出逢う。

tušan *n.* 戦, 戦務, 戦位, 官位, 任, 任務。

tutambi *v.* 1 とどまる, 立ち止まる, 後に残る, 残留する, 落後する, 人後に留まる。2 後世に残る。

tuttu *ad.* このように, そのように, かくは。
conj. 故に, そこで。

tuwaci *v.* 見れば(条件連用形)。

tuwakiyambi *v.* 1 見守る, 見張る, 試みる, 守りを固める。2 (牧畜の群が草を食むのを見張る)。

tuwambi *v.* 見る, 看る, 見守る, 願みる, 試みる, 占う, 確かめる。

tuwanambi *v.* 看に行く; (人の安否を尋ねて)機嫌伺いに行く。

tuwašambi *v.* 1 監視する, 気を付けて見張る。2 (貧しい者に)施しを与える, 面倒を見てやる。

u —

uba *n.* ここ, この所。

ubade *n.* ここに, 此處で(与位格形)。

ubaliyambumbi *v.* 1 変える。2 翻訳する。

ubašakü *a., n.* だらしない, 心移りする(者)。

ubašambi *v.* 1 そむく, 謀反する, 叛いて投する。2 耕す。3 ひっくり返す, 転写する。

ucarambi *v.* 出合う, めぐり合う。

ucumbi *v.* 混ぜてかき回す。

udambi *v.* 買う。

udu *ad.* 1 幾つ。2 いくら(～でも), たとえ(～でも), よしや(～あっても), どれほど(～でも)。3 (数個, 数百個などの)数。

udu ... -cibe *ph.* いかに～でも。

ududu *a.* 1 幾つもの, 幾度も, (幾等もなどの)幾。2 多くの。3 (数十数百の)数。

ufa *n.* 穀物の粉, 麵。

ufarabumbi *v.* 1 失錯させる, やりそこなわせる。2 利を失わせる, 損をさせる。

ufuhu wehe *n.* 軽石, 浮き石(鉛の皮をなめすのに用いる)。

uhei *ad.* すべて, 一緒に, 共々に, 一にして。

ujelembi *v.* 1 重んずる, 重視する, 敬う。2 病が重くなる。

ujen *a.* (態度などの)重々しい, 沈重な, 重い。n. 重いもの, 重要さ, 重さ。

ujimbi *v.* 培う, 育てる, 生かす。

uju *n.* 1 第一, 一番目。2 あたま, 首(くび)。3 数珠の上部にある親珠, 母珠(珊瑚の類を用いる)。

ukambi *v.* 逃げる, 逃走する。

ukanju *n.* 逃亡者, 裏切り者。

uksin *n.* 1 馬甲, 兵種の名(佐領中から選抜した兵, 兵戦に赴き城を守り見張り所に詰めるなどの任に当たる)。2 鎧(よろい, さし

こに鉄錆を釘付けしたもの), [甲]。

uksun *n.* 太祖の兄弟から出た直系子孫の一族, 類祖(太祖の父)の直系子孫, 一門, 一族, [宗室]。

ulambi *v.* 1 伝授する, 話しを伝える, 伝える。2 伝達する, 転送する。

ulebumbi *v.* 1 筆を墨に湿す, 筆に墨を含ませる。2 荒縫いさせる, 真っ直ぐに目荒く縫わせる。3 食物をあてがう, 食物を配る。

4 家畜に食物を与える, 養う。

ulgiyan *n.* 亥(十二支の第十二, い)。2 豚。

ulhibumbi *v.* 悟らせる, 通曉させる, 晓諭する, 示す。

ulhiyen *ad.* 漸次, 少しづつ。n. 漸(易卦の名)。

uli *n.* 1 弓の弦。2 にわうめ, [杜李]。v. 繩を通せ(命令形)。

uli moo *n.* 庭梅の木。

ulin *n.* 銀帛などの財物, 家財, 財宝, 富。

umai *ad.* 決して(～でない), 全く(～でない), 全然(～したことがない)。

ume *ad.* けっして～するな, ～な, なかれ(打ち消しの詞), (述語の前望連体形動詞と相關する)な～そ。

umesi *ad.* はなはだ, ひどく, 頗る, きわめて, 大いに。

umudu *n.* 孤児。

uncambi *v.* 売る。

uncehen *n.* 1 満洲字の尾端, 最後の字画。2 車の尾部。3 (鳥・獣などの)尾。

unde *post.* まだ～しない前に, まだ～しない～はまだだ, まだ～したことがない。

unduri *post.* 路沿いに, ～に沿って, [沿途]。

unenggi *ad.* まことに, 果して。n. 誠(まこと), 誠実。

unggimbi *v.* 1 送る, 贈る。2 違わす, 差違する, かえす。

untuhun *a.* 空の, 無一物の, 何もない, [空]。

untuhuri *ad.* 徒に, むなしく。

unumbi *v.* 背負う, 担う。

ura *n.* 尻(しり)。

urebumbi *v.* 1 夏習する, 習う, 熟練させる。2 (耐えられないまで)懲らしめる, 挫いてしまう。3 線を練る(絲を灰汁に浸し熱い所に置いて蒸し洗う), 精鍛する。4 (板を)たき上げる, (果物を)熟させる。

urehe *v., a.* 1 心に痛手を受けた。2 (飯が)煮えた。3 (果物が)熟した。4 精通した(完了連体形)。

urembi *v.* 1 心に傷み悲しむ, 心に痛手を受けた。2 (実が)熟する, 食べられる。3 (飯が)煮える, 炊きあがる。4 精通する, 熟練する。

urgedembi *v.* そむく, 恩にそむく, 恩顧を忘れる。

urgunjembi *v.* 喜ぶ。

urhumbi *v.* 片よる, 曲がり片よる, 一方に傾く。

urimbi *v.* 崩(くず)れる, 死ぬ, 崩する。

urse *n.* 者達, 者共, 輩(やから), 人々, 衆人(複数の人間を指す詞)。

uru *a., n.* (是非の)是, 正しい, 理のある。

urui *ad.* 只専ら, 偏(ひとえ)に, ひたむきに, ひたに, ただただ。

urulembi *v.* 是とする, 賛同する, 同意する。

urunkü *ad.* 必ず, 決まって, 疑いなく。

ushambi *v.* (人を)憤り怨む, 憎悪する。

usihin *a.* 湿った, 湿り気のある。

usin *n.* 田畠, 田地。

ušabumbi *v.* 1 (他人の事に)引っ張り込まれる, 卷き込まれる, 卷き添えになる。2 章かせる。3 握かせる。

utala *ad.* こんなにも(多い), これほど(たくさんある, 近辺にあるもの多いのを指していう言葉)。

uthai *ad.* �即刻, 直ちに, 即ち, そのままの, すぐさま, 即座に, そこで, 結局, たとえ。

uttu *ad.* このように, かくは。

uttu oci *ph.* こうならば, そうなら, それなら, ～ならば。

uttu ohode ph. かくのごとくすれば、そうすれば、そうなれば、そうなら、こうしたら。
uyun num. 九、このつ。

ū —

ūkligc n. 贈物。

w —

wabumbi v. 殺される。

wacihiyambi v. 完結する、終結する、完成する、尽きる、尽くす、絶滅する、終わる、一してしまう、落着する、決着する、処理する。

wacihiyame ad. ことごとく、終わりまで、尽くして(非完了連用形)。

wajimbi v. 1 終わる、完了する、尽きる、足る。2 絶える、巴む、絶滅する。

waka aux., n. 1 (是非)の非、理にかなわない、誤っている。2 ~ではない、いない、存在しない。

wakalambi v. 非を咎める、弾劾する(人の非違を指摘して上奏する)、責める、(過誤を)咎める、非難する、叱責する。

waliyabumbi v. 1 飛でさせる、放らせる、廃させる。2 落とし失う、遺失する、紛失する、見失う。

waliyambi v. 1 墓前供養を営む、墓前に盆卓を設けて供えものをして紙錢を焼いて祭る、弔う、祭る。2 飛てる、放る、廃する、置く、遺失する、のこす。3 恩免する、免除する。4 (酒などを)吐き出す、吐き捨てる。

wambi v. 殺す。

wan n. 梯子(はしご)。

wandzi n. 「丸子」。

wang n. 「王」。

wargi n. 西、右、下方。

wasibumbi v. 1 (官位を)下げる。2 (高い所から)降ろす、下ろす。

wasika a., v. 1 やつれた、瘦せた。2 零落した、

おちぶれた。3 値が落ちた、価が下がった。4 (牲畜)の肉が落ちてしまった、瘦せてしまった。5 下りた、降った(wasimbi の完了連体形)。

wasimbi v. 1 (高い所から)下る、降りる、墜す。2 (牲畜)の肉が落ちる、瘦せる、衰える。3 値が下がる。

wasimbumbi v. 降す、下す。

wasinjimbi v. (高いところから)下ってくる。

wasinu v. 降りよ(wasimbi の命令形)。

we pron. 誰、誰か。

wehe n. 石。

wehiyembi v. 助けて世話を、扶助する。

weihe n. 1 齒、牙(きば)。2 (獣などの)角(=uihe)。

weihu n. 独木舟、丸木舟、小舟。

weihuken a. 軽はずみな、浮ついだ、軽い。

weihun a. 活きた、息のある。ad. 生きながら、生きて。

weijumbi v. 活ける、蘇(よみがえ)る。

weile n. 1 罪、罰、罰銀。2 事、仕事。v. 造れ(命令形)。

weilembi v. 1 仕事をする、工作する、造作する、造る、働く。2 編集する。3 事をなす、仕える。

weilen n. 仕事、工作、造作、工役。

weji n. 密林、樹木が天を遮って幾千里と続く森林、[叢林]。

wenjehun a. 富裕な、豊多の、繁榮した。

werimbi v. 留めておく、残しておく。

wesihun ad., post., n. 1 上の、上方、上手(かみて)に。2 東に、東方。3 尊い、貴顕、貴台の、尊大、盛大、殷富。

wesimbi v. 1 (官等が)昇進する、昇る、昇任する。2 高く登る。

wesimbumbi v. 1 上奏する、奏聞する。2 挙げる、持ち上げる。3 登らせる、高くする。

wesinu v. 上がれ、昇れ(wesimbi の命令形)。

y —

ya n. 夕露。pron. 1 この人か、どの方が(名を)知っていて人を知らないときに尋ねる言葉)。2 誰か。3 何、何の、どの。

yabubumbi v. 1 (伺いの通りにすることを)許す、許可する、聞き入れる、了承する。2 准じ行なう、准ずる、照らし行なう、行なわせる、用いる。3 聞き入れる、施こす。4 行かせる、行走させる。5 文書を送る、書信を送る。

yabumbi v. 1 行なう、(路を)行く、歩く、行走する。2 婉る。

yaci pron. 誰から、誰より(奪格形)。

yacihiyambi v. くしゃみをする。

yadahün a. 1 貧しい。2 痘瘡の発疹が十分でない。

yadalingü a. 1 力が相応しない、力が同等でない。2 弱い、虚弱な、(からだの)弱い。

yadambi v. 1 (弓身の一方が)軟らかい、弱い、(弓身の一方が)軟弱で曲がり過ぎる。2 貧窮する、貧乏する。

yafahan a., ad., n. 徒歩、徒步で、歩いて、徒步の、歩行。

yaka pron. 1 誰か! (貴人が人を求めて呼ぶときの声、呼格形), yaka bio = 誰かある。2 誰が、どれが、誰かが。

yaksimbi v. (門・箱などを)閉じる、錠をかける。

yala ad. 真に、殊に、果たして、誠に。

yali n. 肉、獸肉。

yalu n. 1 田地の境界、畦。2 「鳴緑」。v. 馬に乗り(命令形)。

yalumbi v. (馬に)乗る、騎乗する。

ymun n. 「衙門」、役所、官庁。

yan n. 1 「両」(重量の単位、金銀の数目、十六斤)。2 「眼」。

yargian a., n. 真実の、偽りのない、(言行)真実の、真実。

yarumbi v. 1 手引きする、導く、導いて行く、案内する。2 (狭いところを)一人一人数珠つなぎになって行く。3 援引する、援用する。

yasa n. 目、眼、網の目。

yasai muke n. 眼。

yaya a., ad. すべての、凡百の、諸々の、あらゆる、およそ、もろもろの、諸々、如何なる。

yayadambi v. 舌をこわばらせて話す、舌を咬むようにして話す。

yayan n. 皆。

yebelerakü a. 嫌ばない。

yehe n. 1 背の上部に取り付けた円筒形の金具。2 錫の横幅の一番広い所と錫の根との中間部。3 灰汁に浸して白く晒した麻の苧(お)、[練麻]。

yobodombi v. 元談を言う、からかう、たわむれに一する。

yordombi v. 鏡矢で射る、鳴矢を飛ばす。

yuwan wai n. 「員外郎」(員外郎の略、員外は金を出して買うことができたので富人の通称となっていた)。

5

索引

文法項目索引——他の言語との対照を考慮して、英文術語が附してあります。
助詞・接尾辞等索引——この索引には助詞・接尾辞ばかりでなく、たとえば無活用動詞の *akü, bi* や助動詞の *waka*, 後置詞の *fonde, unde* のように、本書の中で特に説明を加えた語も採録してあります。索引の順序はまず助詞・接尾辞等をイタリック体で見出し語として記し、次に品詞又はその下位分類名、本文中の頁という順で記してあります。品詞名を括弧に入れて記したものは、見出し語の説明が括弧内の品詞の項に記述してある、という意味で、見出し語の品詞名を示すものではありません。

文法項目索引

ア —

- アスペクト aspect 73, 98
- 移動動詞 motional verb 84
- 為格 agentive case 109
- 意志 volitive 76
- 一次語幹 primary stem 94
- 因由 causal 68, 86, 106, 107
- 因由後置詞 causal postposition 126
- 因由接続詞 causal conjunction 106
- 引用 quotative 137
- 受身(派生接尾辞) passive (derivational suffix) 108, 109
- 打ち消しおよび禁止を表わす副詞 adverb of negation and prohibition 66
- 沿格 proative case 51, 72

カ —

- 可算名詞 countable noun 47, 49
- 可能 potential 89, 90, 108
- 仮定条件 provisional conditional 87, 90
- 仮定を表わす副詞 adverb of condition 65
- 回想 retrospective 82
- 外来(派生接尾辞) adventive (derivational suffix) 110
- 外来語の官職名 loan official name 48
- 格 case 66
- 格助詞 case suffix 66-73, 77, 109, 119
- 格助詞の疊用 double case 72
- 活用語尾 functional verbal suffix 73, 97, 98, 103, 115, 116
- 干支 sexagenary cycle 57
- 完了アスペクト perfective aspect 75, 79, 98, 119
- 完了アスペクト活用語尾 perfective functional suffix 98
- 完了完成相 pluperfect phase 98—
- 完了継続相 perfective durative phase 98, 100
- 完了終止形 perfective finite form 74, 75
- 完了状態相 perfective stative phase 98, 100
- 完了進行相 perfective processive phase 98, 99

- 完了進行連体形 perfective processive participle 82
- 完了断定相 perfective assertive phase 98, 99
- 完了否定 perfective negative 88
- 完了連体形 perfective participle 75, 76, 119-121, 128
- 完了連用形 perfective converb 85
- 感動詞 interjection 135
- 感動終助詞 emotive particle 135
- 勧奨 hortative 76
- 願望終止形 -desiderative finite form 79
- 危惧連用形 apprehensive converb 92
- 希求終止形 optative finite form 80-81
- 基本数詞 cardinal numeral 53-58
- 義務 obligatory 89
- 疑問終助詞 interrogative particle 134
- 疑問接尾辞 interrogative suffix 77
- 疑問代名詞 interrogative pronoun 51, 116, 117
- 疑問・反語を表わす副詞 adverb of rhetorical question 65
- 擬音語 + se- symbolic word + se- 103
- 擬声詞 onomatopoetic word 136
- 擬声・擬態詞 onomatopoeia 63
- 擬態詞 ideophonic word 137
- 逆接条件 adversative conditional 88, 90, 91, 105
- 逆接接続詞 adversative conjunction 130
- 協同(派生接尾辞) cooperative (derivational suffix) 109
- 協同後置詞 cooperative postposition 125
- 強意 intensive 76, 110
- 強意を表わす副詞 adverb of emphasis 66
- 強調・指定・断定終助詞 assertive particle 134
- 具格 instrumental case 70
- 形態素 morpheme 104
- 形容詞 adjective 59-62, 110, 128
- 形容詞の種類 classification of adjectives 59
- 形容詞の比較 comparison of adjectives 60
- 形容詞の名詞化 nominalization of adjectives

61

継続連用形 durative converb 87

固有名詞 proper noun 47

個別数詞 distributive numeral 54

語彙的接尾辞 lexical suffix 112

語幹 stem 73, 94, 97, 107

交互連用形 alternative converb 93

後置詞 postposition 79, 107, 119-128

肯定 affirmation 116

サ —

使役(派生接尾辞) causative (derivational suffix) 108, 109

使役動詞 causative verb 68, 70

指示代名詞 demonstrative pronoun 50

指少接尾辞 diminutive suffix 110

時間後置詞 temporal postposition 119

時間的経起 time sequence 84

時間を表わす副詞 adverb of time 63

時制 tense 73, 119, 120

実質的意味 substantive meaning 97, 101, 104

借用語 loan word 48, 68

主格 nominative case 67

主格属格 subjective genitive 67

熟語形式の副詞 adverbial phrase 63

出向(派生接尾辞) elative (derivational suffix) 110

述語動詞 predicate verb 69

終格 terminative case 72, 92

終局連用形 terminative converb 72, 92

終止形の用法 (-ra etc. の) sentence-conclusive use (of -ra etc.) 76

終助詞 sentence-final particle 78, 79, 115, 133-135

十干 ten celestial stems 57

十二支 twelve terrestrial branches 57

従属節 subordinate clause 67

順序数詞 ordinal numeral 54, 58

順接接続詞 copulative conjunction 129

所有格 possessive case 52

所有代名詞 possessive pronoun 52

助詞 nominal suffix 66, 72, 124

助数詞 classifier, counter 54, 55

助動詞 auxiliary 116-118

象徴詞 onomatopoeia 136

状況を表わす副詞 adverb of manner 64

条件 conditional 105

条件後置詞 conditional postposition 128

条件接続詞 conditional conjunction 104, 133

条件連用形 conditional converb 82, 87, 91, 128

疊語 reduplicative compound 63

讓歩 concessive 88, 89, 91, 102, 106

讓歩連用形 concessive converb 91

讓歩接続詞 concessive conjunction 132

人名の複数語尾 plural ending for persons' names 48

推量 conjectural 76, 77, 116, 117

推量・憶測を表わす副詞 adverb of supposition 65

推量終助詞 conjectural particle 134

随意後置詞 voluntative postposition 128

数(名詞の) number 47

数詞 numeral 53-58

性(名詞の) gender 49

接続詞 conjunction 78, 129-133

説明接続詞 descriptive conjunction 132

選択接続詞 selective conjunction 131

前望アスペクト prospective aspect 77, 98

前望アスペクトの疑問 prospective interrogative 77

前望終止形 prospective finite form 76

前望の行動 action of the prospective aspect 79

前望否定 prospective negative 88

前望連体形 prospective participle 92, 107, 120, 121

相 phase 98

相互(派生接尾辞) reciprocal (derivational suffix) 110

想定 hypothetical 82

属格 genitive case 67, 68, 107, 109, 120, 121, 122, 124-128

タ —

他動詞 transitive verb 70

対格 accusative case 68, 69, 126

代替後置詞 alternative postposition 127
代名詞 pronoun 49-52, 68, 119, 124, 126, 127
体言 nominal 66-72, 104, 108, 118-120, 128
奪格 ablative case 71, 119, 122-125
単綴り independent spelling 62, 67, 68
単綴り形式の副詞 independent-spelt adverb 62
談話 discourse 85
断定・決意を表す副詞 adverb of assertion 65
直接引用 direct quotation 85
直接目的語 direct object 69
月の表示 expression of months 57
提前連用形 prefatory converb 92
提題助詞 thematic particle 67, 90
程度・数量を表す副詞 adverb of degree 64
添加接続詞 additive conjunction 132
同時連用形 simultaneous converb 93
時の表示 expression of a time of the day 58
動作主 agent 68, 70, 109
動詞 verb 73-95, 113, 116, 119, 122, 126, 127
動詞化接尾辞 verbalizer 110-112
動詞由来 deverbal 112
動詞由来派生形容詞 deverbal derivational adjective 60
動名詞(=連体形) verbal noun (= participle) 68, 72, 76, 77, 83, 92, 124, 126

ナ —

二次語幹 secondary stem 94, 108
人称代名詞 personal pronoun 50
年号(清代) reign era (Ch'ing dynasty) 58
年の表示 expression of years 58

ハ —

派生形容詞 derivational adjective 59
派生接尾辞 derivational suffix 108-111
場所後置詞 locative postposition 123
排他形 exclusive form 50
倍数詞 numeral of multiplication 56
反語 rhetorical question 89, 116, 117
反照代名詞 reflexive pronoun 52
反復 iterative 109

範囲後置詞 terminal postposition 124
範囲を表す副詞 adverb of quality 65
比較奪格 comparative ablative 61, 72
日の表示 expression of a day of the month 57
非完了アスペクト non-perfective aspect 98
非完了継続相 non-perfective durative phase 98, 100
非完了終止形 non-perfective finite form 73
非完了状態相 non-perfective statal phase 98, 100
非完了進行相 non-perfective processive phase 98, 99
非完了連体形 non-perfective participle 76
非完了連用形 non-perfective converb 83, 120; 121, 126
非情物 inanimate object 49
否定 negation 78, 116
否定状態相 negative statal phase 98, 100
表敬の副詞 adverb of humbleness 66
不可算名詞 uncountable noun 47
不确定数量詞 indefinite number 56
不規則動詞 anomalous verb 94-96, 109
不定代名詞 indefinite pronoun 52
普通形容詞 primary adjective 59
普通名詞 common noun 47
複数 plural 47, 48, 49
物主代名詞 possessive pronoun 52
文 sentence 85
分数詞 numeral of fraction 55
副詞 adverb 61-66, 107, 117
副詞の修飾語(連用修飾語) adverbial adjunct 105
副詞の分類 classification of adverbs 63
副動詞(=連用形) gerund (= converb) 84, 107
並列接続詞 co-ordinate conjunction 132
補助動詞 auxiliary verb 80, 97, 98, 136
方向後置詞 allative postposition 121
方向を表す副詞 adverb of direction 65
包括形 inclusive form 50

マ —

無活用動詞 invariable verb 97, 113, 115

名詞 noun 47-49, 110, 111, 117, 118, 120-123, 125-127
名詞化接尾辞 nominalizer 112
名詞の数 number of nouns 47
名詞由来 denominative 112
名詞由来派生形容詞 denominative derivational adjective 59
命令形 imperative form 94, 128
ヤ —
有情名詞 animate noun 47
与位格 dative-locative case 68, 109, 120, 122, 125, 126
連続性 sequence 85
連体形 participle 72, 75-77, 83, 87, 120, 126-128
連体詞 attribute 60
連体止め sentence-conclusive use of participles 75, 76, 82
連用形 converb 83, 87-91

助詞・接尾辞等索引

a —
a, interjection 135
ada, interjection 135
adali, evidential postposition 127
adarame (ohode), adverb of rhetorical question 65, 105
ai, interjection 135
ai hacin i, concessive conjunction phrase 132
ai ocibe, concessive converb phrase 105
aiba, interrogative pronoun 51
aibi, rhetorical interrogative auxiliary 117
aici, interrogative adverb 89
aika ... oci, correlative conditional conjunction 104, 133
aikabade ... oci, correlative conditional conjunction 104, 133
ainci, suppositional adverb 116
aise, suppositional interrogative auxiliary 116
ajaja, interjection 135
akū, negative invariable verb 113
akū ara-, (invariable verb) 114
akū bi-, (invariable verb) 114
akū o-, (invariable verb) 114
akūci, negative conditional conjunction 89, 114, 133
akūha, negative perfective invariable verb 114
akūn, negative interrogative particle 114, 134
amala, locative postposition 119, 123
-ba, deverbal derivational adjective suffix 60
baha, perfective participle 76
bai, assertive particle 134
bam, allative postposition 121
be, first person plural exclusive pronoun 50
be, nominative case suffix 67
be, assertive particle 134
be, accusative case suffix 68-70, 76, 77
-be, deverbal adjective suffix 60
-beo, accusative case interrogative suffix 70
bi, existential invariable verb 115
bi-, auxiliary verb 97
bidere, conjectural invariable verb 115
bihede, (dative-locative case) 69

bikai, assertive invariable verb 115
bimbi, auxiliary verb 97
bime, co-ordinate conjunction 130, 132
bini, confirmative invariable verb 115
binikai, emotive particle 135
bio, interrogative invariable verb 115
bisire de, (dative-locative case) 69
-bu-, passive-causative verbal suffix 94, 108
butereme, prolativ postposition 122

c —
-ca-, cooperative-iterative verbal suffix 109
-can, diminutive nominal suffix 112
calu, locative postposition 123
canggi, terminal postposition 124
cargi, locative postposition 123
-ce-, cooperative-iterative verbal suffix 109
-cen, diminutive nominal suffix 112
ci, (numeral of fraction) 56
ci, instrumental case suffix 71
ci, ablative case suffix 61, 71, 120
ci, ordinal numeral suffix 54
ci, conditional converb suffix 82, 87
-ci, deverbal agentive suffix 112
-ci acambi, obligatory verb phrase 89
-ci ... akū, correlative invariable verb 88
-ci baha-, potential verb phrase 90
-ci baharakū, potential negative verb phrase 90
-ci ete-, potential verb phrase 90
-ci ... -hakū etc., correlative invariable verb 88
-ci mute-, potential verb phrase 90
-ci ojorakū, prospective negative potential verb phrase 89
-ci ojoro, prospective potential verb phrase 89
-ci ombo, potential verb phrase 90, 108
-ci ... -rakū etc., correlative invariable verb 88
-ci tetendere, concessive conjunction phrase 91, 133
-cibe, concessive converb suffix 91
cihai, voluntative postposition 128
cikirame, prolativ postposition 122
-co-, cooperative-iterative verbal suffix 109
-con, diminutive nominal suffix 112

-cina, optative finite suffix 81
-cuka, deverbal adjective suffix 60, 112
-cuke, deverbal adjective suffix 60, 112
-cun, deverbal adjective suffix 112

d —
-da-, diminutive verbal suffix 110
-da-, denominational suffix: verbalizer 111
-dari, distributive nominal suffix 112
dabala, assertive particle 79, 134
dade geli, additive conjunction phrase 132
dahame, copulative conjunction 126, 129
dalirame, allative postposition 122
damu, adversative conjunction 130
de, dative-locative case suffix 57, 68, 69, 76, 77, 109, 128
de, instrumental case suffix 71
de, (temporal postposition) 120, 121
de aibi, auxiliary phrase 117
-de-, diminutive verbal suffix 110
-de-, denominational suffix: verbalizer 111
dele, locative postposition 123
dele ... geli, correlative additive conjunction 132
dere, conjectural particle 134
deri, prolativ case suffix 51, 72
-deo, dative-locative case interrogative suffix 69
-do-, diminutive verbal suffix 110
-do-, denominational suffix: verbalizer 111
dolo, locative postposition 123
donjici, conditional converb 89
dosi, allative postposition 122
duibuleci, descriptive conjunction 89, 132

e —
ebele, locative postposition 124
ebergi, locative postposition 124
ebsi, temporal postposition 120
ebzihue, terminal postposition 124
ede, copulative conjunction 129
eici, selective adverb 89
eici ... eici, correlative selective conjunction 131

eitereci, descriptive conjunction 89, 132
eitereme, concessive conjunction 133
elemangga, adversative conjunction 130
embici, selective adverb 89
embici ... embici, correlative selective conjunction 131
emde, cooperative postposition 125
ememu ... ememu, correlative selective conjunction 132
ememungge ... ememungge, correlative selective conjunction 132
emgi, cooperative postposition 125
emu derei ... emu derei, correlative selective conjunction 132
en, interjection 135
ergide, allative postposition 122

f —
fejergi, locative postposition 124
fejile, locative postposition 124
-fi, perfective converb suffix 85
-fi bi, non-perfective stative verb phrase 98, 100
-fi bihe, perfective stative verb phrase 98, 100
-fi bihebi, perfective stative verb phrase 100
fonde, temporal postposition 120
fonjime, prefatory converb 85
-fun, deverbal nominal suffix 112
funde, alternative postposition 127
fusihün, allative postposition 122

g —
-gan, diminutive adjectival suffix 61
geli, additive conjunction 132
-geri, iterative numeral suffix 55, 112
gese, evidential postposition 127
gejime, adversative conjunction 131
gubci, (number of nouns) 49
guwelke, voluntative postposition 128
günime, prefatory converb 85

h —
-ha, perfective participle suffix 75, 76, 98, 120, 121
-ha be, (verbal noun) 76
-ha bi, perfective assertive verb phrase 98, 99
-ha bihe, pluperfective verb phrase 98
-ha de, (verbal noun) 76
-habi, perfective finite suffix 74
-hai, durative converb suffix 87
-hai bi, non-perfective durative verb phrase 98, 100
-hai bihe, perfective durative verb phrase 98, 100
-hai bihede, (perfective durative phase) 100
haiharame, allative postposition 122
-hakū, negative perfective participle suffix 88
-hakū bi, negative stative verb phrase 98, 101
-hakūbi, negative perfective finite suffix 74
-hala, deverbal nominal suffix 112
-han, deverbal suffix: nominalizer 112
haran, causal postposition 126
-hari, deverbal nominal suffix 112
-he, perfective participle suffix 75, 76, 98, 120, 121
-he bi, perfective assertive verb phrase 98, 99
-he bihe, pluperfective verb phrase 98
-hebi, perfective finite suffix 74
-hei, durative converb suffix 87
-hei bi, non-perfective durative verb phrase 98, 100
-hei bihe, perfective durative verb phrase 98, 100
-hei bihede, (perfective durative phase) 100
-hekū, negative perfective converb suffix 88
-hekū bi, negative stative verb phrase 98, 101
-hekūbi, negative perfective finite suffix 74
-hele, deverbal nominal suffix 112
-hen, deverbal suffix: nominalizer 112
herdume, prefatory converb 85
-heri, deverbal nominal suffix 112
-hiya-, causative verbal suffix 110
-hiye-, causative verbal suffix 110
-ho, perfective participle suffix 75, 76, 98, 120, 121
-ho bi, perfective assertive verb phrase 98, 99
-ho bihe, pluperfective verb phrase 98

-*hobi*, perfective finite suffix 74
-*hoi*, durative converb suffix 87
-*hoi bi*, non-perfective durative verb phrase 98, 100
-*hot bihe*, perfective durative verb phrase 98, 100
-*hoi bihed*, (perfective durative phase) 100
-*hokū*, negative perfective converb suffix 88
-*hokū bi*, negative statal verb phrase 98, 101
-*hokubi*, perfective finite suffix 76
-*hon*, denomininal adjective suffix 60
-*hon*, deverbal suffix: nominalizer 112
hono ... bade, correlative concessive conjunction 133
-*hun*, deverbal nominal suffix 112
-*hūn*, deverbal nominal suffix 112

i —

i, adverbial suffix 63
i, nominative (subjective genitive) case suffix 67
i, genitive case suffix 56, 67, 123, 127
i, instrumental case suffix 70
ici, allative postposition 122
ici, cooperative postposition 125
inu, affirmative auxiliary 117
-*ingge*, possessive pronoun suffix 52
ishun, allative postposition 123

j —

ja, adjective phrase 69
-*ja*, denomininal-suffix: verbalizer 111
jabume, prefatory converb 85
jaci, adverb superative 61
jai, copulative co-ordinate conjunction 129, 132
jalim, causal postposition 126
jaka, temporal postposition 120
jakade, locative postposition 124
jakade, causal postposition 79, 107, 126, 129
-*je*, denomininal suffix: verbalizer 111
je, affirmative interjection 136
jergi, (number of nouns) 49

jergi, iterative numeral suffix 55
jiya, emotive particle 135
jiye, emotive particle 135
-*jo-*, denomininal suffix: verbalizer 111
joo, prohibitive invariable verb 115
joo, interjection 135
joobai, interjection 135
julergi, locative postposition 124
juleri, locative postposition 124
julesiken, temporal postposition 120

k —

-*ka*, perfective participle suffix 75, 76, 98
-*kabi*, perfective finite suffix 74
kai, assertive-emotive particle 134
-*kan*, diminutive adjetival suffix 61, 112
-*ke*, perfective participle suffix 75, 76, 98
-*kebi*, perfective finite suffix 74
-*ken*, diminutive adjetival suffix 61, 112
-*ki*, desiderative finite suffix 79
-*ki sembi*, desiderative verb phrase 80, 103
-*kini*, optative finite suffix 80
-*ko*, perfective participle suffix 75, 76
-*kobi*, perfective finite suffix 74
-*kon*, denomininal adjective suffix 60
-*kon*, diminutive adjetival suffix 63, 112
-*ku*, deverbal agentive suffix 112
-*kū*, deverbal agentive suffix 112
-*kū* negative verbal ending 76

l —

-*la-*, denomininal suffix: verbalizer 110
-*la-*, intensive verbal suffix 111
-*lame*, denomininal noun suffix 112
-*lan*, denomininal noun suffix 112
-*le-*, denomininal suffix: verbalizer 76, 110
-*le-*, intensive verbal suffix 111
-*leme*, denomininal noun suffix 112
-*len*, denomininal noun suffix 112
-*lengge*, deverbal agentive suffix 76
-*linggu*, denomininal/deverbal adjective suffix 59, 60, 62, 112
-*linggū*, denomininal/deverbal adjective suffix

59, 60, 62, 112
-*liyan*, diminutive adjetival suffix 61, 112
-*liyen*, diminutive adjetival suffix 61, 112
-*lo-*, denomininal suffix: verbalizer 110
-*lo-*, intensive verbal suffix 111
-*lon*, denomininal noun suffix 112
-*lu*, denomininal noun suffix 112

m —

manggi, temporal postposition 120, 128
mari, iterative numeral suffix 55
-*mbi*, non-perfective finite suffix 73, 98
-*mbihe*, perfective processive suffix 82, 98, 99
-*mbihe de* = -*mbihede* 83, (verbal noun) (76)
-*mbime*, simultaneous converb suffix 93
-*mbu-*, passive-causative verbal suffix 108
-*me*, non-perfective converb suffix 83-85, 121
-*me*, deverbal agentive suffix 112
-*me baha-*, potential verb phrase 90
-*me bi* = -*me bi-*, non-perfective processive verb phrase 98, 99
-*me bihe* = -*mbihe*, perfective processive verb phrase 82, 98, 99
-*me mute-*, potential verb phrase 90
-*mpi*, perfective anomalous converb suffix 85, 86
 mudan, iterative numeral suffix 55
muse, first person plural inclusive pronoun 50
muterei teile, terminal postposition phrase 124

n —

-*n*, confirmative verbal suffix 78
-*n*, deverbal suffix: nominalizer 112
na, interrogative particle 134
na, emotive particle 135
-*na*, allative verbal suffix 94, 110
-*na*, denomininal suffix: verbalizer 111
nakū, conditional postposition 128
namašan, temporal postposition 121
-*ndu-*, cooperative verbal suffix 109
ne, interrogative particle 134
-*ne*, allative verbal suffix 110
-*ne*, denomininal suffix: verbalizer 111

nememe, adversative conjunction 131
nergin de, temporal postposition 121
-*ngga*, denomininal adjective suffix 59, 60
-*ngga*, deadjectival possessive nominalizer 62, 113
-*nggala*, prefatory converb suffix 92, 107
-*ngge*, possessive pronoun suffix 52
-*ngge*, denomininal adjective suffix 59, 60
-*ngge*, deadjectival possessive nominalizer 62, 76, 113
-*nggele*, prefatory converb suffix 92, 107
-*nggeri*, iterative numeral suffix 55, 113
-*nggo*, denomininal adjective suffix 59, 60
-*nggo*, deadjectival possessive nominalizer 62, 113
-*nggolo*, prefatory converb suffix 92, 107
ni, genitive case suffix 67
ni, instrumental case suffix 70
ni, interrogative particle 134
ni, emotive particle 78, 135
-*ni*, confirmative verbal suffix 76
-*nikai*, emotive particle 135
ningge, (nominalization) 62
nio, interrogative particle 134
nishai, cooperative postposition 125
-*nji-*, adventive verbal suffix 110
-*nju-*, adventive verbal suffix 94
-*no-*, allative verbal suffix 110
-*no-*, denomininal suffix: verbalizer 111
noho, terminal postposition 124
nu, interrogative particle 134
-*nu-*, reciprocal verbal suffix 110

o —

-*o*, auxiliary verb 104
-*o*, interrogative suffix 69, 76, 77, 113
-*o akūn*, negative interrogative invariable verb phrase 114
oci, conditional auxiliary converb (thematic particle) 67, 90, 104
ocibe, concessive auxiliary converb 104, 105
ocibe ... ocibe, correlative selective conjunction 131

ofi, auxiliary converb (causal conjunction) 104, 106, 129

ohode, auxiliary verb (dative-locative case, copulative conjunction) 69, 104, 105, 129

oilō, locative postposition 124

ojorode, auxiliary verbal noun (dative-locative case) 68, 69

ojoro jakade, causal postposition phrase 107

okini, concessive auxiliary converb 104, 106

ombi, auxiliary verb 97, 104, 108

onggolo, temporal postposition 79, 104, 107, 121

p —

-pi, perfective converb suffix 85, 86

r —

-ra, prospective finite suffix 76-79, 98, 117, 120, 121

-ra-, denominational suffix: verbalizer 111

-ra aibi, rhetorical interrogative auxiliary phrase 117

-ra de, (prospective verbal noun) 77

-ra etc. ... -ra etc., correlative alternative particle 78

-rahū, apprehensive converb suffix 92

-rahū ayoo sembi, auxiliary verb phrase 103

-rahū sembi, auxiliary verb phrase 103

-rakū, negative prospective finite suffix 78, 88

-rakū bi, negative stative verb phrase 98, 100

-rakū ni, negative emotive particle phrase 78

-rakūn, negative rhetorical interrogative suffix 78

-ralame, alternative converb suffix 93

-rame, diminutive adjectival suffix 113

-rao, prospective interrogative finite suffix 77

-re, prospective finite suffix 76-79, 98, 117, 120, 121

-re-, denominational suffix: verbalizer 111

-re aibi, rhetorical interrogative auxiliary phrase 117

-re de, (prospective verbal noun) 77

-relame, alternative converb suffix 93

-reme, diminutive adjectival suffix 113

-reо, prospective interrogative finite suffix 77

-rgi, denominational noun suffix 113

-ri, plural suffix 48

-ri, denominational adverb suffix 113

-ro, prospective finite suffix 76-79, 98, 117, 120, 121

-ro, denominational suffix: verbalizer 111

-ro aibi, rhetorical interrogative auxiliary phrase 117

-ro de, (prospective verbal noun) 77

-rolame, alternative converb suffix 93

-rome, diminutive adjectival suffix 113

-rsu, multiplicative suffix 56

s —

-sa, plural suffix 47

saka, temporal postposition 121

-saka, deadjectival adjective suffix 113

sasa, cooperative postposition 126

se-, auxiliary verb 97, 101

-se, plural suffix 47

sehede, (dative-locative case) 69

sembi, auxiliary verb 80, 97, 101-104

seme, quotative auxiliary converb 63, 101

seme, co-ordinate/concessive conjunction 129, 131, 133

sere, quotative auxiliary particle 102

sere anggala, additive conjunction phrase 103

sere anggala ... inu, correlative additive conjunction 132

sere anggala, uthai ..., adversative conjunction phrase 131

serede, (dative-locative case) 69

serenge, quotative auxiliary deverbal noun 102

-shun, diminutive adjectival suffix 61, 113

-shūn, diminutive adjectival suffix 61, 113

-si, plural suffix 47

-si, diminutive adjectival suffix 61, 113

sidende, locative postposition 121, 124

sirame, copulative conjunction 129

-so, plural suffix 47

songkoi, evidential postposition 128

-su, deverbal adjective suffix 60, 113

s —

-ša-, denominational suffix: verbalizer 111

-še-, denominational suffix: verbalizer 111

-šo-, denominational suffix: verbalizer 111

t —

-ta, plural suffix 48

-ta, distributive numeral suffix 54

-ta-, intensive verbal suffix 110

tala, terminative case 72

-tala, terminative converb suffix 92

-te, plural suffix 48

-te, distributive numeral suffix 54

-te-, intensive verbal suffix 110

teile, terminal postposition 124

(i) teile akū ... inu, correlative additive conjunction 132

teisu, allative postposition 123

tele, terminative case 72

-tele, terminative converb suffix 92

ten, adverb for the superlative 60

tere dade, additive conjunction phrase 132

tereci, copulative conjunction 130

tetendere, conditional postposition 91, 128

-to, distributive numeral suffix 54

-to-, intensive verbal suffix 110

tolo, terminative case 72

-tolo, terminative converb suffix 92

tome, (number of nouns) 49

-tu, deverbal adjective suffix 113

tule, locative postposition 124

tulesi, allative postposition 123

tulgijen, terminal postposition 125

-tun, deverbal suffix: nominalizer 113

turgunde, causal postposition 127

tuttu, copulative conjunction 130

tuttu akū ... -ci, correlative adversative conjunction 131

tuttu bime, adversative conjunction phrase 131

tuttu oci, provisional conjunction phrase 104, 131

tuttu ofi, causal conjunction phrase 106, 130

tuttu seme, adversative conjunction phrase 131

u —

ubu, multiplicative noun 56

ubu de, (numeral of fraction) 56

udu ... bicibe, inu, correlative concessive conjunction 133

udu ... cibe, correlative concessive conjunction 133

udu ... secibe, inu, correlative concessive conjunction 133

udu ... seme, correlative concessive auxiliary converb 102

ume ... -ra etc., correlative prohibitive finite suffix 78

unde, temporal postposition 79, 121

unduri, prolatative postposition 123

unenggi ... oci, correlative conditional conjunction 104, 133

uttu bime, adversative conjunction phrase 131

uttu de, copulative conjunction phrase 130

uttu oci, provisional conjunction phrase 104, 131

uttu ofi, copulative conjunction phrase 106, 130

uttu ohode, conditional auxiliary converb phrase 105

uthai ... seme, correlative concessive conjunction 102, 133

uthai ... ocibe, correlative concessive conjunction 133

uthai ... okini, inu, correlative concessive conjunction 133

w —

waka, negative auxiliary 116, 118

wala, locative postposition 124

wasihün, allative postposition 123

wesihün, allative postposition 123

y —
yata ... oči, correlative conditional conjunction
133

yaya očibe, concessive auxiliary converb phrase
105
-yūn, interrogative particle 113, 134

あとがき
POSTSCRIPT

ブルーミントンにあるインディアナ大学での私の講義は1978年秋から翌年初夏までのことで、海外での初めての満洲語講義だけに準備が大変で、なかでも一番気を使つたのは文法。日本人が理解するには何の苦もいらない、このアルタイ系言語の構造を、あちらの学生さんに英語でどう説明したら分かっていただけるかと途方にくれた。困ったのは、適当な満洲語文法書が見当たらぬこと。当時すでにモンゴル語学の分野では、優れた学者による文語文法書、現代語文法書が適当な値段で発売されており、ウラル・アルタイ学部の語学教室に行けば、ハンギンさんの吹き込んだ録音テープまで聞けるという、至れり尽くせりの便利さ。しかし満洲語学の分野では、どう見てもおくれているとしか思えない薄い冊子の文法解説書しか見当たらず、その頃出版された『満英辞典』にも満足できず、使う気になれなかった。

で、まず『満洲実録』をローマ字化したテキストを作成し、次にそれに出でてくる全単語に、自分で納得のいく英訳をつけて『語彙集』とし、学生のみなさんに配布した。実はアメリカでの語学教育の経験はこれで二度目で、一度目は1967年、シアトル市のワシントン大学でポッペ教授からモンゴル語を学んだこと。この経験がインディアナ大学での授業の進め方にどれほど役に立ったことか。ところがインディアナ大学では、案に相違して授業はトットトットと進み、あっという間に『満洲実録』第一巻と第三巻が終わってしまい、さすがウラル・アルタイ学部の大学院学生さんだけのことがあり、どだい言語学の素養が違うと舌を巻いたことだった。しかもしも英文の詳しい文法書が手元にあれば、もっと容易に正確に解説できたものを、せめて文法項目の術語でも英文で詳しく解説したものがあればと思う場面が幾度かあった。

本書をお読みになった方の中には、この本にやたら英文術語の多いことや、巻末の索引にも英文術語がついてあることにお気づきの方もあろう。著者のハイカラ好みかとも、他愛のない手すりかともお受け取り頂いてよろしいのだけれど、たかが入門書に何でこのような不似合いなものをとお思いの方もおいでになるのではあるまいか。それは実は上に述べたような次第で、著者には英文術語には特別の思い入れがあり、一つには欧米のウラル・アルタイ語学の大抵の文法書には、学習に便利なように術語

付きの索引がついており、一つには必要な各語に対照する英文術語をつけておけば、英語圏の学習者にも内容が理解してもらえるだろうと思ったからである。英文術語は清瀬先生が丹精こめて書いて下さった。清瀬先生は長らくアメリカで言語学の研究と教育に携わった方で、英文術語を付ける作業でも、これ以上の方は、今の日本では見いだせない。

今日この書ではじめて満洲語を学んだ方も、明日はきっと優れた専門家。その方々の中から世界に雄飛する人の輩出することを、著者等は夢見ております。

それではごきげんよう。

本書の編集、印刷、刊行には京都大学学術出版会の小野さんに並々ならぬお世話になりました。謹んでお礼を申し上げます。

2002年3月16日

河内良弘

編著者

河内良弘 (かわち よしひろ)

1928年生。本籍 佐賀県武雄市。1950~51年千葉県成田町立中学校教諭。1954年京都大学文学部史学科卒。東洋史専攻。天理大学助教授、同教授を経て、1985年に京都大学文学部教授となる。1992年定年退官。天理大学教授に復職。現在は天理大学名誉教授・京都大学名誉教授。文学博士。主要論文・著書：「ニシャン・サマン伝訳注」[京都大学文学部研究紀要]第26号、1987年。「満漢合璧雍正朝奏摺訳注」[京都大学文学部研究紀要]第31号、1992年。「明代女真史の研究」同朋舎出版、1992年。

清瀬義三郎則府 (きよせ ぎさぶろう のりくら)

1931年生。1954年京都大学文学部文学科卒。言語学専攻。インディアナ大学大学院修士、同助教授。ガリフスルニア州立大学助教授。ハワイ大学准教授、同教授を経て現在は姫路獨協大学教授・ハワイ大学名誉教授。文学博士。主要著書：A Study of the Jurchen Language and Script, 法律文化社、1977年。『日本語文法新論』桜出版社、1989年。『日本語学とアルタイ語学』明治書院、1991年。Japanese Grammar: A New Approach, 京都大学学術出版会、1995年。

助編者

愛新覚羅 烏拉熙春 (あいしんきょう うらひちゅん)

1958年生。中国中央民族学院少数民族語言文学系、博士課程卒。文学博士。現在は立命館アジア太平洋大学教授。主要著書：『満語語法』内蒙古人民出版社、1983年。『満語読本』内蒙古人民出版社、1985年。『満語古神話』内蒙古人民出版社、1987年。『満洲語語音研究』玄文社、京都、1992年。

まんじゅうごぶんごにゅうもん 満洲語文語入門

平成14(2002)年6月25日 初版第一刷発行

編著者 河内良弘
清瀬義三郎則府

発行者 佐藤文隆

発行所 京都大学学術出版会

京都市左京区吉田河原町15-9

京大会館内 (606-8305)

電話: 075(761)6182/FAX 075(761)6190

URL: <http://www.kyoto-up.gr.jp/>

印刷・製本 土山印刷株式会社

©Yoshihiro Kawachi and Jisaburo-Norikura Kiyose, 2002. Printed in Japan

ISBN4-87698-445-X

定価はカバーに表示しております